

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	大学の収容定員に係る学則変更								
フリガナ設置者	ガッコウホジシツ ニイガタリョウゴウカクエン 学校法人 新潟総合学園								
フリガナ大学の名称	ニイガタリョウフクシダガク 新潟医療福祉大学 (Niigata University of Health and Welfare)								
大学本部の位置	新潟県新潟市北区島見町1398番地								
大学の目的	教育基本法および学校教育法の精神に基づき、広く保健・医療・福祉に関する専門の学芸を教授研究し、豊かな人間性と高潔な倫理性を涵養し、保健・医療・福祉に関する指導的人材の養成を目指し、もって学術文化の発展に寄与し、人類の福祉の向上に貢献することを目的とする。								
新設学部等の目的	鍼灸師の独立開業者増加とそれに伴い施術所、病院、診療所でも慢性的な人手不足が続いている。高齢社会の現状、スポーツ界でのスポーツトレーナーの需要、国民の健康に対する意識の向上等の社会環境の変化に伴い、医療知識と施術能力に優れた鍼灸師を養成し、人材を各方面において活躍する人材を輩出することを目的に、新たにリハビリテーション学部鍼灸健康学科を設置する。 この設置に伴い、大学の収容定員を増加する学則変更を行う。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	※令和4年4月設置届出予定
	リハビリテーション学部 【Faculty of Rehabilitation Sciences】	年	人	年次人	人	学士	年月 第年次		
	理学療法学科 【Department of Physical Therapy】	4	120	—	480	学士(理学療法学) 【Bachelor of Physical Therapy】	平成30年4月 第1年次	新潟県新潟市北区 島見町1398番地	
	作業療法学科 【Department of Occupational Therapy】	4	50	—	200	学士(作業療法学) 【Bachelor of Occupational Therapy】	平成30年4月 第1年次	同上	
	言語聴覚学科 【Department of Speech, Language, and Hearing Sciences】	4	40	—	160	学士(言語聴覚学) 【Bachelor of Speech, Language, and Hearing Sciences】	平成30年4月 第1年次	同上	
	義肢装具自立支援学科 【Department of Prosthetics & Orthotics and Assistive Technology】	4	40	—	160	学士(義肢装具自立支援学) 【Bachelor of Prosthetics & Orthotics and Assistive Technology】	平成30年4月 第1年次	同上	
	鍼灸健康学科 【Department of Acupuncture and Moxibustion】	4	40 (0)	—	160 (0)	学士(鍼灸健康学) 【Bachelor of Acupuncture and moxibustion】	令和5年4月 第1年次	同上	
	医療技術学部 【Faculty of Medical Technology】								
	臨床技術学科 【Department of Clinical Engineering and Medical Technology】	4	100	—	400	学士(臨床技術学) 【Bachelor of Clinical Engineering and Medical Technology】	平成23年4月 第1年次	同上	
	視機能科学科 【Department of Orthoptics and Visual Sciences】	4	50	—	200	学士(視機能科学) 【Bachelor of Orthoptics and Visual Sciences】	平成26年4月 第1年次	同上	
救急救命学科 【Department of Emergency Medical Sciences】	4	55	—	220	学士(救急救命学) 【Bachelor of Emergency Medical Sciences】	平成29年4月 第1年次	同上		
診療放射線学科 【Department of Radiological Technology】	4	90	—	360	学士(診療放射線学) 【Bachelor of Radiological Technology】	平成30年4月 第1年次	同上		
健康科学部 【Faculty of Health Sciences】									

	健康栄養学科 【Department of Health and Nutrition】	4	40	—	160	学士(健康栄養学) 【Bachelor of Health and Nutrition】	平成19年4月 第1年次	新潟県新潟市北区 島見町1398番地	
	健康スポーツ学科 【Department of Health and Sports】	4	250	3年次 5	1,010	学士(健康スポーツ学) 【Bachelor of Health and Sports】	平成19年4月 第1年次 平成19年4月 第3年次	同上	
	看護学部 【Faculty of Nursing】								
	看護学科 【Department of Nursing】	4	107	3年次 3	434	学士(看護学) 【Bachelor of Nursing】	平成30年4月 第1年次 令和2年4月 第3年次	同上	
	社会福祉学部 【Faculty of Social Welfare】								
	社会福祉学科 【Department of Social Welfare】	4	120	3年次 5	490	学士(社会福祉学) 【Bachelor of Social Work】	平成13年4月 第1年次 平成17年4月 第3年次	同上	
	医療経営管理学部 【Faculty of Healthcare Management】								
	医療情報管理学科 【Department of Health Informatics】	4	80	3年次 5	330	学士(医療情報学) 【Bachelor of Health Informatics】	平成22年4月 第1年次 平成25年4月 第3年次	同上	
	計		1,182 (1,142)	3年次 18 (18)	4,764 (4,604)				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)		リハビリテーション学部鍼灸健康学科(40) (令和4年4月 届出予定)							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	—	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	—			
教 員 組 織 の 概 要	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	新	リハビリテーション学部	11	2	10	13	36	0	98
		理学療法学科	(11)	(2)	(10)	(13)	(36)	(0)	(98)
		作業療法学科	5	0	2	4	11	0	83
			(5)	(0)	(2)	(4)	(11)	(0)	(83)
		言語聴覚学科	4	1	4	2	11	0	83
			(4)	(1)	(4)	(2)	(11)	(0)	(83)
	設	義肢装具自立支援学科	4	0	4	3	11	0	89
			(4)	(0)	(4)	(3)	(11)	(0)	(89)
		鍼灸健康学科	4	2	2	1	9	0	46
			(4)	(2)	(2)	(1)	(9)	(0)	(46)
	組	医療技術学部 臨床技術学科	6	3	5	2	16	2	86
			(6)	(3)	(5)	(2)	(16)	(2)	(86)
		視機能科学科	6	0	2	3	11	1	82
		(6)	(0)	(2)	(3)	(11)	(1)	(82)	
	織	救急救命学科	4	1	4	4	13	0	97
			(4)	(1)	(4)	(4)	(13)	(0)	(97)
		診療放射線学科	6	4	3	4	17	0	84
			(6)	(4)	(3)	(4)	(17)	(0)	(84)
の	健康科学部 健康栄養学科	6	4	3	4	17	1	93	
		(6)	(4)	(3)	(4)	(17)	(1)	(93)	
	健康スポーツ学科	11	8	16	10	45	2	109	
		(11)	(8)	(16)	(10)	(45)	(2)	(109)	
概	看護学部 看護学科	8	6	7	11	32	7	76	
		(8)	(6)	(7)	(11)	(32)	(7)	(76)	
	社会福祉学部 社会福祉学科	10	6	4	4	24	3	107	
		(10)	(6)	(4)	(4)	(24)	(3)	(107)	
要	医療経営管理学部 医療情報管理学科	8	3	2	5	18	0	103	
		(8)	(3)	(2)	(5)	(18)	(0)	(103)	
	計	93	40	68	70	271	16	—	
	(93)	(40)	(68)	(70)	(271)	(16)	(—)		
既設	該当なし	—	—	—	—	—	—	—	
		(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	
分	計	—	—	—	—	—	—	—	
		(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	
合	計	93	40	68	70	271	16	—	
		(93)	(40)	(68)	(70)	(271)	(16)	(—)	

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		77人 (77)	27人 (27)	104人 (104)					
	技 術 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	図 書 館 専 門 職 員		5 (5)	2 (2)	7 (7)					
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	344 (0)	0 (0)					
	計		82 (82)	29 (29)	111 (111)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	72,947.00㎡	㎡	㎡	72,947.00㎡					
	運 動 場 用 地	58,612.00㎡	㎡	㎡	58,612.00㎡					
	小 計	131,559.00㎡	㎡	㎡	131,559.00㎡					
	そ の 他	98,365㎡	㎡	㎡	98,365㎡					
	合 計	229,924.00㎡	㎡	㎡	229,924.00㎡					
校 舎	専 用	57,060.53㎡ ( 57,060.53㎡)	0㎡ ( 0㎡)	0㎡ ( 0㎡)	57,060.53㎡ ( 57,060.53㎡)					
	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設					
教室等	49室	35室	110室	— 室 (補助職員 — 人)	— 室 (補助職員 — 人)	大学全体				
専 任 教 員 研 究 室	新設学部等の名称			室 数						
	大学全体			258 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共用図書の冊数は、図書館外（研究室等）に配架されている図書も含む。		
	大学全体	129,283 [10,743] (128,536 [10,741])	10,152 [7,354] (10,110 [7,344])	8,663 [7,087] (8,648 [7,077])	2,631 (2,604)	5,930 (5,930)	644 (644)			
	計	129,283 [10,743] (128,536 [10,741])	10,152 [7,354] (10,110 [7,344])	8,663 [7,087] (8,648 [7,077])	2,631 (2,604)	5,930 (5,930)	644 (644)			
図 書 館	面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数					
	2,083.8㎡		394席		105,360冊					
体 育 館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体		
	第1体育館 1,709.43㎡ 第2体育館 630.00㎡ 第3体育館 2,630.51㎡ 第4体育館 1,807.38㎡	屋内プール25m×6コース 硬式野球グラウンド1面 テニスコート4面	屋内走路 1棟 屋内野球練習場 1棟 クラブハウス 1棟 屋内投てき練習場 1棟							
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	大学全体 図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）含む。
		教員1人当り研究費等		400千円	400千円	400千円	400千円	— 千円	— 千円	
		共同研究費等		68,000千円	68,000千円	68,000千円	68,000千円	— 千円	— 千円	
		図書購入費	27,500千円	27,500千円	28,500千円	29,500千円	30,500千円	— 千円	— 千円	
	学 生 1 人 当 り 納 付 金	設 備 購 入 費	500,000千円	302,000千円	302,000千円	302,000千円	302,000千円	— 千円	— 千円	
			第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
			リハビリテーション学部	1,850千円	1,500千円	1,500千円	1,500千円	— 千円	— 千円	
			医療技術学部 臨床技術学科 視機能科学科 救急救命学科	1,850千円	1,500千円	1,500千円	1,500千円	— 千円	— 千円	
			医療技術学部 診療放射線学科	1,950千円	1,650千円	1,650千円	1,650千円	— 千円	— 千円	
			健康科学部 健康栄養学科	1,850千円	1,500千円	1,500千円	1,500千円	— 千円	— 千円	
			健康科学部 健康スポーツ学科	1,500千円	1,250千円	1,250千円	1,250千円	— 千円	— 千円	
			看護学部 看護学科	1,950千円	1,650千円	1,650千円	1,650千円	— 千円	— 千円	
			社会福祉学部 社会福祉学科	1,400千円	1,150千円	1,150千円	1,150千円	— 千円	— 千円	
			医療経営管理学部 医療経営管理学科	1,330千円	1,050千円	1,050千円	1,050千円	— 千円	— 千円	
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常経費補助金、雑収入 等							

大学等の名称	新潟医療福祉大学									
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
既設大学等の状況	リハビリテーション学部						1.08			
	理学療法学科	4	120	—	480	学士 (理学療法学)	1.13	平成30年度	新潟県新潟市北区島見町1398番地	
	作業療法学科	4	50	—	200	学士 (作業療法学)	1.00	平成30年度	同上	
	言語聴覚学科	4	40	—	160	学士 (言語聴覚学)	1.06	平成30年度	同上	
	義肢装具自立支援学科	4	40	—	160	学士 (義肢装具自立支援学)	1.06	平成30年度	同上	
	医療技術学部						0.99		—	
	理学療法学科	4	—	—	—	学士 (理学療法学)	—	平成13年度	—	平成30年度より募集停止
	作業療法学科	4	—	—	—	学士 (作業療法学)	—	平成13年度	—	平成30年度より募集停止
	義肢装具自立支援学科	4	—	—	—	学士 (義肢装具自立支援学)	—	平成19年度	—	平成30年度より募集停止
	臨床技術学科	4	100	—	400	学士 (臨床技術学)	0.99	平成23年度	新潟県新潟市北区島見町1398番地	
	視機能科学科	4	50	—	200	学士 (視機能科学)	1.00	平成26年度	同上	
	救急救命学科	4	55	—	220	学士 (救急救命学)	0.99	平成29年度	同上	
	診療放射線学科	4	90	—	360	学士 (診療放射線学)	1.01	平成30年度	同上	
	健康科学部						1.07		—	
	健康栄養学科	4	40	—	160	学士 (健康栄養学)	1.07	平成19年度	新潟県新潟市北区島見町1398番地	
	健康スポーツ学科	4	250	3年次5	910	学士 (健康スポーツ学)	1.06	平成19年度	同上	令和3年度より定員変更(50)
	看護学部						1.00		—	
	看護学科	4	107	3年次3	434	学士 (看護学)	1.00	平成30年度	新潟県新潟市北区島見町1398番地	
	社会福祉学部						1.04		—	
	社会福祉学科	4	120	3年次5	490	学士 (社会福祉学)	1.04	平成13年度	新潟県新潟市北区島見町1398番地	
	医療経営管理学部						1.08		—	
	医療情報管理学科	4	80	3年次5	330	学士 (医療情報学)	1.08	平成22年度	新潟県新潟市北区島見町1398番地	
	医療福祉学研究科						1.08 1.20		—	
	保健学専攻(M)	2	21	—	42	修士 (保健学)	1.09	平成17年度	新潟県新潟市北区島見町1398番地	
	社会福祉学専攻(M)	2	5	—	10	修士 (社会福祉学)	0.40	平成17年度	同上	
	健康科学専攻(M)	2	10	—	20	修士 (健康科学)	1.40	平成19年度	同上	
医療情報・経営管理学専攻(M)	2	4	—	8	修士 (医療情報・経営管理学)	1.12	平成26年度	同上		
医療福祉学専攻(D)	3	10	—	30	博士 (医療福祉学)	1.20	平成19年度	同上		

大 学 の 名 称	新潟食料農業大学								
学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地	
食料産業学部						0.78		新潟県新潟市北区島見 町940番地	
食料産業学科	4	180	—	720	学士 (食料産業学)	0.78	平成30年度	新潟県胎内市平根台 2417番地	
食料産業学研究科						—		—	
食料産業学専攻 (M)	2	6	—	6	修士 (食料産業学)	—	令和4年度	新潟県胎内市平根台 2417番地	令和4年度より 設置 (6)
大 学 の 名 称	事業創造大学院大学								
学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地	
事業創造研究科						1.11			
事業創造専攻 (M)	2	80	—	160	経営学修士 (専門職)	1.11	平成18年度	新潟県新潟市中央区米 山3-1-46	
附属施設の概要	名称：附属鍼灸センター 目的：臨床実習施設、一般診療 所在地：新潟県新潟市北区島見町1398番地 設置年月：令和5年4月 規模等：室面積172.04㎡								



## 教 育 課 程 等 の 概 要

(リハビリテーション学部鍼灸健康学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
専門基礎科目群	解剖学Ⅰ	1前	2			○										兼1
	解剖学Ⅱ	1後	2			○										兼1
	解剖学実習	2後	2					○								兼1
	生理学	1前	2			○										兼1
	生理学実習	2前	2					○								兼1
	病理学	1前	1			○				1						
	病理学実習	1後	1					○		1						
	免疫学	2後	1							1						
	臨床薬理学	2後	1			○										兼1
	公衆衛生学	1前	1			○										兼1
	公衆衛生学演習	2後	1				○									兼1
	臨床医学総論	2前	1			○					1					
	臨床医学各論Ⅰ内科・神経内科	2前	1			○				1						
	臨床医学各論Ⅱ運動器	2前	1			○					1					
	臨床医学各論Ⅲ外科	2前	1			○						1				
	臨床医学各論Ⅳ感覚器	2前	1			○				1						
	疼痛学	2後	1			○				1						
	救急学	2前	1			○										兼1
	運動生理学	2後	1			○					1					
	スポーツ心理学	3前	1			○						1				
	トレーニング論	3前	1			○					1					
	予防とコンディショニング演習	2前	1			○							1			
	スポーツ外傷	3後	1			○					1					
	ジェンダー論	3後	1			○						1				
	高齢社会学	3前	1			○						1				
	メンタルヘルス学	2後	1			○				1						
	養生学	1後	1			○					1					
	栄養学	2後	1			○										兼1
	心の発達と維持	3後	1			○							1			
	メンタルヘルスマネジメント	3前	1			○					1					
	漢方薬概論	2後	1			○				1						
	生薬学	2後	1			○				1						
	方剤学	3前	1			○					1					
	基礎医学研究セミナー	3前	1			○						1				
	高齢者ケア実習	4前	1						○			1				
	経済と経営	3前	1			○							1			
	起業の精神と実践	3前	1			○					1					
	プレゼンテーション方法論	3前	1			○						1				
	臨床研究デザイン学	3後	1			○					1					
小計 (39科目)			44	0						4	2	2	1	0	兼7	

## 教育課程等の概要

(リハビリテーション学部鍼灸健康学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門専攻科目群	鍼灸健康学ゼミ	2前	1				○		3	2	2	1		
	鍼灸健康学概論	1後	1			○		1						
	経路経穴学	1後	2			○		1						
	経路経穴学実習	2前	2					○				1		
	東洋医学概論	1前	2			○			1	1				
	伝統鍼灸学概論	2前	1			○								
	鍼灸治効理論	2前	1			○			1					
	中医診断学基礎	2前	1			○			1					
	伝統鍼灸診断学演習	3前	1				○		1					
	臨床鍼灸学Ⅰ(内科・神経内科)	3後	2			○						1		
	臨床鍼灸学Ⅱ(運動器)	3後	2			○				1				
	臨床鍼灸学Ⅲ(感覚器)	3前	2			○						1		
	疼痛管理鍼灸学	3前	1			○			1					
	リハビリテーション学総論	2後	1			○			1	1				
	リハビリテーション学各論	3前	1			○			1					
	中医診断学演習	3後	1				○		1					
	メンタルヘルス鍼灸学	3前	1			○				1				
	鍼灸リスクマネジメント学	2前	1			○						1		
	リハビリテーション鍼灸学	3後	1			○			1					
	高齢者鍼灸学	4前		1		○						1		
	スポーツ鍼灸学	3後		1		○				1				
	レディース鍼灸学	3後		1		○						1		
	社会鍼灸学	2前	1			○			1					
	関係法規	4前				○						1		
	鍼技術学実習	1後	2					○	1					
	灸技術学実習	2前	2					○				1		
	鍼灸治効理論実習	3前	2					○	1					
	臨床鍼灸学実習Ⅰ(内科・神経内科)	3後	2					○		1				
	臨床鍼灸学実習Ⅱ(運動器)	3後	2					○				1		
	臨床鍼灸学実習Ⅲ(感覚器)	3前	2					○	1					
	メンタルヘルス鍼灸学実習	3後	2					○	1					
	リハビリテーション鍼灸学実習	4前	1					○	1					
	高齢者鍼灸学実習	4前		1				○				1		
	スポーツ鍼灸学実習	3後		1				○		1				
	レディース鍼灸学実習	3後		1				○				1		
	健康美容鍼灸学実習	4前		1				○				1		
	臨床実習Ⅰ	2前	1					○	3	2	2	1		
	臨床実習Ⅱ	3前	2					○	3	2	2	1		
	臨床実習Ⅲ	4前	1					○	3	2	2	1		
	医療面接演習	2後	1					○	1					
	臨床倫理学	3前	1				○			1				
	鍼灸経営学	3後	1				○				1			
	運動機能解剖学	2後	1				○			1				
	鍼灸健康学特講演Ⅰ(基礎)	4後	1				○		3	2	2	1		
	鍼灸健康学特講演Ⅱ(臨床)	4後	1				○		3	2	2	1		
	シニアスポーツ鍼灸学	3前		1			○				1			
	健康美容鍼灸学	3前		1			○					1		
	手治療法演習	3後		1			○		1					
	鍼灸臨床で応用するストレッチ術演習	3後		1			○			1				
	新領域の鍼灸	3後		1			○					1		
	鍼灸の歴史と偉人	3前		1			○		1					
	災害と鍼灸	3前		1			○				1			
	医療連携と鍼灸	4前		1			○		1					
	鍼灸と統合医療	2前		1			○			1				
	卒業研究	4後		4				○	3	2	2	1		
小計(55科目)			56	16	0				4	2	2	1	0	兼0
合計(157科目)			108	71	0				4	2	2	1	0	兼46
学位又は称号	学士(鍼灸健康学)		学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)								
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
基礎教養科目群から必修を含め6単位以上、保健医療福祉教養科目群及び保健医療福祉連携科目群から必修2単位を含め8単位以上、専門基礎科目群から必修44単位、専門専攻科目群から必修56単位を含め66単位以上、あわせて124単位以上を修得すること。(履修科目の登録の上限:50単位(年間))						1学年の学期区分			2学期					
						1学期の授業期間			15週					
						1時限の授業時間			90分					



## 授 業 科 目 の 概 要

（リハビリテーション学部鍼灸健康学科等）

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 教養 科目 目 群	基礎ゼミ	大学生活への円滑な導入を目標とする。これを実現するために、少人数のグループに分かれ、演習等を通して、コミュニケーションの基礎能力を身につける。また、それぞれの専門分野を学習するために必要とされる基礎的な技術や知識を習得する。 具体的には、ゼミ別にテーマを設定し、その追究の過程において適切な情報収集の方法（図書館の利用方法を含む）やレポートの書き方等の基礎を学ぶ。また、各専門職におけるキャリアデザインについても取り扱う。	
	情報処理Ⅰ	本科目では、情報社会の倫理として情報利用者としてのモラルを含めた総合的な情報リテラシー教育を目的とし、現代社会の情報資源を適切に活用するために基本的な情報処理能力を習得する。本科目で取り扱う学修内容は、電子掲示板、E-mail、学内LANなどの学内情報資源の基本的な使い方とWord、Excel、PowerPointの基礎的な使い方であり、「情報処理Ⅱ」の学びへとつなげる。	
	情報処理Ⅱ	「情報処理Ⅰ」に引き続き、情報社会の倫理として情報利用者としてのモラルを含めた総合的な情報リテラシー教育を目的とし、現代社会の情報資源を適切に活用するために基本的な情報処理能力を習得する。本科目で取り扱う学修内容は、各時間に提示する課題に沿ったファイル作成の演習を中心とし、Excelの基本操作、データの分析、グラフ作成、Wordの基本操作、図表の取り込み、体裁のよい読みやすい文書作成、PowerPointを応用するスキルを身につける。	
	情報処理Ⅲ	本科目では「情報処理Ⅰ・Ⅱ」の学修をもとに、より発展的な内容を取り扱い、現代社会の情報資源を適切に活用するために基本的な情報処理能力を習得する。 具体的には、1)Excel検定受検コース（表計算技能試験2級・3級）においては、さまざまな関数の活用ができることを目標とし、2)Excel応用コースにおいてはデータ分析、統計処理などを設け、基本情報技術者レベルの情報処理能力の修得を目指す。	
	英語Ⅰ	QOL をテーマに実際に英語を使う経験を通し、現段階の英語の力（主に語彙力、文法力）を伸張させる。保健医療福祉に関する教材を用いることで、語彙や表現に親しむとともに、保健医療福祉の話題に対する関心も高めることを目的とする。本科目はグループでの協働学習やアクティビティが中心となり、英語を使い、考えながら、扱う話題のコンテンツに対する理解や思考を深める。	

授 業 科 目 の 概 要		
(リハビリテーション学部鍼灸健康学科等)		
基礎 教養 科目 群	英語Ⅱ	「英語Ⅰ」での学習内容を踏まえ、QOLをテーマに実際に英語を使う経験を通し、現段階の英語の力(主に語彙力、文法力)をさらに伸張させる。保健医療福祉に関する教材を用いることで、語彙や表現に親しむとともに、保健医療福祉の話題に対する関心も高めることを目的とする。本科目においてもグループでの協働学習やアクティビティを中心とし、内容を発展的に考え、議論するための英語の学び方を修得する。
	アカデミック英語Ⅰ	専門科目における学びとの連携を意識した内容を扱い、英語を用いて学術分野を学ぶための基礎的なスキルを身につける。具体的には、英語文献の検索方法や批判的な読み方、英文エッセイや各種プレゼンテーションのためのライティングスキル、ディスカッション、病院などの医療施設において求められる英語スキルの修得などである。
	アカデミック英語Ⅱ	専門科目における学びとの連携を意識した内容を扱い、英語を用いて学術分野を学ぶための発展的なスキルを身につける。具体的には、英語文献の検索方法や批判的な読み方、英文エッセイや各種プレゼンテーションのためのライティングスキル、ディスカッション、病院などの医療施設において求められる英語スキルの修得などである。
	アカデミック英語Ⅲ	専門科目における学びとの連携を意識した内容を扱い、英語を用いて学術分野を学ぶための発展的なスキルを身につける。具体的には、大学院準備のための研究に役立つ論文を読み、英文要旨を書くなどの英語運用能力や、海外の医療や福祉の事情を学びながら病院での英語コミュニケーションのトレーニングを行うなどである。
	韓国語Ⅰ	韓国語の文字であるハングルの字体と発音を始め、基本的な文法事項を学ぶことで、あいさつや自己紹介、簡単な意思表示を韓国語で出来るスキルを身につける。また、言語的側面だけでなく、韓国の歴史、文化、社会に関心を持ち、理解を深める。本科目では、ハングルの読み書きができること、基本的な語彙や文章を理解できることを目標とする。
	中国語Ⅰ	中国語の基本的な文法事項、発音を学ぶことで、あいさつや自己紹介、簡単な意思表示を中国語で出来るスキルを身につける。中国の歴史や文化・現代事情、中国人の生活ぶりなど幅広く紹介し、異文化理解を深めることも目的とする。本科目では、声調とピンインを正しく発音できること、基本文型を身につけて応用することができることを目標とする。
	スペイン語Ⅰ	スペイン語の読み方、基本的な文法事項を学び、あいさつや自己紹介、簡単な意思表示の方法を学ぶ。また、スペイン語が話されている国々の社会や文化への関心を高め、理解を深めることも目的とする。授業は講師が用意するハンドアウトをもとに、会話表現を中心とした演習を通してスペイン語の基礎を身につける。
	ドイツ語Ⅰ	ドイツ語の読み方、基本的な文法事項を学び、あいさつや自己紹介、簡単な意思表示の方法を学ぶ。また、ドイツの社会や文化への関心を高め、理解を深めることも目的とする。本科目はグループタスクを中心とした授業展開とし、日常生活のさまざまな場面を想定した場面においてドイツ語で表現できるようになることを目標とする。

授 業 科 目 の 概 要		
(リハビリテーション学部鍼灸健康学科等)		
基礎 教養 科目 群	韓国語Ⅱ	「韓国語Ⅰ」に引き続き、ハングルをより正確に読む練習から、場面を中心に役立つフレーズや基本的な文法を学習し、意思疎通ができる力をつけることが目標である。また、韓国の音楽、映画などを接し、韓国の文化や社会などについての関心や理解を高めていく。なお、本科目は「韓国語Ⅰ」で学んだ事項をもとに展開されることから、「韓国語Ⅰ」を履修済みの学生が受講できる科目である。
	中国語Ⅱ	「中国語Ⅰ」を基礎とし、各生活場面で使う中国語による会話表現や、中国の文化や習慣などについても学ぶ。中国語という外国語を通じて異文化理解を深め、視野を広げることを目的とする。なお、本科目は「中国語Ⅰ」で学んだ事項をもとに展開されることから、「中国語Ⅰ」を履修済みの学生が受講できる科目である。
	スペイン語Ⅱ	テキストの会話文を読んで重要表現を学び、それを盛り込んだ会話文を各自作成し練習する。会話の内容は、日常会話、仕事、旅行、留学先で役立つように、実践的な場面を設定していく。なお、本科目は「スペイン語Ⅰ」で学んだ事項をもとに展開されることから、「スペイン語Ⅰ」を履修済みの学生が受講できる科目である。
	ドイツ語Ⅱ	「聞く」「話す」ことを中心にした練習を行い、ドイツ語で簡単な会話ができるようになることを目指す。あわせて、ドイツ事情について学ぶ。ドイツ語で簡単な日常的コミュニケーションができることを目標にする。なお、本科目は「ドイツ語Ⅰ」で学んだ事項をもとに展開されることから、「ドイツ語Ⅰ」を履修済みの学生が受講できる科目である。
	日本語表現法Ⅰ	高等教育を推し進めていく上で必要とされる「読む」「書く」「発表する」ことを中心とした日本語の文章作成能力の修得を目標とし、その能力の継続的向上を図る。本科目では、ディクテーション(聞き書き)、口頭発表トレーニング等を行い、情報を正確に記載する力や伝える力の向上を目指すとともに、レポートの書き方について学修する。
	日本語表現法Ⅱ	「日本語表現法Ⅰ」における学修をもとに、「読む」「書く」「話す」「発表する」ことを中心とした日本語の会話能力、発表能力の修得を目標とし、その能力の継続的向上を目指す。本科目では、文章読解および要約トレーニング、情報理解トレーニング等を行う。また、レポートと論文との違いについて、いっそう理解を深める。
	スポーツ・健康	本科目は運動・スポーツを通してQOLを支える優れた人材を育成することを理念に掲げ、車椅子バスケットボール等の実践を通して、次の3点の修得を目指すこととする。 1) 自らの身体について正しく理解できるようになるために、健康科学に関する基礎的な知識を理解する。2) 保健・医療・福祉・スポーツ分野の専門職に必要とされる体力を養成できるようになるために、適切な運動方法を身につける。3) 運動・スポーツの文化的価値を認識できるようになるために、多様なスポーツ活動に取り組む。
	スポーツ・実践	本科目では、「スポーツ・健康」に引き続き、保健・医療・福祉・スポーツ分野の専門職に必要とされる体力を養成できるようになるために、適切な運動方法を身につける。加えて、生涯にわたり、自身に適した運動・スポーツを継続して楽しめるようになるため、多様な種目を通して、より質の高い実践力を育む。

授 業 科 目 の 概 要		
（リハビリテーション学部鍼灸健康学科等）		
基礎 教養 科目 群	研究プロジェクト演習Ⅰ	学生は、自分の興味のある分野や特定のテーマを探し求め、自ら指導を受ける教員を選び、相談に行き、教員の合意を得て、見学や模倣などを通して指導教員から実用的なスキルや知識の基礎を学ぶ。「初心者」としてできる範囲内で研究活動を展開し、それを通して研究の意義や楽しさを体得する。これらの一連の主体的な学びを通して、実際の研究活動のステージ進行の概要を理解できるようになる。成果は、期末の発表会での研究についての発表により評価する。
	研究プロジェクト演習Ⅱ	学生は、自分の興味のある分野や特定のテーマをさらに探求し、指導を受ける教員との相談を続け、教員の合意を得て、見学や模倣、部分的な実践などを通して指導教員から実用的なスキルや知識の基礎をさらに学ぶ。研究プロジェクト演習Ⅰを履修していなくても、この科目から研究活動を開始してもよい。研究活動の展開を通して、研究の意義や価値を実感する。これらの一連の主体的な学びの継続を通して、実際の研究活動のステージ進行をより深く理解できるようになる。成果は、期末の発表会での研究についての発表より評価する。
	研究プロジェクト演習Ⅲ	学生は、自分の興味のある分野や特定のテーマをさらに追求し、指導を受ける教員との相互関係を維持し、教員の合意を得て、見学や模倣、助言を得ながらの大部分の実践などを通して指導教員から実用的なスキルや知識の応用を学ぶ。研究プロジェクト演習ⅠやⅡを履修していなくても、この科目から研究活動を開始してもよい。研究活動の展開を通して、研究の意義や発展の可能性を納得する。これらの一連の主体的な学びの継続を通して、実際の研究活動のステージ進行を説明できるようになる。成果は、期末の発表会での研究についての発表より評価する。
	研究プロジェクト演習Ⅳ	学生は、自分の興味のある分野や特定のテーマを確信し、指導を受ける教員との相互関係を発展させ、教員の合意を得て、見学や模倣、一人での大部分の実践などを通して指導教員から実用的なスキルや知識の応用を深く学ぶ。研究プロジェクト演習ⅠやⅡ、Ⅲを履修していなくても、この科目から研究活動を開始してもよい。研究活動の展開を通して、研究の意義や発展の可能性を自らの卒業研究のテーマに結びつける。これらの一連の主体的な学びの発展を通して、実際の研究活動のステージ進行についての学びを自らの卒業研究に応用できるようになる。成果は、期末の発表会での研究についての発表より評価する。
	研究プロジェクト演習Ⅴ	学生は、自分の興味のある分野や特定のテーマを広く認識し、自らの卒業研究のテーマについて研究プロジェクト演習Ⅴの指導教員からも助言を受け、主体的な研究の実践を通して、他の学生とスキルや知識を高め合いながら、深い学びを経験する。研究プロジェクト演習ⅠやⅡ、Ⅲ、Ⅳを履修していなくても、この科目から研究活動を開始してもよい。研究の実践を通して、自らの研究のテーマを他の学生に伝えていく。これら総合的な学びの経験を通して、自らの研究の新規性を多面的に説明できるようになる。成果は、期末の発表会での研究についての発表より評価する。

授 業 科 目 の 概 要		
（リハビリテーション学部鍼灸健康学科等）		
基礎 教養 科目 目群	研究プロジェクト演習Ⅵ	学生は、自分の興味のある分野や特定のテーマの将来的展望まで想像を広げ、自らの卒業研究の成果について研究プロジェクト演習Ⅵの指導教員からも助言を受け、自らの研究成果の吟味し、指導教員や他の学生との議論を通して内容を深める。研究プロジェクト演習ⅠやⅡ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴを履修していなくても、この科目から研究活動を開始してもよい。研究の実践を通して、自らの研究の集大成を大学院への進学などの将来の礎とする。ここまでの完結した学びの経験を通して、研究者となる素養を身に付ける。成果は、期末の発表会での研究についての発表より評価する。
保健 医療 福祉 教養 科目 目群	ボランティアの世界	ボランティアの活動者として自己実現、社会貢献の機会となる側面と将来の保健・医療・福祉専門職として連携・協働を図るパートナーとしての側面の両方の立場を理解できるよう、各分野（災害、子どもの問題、高齢者の問題、障がい者の問題、環境問題、福祉教育）における様々な活動事例を通してボランティアの本質や意義を考える。
	コミュニケーション学入門	コミュニケーションおよびコミュニケーション能力の基礎理論、概念を日常の具体例を用いながら学ぶ。コミュニケーションとは何であるかについて理解を深めていくことで、日常生活や将来就くであろう保健・医療・福祉・スポーツの専門職として遭遇する様々な状況で内省できる素地を作ることを目的とする。日常の些細な出来事やさまざまな現象に対する洞察力を高めるとともに、より良い人間関係の形成のための素養を高め、実践しようとすることを目指す。
	対人コミュニケーション論	特に医療や福祉の文脈における対人コミュニケーションの実際や多様な問題を多角的に見ようとする力を身につける。また社会が個人の自己概念に与える影響や対人関係に及ぼす影響についても考えを深める。また、普段は意識が向けられることがあまりないマイノリティへのまなざしについても注目する。
	心理学概論	人間の心や行動を理解する学問である心理学の基礎的な概念を学ぶ。医療福祉教育を受ける学生が医療福祉専門職に適応するために、自分自身を理解することが必須である。加えて、保健医療福祉教育の場で関わる患者・対象者の行動・知能・性格・情緒を十分に理解し、より良い支援ができるようにしなければならない。本科目では、保健・医療・福祉・スポーツを学ぶための基礎となる心理学の知識を身につけ、自らの専門分野に活用できるようになることを目的とする。
	人間を知る	人間として生きるとはどういうことか、人間としての存在意義を哲学的な側面からとらえ、人間とは何かを我々の関係から考察し、人として生きる根幹について論じる。人々の間の生き方、哲学に人間の本質を置いて学修するとともに、本学の理念とあわせて、自己の生き方の基本を学ぶことにより、人間の尊厳と自立についての考えをいっそう深めることを目標とする。
	命の倫理	保健医療福祉に携わるものとして、特に基本となる生命および人権の尊重について焦点を当て、自他の命や人権を深く考えられるような態度を育むことを目的とする。保健医療福祉に関する現代のさまざまなトピックスを挙げ、これらを通して自身が人の命をどのように受け止めているか、また、保健医療福祉における命の倫理に関わる諸問題について説明できることを目標とする。
	QOLの世界	本学の理念であるQOLについて、その定義とともに、それが昨今重要視されてきた背景について、事例を通して概観する。ひとの生きがい、人生の幸福・満足感を知るために、社会の発展に貢献したモデル事例の行動を調査し、一般的なQOLを理解する。広い年齢層にわたる患者、対象者の問題を認識するために、非健康関連QOLと関連QOLとの相違を学習する。

授 業 科 目 の 概 要		
（リハビリテーション学部鍼灸健康学科等）		
保健医療福祉教養科目群	こどもの世界	本科目では、こどものトータルな発達について、神経系を中心として身体・心理・遊び等の観点から紹介し、自身の発達の足跡を振り返る。また、近年話題になることが多い発達障がい、児童虐待、いじめ等のトピックについて取り扱い、こどもの世界について考える足掛かりを提供する。こどもの神経系・認知・遊びの発達等について理解するとともに、上述のトピックスについて自分なりの考えを持つことができることを目標とする。
	アスリートの世界	アスリートは各競技会で優秀な成績を修めるために多くの時間を費やしている。その競技に対する姿勢や哲学を現役選手の実践方法をもとに学び、より高度なパフォーマンスを支えるための「心・技・体」は何なのかを講義形式で検証していく。 トレーニング方法のみならず、スポーツに関わる考え方まで幅広く学び、ひいては自らの生き方に対するヒントを得ることを目標とする。
	臨床医の世界	保健・医療・福祉の専門職は、プロフェッショナルリズム、批判的思考、対人コミュニケーションスキルなどをアウトカムとして修得することも必要である。種々の領域における現役の臨床医（内科医、整形外科・スポーツ医、耳鼻咽喉科医、精神科医等）の活動を知ること、これらのアウトカムについて知り、自らがそれを修得していく心構えを作ることを目的とする。
	加齢と身体	人の身体機能は加齢に伴い様々に変化する。骨・関節・筋肉・神経などの運動器、肺などの呼吸器、心臓・血管などの運動器、記憶する、判断するなどの認知機能が衰え、やがて日常生活にも支障をきたすようになる。つまり加齢に伴う身体機能の老化である。人の老化がどのような経過をたどり、やがては要介護の状態になるか、要介護を予防するためにどのような健康増進の施策、介護予防プログラム、リハビリテーションが行われているかについて学習する。
	食を楽しむ	食べる行動が、いかに生命・生活と深く関連して豊かな日常を創るのかを学習する。すなわち、食物の役割や食文化、食に伴う環境問題等について学ぶとともに、食事に伴って生体におこる味覚や嗅覚などの感覚について、食の主体である生体側から科学的に学ぶ。また、ヒトの食行動を理解するために、昆虫など無脊椎動物から霊長類を含む各種の脊椎動物も講義対象とする。
	眼の神秘	外界の情報の80%は眼から得ている。眼の不思議な役割を紹介し、眼はコミュニケーションにおいても重要な役割を担っていることを理解するとともに、保健・医療・福祉専門職のケアコミュニケーションに大きく関わることを学ぶ。本科目で取りあげる内容は、眼の構造、視力の発達、3Dの世界、加齢と眼、コンタクトレンズ・メガネ等であり、視覚に関連する身近な現象に興味・関心が持てることを目標とする。
	義肢装具の世界	義肢（義手・義足）とは事故や病気などで手足を失った場合に用いられる人工の手足で、義手には外見に優れた装飾義手や、日常生活での動作を再現する能動義手があり、近年では筋電義手も処方されている。義足には様々な継手部品が用いられており、それらの機能は膝や足首の動きに替わるもので、最新のテクノロジーが詰め込まれている。装具は腕や脚、体幹の機能に問題が生じた場合に処方され、腰用コルセットや膝サポーターなどがある。講義では義肢装具の最新技術や疾患との関連性、支給に関する法制度について紹介する。
	新潟学	本科目では、新潟県の民俗事例を取りあげ、民俗学の基本的な事項を理解するとともに、その事例の持つ意義について考える。講義内容は、民俗学の特質・方法等について基本的な講義を行った後、新潟県内の年中行事や祭りなどに見る具体的な民俗事例を取りあげる。 新潟の歴史や風土、ゆかりのある人物の伝記などを学ぶことによって、本学が立地する新潟という地域のことを深く知り、親近感を持つようになる。

授 業 科 目 の 概 要		
（リハビリテーション学部鍼灸健康学科等）		
保健医療福祉教養科目群	国際保健の世界	今日、世界には保健医療資源の不足、貧困問題、環境問題、教育問題など、多くの問題があり、人々の健康に深刻な影響を及ぼしている。本学が国際保健の分野で世界の人々の健康を守る有為な人材を育成していくことは社会的使命である。世界と我が国の国際保健協力の現状と課題、国際保健活動を実施する際の要件、保健医療分野における実際の活動と問題点、などについて学び、国際保健活動を実践するための基本的事項を身につける。
	国民の生活と健康を支える仕組み	国民の生活を支えている主な社会保障制度（医療保険、介護保険、年金保険、雇用保険）について講義を行う。さらに、これらを繋ぐ保健・医療・福祉の連携について学び、主な社会保障制度について総合的に取り扱う内容とする。日本の社会保障制度について理解するとともに、我々の生活や健康を支える仕組みについて知り、保健・医療・福祉を担う専門職として関心を高めることを目的とする。
	現代社会と経済	社会の中でお金はどのような役割を持ち、どのように流れているのかを知る。また、我々がそれにどう関わっているのかを考えることで、社会の仕組みを経済学的な側面から理解する。各回の講義では、世界のさまざまな経済トピックスを取りあげ、それらの事象が経済的、社会的な時代背景とどのような関係性から発生したのかについて、グループ討議を盛り込みながら考察する。
	法学Ⅰ	社会規範としての法の諸特徴を、他の社会規範と比較しつつ明らかにし、社会生活において法の果たしている役割について理解する。日本の国法体系を把握し、その中での憲法の位置・性格について理解し、身近な例を通して日本国憲法の内容の理解を深める。本科目では、統治機構分野（国会・内閣・裁判所、財政、地方自治等）および人権分野の一部（人身の自由、参政権、国務請求権）を取り扱う。
	法学Ⅱ	本科目は「法学Ⅰ」の学修に続き、法・法律一般に関して概略を説明するとともに、日本国憲法（主として人権分野）の基礎知識・考え方について、具体的事例を用いて講義する。具体的には、基本的人権、包括的基本権と法の下での平等、精神的自由権、経済的自由権、社会権を取り扱う。憲法の基礎知識・考え方を理解し、社会における法的事象への関心を高めることを目的とする。
	臨床の哲学	医療・福祉・教育・スポーツは人々の生活や文化のあり方に関係深い領域である。こうした領域においては、多角的な視点で物ごとを捉えてさまざまな解決方法を見出すことが求められる。そこで、この講義では、多様性を受け入れるためのグローバルな思考を身につけることを目的とする。現象を洞察し、事象の背後に隠れている事柄に目を向け、物事を掘り下げて考えることのできる力を育む。また、臨床や研究に必要な問いを自らたてることのできる能力も身につける。
	臨床技術の世界	臨床技術学とは、臨床工学と臨床検査学を融合した学問であり「種々の生体情報から患者状態を的確に把握し、チーム医療の中で適切な治療を実施するための学問」と位置付けている。本科目では、臨床技術で扱う検体検査、生理学的検査の概要および代表的な治療装置である血液浄化装置、人工呼吸器、心臓ペースメーカー、心・血管カテーテル等の概要を学び新しい学問領域について理解する。
	留学の魅力	海外で生活した経験のある教員から、滞在先の国の文化や伝統について学ぶ。留学の意義や魅力について学ぶとともに海外に対する学生の興味や関心、意欲を高める。将来の留学の可能性について考える契機を設ける。

授 業 科 目 の 概 要		
(リハビリテーション学部鍼灸健康学科等)		
保健医療福祉教養科目群	シティズンシップ教育入門	シティズンシップおよびシティズンシップ教育の意義・背景や基礎的な理論・実践的な動向を理解する。また、シティズンシップ教育に携わる実践者の話を聞いたり、取材を通じて自身の関心に近いプロジェクトへ触れたりする。さらに、新潟を中心に学生の出身地域におけるシティズンシップ実践への関心を高める。
	放射線の基礎と人体への影響	放射線とは何か、放射線の種類と性質から始まり、放射線が医療および工業にどのように利用されているのか、人体への影響はどのようなものがあるかなどを科学的な視点で学ぶ。また、福島第一原子力発電所の事故に関連した放射線の影響、特に人体、環境、植物などへの影響についても解説する。さらに、これらを通して放射線に関する科学的な知識を学ぶとともに、報道やその他ニュースについて自分の考えで判断することを学ぶ。
	新潟水俣病の理解	新潟水俣病、水俣病について、その問題やあらましを学ぶ。新潟水俣病の問題に携わってきた当事者や支援者などの関係者、新潟水俣病の学習・研究を行ってきた上級生や教員からの話を聞くことで、水俣病の症状の多様性や差別・偏見の構造などへの理解を深める。また、若い世代がそれを語り継ぐことの意義を理解し、継続して新潟水俣病の問題に関心をよせ、情報発信をする担い手となる意識を高める。
	統計入門	特定の集団を観察してその特徴を数量的に把握する調査を統計調査という。具体的な事例をもとに、統計の基本から応用まで学び、統計手法について理解する。データを科学的に分析し、客観的事実や規則性を得るための手法を学び、各学科の専門科目や卒業研究等において統計的な内容を学ぶ際の導入としても役立つ内容とする。
	一次救命処置法	一次救命処置は国民全てが行えることがのがましく、現在では初等教育にも取り入れられている。しかしながら、その普及は十分とは言いがたいのが現実でもある。医療職を目指す者であれば、専門を問わず一次救命処置についての知識と技術を習得しておくことは、これからの時代に必須事項であり、学ぶ意義は非常に大きい。本科目では、優れたQOLサポーターを目指す本学学生としての一次救命処置を学ぶ。
	東洋医学的養生	養生とは、病気になる前に健康の維持・増進を心がけることであり、東洋医学ではこの「病気になる前」の状態のことを“未病”と言う。古代の医学書でも、この未病の段階で病気にならないようにする「養生」が医療において最も重要だとされている。本科目では、これからの時代における養生の重要性と発病には至らないものの軽い症状がある状態で、五臓六腑が繋がっているという東洋医学の考え方から、軽いうちに異常を見つけて病気を予防するという養生、未病治について学ぶ。
保健医療福祉連携科目群	連携基礎ゼミ	1年次前期に履修した「基礎ゼミ」は同一学科内の学生により実施されたが、本科目では、他学科の学生とともに保健医療福祉に関連したテーマを調査する。2年次前期までに学んだ学生各自の専門職について概略説明することを通して、お互いが他職種を学び、日本語のオーラルコミュニケーションの技術向上を図る。加えて、ゼミで研究テーマを決め、これに沿った活動を実践することにより、チームワークの重要性や他職種間と協働することの大切さを実践的に学ぶ。
	チームアプローチ入門	本学は保健・医療・福祉・スポーツの総合大学として、多様な専門職を養成している。保健・医療・福祉の現場においては、各専門職にはそれぞれが果たすべき役割があるとともに、異なる専門職間の連携が不可欠となっている。このような背景から、本学の連携教育における入門科目と位置づけ、チームアプローチにおける各専門職の役割やその必要性と現状について学ぶ。



授 業 科 目 の 概 要		
(リハビリテーション学部鍼灸健康学科等)		
保健医療福祉連携科目群	保健医療福祉連携学	私たちの身近な生活周辺から相互に助け合う連携やその枠組みについて学び、さらに保健、医療、福祉の専門職にあつての連携に関する知識、技法、制度等について理解を深める。特に、医療現場、小児や高齢者などの福祉現場、地域や保健の現場で行われている専門職連携について、現場の声や事例を通してその実際を学ぶ。他職種とともに対象者の課題解決について討議する中で、自らの専門性を深めることを目的とする。
	地域連携学	地域完結型の医療への転換が進んでいるという社会背景を受け、実際に施設ではどのように関係機関の連携を構築し、地域連携の実践が行われているかを理解する。将来、保健・医療・福祉の専門職として働く中で、地域内の各施設と連携を図るにあたり、自身がどのような役割を果たしていく必要があるのかを想起できることを目的とする。
	連携総合ゼミ	本学の理念である「QOLサポーターの育成」へ向けての自覚・役割を踏まえ、対象者を中心として働き合う各職種の専門的連携(チームワーク)のあり方を中心に、全学科学生の混成チーム体制で学修する。 本科目では、具体的な対象者の事例を取り扱う。学生が自らの所属学科の専門性を踏まえつつ、他学科の専門性・志向性を十分に理解し、評価・アセスメントから支援計画の立案に至るチームケア、チーム医療を模擬的に体験することで、他の専門職と連携して対象者の支援にあたるための方法や内容を修得することを目的とする。
	社会連携実践演習Ⅰ	本学の理念である保健・医療・福祉・スポーツ分野における優れたQOLサポーターとしての資質を高めるために、地域における様々な活動に参画し、対象者を支援することで社会と連携し、専門職としての基礎的な対象者支援スキルを実践的に身に着けることを学修の目的とする。本科目では、地域における小・中・高等の学修およびスポーツ支援、健康増進支援、環境整備支援、高齢者支援、コミュニティ等のイベント支援等の様々な活動に参画し、社会連携活動に理解を深める。
	社会連携実践演習Ⅱ	本学の理念である保健・医療・福祉・スポーツ分野における優れたQOLサポーターとしての資質を高めるために、地域における様々な活動に参画し、対象者を支援することで社会と連携し、専門職としての基礎的な対象者支援スキルを実践的に身に着けることを学修の目的とする。本科目では、地域における小・中・高等の学修およびスポーツ支援、健康増進支援、環境整備支援、高齢者支援、コミュニティ等のイベント支援等の様々な活動に参画し、社会連携活動に理解を深める。
専門基礎科目群	解剖学Ⅰ	鍼灸師に必要な人体の基本的構造を理解する。本科目では運動器における骨、骨格筋を中心に学修する。中でも鍼灸学分野に関連の深い上肢骨・下肢骨については、名称、位置、構造、機能、ならびにそれらの相互関係を理解する。さらに上肢の筋・下肢の筋を重点的に取り上げ、各筋の起始・走行・停止・作用・支配神経を体系的に理解する。 運動器の機能作用からみたそれらの関係性についても取り上げながら、理解を深める。このようにして、鍼灸師にとって重要な人体の構造の基礎を理解する。
	解剖学Ⅱ	身体上の器官や組織について、循環器系、消化器系、呼吸器系、内分泌系、泌尿器・生殖器系、特殊感覚器系に分けて、形態的特徴と構造、分布、他の器官系との関連を理解する。 内臓系の構造を知ることは、疾患の理解や刺鍼の際の重要な手がかりとなるため、鍼灸師にとってとても重要である。そのため、人体模型や立体映像等を用いて3次元的なイメージをつけ、個々の器官組織の構造機能だけでなく、各器官組織の関連性を学修し理解を深める。

授 業 科 目 の 概 要		
（リハビリテーション学部鍼灸健康学科等）		
専門基礎科目群	解剖学実習	鍼灸の臨床においては、体表を診察することで、病態を判断し治療部位を決定する機会が多い。したがって体表から生体情報を得るための触察能力は極めて重要と考えられる。本科目では、鍼灸臨床で重要かつ必要な骨・筋肉・血管・神経等を精選し、それらの組織が確実に触察できるように演習を通して触察技術を修得する。 また、各器官の体表からの深さや危険部位への実際に刺鍼等を想定し、刺鍼の危険性を十分に理解し、鍼灸師として臨床上必要な触診や刺鍼に活かせるよう学修する。
	生理学	解剖学が「構造」に主眼を置くのに対して、生理学は「機能（働き）」の理解を目的とする。両者は互いに密接に関連している。「生体」の理解にとって車の両輪と言える。本科目では、生体機能の基礎となる細胞機能、神経・筋機能、感覚機能、運動機能、また生命維持の基軸となる器官系のうち体液・血液の機能、心臓・循環機能および呼吸機能について学ぶ。具体的には、脊髄・延髄レベルの反射機構から、感覚情報処理、運動機能調節系などの中枢神経機能との理解、などが含まれる。
	生理学実習	生理学の基礎を学んだ知識をもとに、自分達自身あるいは動物から抽出した組織を対象として生物学の基礎をなす種々のテーマについて演習する。自身が測定装置を直接操作することにより生理機能を計測、把握する能力を修得するとともに、医用電子機器の基礎を理解する。血液成分の測定から、血液の組成、尿成分の測定から腎機能を学修する。さらに、心電図や肺気量から呼吸・循環機能、脳波測定では脳の高次機能、筋電図では筋活動を学修する。
	病理学	病気の原因から出発して系統的に説明する。内容として疾患（先天性疾患、感染症、腫瘍、循環器疾患など）の身体に及ぼす影響を組織学の変化、器官の変化から細胞と遺伝子の変化に至るまで学び、症状発現の理解や疾患の重症化を病理学的観点から修得する。目標は病気の原因・定義を理論的に修得し、幅広い基礎医学の知識と理解力をつけることにおく。病理学の基本は西洋医学だが、東洋医学的な考え方と西洋医学的な考え方の両者を体得することで、将来的に幅広い考え方を持つ医療人になることを期待したい。
	病理学実習	本科目では、鍼灸師として理解しておく必要な疾患を取り上げ、それらの病理学的変化について顕微鏡学的形態観察を通して学修する。自ら顕微鏡観察を行い、組織の特徴をスケッチし、各自でまとめていく。顕微鏡観察から得られる知見を通して、組織レベルのイベントから全身（臓器、個体）のイベントを病理学的に根拠に基づいた推察をして、お互いに議論が出来ることを到達目標とする。この実習の単位修得時点において、各自が病気を体系的に把握できるようになることが期待される。
	免疫学	ヒトが病原微生物を含めたあらゆる異物（抗原）に対して如何に身を守ることが出来るのかを学ぶ。本科目では、ヒトにおける免疫応答の基本および免疫担当細胞などの役割と機能について、その基本を修得することを到達目標にする。ヒトにおける異物認識の特異性、免疫寛容、免疫記憶等の基本概念を把握する。リンパ球、マクロファージ、好中球等の免疫応答に関与する細胞の分化や機能を学修し、生体防御反応、自己免疫疾患、アレルギー反応などについて基本的概念を理解する。
	臨床薬理学	鍼灸による治療の範囲は内科、神経科、耳鼻科など限られた範囲のものではなく、その範囲は広く、複合範囲のものも多い。本科目では、西洋医学での主流である薬物療法を理解するために、薬物の作用機序、生体内の変化、薬効に影響を与える因子などを学ぶとともに、鍼灸治療の臨床の現場で遭遇することの多い疾患（運動器、循環器、耳鼻咽喉、神経疾患）を取り上げ、疾病の発症メカニズムや病態を基本的に理解し、その治療薬の効能や副作用について学習する。

## 授 業 科 目 の 概 要

（リハビリテーション学部鍼灸健康学科等）

専門基礎科目群	公衆衛生学	身体的・精神的・社会的健康に関する歴史や現代社会の取り組みについて修得する。また、生活習慣病や環境問題、少子高齢化、新興感染症などの新しい公衆衛生問題を理解する。具体的には疾病予防、健康の保持増進、ライフスタイルと健康管理、衛生行政、環境の基礎的知識、産業保健、成人保健、老人保健、母子保健、感染症の歴史などについて学修する。特に、健康の三原則である栄養、運動、休養について学び、現代社会における健康維持を中心とした公衆衛生について学ぶ。	
	公衆衛生学演習	地域の公衆衛生とその活動の実際を知り、保健医療福祉システムを理解する。そのために、地域における健康課題を、その地域特性や地域環境を踏まえて明らかにし、さらに公衆衛生活動（健康管理、感染症の予防、生活習慣病の予防、産業保健）などの実際について学び、また疫学の研究法を紹介するとともに、その成果を学修することで、医療人としての素養を身に付け、さらに保健医療統計の実際に触れて学修意欲を高める。また、その意義について理解させる。	
	臨床医学総論	鍼灸臨床を実践する上で必要な診察と所見の取り方について全般に学修する。内容として、バイタルサインの取り方と所見への考察、全身および局所的な診察の概要と方法、ベッドサイドで可能な代表的な臨床検査方法、各科疾患に共通する評価方法について学修する。また初診患者の病歴の取り方、診察方法から疾患の分類の推察方法を学び、記録（カルテ記載）の方法を理解する。医療人として基本的な診察法を学び、鍼灸臨床に生かせるよう学修する。	
	臨床医学各論Ⅰ内科・神経内科	内科・神経内科領域に共通する診察方法、所見の取り方、評価方法を学ぶ。その上で代表的な内科・神経内科疾患（呼吸器系、循環器系、代謝内分泌系、中枢神経系、アレルギー・自己免疫系疾患）について、定義、病態生理、症状、診断基準、評価方法、治療方法、予後等について包括的に学修する。鍼灸臨床と関連深い疾患については、とくに重点的に学修する。単に教科書に記載されている項目をたどるだけでなく、基礎から臨床までの関連領域を含む最新の知識を幅広く解説する。	
	臨床医学各論Ⅱ運動器	鍼灸臨床で遭遇する代表的な運動器疾患を取り上げ、疾患の概要を知った上で、鍼灸治療を行うための、診察方法の実際、評価方法、鍼灸治療方法、治療上の注意点、予後や患者とのコミュニケーションについて学修する。西洋医学的な治療方法との関連性についても理解する。その際、人体構造学と人体機能学の知識の再確認を行うとともにリハビリテーション医学との関連についても理解させる。さらに、スポーツ外傷・障害の基礎知識についても学ぶ。	
	臨床医学各論Ⅲ外科	本科目は、鍼灸師として必要と考えられる麻酔学および外科学について総合的に学修する。麻酔学においては、特にペインクリニック（痛みの領域）について重点的に学修する。また、外科学として術後の管理等の基礎について学修し、鍼灸臨床との関連性については、定義、病態生理、症状、診断基準、評価方法、治療方法、予後等について包括的に学修する。鍼灸臨床との関連生は事例を通して学修する。講義は前半は外科、後半は麻酔学とする。	
	臨床医学各論Ⅳ感覚器	鍼灸臨床と関連が深い代表的な感覚器系疾患（眼科系、耳鼻科系、皮膚科系等）について、定義、病態生理、症状、診断基準、評価方法、治療方法、予後等について包括的に学修する。また、薬物療法、手術療法などの治療法の利点と欠点について理解させる。単に教科書に記載されている項目をたどるだけでなく、基礎から臨床までの関連領域を含む最新の知識を幅広く開設し、現代医学的観点からみた病態と適応、限界、禁忌の判断ができるように学修する。	
	疼痛学	様々な病態下で生じる不快で耐え難い感覚である疼痛（痛み）について、生化学・生理学・解剖学などの基礎知識を踏まえて学修する。疼痛に関連する分子や細胞について学修し、痛みが引き起こされる機序と生体反応について理解する。また、鍼灸治療は特に人間の皮膚感覚の中でも痛みの感覚を治療に利用する方法であり、鍼の刺激によって起こる生体反応や神経機能の変化などの機序についてや、鍼鎮痛と自律神経系（疼痛・筋緊張緩和、血流改善など）に及ぼす作用等についても学修する。	

授 業 科 目 の 概 要	
（リハビリテーション学部鍼灸健康学科等）	
救急学	鍼灸臨床や日常生活で遭遇する可能性のある救急処置と救急救命法について学修する。傷病者の状態を判断することや、傷病者に対して適切な処置が出来るようになるには、臨床上必要なことである。とくに一次救急処置ではA：気道の確保、B：人工呼吸、C：心臓マッサージの手順とその方法について理解させ、それらを実際に行えるよう学修をして身につけさせる。救急処置の基礎理論を知った上で、バイタルサインのチェック、心肺蘇生法とAEDの利用方法、食物窒息や熱中・脱水症、誤飲・誤食などの病態に応じた対処方法を学ぶ。
運動生理学	運動に伴って生じる様々な生体機能の変化・反応について学修する。具体的には、骨格系（エネルギー供給系、筋線維組成系、筋収縮様式）、呼吸循環器系（ガス交換、酸素運搬・消費）、神経系、代謝系（体温、水分）、内分泌系（ホルモン）について系統的に学修する。その中でも、各種スポーツアスリートに特化した生理反応についても理解することを主眼とする。解剖学、生理学から学んだ基礎を発展させた身体機能について学修する。
スポーツ心理学	スポーツにおけるパフォーマンス発揮には、技術と体力に加え、心理（精神）も必要とされる。スポーツ心理学は、「スポーツに関わる課題を心理学的側面から明らかにし、スポーツの実践や指導に科学的知識を提供する学問」と定義されている。スポーツに対する動機づけや競技スポーツの心理的特徴、メンタルトレーニングを含めて学修する。また、生活習慣病予防の行動変容になりやすい性格、行動パターン、ストレス解消の生理・心理・社会的側面を理解させるとともにスポーツ相談についても学ばせる。
トレーニング論	トレーニングの基本となる原理・原則を学修し、運動生理やバイオメカニクスの理論に基づいた各種トレーニングを理解する。具体的には、健康を保持増進するためのトレーニングと、競技力を向上するためのトレーニングの2つを学修する。グループ形式での議論によって、目的に合わせたトレーニングプログラムの作成方法を身につける。様々なバリエーションがあるトレーニングを形態別、体力要素別に分類し、それによって得られる効果の違いを理解させるとともに指導者が専門種目に必要な体力要素を強化できるよう、様々なトレーニングの目的、方法を正しく理解させる。
予防とコンディショニング演習	スポーツ傷害は、一回の強い外力によって生じる外傷と、微小な外力が反復されることによって生じる障害（過使用）の2つに分けられる。傷害の予防とコンディショニングの観点から、ウォーミングアップ・クールダウンの重要性とその内容を学修する。また、代表的な傷害の受傷機転を学修し、それらに対するケア方法やトレーニング方法を学修し実践する。講義のポイントはスポーツ復帰の目標達成に要するアスレティックリハビリテーションの概要や具体的なプログラミングの過程と方法について各競技別に学修する。
スポーツ外傷	スポーツ外傷は、一回の強い外力によって生じる骨や軟部組織の損傷を指す。擦り傷や切り傷、骨折や脱臼、肉離れや打撲（筋挫傷）、靭帯損傷や捻挫が挙げられる。スポーツでは、その特性上、身体の不均衡やアンバランスでの活動を余儀なくされ、外傷のリスクが高い。本科目では、スポーツで引き起こされる代表的な外傷をピックアップし、その受傷機転を学修する。また、スポーツ外傷の評価法や重篤な外傷（頭部、脊椎損傷、大出血など）、年齢、性差によるスポーツ外傷の特徴を修得させる。
ジェンダー論	選択的夫婦別姓制度や入学試験における性差別など、個人の生活にも影響しうる問題にもジェンダー意識が深くかかわっている。当講義では、こうした具体的な事象を俎上に載せ、特にマイノリティーや弱者の視点を大切にしながら、どう行動していくかを学ぶ。更に、現代の日本社会におけるジェンダー、セクシュアリティの様態を読み解くための基礎的な概念・知識を学修し、自分とは異なる立場の人々の権利に目を向けることができるようにする。国際的、通時的な視点で、ジェンダーの諸問題を考えることができる。

専門基礎科目群

授 業 科 目 の 概 要	
（リハビリテーション学部鍼灸健康学科等）	
専門基礎科目群	<p>高齢社会学</p> <p>高齢者を取り巻く現状や社会問題（介護問題、社会的孤立、社会保障問題、高齢者の犯罪等）を把握し、その理由や解決策について考える。このことを通して、実際に問題に直結している患者や患者家族等の気持ちを慮り、鍼灸臨床に活かせるようにする。また、認知症や脳機能障害、心肺機能の低下など老人ならではの病気や健康障害、独居老人の増加と孤独死、家族の高齢化による老老介護といった、長寿社会ならではの問題も学び、単に「寿命を延ばす」だけでなく高齢でも身体の健康と体力を維持し、自立して生活できるよう支援する役割を鍼灸師として担っていく必要性も学修する。</p>
	<p>メンタルヘルス学</p> <p>メンタルヘルスとは「心の健康を修得するための基礎知識」のことでありそれを学修する。心身に善悪両面の影響を与えるストレスやストレスラーの本質を知り、精神的ストレスの評価法とその対処法について学ぶ。過度な精神的なストレスが身体に及ぼす影響や不調のサインを学び、うつ病やパニック障害など具体的な疾患についても学修する。また、ストレスマネジメントの方法やリラクゼーション法について修得し、鍼灸臨床に活かせるようにする。</p>
	<p>養生学</p> <p>病気の発症を予防し、さらに健康状態を維持向上させ、美しく快適に生活することを旨とする「養生」について、その理念や概要と歴史の変遷、我が国独自の養生法を学ぶ。さらに現代社会における養生学の応用と在り方について学ぶ。その上で、これからの社会における医療人が実践すべき養生法について修得する。そして、養生学の基礎である「自分の健康は自分で作る」というセルフメディケーションの考え方。病気になるようにするために、自分で自分の身体をどう管理するかを学び、病気になるだけでなく心身共により健康でより美しく充実した生活を実践・指導できる鍼灸師を目指すようにする。</p>
	<p>栄養学</p> <p>鍼灸師として、健康を維持するため、また疾患の治療と予防のための栄養指導に関連する知識を身につける。すなわち食事に関する基礎的知識としてエネルギーの補給と代謝、タンパク質・脂質・糖質・ビタミンに関する基礎知識を学ぶ。さらに代表的な疾患における栄養学（食事指導）について、高齢者・アスリート・美容と栄養との関連性について学修する。「栄養学」を理解することでより食を正しく選択し、信頼できる情報に基づく適切な食行動が実践できること、「食育」が実践できることを学修のねらいとする。</p>
	<p>心の発達と維持</p> <p>本科目は、生後からの脳の発達の過程を学び、視覚・言語聴覚の発達、手触りなどの感覚や運動機能、思考や判断、コミュニケーションに関わる成長と脳機能の働きを系統的に学修することで、心身の機能の発達と心の健康について理解を深めるとともに、心と体には密接な関係があること、発達・成長に伴う身体の変化や不安や悩みへの対処法なども学修する。 特に体性感覚刺激と心身の健康との関係では、鍼灸などの刺激が心身の健康に及ぼす影響なども学修し、鍼灸が心身の健康増進に寄与する可能性も学ぶ。</p>
	<p>メンタルヘルスマネジメント</p> <p>心の健康とは何か、メンタルヘルスの基礎知識を学修する。過度なストレスやプレッシャーは向上心の糧となるが、過度なストレスはうつやパニック障害、その他様々な心因性の身体疾患の原因となりうる。ストレス、ストレスラーとは何か、精神的ストレスの評価法とその対処法などについて学修する。特にストレスが身体に及ぼす影響や不調のサイン、対応上の留意点などについて考える。さらにストレスマネジメントの方法、リラクゼーション法について理解し、それらを鍼灸臨床に活かせるようにする。</p>
	<p>漢方薬概論</p> <p>臨床の現場で用いられる漢方薬は、「風邪には葛根湯」のように症状や疾患に対して薬方を対応させる「病名漢方」が広く行われているが、漢方本来の効果を十全に発揮させるには、漢方が本来拠って立つ東洋医学の理論を良く学び、近代西洋医学とは異なる漢方医学固有の概念を使って、患者の病状を理解する必要がある。この単元では「気血水」「六病位」「五臓論」などを中心に、実際の症例でどのように漢方治療方針が決定されるのかのプロセスについて概説する。</p>

授 業 科 目 の 概 要		
（リハビリテーション学部鍼灸健康学科等）		
専門基礎科目群	生薬学	生薬は様々な植物や鉱物など天然物を加工し、薬用として利用されるものであり、漢方薬を構成する単位となるものである。近代の植物学や鉱物学は、対象物を形態学的な特徴など物質面からの評価に基づき分類するが、生薬学には対象物を人体に使用した時の効果（薬能）という観点が含まれる。かつて生薬を扱う者には、どの生薬にどんな効果があるのかに関する知識はもちろんのこと、生薬の品質を外見や五感だけで決定する技能も求められた。実際の生薬を例示して、その歴史や使われ方なども含め幅広く講述する。
	方剤学	漢方薬は生薬のブレンドによって構成されているが、決して思い付きの寄せ集めではなく、漢方医学の病態理解に基づき生薬が選定され、配合比率が設定されている。古代中国大陸においては、複数の生薬を組み合わせるにより、ある薬理作用は強く倍増する一方で、ある薬理作用は減衰すること（指向性の強化）が発見され、その優れた生薬の組み合わせに対し、例えば「葛根湯」などと漢方薬（方剤）命名が行われ、後世に伝えられた。漢方処方それぞれの「設計」には、一種の治療哲学と呼ぶべきものが反映されており、それを明らかにするのが当講義の目的である。
	基礎医学研究セミナー	基礎研究は主に、真理の探究、基本原理の解明や新たな知の発見、創出や蓄積などを志向する研究活動である。基礎研究には目に見える成果が現れるまで長い時間を要したり、その成果がどのような役に立つのかが直ちに分からなかったりすることが多い。本科目では、組織や動物を用いた実験を行い、医学の発展に不可欠である基礎医学研究の基本を学ぶ。実験を通じて科学の基本柱である実証性・客観性・再現性について理解する。さらに、最新の知見を得るための医学論文の探し方や論文の読み方を学修する。本科目の目的は幅広い基礎医学の知識と理解力をつけることにおく。
	高齢者ケア実習	日本の高齢化と高齢者ケアの変遷と展望を学修した中で、鍼灸の役割も考えながらケアの実際について実習する。病院や福祉施設を場として、介護や介助を必要とする高齢者のケア方法について実践的に実習する。杖歩行や車椅子など高齢患者が扱う医療福祉器具について学ぶとともに、認知症患者やがんなどの重病患者などへの対応方法を学修する。また、後期高齢者における鍼灸師の役割を考えるに、日々の生活援助を通し、高齢者の心身の状態をアセスメントし、予測を立て、苦痛の緩和・異常の早期発見も視野に入れた実習も行う。
	経済と経営	本科目は、我が国における経済の歴史と仕組みを学び、医療における保険制度や各自治体の医療助成制度など医療に関連する経済について修得する。また実際の鍼灸院経営者から経営学の基礎、税金の仕組み、広告、施術所の設計・デザイン・マーケティングなどについても学修する。加えて最近のインターネット上における施術所の提示、広告の仕方などについても紹介し、その上で経営のあり方、特に病院や個人治療院の経営のあり方を学修する。
	起業の精神と実践	近年の我が国における就業・雇用の変化から、これからの時代の「働き方」について考え、さらに起業の精神（アントレプレナーシップ）について学ぶ。具体的には、就業における創造性やイノベーションを維持する能力、業務や人員のマネジメント能力、学修と発展の継続能力を身につけることの重要性を理解する。また、個人治療院（鍼灸院）を立ち上げ発展させた実践例から、起業家としての心構えと、鍼灸師としての行動力について学修する。
	プレゼンテーション方法論	鍼灸師は種々の場面（治療における患者への説明、他の医療関係者に対する症例提示等）で、他者に対して情報を提示し、理解と納得を得る技術が求められる。このための技術である基本的なプレゼンテーションスキル（態度や論理的思考）について理解し、次にパワーポイントの利用やプレゼンテーション技術を学ぶ。また、医療情報を提供するために必要なカルテの書き方や症例報告の作成等の実践的なスキルについても学修する。また、4年次の卒業研究に反映できるよう学修する。

授 業 科 目 の 概 要	
（リハビリテーション学部鍼灸健康学科等）	
専門基礎科目群	臨床研究デザイン学 臨床研究を行うために必要な研究計画書の作成について学修する。内容としては、臨床に存在する漠然とした疑問を解明するために「疑問の構造化」「先人に学ぶ」「疑問のモデル化」「測定デザイン化」「研究の型」「比較の質を高める」「倫理的配慮」の7つのステップについて学修する。また、医療情報を提供するために必要なカルテの書き方や症例報告の作成等の実践的なスキルについても学修し、鍼灸臨床で重要な評価や治療の構築、それらを研究に反映させ、4年次の卒業研究に生かせるよう学修する。
専門専攻科目群	鍼灸健康学ゼミ 少人数による本学科の特徴や可能性、4年間の学びに必要なこと、鍼灸師の役割や必要なスキルについて、1人1人の意見を聞きながら、それぞれの学生に合う学生生活をアドバイスし、よりよい学生生活を送れるよう寄り添い指導する。その中で、伝統医学である鍼灸が、「こころ」と「からだ」に働きかけ自然治癒力を高め、ヒトが環境の変化に適応し、自分の能力を十分に発揮できる状態に導く、すなわち「健康」に寄与し、よりよい生活を過ごすために必要な鍼灸の役割や養生について学ぶ。
	鍼灸健康学概論 伝統医学である鍼灸が、「こころ」と「からだ」に働きかけ自然治癒力を高め、ヒトが環境の変化に適応し、自分の能力を十分に発揮できる状態に導く、すなわち「健康」に寄与し、よりよい生活を過ごすために必要な鍼灸の役割や養生について学ぶ。また、疾患の治療や症状の緩和を目指すだけでなく、疾患・障害の予防やアンチエイジングなど、人々が健康に生活できる心身の健全な状態を維持、獲得するための鍼灸の知恵と技術を生かすための学問であることも学修する。
	経路経穴学 主として経絡経穴の基本的な概要、取穴法で基準となる寸法（骨度法、同身寸法）、要穴について学修し、奇経八脈の任脈、督脈と十二正経の経穴について学修する。 経穴名と取穴部位を関連させることはもとより、各経穴の部位については、その経穴の目印となる体表から確認することができる筋、腱、骨、あるいは各経穴の近くを走行する血管、神経などもあわせて学修し、体表解剖学、局所解剖学と関連して各経穴を位置付けられるよう学修する。
	経路経穴学実習 主に経絡経穴学で学んだことを中心に実習する。ここでは骨度法の実習を踏まえ、各経絡に所属する経穴を取穴すると同時に、経穴名と取穴部位を関連させて学ぶ。特に取穴学修実習で最も重要である奇経八脈の任脈、督脈と十二正経の経穴について学修する。 各経穴の部位については、その経穴の目印となる体表から確認することができる筋、腱、骨、あるいは各経穴の近くを走行する血管、神経などもあわせて学修し、体表解剖学、局所解剖学と関連して各経穴を位置付けられるよう学修する。
	東洋医学概論 東洋医学の最も基礎となる知識として陰陽説、五行説、経絡説を始め、東洋医学（鍼灸・漢方）で用いられる診断用語、および病態把握の方法論などについて基本的な事項を学修する。東洋医学の理論は、二千年近く前に中国で編纂された「黄帝内経」「傷寒論」等の医学書に基づいているが、これらの医学書は今日の医療で求められている「全人的な身体観」をその思想的基盤としており、これらの概念の学修を通じて、現代の医療で必要とされるホリスティックな医学観についても理解を深めていく。
	伝統鍼灸学概論 東洋医学的な診察方法である望診・聞診・問診・切診の基礎的理論を、東洋医学的な生理機能である気・血・津液・六腑六腑との関連性の中で学修する。また、弁証論治として八綱弁証、気血陰陽弁証、臟腑弁証、病邪弁証、外感熱病弁証の概要を学ぶ。特に日本の鍼灸治療における代表的な診断法である腹症について、基礎から臨床までの診察治療体系について学修する。更に、古典に見られる刺鍼技術についても学修し古典技術の理解を深める。

## 授 業 科 目 の 概 要

（リハビリテーション学部鍼灸健康学科等）

専門 専攻 科目 群	鍼灸治効理論	本科目では、鍼灸刺激による生体の反応について、これまでに国内外で報告された研究成果を理解できることを目標に学修を進める。そして、鍼灸刺激が治療効果を示す機序について学ぶ。すなわち、刺激の感受、伝達、知覚（認識）、そしてその後に発生する生理的な反射と反応について系統的に学修する。そのために受容器や伝導路、脊髄内の構造や機能を学んで鍼灸刺激の作用を理解する。また代表的な治効理論であるゲートコントロール説やストレス学説などについても学修する。	
	中医診断学基礎	中医学的な理論を用いての鍼灸治療を実践するための中医学の理論を学修する。内容は、中医学の基礎理論における気・血・津液や五臓六腑の生理学的作用を学び、中医学的な生体観を修得し、中医学的な理論に基づく鍼灸治療の礎を学ぶ。また、動画なども用い、各診断技術を実践的に修得する。とりわけ、鍼灸臨床の場で有用だと思われる経筋療法、経絡治療、経脈病証などの伝統鍼灸理論やその実際についても動画等を紹介しながら学修する。	
	伝統鍼灸診断学演習	東洋医学的な診察方法である四診（望聞問切診）を学修し、中医学的には陰陽五行論に則った、八綱弁証、気血弁証、臟腑弁証、病邪弁証、外感熱病弁証の基礎理論と治療法則である施治を演習的に学ぶ。とりわけ、「証」という概念とその構成要素、弁証の意義とその方法・手順について反復した症例の演習を通じて解説し修得する。また、鍼灸臨床の場で有用だと思われる経筋療法、経絡治療、経脈病証などの伝統鍼灸理論についても学修する。また、耳鍼・手鍼・小児鍼の治療に関した中医刺鍼法などについても提示する。	
	臨床鍼灸学Ⅰ（内科・神経内科）	鍼灸臨床で遭遇する代表的な内科・神経内科疾患（循環器、消化器、泌尿器、糖尿病、パーキンソン病、脳神経疾患等）を取り上げ、疾患の概要を理解した上で、鍼灸治療を行うための、診察方法の実際、評価方法、鍼灸治療方法、治療上の注意点、予後や患者とのコミュニケーションについて学修する。西洋医学的な治療方法との関連性についても理解する。臨床における適応と禁忌の判断、鍼灸治療の有効性と有用性を考え、鍼灸の効果や役割について学修し、鍼灸臨床に活かせるようにする。	
	臨床鍼灸学Ⅱ（運動器）	鍼灸臨床で遭遇する代表的な腰痛、下肢痛、頸腕症候群、上肢痛、膝痛、足関節痛、リウマチ等の運動器疾患を取り上げ、疾患の概要を理解した上で、鍼灸治療を行うための、診察方法の実際、評価方法、鍼灸治療方法、治療上の注意点、予後や患者とのコミュニケーションについて学修する。西洋医学的な治療方法との関連性についても理解する。臨床における適応と禁忌の判断、鍼灸治療の有効性と有用性を考え、鍼灸の効果や役割について学修し、鍼灸臨床に活かせるようにする。	
	臨床鍼灸学Ⅲ（感覚器）	鍼灸臨床で遭遇する代表的な耳鼻科（難聴・耳鳴り・めまい・顔面神経麻痺）、眼科（眼精疲労、白内障）、皮膚科（アトピー性皮膚炎）、麻酔科（慢性疼痛、頭痛）等疾患を取り上げ、疾患の概要を理解した上で、鍼灸治療を行うための、診察方法の実際、評価方法、鍼灸治療方法、治療上の注意点、予後や患者とのコミュニケーションについて学修する。西洋医学的な治療方法との関連性についても理解する。また、臨床における適応と禁忌の判断ができるよう学修する。	
	疼痛管理鍼灸学	疼痛学で学修した痛みに関する基礎知識をもとに、疼痛を緩和する生体分子の働きについて学修する。さらに鍼灸治療によって引き起こされる生体の鎮痛応答について学修し、疼痛をコントロールするための治療法について鎮痛機序から効果を出す刺激方法等を理解する。また、鍼灸で取り扱うことの多い難治性の慢性疼痛（慢性腰痛、線維筋痛症など）や病態に対する評価法と鍼灸の鎮痛機序を学び、臨床における適応と禁忌の判断ができるよう学修する。	
	リハビリテーション学総論	リハビリテーション医学の目的は、運動機能障害を治療し、社会復帰と日常生活における障害を軽減することになり、これらの中には、鍼灸治療の対象となりえるものが多く含まれる。本科目では、リハビリテーション医学の基礎となる運動学や動作解析などについて学修する。また、リハビリテーションの概念、歴史、位置づけならびに医学的リハビリテーションの対象、評価、治療法（理学療法、作業療法、言語療法、装具療法）についても理解させる。	



## 授 業 科 目 の 概 要

（リハビリテーション学部鍼灸健康学科等）

専 門 専 攻 科 目 群	リハビリテーション学各論	リハビリテーション医学の目的は、運動機能障害を治療し、社会復帰と日常生活における障害を軽減することになり、これらの中には、鍼灸治療の対象となりえるものが多く含まれる。本科目では、対象疾患である脳血管障害、脊髄損傷、脳性小児麻痺、閉塞性肺疾患、心疾患などのリハビリテーションについて、評価法、理学療法や作業療法、装具療法などの治療法、訓練プログラムなどを重点的に学修し、その中で鍼灸の役割や連携などを意識して鍼灸治療と連携が図れるようにする。	
	中医診断学演習	中医学における八綱弁証、気血弁証、臓腑弁証、病邪弁証、外感熱病弁証について実際の臨床例に合わせた施治（鍼灸治療方法）を演習的に学修する。また中医学的な鍼灸治療と現代医学的な視点からの鍼灸治療の位置づけや適応について学修する。また、中国鍼の刺鍼法、得気の意義、候気法、催気法、行気法などの基本手技、補瀉法などについて演習も交えて修得する。適応範囲や基本操作、注意事項などを交えてシミュレーション演習により学修させる。	
	メンタルヘルス鍼灸学	メンタルヘルスの基礎について学修した後に、過度なストレスが身体に及ぼす影響や不調のサイン、対応上の留意点などについて学修する。さらにストレスマネジメントの方法、リラクゼーション法についても理解した上で、鍼灸臨床において関連深いうつ病や自律神経失調症、身体化徴候、慢性疲労症候群などの疾患を取り上げ、それらに対する東洋医学的な病証について、鍼灸の効果や役割について学修し、鍼灸臨床に活かせるようにする。	
	鍼灸リスクマネジメント学	鍼灸治療によって生じる医療事故や有害事象（気胸などの臓器損傷、灸あたり、鍼の抜き忘れ等）を学修し、これらを未然に防ぎ、安心して受けられる鍼灸治療について学修する。また、感染予防対策（衛生的な手洗い、個人防護具、各種感染対策等）について学修し、衛生的な施術を修得する。リスクマネジメントの基本的な考え方とインシデントレポート等の実践方法を中心として、近年国内外で整備されつつある当該分野におけるガイドラインもふまえて学修する。	
	リハビリテーション鍼灸学	対象疾患である脳血管障害、脊髄損傷、脳性小児麻痺、閉塞性肺疾患、心疾患などのリハビリテーションについて、評価法、治療法、訓練プログラムなどを重点的に学修し、鍼灸治療の役割とその実際について治療が行えるよう修得する。そして、鍼灸治療を行うための、人体構造学と人体機能学の知識の再確認を行うとともにリハビリテーション医学との関連についても理解させる。さらに、スポーツ外傷・障害の基礎知識についても学修し、鍼灸治療の役割を理解する。	
	高齢者鍼灸学	加齢に伴い、身体機能がさまざまな面で低下している高齢者の鍼灸治療のあり方について学修する。特に、老年者の鍼灸臨床と関連の深い疾患や症状を取り上げ、それらに対する東洋医学的な病証について学修するとともに、鍼灸治療の方法についてシミュレーションにより修得する。また、高齢者における鍼灸師の役割を考え、日々の生活援助を通し、高齢者の心身の状態をアセスメントし、予測を立て、苦痛の緩和・異常の早期発見も視野に入れた学修も行う。	
	スポーツ鍼灸学	スポーツにより生ずる傷害を学び、鍼灸治療を行うための、診察方法の実際、評価方法、鍼灸治療方法、治療上の注意点、予後や患者とのコミュニケーションについて学修する。スポーツはプロスポーツ、健康維持のためのスポーツ、など様々な場面で実践されており、各々の場面での鍼灸治療のあり方を理解する。また鍼灸治療に並行して行うストレッチやテーピング、生活習慣への指導も学ぶ。また、症状による禁忌等の実際も学び、鍼灸師として適応・不適応が理解できるよう学修する。	
	レディース鍼灸学	東西医学からみた女性の身体、女性のライフサイクルに応じた鍼灸治療、鍼灸基礎研究の現状について学修する。特に、鍼灸臨床と関連の深い特定の女性科疾患や愁訴を取り上げ、それらに関係する現代医学的な病態把握および東洋医学的な病証について学修し、治療方法についてシミュレーションにより修得する。また、症状による禁忌等の実際も学び、鍼灸師として適応・不適応が理解できるよう学修する。さらに、近年国内外で整備されつつある顔面刺鍼の注意点やリスク管理も学修する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

（リハビリテーション学部鍼灸健康学科等）

専 門 専 攻 科 目 群	社会鍼灸学	鍼灸と地域社会とのかかわりについての基本的な視点を学修する。具体的には、疾病構造の変化や急速な社会の高齢化を背景とした医療を取り巻く諸問題、鍼灸療法を含めた新たな社会医療システムの必要性などを理解する基礎として、社会保障制度、医療保険システムの概要、西洋医学と伝統医療、患者の捉え方、病気の意味論等を学修した上で、社会科学の立場から、鍼灸医療の業態と市場規模、医療保険、介護領域における鍼灸療法の役割等を理解し、現代社会が求める鍼灸師の基本的資質を養う。	
	関係法規	本科目では、法律の基礎的事項および鍼灸業務に関わりの深い関係法規について学修する。具体的には、医師法、医療法、薬事法、その他の医療従事者に関する法規等について、それぞれの特徴と基本的内容、およびはり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師に関する法律の詳細について学修する。加えて、様々な事例や判例を紹介し、鍼灸師として開業した際や病院勤務や企業への参入の際の重要なポイントについて、より理解を深められるようにする。	
	鍼技術学実習	鍼施術における刺鍼手技の基本を修得し、あわせて衛生管理についても学ぶ。刺鍼手技の基本の初期では、管鍼法による刺鍼の手順と方法（前後の揉捏、押手や刺し手の形成法など）を修得する。中期段階においては刺鍼練習器を用いて直刺、斜刺、横刺などの基本的な刺鍼方法を修得する。後期段階においては、消毒法、クリーン・ニードルテクニックなどの衛生管理の方法を理解させ、自らの身体や学生同士による刺鍼を行い、基本的な刺鍼法を修得する。	
	灸技術学実習	灸施術における施灸手技の基本を修得し、あわせて消毒の実際も学ぶ。施灸手技の初期段階では、もぐさの捻り方、点火の仕方を修得する。中期段階においては、もぐさの燃焼温度測定機器を用いて形成した温度を測定し、一定の大きさおよび一定の硬度でひねる練習を行う。後期段階においては、消毒法を学修し、自らの体や学生同士による施灸手技の基本を修得し、施灸手技の基本を修得する。また、過誤を未然に防ぐ灸技術のスキル（火傷を起こしにくい透熱灸の技術など）を修得する。	
	鍼灸治効理論実習	鍼灸治効理論で取り上げた報告から実習に適切な課題を精選し、これらについて小グループによる追試的な実験実習を行う。このことを通じて、科学における基本概念の一つである再現性について理解する。また同様の実験をすることにより、研究目的に応じた各種の実験手法の適応と限界について学ぶ。このように実際に鍼灸刺激の生体に及ぼす効果を繰り返し実験により体験させ、鍼灸治療の効果や効果機序に対する実証的な態度を修得する。	
	臨床鍼灸学実習Ⅰ（内科・神経内科）	鍼灸臨床と関連の深い、内科・神経内科疾患を取り上げ、それらに対する東洋医学的な病証について学修するとともに、鍼灸治療の方法についてシミュレーション実習により修得する。その際に現代医学の視点からみた病態と適応、限界、禁忌の判断ができるよう学修する。ここでは主に呼吸器疾患（COPDなど）、循環器疾患（高血圧症など）、代謝内分泌疾患（糖尿病など）、アレルギー疾患（気管支喘息など）、脳血管障害（脳梗塞や脳出血）、神経変性疾患（パーキンソン病など）、機能性疾患（頭痛、神経痛、顔面神経麻痺など）、について学修する。	
	臨床鍼灸学実習Ⅱ（運動器）	本科目では運動器疾患や症状についての現代医学的な概念・診察・検査・治療法等の内容をふまえ、特に鍼灸臨床と関連の深い頸肩痛、上肢痛、腰痛、下肢痛、関節痛などのリウマチ性疾患についてアプローチの実際を学ぶ。特に実習では、病態把握と類似疾患の鑑別、適応・不適応の判断、治療方針および治療法、症状や疾患に対する評価法も修得し、その際、現代医学の視点からみた病態の適応、限界、禁忌の判断ができるよう理解を深める。	

## 授 業 科 目 の 概 要

（リハビリテーション学部鍼灸健康学科等）

専 門 専 攻 科 目 群	鍼灸臨床鍼灸学実習Ⅲ(感覚器)	本科目では眼科、耳鼻科、皮膚科学で学修した内容を踏まえて、鍼灸臨床と関連の深い難聴・耳鳴り・めまいや白内障や眼精疲労などの症状・疾患を取り上げ、それらに対する東洋医学的な病証について学修するとともに、その診察の仕方や評価法、病態把握から症状や疾患に対する評価法、鍼灸治療の方法についてシミュレーション実習により修得する。その際、現代医学の視点からみた病態の適応、限界、禁忌の判断ができるよう理解を深める。	
	メンタルヘルス鍼灸学実習	メンタルヘルスの基礎について学修した後に、過度なストレスが身体に及ぼす影響や不調のサイン、対応上の留意点などについて学修し、それらに対する東洋医学的な病証について学修するとともに、鍼灸治療の方法についてシミュレーション実習により修得する。それらに対する東洋医学的な病証について学修するとともに、その診察の仕方や評価法、病態把握から鍼灸治療の方法についてシミュレーション実習により修得する。その際、現代医学の視点からみた病態の適応、限界、禁忌の判断ができるよう理解を深める。	
	リハビリテーション鍼灸学実習	対象疾患である脳血管障害、脊髄損傷、脳性小児麻痺、閉塞性肺疾患、心疾患などのリハビリテーションについて、評価法、治療法、訓練プログラムなどを重点的に学修し、それらに対する東洋医学的な病証についても学修するとともに、鍼灸治療の方法についてシミュレーション実習により修得する。その際、現代医学の視点からみた病態の適応、限界、禁忌の判断が出来るように学修する。鍼灸治療の役割とその実際について治療が行えるよう修得する。	
	高齢者鍼灸学実習	加齢に伴い、身体機能がさまざまな面で低下している高齢者の鍼灸治療のあり方について学修する。特に、老年者の鍼灸臨床と関連の深い疾患や症状を取り上げ、それらに対する東洋医学的な病証について学修するとともに、鍼灸治療の方法、症状や疾患（フレイル、認知症、摂食・嚥下障害など）に対する評価法についてシミュレーション実習により修得する。その際、現代医学の視点からみた病態の適応、限界、禁忌の判断が出来るように学修する。	
	スポーツ鍼灸学実習	スポーツ領域における鍼灸治療の実際について、スポーツ傷害の概念、各種疾患や症状についての原因、症状、診察方法および鍼灸治療の実際を中心に学修する。特に日常的によく見られるスポーツ障害を部位別に取り上げ、それらに対する鍼灸治療のアプローチについて学修するとともに、鍼灸治療の方法についてシミュレーション実習により修得する。その際、現代医学の視点からみた病態の適応、限界、禁忌の判断が出来るように学修する。	
	レディース鍼灸学実習	鍼灸臨床と関連の深い特定の女性科疾患や愁訴を取り上げ、それらに関係する現代医学的な病態把握および東洋医学的な病証について学修し、治療方法についてシミュレーション実習により修得する。女性特有の症状の病態を理解し、患者対応や鍼灸治療の実際について実習する。その際、適応と限界、禁忌の判断ができるように学修する。さらに、女性特有の症状に対する鍼灸治療の効果と効果機序、国内外の研究の現状についても学修する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

（リハビリテーション学部鍼灸健康学科等）

専 門 専 攻 科 目 群	健康美容鍼灸学実習	健康・美容を目的としたはり・きゅう施術と一連の流れ（健美診療）の基礎を学び、診療する際の注意事項（予約の対応から、問診、施術、治療後指導など）、美容鍼灸専用カルテ記載の一部、全身の気血を巡らすための全身治療、症状による施術方法を学び、その際の間診、触診方法、鍼灸治療の実践を実習する。また、美容鍼灸を行う上でコラボレーション可能なアロマセラピー、エステティックの一部、ホスピタリティスキルについても一部実習を行う。	
	臨床実習Ⅰ	これまで学修した現代医学や鍼灸医学に関する知識や医療面接で身につけた技法を基本として附属鍼灸治療所において患者の診療を通して実習する。問診、診察による病態把握や病態に基づく治療プラン、患者へのインフォームドコンセント、鍼灸治療の評価等の実際を研修する。さらに、医療スタッフの一員として施術者の補助をするなど、診療行為の一部を担うことで鍼灸師及び医療人としての使命を自覚させ、医療人としての資質を養う。	
	臨床実習Ⅱ	これまで学修した現代医学や鍼灸医学に関する知識や医療面接で身につけた技法を基本として附属鍼灸治療所において患者の診療を通して実習する。来院した患者に対して問診、診察の実際を行い、病態の把握、鍼灸治療の可否の判断、病態に基づく治療プラン、インフォームドコンセント、鍼灸治療の実際、評価等を教員の指導の下に行う。さらに、医療スタッフの一員として施術者の補助をするなど、診療行為の一部分を担うことで鍼灸師および医療人としての使命を自覚させ、医療人としての資質を養う。	
	臨床実習Ⅲ	これまで実習したⅠ、Ⅱの実習経験を踏まえて、より深く現代医学や鍼灸医学に関する知識や医療面接で身につけた技法を基本として、附属鍼灸治療所において患者の診療を通して実習する。問診から診察、患者へのインフォームドコンセント、そして治療、その評価等の一連の流れを指導教員の元、繰り返し学び、経験することで、効率的で実践的な鍼灸治療術を修得するとともに、患者に寄り添う医療人としてより成長、発展できうる能力を養う。	
	医療面接演習	基本的臨床技能としてOSCE（客観的臨床能力試験）の中で重要な位置にある医療面接の目的、意義、技法を演習する。その主な内容は、医療面接と問診の違い、医療面接に必要な態度と技法、医療面接とコミュニケーション、質問法、患者の解釈モデルの提示、患者への説明と教育、患者の特性に応じた医療面接等について学ぶ。さらに、これらの医療面接の基本的な理論を学んだ後、学生同士が患者役と面接者役となってロールプレーを行うシミュレーション演習を行う。	
	臨床倫理学	本科目は、バイオエシックスについての基本的な考え方について学修する。特に医療倫理の歴史的発展、代表的な倫理綱領、倫理行為、インフォームドコンセント、QOLの考え方等について学修する。また、現代の医療においては、遺伝子技術を駆使した再生医療をはじめ、出生前診断、生殖医療、臓器移植、臨床試験における倫理問題なども取り上げる。鍼灸師として患者対応の際に必要な倫理を学修することで医療人としての心構えを身につける。	
	鍼灸経営学	本科目は、鍼灸施術所を経営するための基本的な事項について学修する。経営学の基礎、医療保険制度、税金の仕組み、広告、施術所の設計、デザイン、マーケティングなどについて学修する。加えて最近のインターネット上における施術所の効果的な提示の仕方、規制法、患者満足度を高める治療院の作り方などについても紹介し、経営に対する意識を喚起する。また、施術所を開設している鍼灸師による経営の実際について聴講し、討論する。	
	運動機能解剖学	運動器の治療に関して求められる効果は、関節可動域の拡大、筋力の効率よい発揮である。色々な意味で可動域の面と筋力を考察することで、付随する疼痛の緩和が得られることを学修する。そして、その方法論として目的とする組織に伸張を加えること、筋肉の収縮と弛緩を、必要なタイミングで、安定したバランスの中で実施することを学修する。解剖学、生理学などの基礎から実際の機能学への応用を学び、鍼灸臨床に活かせるよう学修する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

（リハビリテーション学部鍼灸健康学科等）

専 門 専 攻 科 目 群	鍼灸健康学特講演習Ⅰ（基礎）	現代医学および鍼灸医学の各科目で学修した主要事項を総合的に関連づけられるよう学修する。特に、鍼灸医学系では東洋医学概論、経絡経穴学、鍼灸手技総論などを中心に、主要事項を取り上げ各科にまたがり総合的に演習を行う。特に、専門基礎科目群である現代医学系、鍼灸医学系の主要事項について、それぞれが関連づけられるよう演習を行う。さらに、当領域における国家資格試験の出題傾向を把握し、その内容について重点的に理解する。	
	鍼灸健康学特講演習Ⅱ（臨床）	現代医学および鍼灸医学の各科目で学修した主要事項を総合的に関連づけられるよう学修する。現代医学系では、内科学、整形外科、スポーツ医学、産婦人科学、泌尿器科、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科、鍼灸医学系では現代医学系の科目に準じた内容について、主要事項を取り上げ、総合的に学修する。東洋医学系では概論、診断、治効理論などの項目についても関連づけられるよう演習を行う。さらに、当領域における資格試験の出題傾向を把握し、その内容について重点的に理解する。	
	シニアスポーツ鍼灸学	シニア期の運動器障害を取り上げ、疾患の概要を学び、評価方法、鍼灸治療方法等を学修する。また加齢に伴い低下する身体機能や生活習慣病、メタボリックシンドロームなどに対する予防や健康増進を含めた適切な運動指導、指導する際のリスク管理などを理解し学ぶことで、鍼灸師として健康の維持・増進に寄与できる知識を修得する。また、指導する際の注意点や禁忌なども実例を紹介しながら学び、安全かつ効果的に用いられるよう学修する。	
	健康美容鍼灸学	美容の基礎は心身の健康であり、健康美容鍼灸について学ぶ。美容鍼灸の実際（研究なども含）、美容・アンチエイジングの世界、美容鍼灸臨床の現状、アンチエイジングの世界、美容基礎知識、美容鍼灸を行う上でコラボレーション可能なアロマセラピー、化粧品学、エステティックの一部、マナー・ホスピタリティスキルについて学修を行う。美容・アンチエイジングであった方が良い資格（民間資格；化粧品検定3級（webにて取得可）含む）	
	手技療法演習	東洋医学の伝統医術である、あん摩、マッサージ、指圧等の手技療法の実践について、その歴史、効果や効果機序について学ぶ。また、実際の手技について触診から圧の強弱による身体への影響と自覚症状の変化、筋への刺激による筋緊張の変化などを演習により学び、実際に学生同士で手技療法を行うことで、心地良さ、リラックス感、刺激量による身体への影響の差等も実感してもらう。また、鍼灸臨床との併用や手技療法の適応疾患・禁忌症状を演習する。	
	鍼灸臨床で応用するストレッチ術演習	鍼灸臨床で遭遇する運動器疾患（腰痛や頸腕症候群、膝痛）およびスポーツ傷害などを取り上げ、疾患の原因を理解したうえで適切なストレッチ術を学ぶ。またストレッチのメカニズムや筋肉の走行などを理解したうえで自らの身体や学生同士によるストレッチの実践・指導などを踏まえ基礎的なストレッチ術を修得する。また、指導する際の注意点や禁忌なども実例を紹介しながら学び、安全かつ効果的に用いられるよう演習の中で学修する。	
	新領域の鍼灸	時代の進行とともに出現する様々な科学技術や社会現象に応じた鍼灸医学、鍼灸師の在り方、東洋医学の知恵を考察する。健康問題としては「腸内フローラ」「ウェルビーイング」など、社会問題としては「AI」「感染症蔓延」「自然災害」など、これらと鍼灸医学、東洋医学のあり方を考える。新しい国内外の文献も紹介し、これからの東洋医学、鍼灸治療の新たな可能性や展望、人のよりよく生きる健康に寄与する鍼灸の役割について考え学修する。	
	鍼灸の歴史と偉人	東洋医学（鍼灸・漢方）の歴史における偉人を取り上げ、その功績を学び知る。それぞれの時代における社会背景や文化状況の中で、偉人が東洋医学的思考をどう捉え、養生的精神や鍼灸の治療を実践し、どう行動し功績をあげたかを学ぶ。そして、これからの時代における鍼灸師としてのあり方、現在社会の中で求められる鍼灸師像を考え基本的資質を養い、職業として共有すべき思考の原点を探り、鍼灸の専門性や独自性について学修していく。	

授 業 科 目 の 概 要			
（リハビリテーション学部鍼灸健康学科等）			
専 門 専 攻 科 目 群	災害と鍼灸	近年増加している自然災害における避難所での鍼灸・マッサージ治療の実際を学ぶ。実際には「災害支援鍼灸マッサージ師」と呼ばれる鍼灸師が、個人の意思で避難所や地域の緊急医療支援に派遣され、鍼灸・マッサージの施術のほか、被災者への体操やセルフケアの指導やサロンを開く活動を行っている。その現状と課題について最近の活動事例も紹介しながら、チームの中で活動する意義、被災者の声や反応も伝え、これからの鍼灸師の役割、身につけるべき知識、治療方法や注意点も含めて学修する。	
	医療連携と鍼灸	医療スタッフとの連携に必要な共通言語、共通の評価法、現代医学的な病態把握などを学び、その知識を通じてカルテの記載方法から紹介状の書き方の実際を実践する。医療スタッフに伝える能力、鍼灸の役割の提示、評価法のツールの選択、ゴール設定などを考えることは、チーム医療の中で鍼灸師の立ち位置を考える重要な点である。 本科目の重要点は、多職種の役割を理解し、鍼灸師がその中でどのような役割を提示できるのか、理解を受けられるのを学ぶ。	
	鍼灸と統合医療	種々の補完・代替医療（鍼灸、サプリメント、マッサージ、温泉療法、アロマセラピー、音楽療法など）について、それぞれの目的、適応症、方法、効果などについて学修するとともに、将来現代医学と併用して統合医療を実践する際に必要な事項について学ぶ。特に諸外国における補完・代替医療および統合医療の実践状況と我が国のそれと比較し、我が国における医療のあり方について考えさせる。また、それぞれの項目については、グループに分かれて、テーマを決めて発表し、討論する。	
	卒業研究	学生自身による研究活動によって研究テーマについてレポート（卒業論文）を作成する。この過程を通して、研究テーマに関する文献検索や資料の収集の仕方、実験や調査研究の方法、結果のまとめ、考察について学修するとともにそれらを文章化する能力を養う。研究テーマは、調査研究、文献研究、実験研究、症例研究など鍼灸健康に関連したものとし、担当教員の指導のもとに実施する。特に文献に関しては、できるだけ広範囲に「わたり検索を行うとともに、それぞれの文献に対して批判的にレビューできることも目指す。	

学校法人新潟総合学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
<b>新潟医療福祉大学</b>				→	<b>新潟医療福祉大学</b>				
リハビリテーション学部					リハビリテーション学部				
理学療法学科	120		480		理学療法学科	120		480	
作業療法学科	50		200		作業療法学科	50		200	
言語聴覚学科	40		160		言語聴覚学科	40		160	
義肢装具自立支援学科	40		160		義肢装具自立支援学科	40		160	
医療技術学部					医療技術学部				
臨床技術学科	100		400		臨床技術学科	100		400	
視機能科学科	50		200		視機能科学科	50		200	
救急救命学科	55		220		救急救命学科	55		220	
診療放射線学科	90		360		診療放射線学科	90		360	
健康科学部					健康科学部				
健康栄養学科	40		160		健康栄養学科	40		160	
健康スポーツ学科	250	3年次 5	1010		健康スポーツ学科	250	3年次 5	1010	学科の設置 (届出)
看護学部					看護学部				
看護学科	107	3年次 3	434		看護学科	107	3年次 3	434	
社会福祉学部					社会福祉学部				
社会福祉学科	120	3年次 5	490		社会福祉学科	120	3年次 5	490	
(うち介護福祉コース)	(40)		(160)		(うち介護福祉コース)	(40)		(160)	
医療経営管理学部					医療経営管理学部				
医療情報管理学科	80	3年次 5	330		医療情報管理学科	80	3年次 5	330	
計	1,142	3年次 18	4,604		計	1,182	3年次 18	4,764	
<b>新潟医療福祉大学大学院</b>				→	<b>新潟医療福祉大学大学院</b>				
医療福祉学研究科					医療福祉学研究科				
保健学専攻(M)	21		42		保健学専攻(M)	21		42	
健康科学専攻(M)	10		20		健康科学専攻(M)	10		20	
社会福祉学専攻(M)	5		10		社会福祉学専攻(M)	5		10	
医療情報・経営管理学専攻(M)	4		8		医療情報・経営管理学専攻(M)	4		8	
医療福祉学専攻(D)	10		30		医療福祉学専攻(D)	10		30	
計	50		110		計	50		110	
<b>事業創造大学院大学</b>					<b>事業創造大学院大学</b>				
事業創造研究科	80		160		事業創造研究科	80		160	
計	80		160		計	80		160	
<b>新潟食料農業大学</b>				→	<b>新潟食料農業大学</b>				
食料産業学部					食料産業学部				
食料産業学科	180		720		食料産業学科	180		720	
計	180		720		計	180		720	
<b>新潟食料農業大学大学院</b>				→	<b>新潟食料農業大学大学院</b>				
食料産業学研究科					食料産業学研究科				
食料産業学専攻(M)	6		12		食料産業学専攻(M)	6		12	
計	6		12		計	6		12	

(1) 都道府県内における位置関係の図面



(2) 最寄り駅からの距離や交通機関がわかる図面

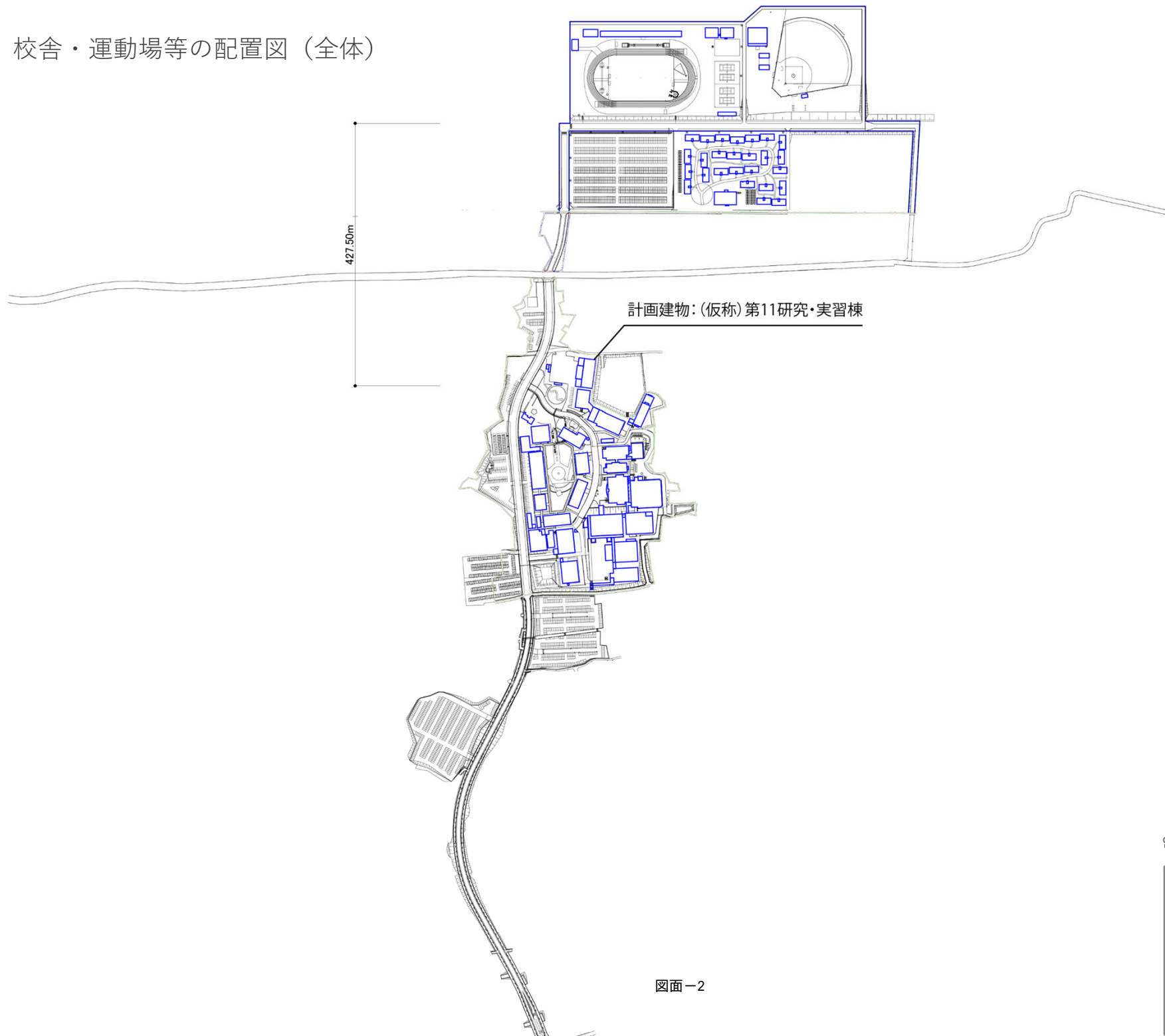


<主な交通手段>

- ・ JR豊栄駅北口よりスクールバス乗車 約20分
- ・ 新潟駅より新潟交通路線バス「新潟医療福祉大学行き」乗車、「新潟医療福祉大学前」下車。または「太郎代浜行き」乗車、「新潟医療福祉大学入口」下車、徒歩2分。



# 校舎・運動場等の配置図（全体）



計画建物：(仮称)第11研究・実習棟

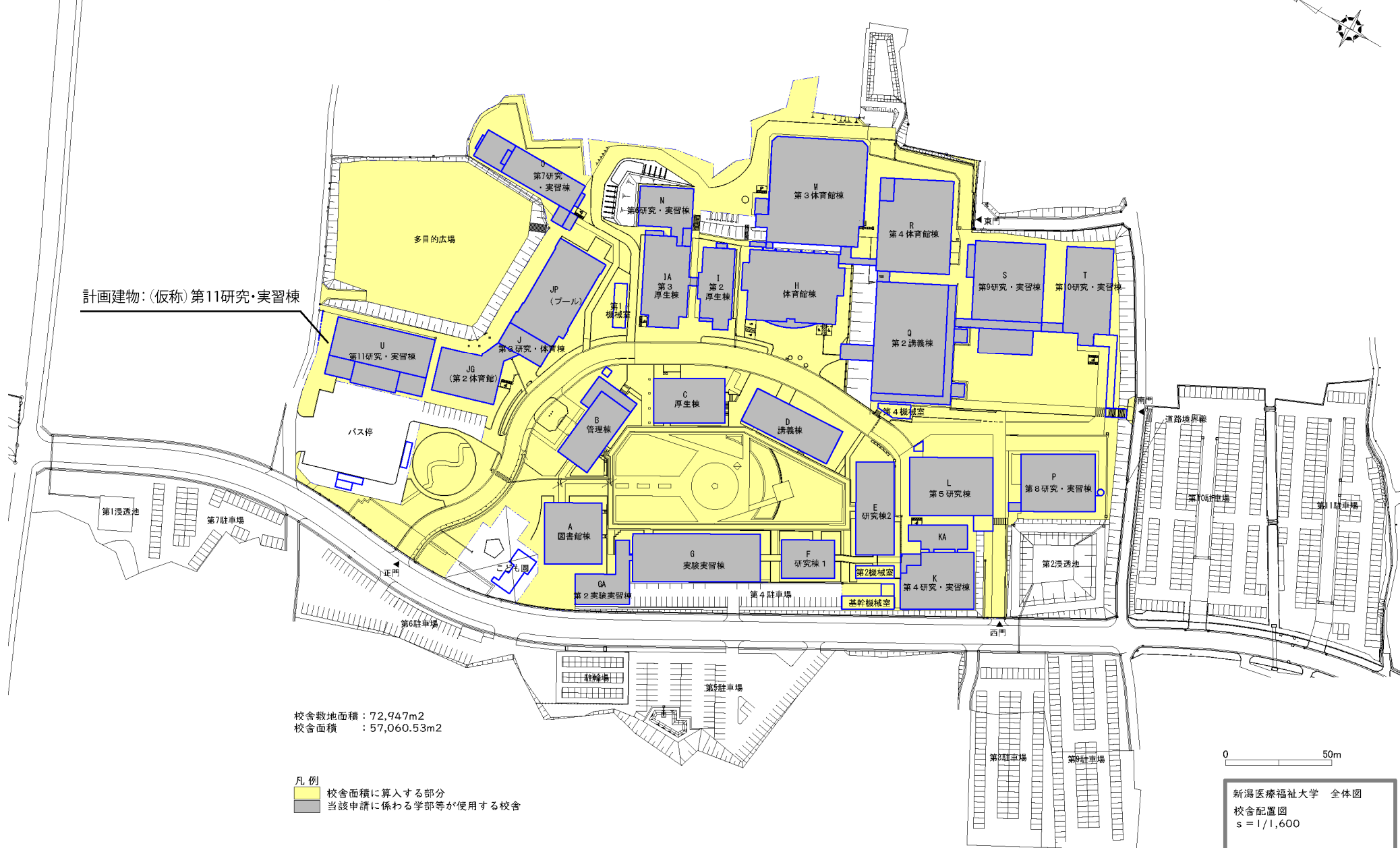
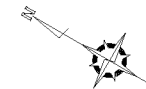
427.50m

0 100m

新潟医療福祉大学 全体図  
全体配置図 現況  
s = 1/6,000  
  
2022.R4.02.10

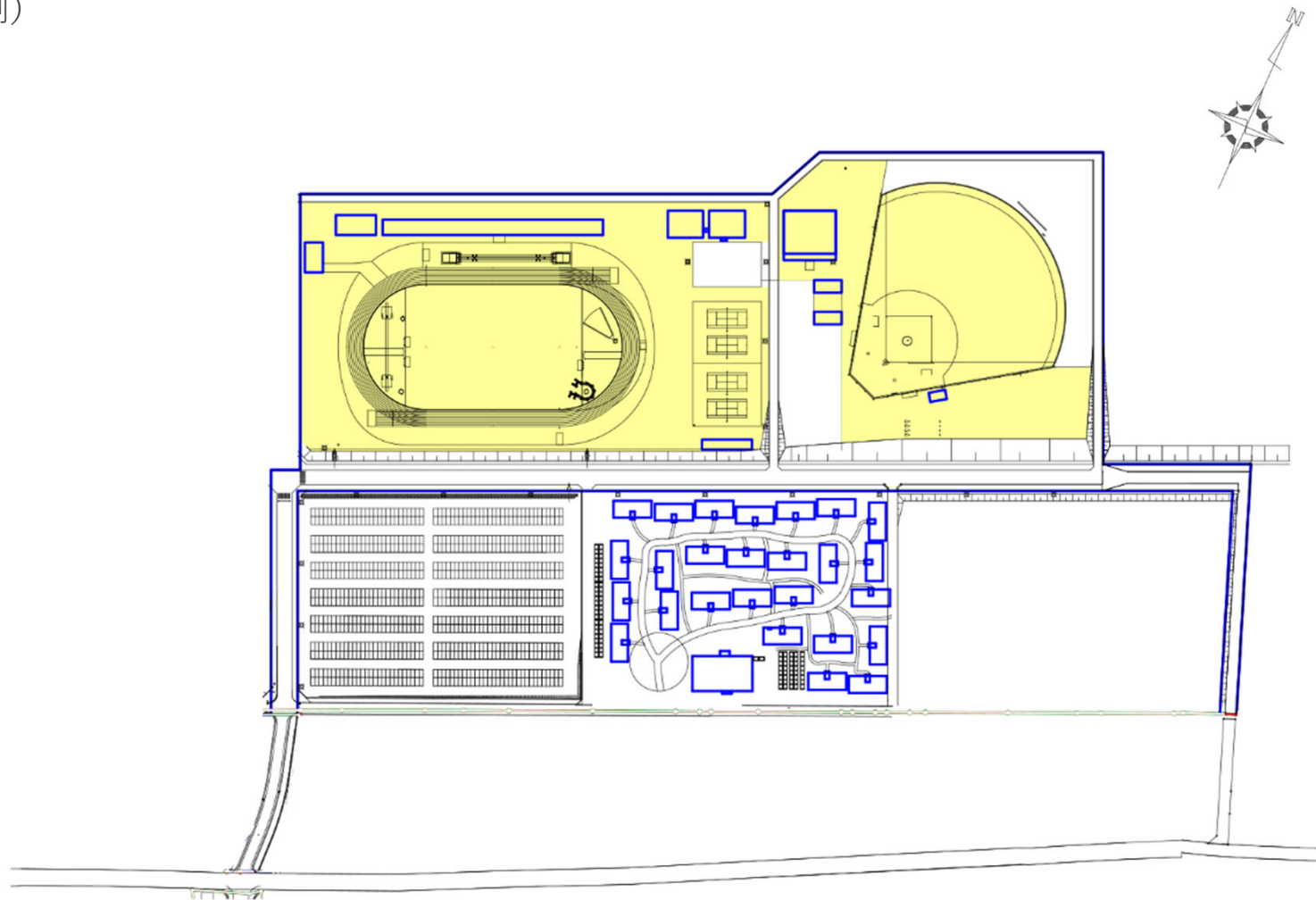
図面一2

# 校舎・運動場等の配置図（南側）

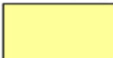


図面-3

校舎・運動場等の配置図（北側）



凡例

 校地面積に算入する部分

運動用地面積：58,612m<sup>2</sup>

# 新潟医療福祉大学学則(案)

## 第1章 総則

### 第1節 目的

(目的)

**第1条** 本学は、教育基本法および学校教育法に基づき、広く保健・医療・福祉に関する専門の学芸を教授研究し、豊かな人間性と高潔な倫理性を涵養し、保健・医療・福祉に関する指導的人材の養成を目指し、もって学術文化の発展に寄与し、人類の福祉の向上に貢献することを目的とする。

(名称)

**第2条** 本学は新潟医療福祉大学と称する。

(所在地)

**第3条** 本学は新潟県新潟市北区島見町1398番地に置く。

(自己点検・評価)

**第4条** 本学は、その教育研究の向上を図り、第1条の目的を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検および評価を行い、その結果を公表する。

2 前項の点検および評価の結果については本学の職員以外の者による検証を行う。

3 前2項の点検および評価並びに検証に関する事項は、別に定める。

(情報の積極的な提供)

**第5条** 本学は、本学の教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載その他広く周知できる方法により、積極的に外部に対して情報を提供する。

### 第2節 組織

(学部)

**第6条** 本学に次の学部を置く。

リハビリテーション学部、医療技術学部、健康科学部、看護学部、社会福祉学部、医療経営管理学部

2 前項の各学部に置く学科およびその収容定員は次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	3年次編入学定員	収容定員
リハビリテーション学部	理学療法学科	120人	—	480人
	作業療法学科	50人	—	200人
	言語聴覚学科	40人	—	160人
	義肢装具自立支援学科	40人	—	160人
	鍼灸健康学科	40人	—	160人
医療技術学部	臨床技術学科	100人	—	400人
	視機能科学科	50人	—	200人
	救急救命学科	55人	—	220人
	診療放射線学科	90人	—	360人
健康科学部	健康栄養学科	40人	—	160人
	健康スポーツ学科	250人	5人	1010人
看護学部	看護学科	107人	3人	434人
社会福祉学部	社会福祉学科	120人	5人	490人
医療経営管理学部	医療情報管理学科	80人	5人	330人

3 学部および学科ごとの人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、別表のとおりとする。

(大学院)

**第6条の2** 本学に大学院を置く。

2 大学院に関する規則は、別に定める。

(研究所等)

**第6条の3** 本学に専門学術研究の振興および学内実習の実施等を目的とし、研究所等を置くことができる。

2 研究所等に関する規程は、別に定める。

### 第3節 職員組織

(職員)

**第7条** 本学に次の教職員を置く。

学長、副学長、研究科長、学部長、図書館長、専攻長、学科長、分野長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、技術職員、その他必要な職員

- 2 本学に名誉教授、客員教授、臨床教授および非常勤講師を置くことができる。
- 3 学長は、本学の校務についての最終決定権を有する。
- 4 副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。
- 5 職員組織に関する事項は、別に定める。

(事務局)

**第8条** 本学に、事務局を置く。

- 2 事務局に関する規程は、別に定める。

### 第4節 総務会および教授会

(総務会)

**第9条** 本学に、総務会を置く。

2 総務会は、全学的な重要事項についての審議機関であり、学長、副学長、研究科長、学部長、学科長、事務局長および法人を代表する職員をもって組織する。ただし、必要があるときは、その他の教職員を加えることができる。

3 総務会は、次に掲げる全学的な重要事項について審議する。

- (1) 教育研究環境の整備に関すること
- (2) 学則その他重要な規程の制定・改廃に関すること
- (3) 教育職員人事に関すること
- (4) 学生の定員に関すること
- (5) 学生の生活、身分に関する重要な事項について
- (6) 理事会が諮問する事項について
- (7) 学長が諮問する事項について
- (8) 教育研究に関する全学的な重要事項について
- (9) 各学部・学科間の調整事項について
- (10) その他大学運営に関する重要な事項について

4 その他必要な事項は、別に定める。

(教授会)

**第10条** 本学に、教授会を置く。

2 教授会は、全学部の専任の教授をもって構成する。ただし、必要があるときは、その他の教職員を加えることができる。

3 教授会は、学長が次に掲げる重要事項について決定を行うに当たり、審議した結果を学長に意見として述べるものとする。

- (1) 学生の入学、卒業に関すること
- (2) 学位の授与に関すること
- (3) 教育・研究の基本方針に関すること
- (4) 教育課程および履修方式に関すること
- (5) 学生の指導、賞罰および除籍に関すること

4 教授会は、第10条第3項に規定するもののほか、学長およびその他の教授会が置かれる組織の長(以下「学長等」という。)がつかさどる教育研究に関する事項について審議する。

5 教授会は、前項で審議した事項について、学長等の求めがあった場合、その結果を学長等に意見として述べることができる。

6 その他必要な事項は、別に定める。

### 第5節 学年、学期および休業日

(学年)

**第11条** 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学 期)

**第 1 2 条** 学年を次の 2 学期に分ける。

前学期 4 月 1 日から 9 月 3 0 日まで

後学期 1 0 月 1 日から翌年 3 月 3 1 日まで

(休業日)

**第 1 3 条** 休業日は次のとおりとする。

(1) 日曜日および土曜日

(2) 国民の祝日に関する法律に定める日

(3) 本学の創立記念日 6 月 1 7 日

(4) 夏季休業 7 月 2 2 日から 9 月 1 日まで

(5) 冬季休業 1 2 月 2 4 日から翌年 1 月 1 3 日まで

(6) 春季休業 3 月 2 5 日から 4 月 7 日まで

2 必要がある場合は、学長は、前項の休業日を変更し、又は臨時の休業日を定めることができる。

3 学長は、特に必要があると認めるときは、休業日においても臨時の授業日を設けることができる。

## 第 2 章 学部通則

### 第 1 節 修業年限および在学年限

(修業年限)

**第 1 4 条** 学部の修業年限は、4 年とする。

(最長在学年限)

**第 1 5 条** 学生は 8 年を超えて在学することができない。ただし、編入学、転入学、および再入学した学生は、その者の在学すべき年数の 2 倍に相当する年数を超えて在学することができない。

### 第 2 節 入 学

(入学の時期)

**第 1 6 条** 入学の時期は、学年の始めとする。ただし、学長が教育上支障がないと認めるときは学年の途中においても、学期の始めとすることができる。

2 転入学および再入学については、学期の始めとすることができる。

(入学資格)

**第 1 7 条** 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

(1) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者

(2) 通常の課程による 1 2 年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む）

(3) 外国において、学校教育における 1 2 年の課程を修了した者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの

(4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

(5) 専修学校の高等課程（修業年限が 3 年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

(6) 文部科学大臣の指定した者

(7) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む）

(8) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、1 8 歳に達したもの

(入学の出願)

**第 1 8 条** 本学への入学を志願する者は、入学願書に所定の検定料および別に定める書類を添えて願い出なければならない。

(入学者の選考)

**第 1 9 条** 入学者の選考は学力試験、その他の方法によりこれを行う。

(入学手続きおよび入学許可)

**第20条** 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに、誓約書、身元保証書その他所定の書類を提出するとともに、所定の入学金を納付しなければならない。

2 学長は、前項の入学手続きを完了した者に入学を許可する。

(3年次編入学)

**第20条の2** 第6条第2項に定める本学の3年次に編入学することができる者は、次の各号の一に該当する者とする。

(1) 大学を卒業した者

(2) 大学において、2年以上在学し、62単位以上の授業科目を修得した者

(3) 学校教育法(昭和22年法律第26号)第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者

(4) 短期大学、高等専門学校、国立工業教員養成所または国立養護教諭養成所を卒業した者

(5) 専修学校の専門課程(修業年限が2年以上で、かつ、課程の修了に必要な総授業時間数が1,700時間以上であるものに限る)を修了した者

2 前項の規定による入学を志願する者に対する選考その他に関する事項については、別に定める。

(編入学・転入学・再入学)

**第21条** 前条に定めるもののほか、次の各号の一に該当する者で、本学への入学を志願する者があるときは、欠員がある場合に限り、選考のうえ、教授会の議を経て学長は相当年次への入学を許可することができる。

(1) 大学を卒業した者又は退学した者

(2) 短期大学、高等専門学校、国立工業教員養成所または国立養護教諭養成所を卒業した者

(3) 専修学校の専門課程(修業年限が2年以上であることその他文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る)を修了した者

(4) 学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)附則第7条に定める従前の規定による高等学校、専門学校又は教員養成諸学校等の課程を修了し、又は卒業した者

2 前項の規定により入学を許可された者の既に履修した授業科目および単位数の取扱い、並びに在学すべき年数については、教授会の議を経て学長が決定する。

**第21条の2** 社会福祉学部社会福祉学科に係る社会福祉士及び介護福祉士法、および同法施行規則に定める介護福祉士養成課程については、第20条の2および第21条の規定は適用しない。

### 第3節 教育課程および履修方法等

(授業科目)

**第22条** 本学の授業科目の区分は、基礎教養科目群、教養科目群、保健医療福祉基礎科目群、専門基礎科目群、専門専攻科目群とする。

(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

**第23条** 本学は、授業の内容および方法の改善を図るための研修および研究を行う。

2 前項の研修および研究は学長が主管し、適切な組織をもって行う。

3 研修および研究に関する詳細は、別に定める。

(単位計算方法・メディアを利用した授業)

**第24条** 授業科目の単位計算方法は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することとし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準によるものとする。

(1) 講義については、15時間をもって1単位とする。

(2) 演習については、30時間をもって1単位とする。

(3) 実験・実習および実技については、45時間をもって1単位とする。

(4) 教育上必要があるときは、講義については30時間の講義、演習については15時間の演習、実習については30時間の実習をもって1単位とすることができる。

(5) 卒業論文、卒業研究等の科目は単位を授与することが適切と認められる場合には、単位数を定めることができる。

2 前項の授業は、文部科学大臣が定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

(単位の授与)

**第25条** 授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を与える。

2 試験に関する規程は、別に定める。

(履修科目の登録の上限)

**第26条** 卒業の要件として履修する科目について、学生が1年間に登録することができる単位数の上限は学科ごとに定め、教授会の議を経て学長が決定する。

2 前項の上限を定める際は、学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修することができるよう配慮するものとする。

(他大学等における授業科目の履修等)

**第27条** 教育上有益と認めるときは、他の大学又は短期大学との協議に基づき、学生に当該他大学又は短期大学の授業科目を履修させることができる。

2 前項の規定により履修した授業科目について修得した単位については、教授会の議を経て学長は60単位を限度として卒業要件単位として認めることができる。

(大学等以外の教育施設における学修)

**第28条** 教育上有益と認めるときは、高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

2 前項により与えることができる単位数は、前条により本学において修得したものとみなす単位数と合わせ60単位を超えないものとする。

(第1年次入学者の入学前の既修得単位等の認定)

**第29条** 教育上有益と認めるときは、学生が入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位(科目等履修により習得した単位を含む)を、教授会の議を経て学長は本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第1項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、教授会の議を経て学長は単位を与えることができる。

3 前2項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、本学において修得した単位以外のものについては、合わせて60単位を超えないものとする。

(本学以外での履修の許可)

**第30条** 本学学生にして、第27条および第28条に定める本学以外の教育施設での授業科目の履修を希望する者は、教授会の議を経て学長の許可を得なければならない。

(本学以外で履修した科目および単位の取り扱い)

**第31条** 本学以外で修得した科目および単位の取り扱いに関する詳細は、別に定める。

(成績)

**第32条** 授業科目の試験の成績は、A+・A・B・C・Dの5種の評語をもって表し、C以上を合格とする。

(その他)

**第33条** この節に定めるもののほか、授業科目の種類・単位数および履修方法等の詳細については、別に定める。

#### 第4節 休学・転学・留学および退学

(休学)

**第34条** 疾病その他特別の理由により2ヵ月以上修学することができない者は、学長の許可を得て休学することができる。

2 疾病のため修学することが適当でないと認められる者については、学長は休学を命ずることができる。

(休学期間)

**第35条** 休学期間は、1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、学長の許可を得て1年を限度として休学期間を延長することができる。

2 休学期間は、通算して3年を超えることができない。

3 休学期間は、第14条の在学期間に算入しない。

4 休学期間中にその理由が消滅した場合は、学長の許可を得て復学することができる。

(転学)



**第36条** 他の大学への入学又は転入学を志願しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

(転部)

**第37条** 本学に学籍を有する者で、本学の他学部に転部を志望する者があるときは、選考のうえ、教授会の議を経て学長が許可することがある。

2 その他必要な事項は、別に定める。

(転科)

**第38条** 本学に学籍を有する者で、所属学部内の他学科へ転科を志望する者があるときは、選考のうえ、教授会の議を経て学長が許可することがある。

2 その他必要な事項は、別に定める。

(留学)

**第39条** 外国の大学又は短期大学で学修することを志願する者は、学長の許可を得て留学することができる。

2 前項の許可を得て留学した期間は、第14条に定める在学期間に含めることができる。

3 第27条に定める他大学における授業科目の履修等の規定は、外国の大学又は短期大学へ留学する場合に準用する。

(退学)

**第40条** 退学しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

(除籍)

**第41条** 次の各号の一に該当する者は、教授会の議を経て学長が除籍する。

(1) 授業料の納付を怠り、督促してもなお納付しない者

(2) 第15条に定める在学年限を超えた者

(3) 第35条第2項に定める休学期間を超えてなお修学できない者

(4) 死亡又は長期間にわたり行方不明の者

## 第5節 卒業および学位

(卒業)

**第42条** 本学に在学すべき年数以上在学し以下に定める所定の単位数を修得した者については、教授会の議を経て学長が卒業を認定する。

リハビリテーション学部

理学療法学科

基礎教養科目群 7単位以上

保健医療福祉教養科目群および保健医療福祉連携科目群 7単位以上

専門基礎科目群 42単位以上 専門専攻科目群 72単位以上

合計 128単位以上

作業療法学科

基礎教養科目群 7単位以上

保健医療福祉教養科目群および保健医療福祉連携科目群 7単位以上

専門基礎科目群 38単位以上 専門専攻科目群 77単位以上

合計 129単位以上

言語聴覚学科

基礎教養科目群 7単位以上

保健医療福祉教養科目群および保健医療福祉連携科目群 7単位以上

専門基礎科目群 46単位以上 専門専攻科目群 64単位以上

合計 124単位以上

義肢装具自立支援学科

基礎教養科目群 7単位以上

保健医療福祉教養科目群および保健医療福祉連携科目群 7単位以上

専門基礎科目群 42単位以上 専門専攻科目群 73単位以上

合計 129単位以上

鍼灸健康学科

基礎教養科目群 6単位以上

保健医療福祉教養科目群および保健医療福祉連携科目群 8単位以上

専門基礎科目群 44単位以上

専門専攻科目群 66単位以上

合計 124単位以上

医療技術学部

臨床技術学科

基礎教養科目群 6単位以上

視機能科学科	保健医療福祉教養科目群および保健医療福祉連携科目群 8 単位以上 専門基礎科目群 3 8 単位以上 専門専攻科目群 7 7 単位以上 合計 1 2 9 単位以上 基礎教養科目群 6 単位以上 保健医療福祉教養科目群および保健医療福祉連携科目群 8 単位以上 専門基礎科目群 3 5 単位以上 専門専攻科目群 7 5 単位以上 合計 1 2 4 単位以上
救急救命学科	基礎教養科目群 6 単位以上 保健医療福祉教養科目群および保健医療福祉連携科目群 8 単位以上 専門基礎科目群 4 3 単位以上 専門専攻科目群 6 9 単位以上 合計 1 2 6 単位以上
診療放射線学科	基礎教養科目群 6 単位以上 保健医療福祉教養科目群および保健医療福祉連携科目群 8 単位以上 専門基礎科目群 3 7 単位以上 専門専攻科目群 7 7 単位以上 合計 1 2 8 単位以上
健康科学部	
健康栄養学科	基礎教養科目群 6 単位以上 保健医療福祉教養科目群および保健医療福祉連携科目群 8 単位以上 専門基礎科目群 4 7 単位以上 専門専攻科目群 6 3 単位以上 合計 1 2 4 単位以上
健康スポーツ学科	基礎教養科目群 7 単位以上 保健医療福祉教養科目群および保健医療福祉連携科目群 7 単位以上 専門基礎科目群 2 5 単位以上 専門専攻科目群および教職科目 8 6 単位以上 合計 1 2 5 単位以上
看護学部	
看護学科	基礎教養科目群 6 単位 保健医療福祉教養科目群および保健医療福祉連携科目群 8 単位 専門基礎科目群 2 7 単位 専門専攻科目群 7 6 単位 上記の条件に加え、全ての科目群の選択科目から 7 単位以上（上記保健医療福祉教養科目群および保健医療福祉連携科目群の卒業要件として履修した選択科目を除く。） 合計 1 2 4 単位以上
社会福祉学部	
社会福祉学科	基礎教養科目群 6 単位以上 保健医療福祉教養科目群および保健医療福祉連携科目群 8 単位以上 専門基礎科目群 6 0 単位以上 専門専攻科目群 5 1 単位以上 合計 1 2 5 単位以上
医療経営管理学部	
医療情報管理学科	基礎教養科目群 7 単位以上 保健医療福祉教養科目群および保健医療福祉連携科目群 7 単位以上 専門基礎科目群 6 5 単位以上 専門専攻科目群 4 5 単位以上 合計 1 2 4 単位以上

2 学長は、卒業を認定した者に対して、卒業証書を授与する。

(学 位)

**第 4 3 条** 卒業した者は、次の区分に従い、学士の学位を授与する。

リハビリテーション学部	学士（理学療法学）、学士（作業療法学）、学士（言語聴覚学）、 学士（義肢装具自立支援学）、学士（鍼灸健康学）
医療技術学部	学士（臨床技術学）、学士（視機能科学）、学士（救急救命学） 学士（診療放射線学）
健康科学部	学士（健康栄養学）、学士（健康スポーツ学）
看護学部	学士（看護学）

社会福祉学部                    学士（社会福祉学）  
医療経営管理学部            学士（医療情報学）  
（資格の取得）

**第44条** 本学において取得することができる国家試験受験資格および免許の種類は、別表のとおりとする。

## 第6節 賞 罰

（表 彰）

**第45条** 学生として表彰に値する行為があった者は、教授会の議を経て学長が表彰することができる。

（懲 戒）

**第46条** 本学の規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした者は、教授会の議を経て学長が懲戒する。

2 前項の懲戒の種類は、退学、停学および訓告とする。

3 前項の退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。

（1） 性行不良で改善の見込みがない者

（2） 正当な理由がなくて出席が常でない者

（3） 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

## 第7節 厚生施設

（厚生施設）

**第47条** 本学に厚生施設を置く。

2 前項の厚生施設の運営等に関する規則は、別に定める。

## 第8節 研究生、科目等履修生、特別聴講学生および外国人留学生

（研究生）

**第48条** 本学において、特定の専門事項について研究することを志願する者があるときは、各学部の教育研究に支障のない場合に限り、選考のうえ、教授会の議を経て学長が研究生として入学を許可することができる。

2 研究生を志願することのできる者は、大学を卒業した者又はこれと同等以上の学力があると認められた者とする。

3 研究期間は、1年とする。ただし、特別の理由がある場合は、その期間を更新することができる。

（科目等履修生）

**第49条** 本学の学生以外の者で、本学の一又は複数の授業科目の履修を志願する者があるときは、各学部の教育に支障のない場合に限り、選考のうえ、教授会の議を経て学長が科目等履修生として入学を許可することができる。

（特別聴講学生）

**第50条** 他の大学の学生で、本学において授業科目を履修することを志願する者があるときは、当該他大学との協議に基づき、教授会の議を経て学長が特別聴講学生として入学を許可することができる。

（外国人留学生）

**第51条** 外国人で、大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者があるときは、選考のうえ、教授会の議を経て学長が外国人留学生として入学を許可することができる。

2 前項の外国人留学生に対しては、第21条に掲げるもののほか、日本語科目および日本事情に関する科目を置くことができる。

（規 定）

**第52条** 研究生、科目等履修生、特別聴講学生および外国人留学生に関する規則は、別に定める。

## 第9節 検定料、入学金、授業料他

（検定料、入学金、授業料他）

**第53条** 検定料、入学金、および授業料の額は、別表のとおりとする。

2 次年度以降在学中はスライド制の適用により改訂することができる。スライド制を適用するときの変動率は原則として次のものを基準とする。

授業料については、人事院による「国家公務員の給与に関する勧告」によって示された国家公務員給与の対前年度アップ率に同じく定期昇給のアップ率分を加算したものによる。

施設設備金については消費者物価指数（総務省統計局全国総合）の対前年度アップ率による。  
（授業料の納付）

**第54条** 授業料は、年額の2分の1ずつを次の2期に分けて納付しなければならない。

区 分	納 期
前期（4月から9月まで）	4月末日まで
後期（10月から翌年3月まで）	10月末日まで

（復学等の場合の授業料）

**第55条** 前期又は後期中途において、復学又は入学した者は、復学又は入学した月から当該期末までの授業料を復学又は入学した月に納付しなければならない。

（学年の途中で卒業する場合の授業料）

**第56条** 学年の途中で卒業する見込みの者は卒業する見込みの月までの授業料を納付するものとする。

（退学および停学の場合の授業料）

**第57条** 前期又は後期中途で退学し又は除籍された者の該当期分の授業料は徴収する。

2 停学期間中の授業料は徴収する。

（休学の場合の授業料）

**第58条** 休学を許可され又は命ぜられた者については、休学した月の翌月（休学する日が月の初日からのときは、その月）から復学した月の前月までの授業料の3分の2を免除する。

（授業料の免除および徴収の猶予）

**第59条** 経済的理由によって納付が困難であり、かつ、学業優秀と認める場合又はその他やむを得ない事情があると認められる場合は、授業料の全部もしくは一部を免除し、又は徴収を猶予することがある。

2 授業料の免除および徴収の猶予に関し必要な事項は、別に定める。

（研究生および科目履修生等の授業料等）

**第60条** 研究生、科目等履修生および特別聴講学生の検定料および授業料については、別に定める。

（納付した授業料等）

**第61条** 納付した検定料、入学金および授業料は返還しない。

## 第10節 奨学制度

（奨学制度）

**第62条** 奨学のため、諸種制度を設けることができる。

2 制度に関する詳細は、総務会の議を経て理事会が定める。

## 第11節 公開講座

（公開講座）

**第63条** 社会人の教養を高め、文化の向上に資するため、本学に公開講座を開設することができる。

## 第12節 施設利用

（施設利用）

**第64条** 本学の施設は、本学の学生および教職員が使用できる。ただし、一般市民に開放することもできる。

2 施設の使用、利用および管理に関する規程は、別に定める。

## 第3章 改正および細則

（改正）

**第65条** 本学則の改正は、総務会の議を経て学長が決定する。ただし、理事会に留保されている事項の改正は、総務会の議を経て理事会が決定する。

2 改正後の学則および規程等は、法令が定めるところにより個別の同意の如何にかかわらず効力を生じる。

3 本学則の改正は、総務会の議を経て学長が決定する。ただし、理事会に留保されている事項の改正は、総務会の議を経て理事会が決定する。

(学部細則その他)

**第66条** 各学部規程ほか、本学則施行についての細則その他必要な事項は、別に定める。

附 則

1. この学則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

1. この学則は、平成17年4月1日から施行する。ただし、第32条、第42条、別表（第33条関係）および別表（第44条関係）については平成17年度以降の入学者に適用し、平成16年度以前の入学者については従前どおりとする。

附 則

1. この学則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

1. この学則は、平成19年4月1日から施行する。ただし、第6条第2項、第42条、第43条、別表（第33条関係）、別表（第44条）および別表（第53条）については平成19年度以降の入学者に適用し、平成18年度以前の入学者については従前どおりとする。

附 則

1. この学則は、平成21年4月1日から施行する。
2. 平成20年度以前に入学した者（以下「旧学則適用学生」という。）の教育課程および履修方法等並びに卒業の要件は、この学則による改正後の学則の規定にかかわらず、なお従前の例による。
3. 前項の場合において、旧学則適用学生が履修しようとする授業科目が当該年度に開講されないときは、当該学生は、別に定めるところにより、改正後の学則に規定する授業科目を履修できるものとし、修得した単位は、改正前の学則に定める授業科目の単位とみなす。

附 則

1. この学則は、平成22年4月1日から施行する。
2. 平成21年度以前に入学した者（健康科学部に限る）の教育課程および履修方法等は、この学則による改正後の学則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

1. この学則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

1. この学則は、平成24年4月1日から施行する。
2. 平成23年度以前に入学した者（健康科学部看護学科, 社会福祉学部社会福祉学科に限る）の教育課程および履修方法は、この学則による改正後の学則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

1. この学則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

1. この学則は、平成26年4月1日から施行する。
2. 平成25年度以前に入学した者の教育課程および履修方法等は、この学則による改正後の学則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

1. この学則は、平成26年7月1日から施行する。

附 則

1. この学則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

1. この学則は、平成28年4月1日から施行する。
2. 平成27年度以前に入学した者(医療技術学部理学療法学科に限る)の教育課程および履修方法は、この学則による改正後の学則の規定にかかわらず、なお従前の例による。
3. 平成26年度以降に入学した者(医療技術学部臨床技術学科に限る)の教育課程および履修方法は、この学則の改正後の学則の規定に従う。

附 則

1. この学則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

1. この学則は、平成30年4月1日から施行する。
2. 平成29年度以前に入学した者の教育課程および履修方法等は、この学則による改正後の学則の規定にかかわらず、なお従前の例による。
3. 健康科学部看護学科の3年次編入学定員は、この学則による改正後の学則の規定にかかわらず、平成31年度まで継続し実施する。

附 則

1. この学則は、平成31年4月1日から施行する。
2. 平成30年度以前に入学した者の教育課程および履修方法等は、この学則による改正後の学則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

1. この学則は、令和元年8月1日から施行する。

附 則

1. この学則は、令和2年4月1日から施行する。
2. 平成31年度以前に入学した者の教育課程および履修方法等は、この学則による改正後の学則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

1. この学則は、令和3年4月1日から施行する。
2. 令和2年度以前に入学した者(社会福祉学部社会福祉学科に限る)の教育課程および履修方法は、この学則による改正後の学則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

1. この学則は、令和4年4月1日から施行する。
2. 令和3年度以前に入学した者の教育課程および履修方法は、この学則による改正後の学則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

1. この学則は、令和4年4月1日から施行する。
2. 令和3年度以前に入学した者の教育課程(基礎教養科目群、保健医療福祉連携科目群に限る)はこの改正後の学則に従う。
3. 令和3年度以前に入学した者の履修方法等並びに卒業の要件は、この学則による改正後の学則の規程にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

1. この学則は、令和5年4月1日から施行する。

別表（第6条関係）

学部および学科ごとの人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

学部・学科	教育研究上の目的
リハビリテーション学部	リハビリテーション学部は、幅広い教養科目とリハビリテーションに関連する専門基礎科目や専門専攻科目を通して、リハビリテーションの基盤を形成する理学療法学、作業療法学、言語聴覚療法学および義肢装具自立支援学に関する知識・技能や、科学的思考力、医療従事者としての倫理観と責任感、および人間性を涵養する。さらに、様々な問題点を発見し、論理的に解決する力を養うとともに、変化する社会のニーズや科学の進歩に関心をもち続け、生涯を通じて探求心を礎に自らを高めることができる精神を醸成する。これにより、保健・医療・福祉を主とした多職種間で調和のとれたコミュニケーションを図ることができる「優れたQOLサポーター」を育成する。
理学療法学科	理学療法学科は、時代が求める「優れたQOLサポーター」の一翼を担う理学療法士を育成し、社会に貢献することを使命としている。医療、福祉、健康・スポーツなどの領域で高い倫理観、向上心、探求心をもって臨床・研究活動に貢献し、それぞれの領域にて中心的・指導的な役割を果たし、対象者の問題解決に寄与できる人材の育成を図る。さらに、学内外の実習や国際交流等様々な活動を通してこれらの態度、意欲を涵養し、実践的行動力を醸成する。
作業療法学科	作業療法学科は、作業療法士に必要な幅広い教養と専門的知識・技能を有し、作業の意味や価値を人間の生活、心身機能、文化・社会と結びつけて総合的に解釈することにより作業が健康に及ぼす影響を論理的に考察できる能力を育成する。また、医療専門職として人間の尊厳を尊重できる豊かな人間性をもって対象者と良好な関係性を構築し、多職種との連携を深めることができる素養を育む。さらに、生涯を通じて科学や社会の発展に関心をもち続け、作業療法を主体的に探求しようとする使命感や責任感を涵養する。
言語聴覚学科	言語聴覚学科は、言語聴覚障害ならびに摂食嚥下障害のある人を取りまく諸問題を解決するために必要な幅広い教養と専門知識・技能を有する言語聴覚士を育成する。科学的な評価と分析的観察から得られた情報を総合的に解釈し、他の職種との連携を通して適切に判断し行動できる能力を涵養する。また、言語聴覚障害学とその関連領域の進歩に関心をもち自己研鑽を続ける意欲を有し、社会に貢献できる「優れたQOLサポーター」としての人材を養成する。
義肢装具自立支援学科	義肢装具自立支援学科は、義肢装具士に必要な幅広い教養と専門的知識・技能を習得し、義肢装具と福祉用具・機器の役割や必要性を対象者の心身の状態、生活と社会の環境に基づいて解釈し、対象者のQOLに及ぼす影響を論理的に考察でき、具体的に説明できる能力と基本的な製作・調整・適合ができる技術を育成する。さらに、義肢装具と福祉用具・機器の発展に関心をもち続け、探究心と自己研鑽によって社会貢献し続ける使命感と責任感を涵養する。
鍼灸健康学科	鍼灸健康学科は、現代医学の知識を修得し、実習を通じて鍼灸の技術を身に付け、病院、福祉、スポーツ、美容などの医療と健康分野で他の従事者と調和を持って活躍できる優れた鍼師・灸師を育成する。また、鍼灸治療の適否を的確に判断し、適切な対応をとるとともに治療効果を適切な指標を用いて評価し、客観的なデータで記録できる高い倫理観と豊かな感性を有した臨床的、実証的、理論的、体系的思考力を修得した鍼灸医学の科学的解明に貢献できる人材を育成する。さらに、疾患の治療や症状の緩和を目指すだけでなく、疾患・障害の予防やアンチエイジングなど人々が健康に生活できる心身の健全な状態を維持、獲得するための鍼灸の知恵と技術を生かせる人材を育成する。
医療技術学部	医療技術学部は、多くの学問領域から構成されている特徴を生かした連携教育や工夫されたカリキュラムなどを通して、科学的思考力とともに専門的な知識・技術、幅広い教養を育み、高い倫理観や豊かな人間性を養うとともに、変化する社会のニーズや科学の進歩に関心をもち続け、生涯を通じて探求心を礎に自らを高めることができるよう支援する。これにより、保健・医療・福祉を主とした多職種間で調和のとれたコミュニケーションを図ることができる「優れたQOLサポーター」を育成する。
臨床技術学科	臨床技術学科は、臨床工学技士と臨床検査技師の二つの国家資格を有し、これまでより踏み込んだ形で幅広い医療業務に携わり、時代とともに進歩する先端医療にも対応しうる臨床技術者を育成する。この実現には、保健・医療・福祉に強い関心を持続させ、修得した確かな知識・技能をもとに論理的な思考や記述ができ、コミュニケーションを重視して、同僚および他の専門職との連携医療を担える能力を育成する。
視機能科学科	視機能科学科は、視能訓練士に必要なとされる視覚機能に関する高度な専門知識・技術を習得し、視覚機能に関し論理的に思考し、科学的根拠に基づいた確かな判断ができる能力を育む。生涯を通じて専門分野の動向、社会情勢に関心をもち続け、医療の進歩に貢献できるよう自己を高める意欲を培う。さらに、深い学識および豊かな人間性を育み、関連職種との円滑な連携が構築できる人材の育成を図る。

救急救命学科	救急救命学科は、病院前救急救命医療に係る専門的知識・技能を基盤とした科学的考察に基づく総合的な問題解決能力を有する救急救命士を育成する。救急救命士として、健全な人間性と倫理観、強い使命感と奉仕の精神をもち、他の専門職と協働して病院前救急救命医療および災害・防災の分野で地域社会における住民の保健に貢献できる人材を養成する。
診療放射線学科	診療放射線学科は、診療放射線技師に必要な高度な専門知識と技術を習得し、常に進歩する診療放射線技術や医療技術に対応しうる能力を育成する。また、チーム医療の一翼を担う医療専門職として、健全な人間性と倫理観、常に専門性を追求する意欲をもち、他の専門職と協働して地域医療や救急医療に貢献する能力を涵養する。さらに、医療サービス対象者と良好な関係を構築するためのコミュニケーション力、論理的思考力、判断力を身に付け、科学的考察に基づく総合的な問題解決能力を有する人材を養成する。
健康科学部	健康科学部は、幅広い教養と豊かな人間性を育み、専門分野の深い理解をもとに健康課題についての的確な判断力と問題解決能力を醸成する。また、高い技能とコミュニケーション能力とともに、専門的職業人としての使命感と責任感を培い、社会や科学の発展に関心をもち、生涯を通じて探求心を礎に主体的に学習する人材を育成する。これらにより、人の健康づくりを担う「優れたQOLサポーター」の育成を目指す。
健康栄養学科	健康栄養学科は、健康の保持・増進、疾病の治療・重症化予防、虚弱・介護予防等の対象者に、医療行為である栄養の指導（生体機能に影響を及ぼす食事の内容・タイミング・回数、栄養補給法等を調節し、対象者の栄養代謝や身体機能を制御する）を科学的根拠に基づいて実施できる高度な能力と思いやりの心を有する管理栄養士・栄養士を育成する。さらに、研究心および職業倫理を涵養し、公衆衛生の向上に寄与できる人材の育成を目指す。
健康スポーツ学科	健康スポーツ学科は、スポーツ・運動を通して幅広い教養と専門的知識・技能を習得し、健康やスポーツの意義や価値を人間の生活、心身機能、文化・社会と結びつけて理解し、スポーツ科学や健康科学を論理的に思考でき、かつ基本的なスポーツや健康づくりを指導できる実践的能力を育成する。さらに、生涯を通じて科学や社会の発展に関心をもち続け、スポーツ・運動を通して健康に主体的に関わり探求しようとする使命感や責任感を涵養する。
看護学部	看護学部は、人の多様な価値観を尊重し、人権擁護に基づく行動がとれる倫理的能力や看護者として必要な幅広い教養と豊かな人間性を培い、専門的知識と方法論を用いて課題を解決していくための判断力と問題解決能力を育成する。さらに、保健医療福祉における看護の役割を果たし、連携医療を担える能力を育成するとともに、看護の動向や社会の変化に関心をもち続け、地域・国際社会におけるヒューマンケアリングに基づいた看護を探求しようとする使命感と責任感を涵養する。
看護学科	
社会福祉学部	社会福祉学部は、福祉社会の構築に必要な専門的な知識と人間を理解するための幅広い教養、専門的な知識に根ざした思考力と判断力を養成する。また、福祉社会の構成要素の動向に関心をもち、福祉増進のための課題をとらえる意欲と、人間の多様な生き方や個性、自己表現の方法を多角的に理解し、人権と人格を尊重する態度を涵養する。さらに、社会福祉専門職としての問題解決能力と、対象となる個人や集団と良好な関係を築き、同僚や関連職種・機関と連携できる能力を育成する。
社会福祉学科	
医療経営管理学部	医療経営管理学部は、医療・経営・情報に関する専門的知識を有し、医療情報管理分野の専門的知識に根ざした思考力・判断力を涵養する。また、社会の変化、医療情報技術の進歩に関心をもち続け生涯を通じて主体的に学び続ける姿勢を養成する。さらに、社会人の一員として、専門的職業人として、礼節・使命感・責任感をもち対象者・同僚・関連職種と良好なコミュニケーションがとれる能力と問題解決能力を有する「優れたQOLサポーター」を育成する。
医療情報管理学科	



別表（第44条関係）

取得することができる国家試験受験資格および免許・資格の種類

学部	学科	免許・資格
リハビリテーション学部	理学療法学科	理学療法士国家試験受験資格
	作業療法学科	作業療法士国家試験受験資格
	言語聴覚学科	言語聴覚士国家試験受験資格
	義肢装具自立支援学科	義肢装具士国家試験受験資格
	鍼灸健康学科	はり師国家試験受験資格 きゅう師国家試験受験資格
医療技術学部	臨床技術学科	臨床工学技士国家試験受験資格 臨床検査技師国家試験受験資格
	視機能科学科	視能訓練士国家試験受験資格
	救急救命学科	救急救命士国家試験受験資格
	診療放射線学科	診療放射線技師国家試験受験資格
健康科学部	健康栄養学科	栄養士免許 管理栄養士国家試験受験資格 栄養教諭一種免許
	健康スポーツ学科	中学校教諭一種免許（保健体育） 高等学校教諭一種免許（保健体育）
看護学部	看護学科	看護師国家試験受験資格 保健師国家試験受験資格 助産師国家試験受験資格 養護教諭一種免許
社会福祉学部	社会福祉学科	社会福祉士国家試験受験資格 精神保健福祉士国家試験受験資格 介護福祉士国家試験受験資格

- 1 理学療法士国家試験受験資格、作業療法士国家試験受験資格を得ようとする者は、理学療法士および作業療法士法並びに同法施行令および理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則に定める単位を修得しなければならない。
- 2 言語聴覚士国家試験受験資格を得ようとする者は、言語聴覚士法および言語聴覚士学校養成所指定規則に定める単位を修得しなければならない。
- 3 栄養士の免許証を得ようとする者は、栄養士法並びに同法施行令および同法施行規則に定める単位を修得しなければならない。
- 4 管理栄養士国家試験受験資格を得ようとする者は、栄養士法並びに同法施行令および管理栄養士学校指定規則に定める単位を修得しなければならない。
- 5 社会福祉士国家試験受験資格を得ようとする者は、社会福祉士および介護福祉士法並びに同法施行令および文部科学大臣・厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目および単位を修得しなければならない。
- 6 精神保健福祉士国家試験受験資格を得ようとする者は、精神保健福祉士法並びに同法施行規則および厚生労働大臣の指定する精神障害者の保健および福祉に関する科目および単位を修得しなければならない。

- 7 栄養教諭一種免許、養護教諭一種免許、中学校教諭一種免許および高等学校教諭一種免許を得ようとする者は、教育職員免許法および同法施行規則に定める所要の単位を修得しなければならない。
- 8 看護師国家試験受験資格、保健師国家試験受験資格および助産師国家試験受験資格を得ようとする者は、保健師助産師看護師法並びに同法施行令および保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める単位を修得しなければならない。
- 9 介護福祉士国家試験受験資格を得ようとする者は、社会福祉士および介護福祉士法並びに同法施行規則および社会福祉士介護福祉士学校指定規則に定める単位を修得しなければならない。
- 10 義肢装具士国家試験受験資格を得ようとする者は、義肢装具士法並びに同法施行規則および義肢装具士学校養成所指定規則に定める単位を修得しなければならない。
- 11 臨床工学技士国家試験受験資格を得ようとする者は、厚生労働大臣が指定する科目および単位を修得しなければならない。
- 12 臨床検査技師国家試験受験資格を得ようとする者は、臨床検査技師等に関する法律第2条に規定する検査（生理学的検査を除く）に関する科目で厚生労働大臣が指定する科目および単位を修得しなければならない。
- 13 視能訓練士国家試験受験資格を得ようとする者は、視能訓練士法並びに同法施行規則および視能訓練士学校養成所指定規則に定める単位を修得しなければならない。
- 14 救急救命士国家試験受験資格を得ようとする者は、厚生労働大臣が指定する科目および単位を修得しなければならない。
- 15 診療放射線技師国家試験受験資格を得ようとする者は、診療放射線技師法並びに同法施行令および診療放射線技師学校養成所指定規則に定める単位を修得しなければならない。
- 16 はり師国家試験受験資格、きゅう師国家試験受験資格を得ようとする者は、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律並びに同法律施行規則およびあん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師に係る学校養成施設認定規則に定める単位を修得しなければならない。

別表（第53条関係）

検定料、入学金および授業料

リハビリテーション学部

	理学療法学科 作業療法学科 言語聴覚学科 義肢装具自立支援学科 鍼灸健康学科
入学検定料	35,000 円
入学金	350,000 円
授業料	1,000,000 円
施設設備金	350,000 円
実験実習料	150,000 円

医療技術学部

	臨床技術学科 視機能科学科 救急救命学科	診療放射線学科
入学検定料	35,000 円	35,000 円
入学金	350,000 円	300,000 円
授業料	1,000,000 円	1,100,000 円
施設設備金	350,000 円	400,000 円
実験実習料	150,000 円	150,000 円

健康科学部

	健康栄養学科	健康スポーツ学科
入学検定料	35,000 円	35,000 円
入学金	350,000 円	250,000 円
授業料	1,000,000 円	850,000 円
施設設備金	350,000 円	350,000 円
実験実習料	150,000 円	50,000 円

看護学部

	看護学科
入学検定料	35,000 円
入学金	300,000 円
授業料	1,100,000 円
施設設備金	300,000 円

実験実習料	250,000 円
-------	-----------

社会福祉学部

	社会福祉学科
入学検定料	35,000 円
入学金	250,000 円
授業料	830,000 円
施設設備金	280,000 円
実験実習料	40,000 円

医療経営管理学部

	医療情報管理学科
入学検定料	35,000 円
入学金	280,000 円
授業料	800,000 円
施設設備金	200,000 円
実験実習料	50,000 円

ただし、大学入学共通テスト利用選抜の入学検定料は、20,000 円とする。

リハビリテーション学部 鍼灸健康学科

授業科目の名称	配当年次	単位数			備考
		必修	選択	自由	
基礎 教養 科目群	基礎ゼミ	1	1		Iを履修していること
	情報処理Ⅰ	1	1		
	情報処理Ⅱ	1	1		
	情報処理Ⅲ	2	1		
	英語Ⅰ	1	1		
	英語Ⅱ	1	1		
	アカデミック英語Ⅰ	2・3・4	1		
	アカデミック英語Ⅱ	2・3・4	1		
	アカデミック英語Ⅲ	2・3・4	1		
	韓国語Ⅰ	1・2	1		
	中国語Ⅰ	1・2	1		
	スペイン語Ⅰ	1・2	1		
	ドイツ語Ⅰ	1・2	1		
	韓国語Ⅱ	2・3	1		
	中国語Ⅱ	2・3	1		
	スペイン語Ⅱ	2・3	1		
	ドイツ語Ⅱ	2・3	1		
	日本語表現法Ⅰ	1	1		
	日本語表現法Ⅱ	1	1		
	スポーツ・健康	1	1		
	スポーツ・実践	2・3・4	1		
	研究プロジェクト演習Ⅰ	1	1		
	研究プロジェクト演習Ⅱ	2	1		
	研究プロジェクト演習Ⅲ	2	1		
研究プロジェクト演習Ⅳ	3	1			
研究プロジェクト演習Ⅴ	3	1			
研究プロジェクト演習Ⅵ	4	1			
小計		6	21	0	卒業要件：6単位以上
保健 医療 福祉 教養 科目群	ボランティアの世界	1	1		
	コミュニケーション学入門	1	1		
	対人コミュニケーション論	1	1		
	心理学概論	1	1		
	人間を知る	1	1		
	命の倫理	1	1		
	QOLの世界	1	1		
	こどもの世界	1	1		
	アスリートの世界	1	1		
	臨床医の世界	1	1		
	加齢と身体	1	1		
	食を楽しむ	1	1		
	眼の神秘	1	1		
	義肢装具の世界	1	1		
	新潟学	1	1		
	国際保健の世界	1	1		
	国民の生活と健康を支える仕組み	1	1		
	現代社会と経済	1	1		
	法学Ⅰ	1	1		
	法学Ⅱ	1	1		
	臨床の哲学	1	1		
	臨床技術の世界	1	1		
	留学の魅力	1	1		
	シティズンシップ教育入門	1	1		
放射線の基礎と人体への影響	1	1			
新潟水俣病の理解	1	1			
統計入門	1	1			
一次救命処置法	1	1			
東洋医学的養生	1	1			
小計		0	29	0	
連携 医療 福祉 科目群	連携基礎ゼミ	2	1		卒業要件：8単位以上
	チームアプローチ入門	1	1		
	保健医療福祉連携学	2・3	1		
	地域連携学	3	1		
	連携総合ゼミ	3・4	1		
	社会連携実践演習Ⅰ	1・2・3・4	1		
社会連携実践演習Ⅱ	1・2・3・4	1			
小計		2	5	0	

リハビリテーション学部 鍼灸健康学科 (つづき)

授業科目の名称	配当年次	単位数			備考
		必修	選択	自由	
解剖学Ⅰ	1	2			
解剖学Ⅱ	1	2			
解剖学実習	2	2			
生理学	1	2			
生理学実習	2	2			
病理学	1	1			
病理学実習	1	1			
免疫学	2	1			
臨床薬理学	2	1			
公衆衛生学	1	1			
公衆衛生学演習	2	1			
臨床医学総論	2	1			
臨床医学各論Ⅰ内科・神経内科	2	1			
臨床医学各論Ⅱ運動器	2	1			
臨床医学各論Ⅲ外科	2	1			
臨床医学各論Ⅳ感覚器	2	1			
疼痛学	2	1			
救急学	2	1			
運動生理学	2	1			
スポーツ心理学	3	1			
トレーニング論	3	1			
予防とコンディショニング演習	2	1			
スポーツ外傷	3	1			
ジェンダー論	3	1			
高齢社会学	3	1			
メンタルヘルス学	2	1			
養生学	2	1			
栄養学	2	1			
心の発達と維持	3	1			
メンタルヘルスマネジメント	3	1			
漢方薬概論	2	1			
生薬学	2	1			
方剤学	3	1			
基礎医学研究セミナー	3	1			
高齢者ケア実習	4	1			
経済と経営	3	1			
起業の精神と実践	3	1			
プレゼンテーション方法論	3	1			
臨床研究デザイン学	3	1			
小計		44	0		卒業要件：44単位以上

専門基礎科目群

リハビリテーション学部 鍼灸健康学科 (つづき)

授業科目の名称	配当年次	単位数			備考
		必修	選択	自由	
鍼灸健康学ゼミ	2	1			
鍼灸健康学概論	1	1			
経路経穴学	1	2			
経路経穴学実習	2	2			
東洋医学概論	1	2			
伝統鍼灸学概論	2	1			
鍼灸治効理論	2	1			
中医診断学基礎	2	1			
伝統鍼灸診断学演習	3	1			
臨床鍼灸学Ⅰ (内科・神経内科)	3	2			
臨床鍼灸学Ⅱ (運動器)	3	2			
臨床鍼灸学Ⅲ (感覚器)	3	2			
疼痛管理鍼灸学	3	1			
リハビリテーション学総論	2	1			
リハビリテーション学各論	3	1			
中医診断学演習	3	1			
メンタルヘルス鍼灸学	3	1			
鍼灸リスクマネジメント学	2	1			
リハビリテーション鍼灸学	3	1			
高齢者鍼灸学	4		1		
スポーツ鍼灸学	3		1		
レディース鍼灸学	3		1		
社会鍼灸学	2	1			
関係法規	4	1			
鍼技術学実習	1	2			
灸技術学実習	2	2			
鍼灸治効理論実習	3	2			
臨床鍼灸学実習Ⅰ (内科・神経内科)	3	2			
臨床鍼灸学実習Ⅱ (運動器)	3	2			
臨床鍼灸学実習Ⅲ (感覚器)	3	2			
メンタルヘルス鍼灸学実習	3	2			
リハビリテーション鍼灸学実習	4	1			
高齢者鍼灸学実習	4		1		
スポーツ鍼灸学実習	3		1		
レディース鍼灸学実習	3		1		
健康美容鍼灸学実習	4		1		
臨床実習Ⅰ	2	1			
臨床実習Ⅱ	3	2			
臨床実習Ⅲ	4	1			
医療面接演習	2	1			
臨床倫理学	3	1			
鍼灸経営学	3	1			
運動機能解剖学	2	1			
鍼灸健康学特講演習Ⅰ (基礎)	4	1			
鍼灸健康学特講演習Ⅱ (臨床)	4	1			
シニアスポーツ鍼灸学	3		1		
健康美容鍼灸学	3		1		
手治療法演習	3		1		
鍼灸臨床で応用するストレッチ術演習	3		1		
新領域の鍼灸	3		1		
鍼灸の歴史と偉人	3		1		
災害と鍼灸	3		1		
医療連携と鍼灸	4		1		
鍼灸と統合医療	2		1		
卒業研究	4	4			
小計	—	56	16	0	卒業要件：66単位以上
合計	—	108	71	0	卒業要件：4年以上在学し、かつ 124単位以上取得

専門  
専攻  
科目  
目群

## 学則変更の事由と変更点

変更の事由	変更点
<p>1. リハビリテーション学部鍼灸健康学科を新設するため</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第6条第2項 リハビリテーション学部鍼灸健康学科の入学定員および収容定員の追加</li> <li>2. 第6条の3第1項 研究所等の目的文を追加</li> <li>3. 第42条1項 リハビリテーション学部鍼灸健康学科の卒業単位数の追加</li> <li>4. 第43条第1項 リハビリテーション学部鍼灸健康学科の学士の学位の追加</li> <li>5. 別表（第6条関係） リハビリテーション学部鍼灸健康学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的の追加</li> <li>6. 別表（第33条関係） リハビリテーション学部鍼灸健康学科の教育課程を追加</li> <li>7. 別表（第44条関係） リハビリテーション学部鍼灸健康学科の取得することができる国家試験受験資格および免許・資格の種類を追加</li> <li>8. 別表（第53条関係） リハビリテーション学部鍼灸健康学科の検定料、入学金および授業料の追加</li> <li>9. 附則の追加</li> </ol>



変更部分の新旧比較対照表

条項	種類	変更前					変更後																								
		学部	学科	入学定員	3年次編入学定員	収容定員	学部	学科	入学定員	3年次編入学定員	収容定員																				
第6条第2項	追加	リハビリテーション学部	理学療法学科	120人	—	480人	リハビリテーション学部	理学療法学科	120人	—	480人																				
			作業療法学科	50人	—	200人		作業療法学科	50人	—	200人																				
			言語聴覚学科	40人	—	160人		言語聴覚学科	40人	—	160人																				
			義肢装具自立支援学科	40人	—	160人		義肢装具自立支援学科	40人	—	160人																				
								<b>鍼灸健康学科</b>	<b>40人</b>	<b>—</b>	<b>160人</b>																				
第6条の3第1項	追加	本学に専門学術研究の振興および学内実習の実施等を置くことができる。																													
第42条第1項	追加	リハビリテーション学部 <b>鍼灸健康学科</b> 基礎教養科目群 6単位以上 保健医療福祉教養科目群および保健医療福祉連携科目群 8単位以上 専門基礎科目群 44単位以上 専門専攻科目群 66単位以上 合計 124単位以上																													
第43条第1項	追加	リハビリテーション学部 <b>学士(鍼灸健康学)</b>																													
附則	追加	附則 1. この学則は、令和5年4月1日から施行する。																													
別表(第6条関係)	追加	リハビリテーション学部 <b>鍼灸健康学科</b> 鍼灸健康学科は、現代医学の知識を修得し、実習を通じて鍼灸の技術を身に付け、病院、福祉、スポーツ、美容などの医療と健康分野で他の従事者と調和を持って活躍できる優れた鍼師・灸師を育成する。また、鍼灸治療の適否を的確に判断し、適切な対応をとるとともに治療効果を適切な指標を用いて評価し、客観的なデータで記録できる高い倫理観と豊かな感性を有した臨床的、実証的、理論的、体系的思考力を修得した鍼灸医学の科学的解明に貢献できる人材を育成する。さらに、疾患・障害の予防やアンチエイジングなど人々が健康に生活できる心身の健全な状態を維持、獲得するための鍼灸の知恵と技術を生かせる人材を育成する。																													
別表(第33条関係)	追加	(次ページに記載)																													
別表(第44条関係)	追加	<table border="1"> <thead> <tr> <th>学部</th> <th>学科</th> <th>免許・資格</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>リハビリテーション学部</td> <td><b>鍼灸健康学科</b></td> <td><b>はり師国家試験受験資格</b> <b>きゅう師国家試験受験資格</b></td> </tr> </tbody> </table> <p>16 はり師国家試験受験資格、きゅう師国家試験受験資格を得ようとする者は、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律並びに同法律施行規則およびあん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師に係る学校養成施設認定規則に定める単位を修得しなければならない。</p>										学部	学科	免許・資格	リハビリテーション学部	<b>鍼灸健康学科</b>	<b>はり師国家試験受験資格</b> <b>きゅう師国家試験受験資格</b>														
学部	学科	免許・資格																													
リハビリテーション学部	<b>鍼灸健康学科</b>	<b>はり師国家試験受験資格</b> <b>きゅう師国家試験受験資格</b>																													
別表(第53条関係)	追加	リハビリテーション学部 <table border="1"> <tbody> <tr> <td>理学療法学科</td> <td></td> </tr> <tr> <td>作業療法学科</td> <td></td> </tr> <tr> <td>言語聴覚学科</td> <td></td> </tr> <tr> <td>義肢装具自立支援学科</td> <td></td> </tr> <tr> <td><b>鍼灸健康学科</b></td> <td></td> </tr> <tr> <td>入学検定料</td> <td>35,000円</td> </tr> <tr> <td>入学金</td> <td>350,000円</td> </tr> <tr> <td>授業料</td> <td>1,000,000円</td> </tr> <tr> <td>施設設備金</td> <td>350,000円</td> </tr> <tr> <td>実験実習料</td> <td>150,000円</td> </tr> </tbody> </table>										理学療法学科		作業療法学科		言語聴覚学科		義肢装具自立支援学科		<b>鍼灸健康学科</b>		入学検定料	35,000円	入学金	350,000円	授業料	1,000,000円	施設設備金	350,000円	実験実習料	150,000円
理学療法学科																															
作業療法学科																															
言語聴覚学科																															
義肢装具自立支援学科																															
<b>鍼灸健康学科</b>																															
入学検定料	35,000円																														
入学金	350,000円																														
授業料	1,000,000円																														
施設設備金	350,000円																														
実験実習料	150,000円																														

変更部分の新旧比較対照表

別表（第33条関係）の新旧対照表

変更前	変更後					
	授業科目の名称	配当年次	単位数			備考
(新規)			必修	選択	自由	
	リハビリテーション学部 鍼灸健康学科					
	基礎ゼミ	1	1			
	情報処理Ⅰ	1	1			
	情報処理Ⅱ	1	1			
	情報処理Ⅲ	2		1		
	英語Ⅰ	1	1			
	英語Ⅱ	1	1			
	アカデミック英語Ⅰ	2・3・4		1		
	アカデミック英語Ⅱ	2・3・4		1		
	アカデミック英語Ⅲ	2・3・4		1		
	韓国語Ⅰ	1・2		1		
	中国語Ⅰ	1・2		1		
	スペイン語Ⅰ	1・2		1		
	ドイツ語Ⅰ	1・2		1		
	韓国語Ⅱ	2・3		1		Ⅰを履修していること
	中国語Ⅱ	2・3		1		
	スペイン語Ⅱ	2・3		1		
	ドイツ語Ⅱ	2・3		1		
	日本語表現法Ⅰ	1		1		
	日本語表現法Ⅱ	1		1		
	スポーツ・健康	1		1		
	スポーツ・実践	2・3・4		1		
	研究プロジェクト演習Ⅰ	1		1		
	研究プロジェクト演習Ⅱ	2		1		
	研究プロジェクト演習Ⅲ	2		1		
	研究プロジェクト演習Ⅳ	3		1		
	研究プロジェクト演習Ⅴ	3		1		
	研究プロジェクト演習Ⅵ	4		1		
	小計		6	21	0	卒業要件：6単位以上
	ボランティアの世界	1		1		
	コミュニケーション学入門	1		1		
	対人コミュニケーション論	1		1		
	心理学概論	1		1		
	人間を知る	1		1		
	命の倫理	1		1		
	QOLの世界	1		1		
	こどもの世界	1		1		
	アスリートの世界	1		1		
	臨床医の世界	1		1		
	加齢と身体	1		1		
	食を楽しむ	1		1		
	眼の神秘	1		1		
	義肢装具の世界	1		1		
	新医学	1		1		
	国際保健の世界	1		1		
	国民の生活と健康を支える仕組み	1		1		
	現代社会と経済	1		1		
	法学Ⅰ	1		1		
	法学Ⅱ	1		1		
	臨床の哲学	1		1		
	臨床技術の世界	1		1		
	留学の魅力	1		1		
	シティズンシップ教育入門	1		1		
	放射線の基礎と人体への影響	1		1		
	新潟水俣病の理解	1		1		
	統計入門	1		1		
	一次救命処置法	1		1		
	東洋医学的養生	1		1		
	小計		0	29	0	
	連携基礎ゼミ	2		1		
	チームアプローチ入門	1		1		
	保健医療福祉連携学	2・3		1		
	地域連携学	3		1		
	連携総合ゼミ	3・4		1		
	社会連携実践演習Ⅰ	1・2・3・4		1		
	社会連携実践演習Ⅱ	1・2・3・4		1		
	小計		2	5	0	卒業要件：8単位以上

変更前	変更後				
	リハビリテーション学部 鍼灸健康学科 (つづき)				
	授業科目の名称	配当年次	単位数		
必修			選択	自由	
	解剖学 I	1	2		
	解剖学 II	1	2		
	解剖学実習	2	2		
	生理学	1	2		
	生理学実習	2	2		
	病理学	1	1		
	病理学実習	1	1		
	免疫学	2	1		
	臨床薬理学	2	1		
	公衆衛生学	1	1		
	公衆衛生学演習	2	1		
	臨床医学総論	2	1		
	臨床医学各論 I 内科・神経内科	2	1		
	臨床医学各論 II 運動器	2	1		
	臨床医学各論 III 外科	2	1		
	臨床医学各論 IV 感覚器	2	1		
	疼痛学	2	1		
専	救急学	2	1		
門	運動生理学	2	1		
基	スポーツ心理学	3	1		
礎	トレーニング論	3	1		
科	予防とコンディショニング演習	2	1		
目					
群	スポーツ外傷	3	1		
	ジェンダー論	3	1		
	高齢社会学	3	1		
	メンタルヘルス学	2	1		
	養生学	2	1		
	栄養学	2	1		
	心の発達と維持	3	1		
	メンタルヘルスマネジメント	3	1		
	漢方薬概論	2	1		
	生薬学	2	1		
	方剤学	3	1		
	基礎医学研究セミナー	3	1		
	高齢者ケア実習	4	1		
	経済と経営	3	1		
	起業の精神と実践	3	1		
	プレゼンテーション方法論	3	1		
	臨床研究デザイン学	3	1		
	小計		44	0	卒業要件：4.4単位以上

変更前	変更後					
	リハビリテーション学部 鍼灸健康学科(つづき)					
	授業科目の名称	配当年次	単位数			備考
		必修	選択	自由		
	鍼灸健康学ゼミ	2	1			
	鍼灸健康学概論	1	1			
	経路経穴学	1	2			
	経路経穴学実習	2	2			
	東洋医学概論	1	2			
	伝統鍼灸学概論	2	1			
	鍼灸治理論	2	1			
	中医診断学基礎	2	1			
	伝統鍼灸診断学演習	3	1			
	臨床鍼灸学Ⅰ(内科・神経内科)	3	2			
	臨床鍼灸学Ⅱ(運動器)	3	2			
	臨床鍼灸学Ⅲ(感覚器)	3	2			
	疼痛管理鍼灸学	3	1			
	リハビリテーション学総論	2	1			
	リハビリテーション学各論	3	1			
	中医診断学演習	3	1			
	メンタルヘルス鍼灸学	3	1			
	鍼灸リスタマネジメント学	2	1			
	リハビリテーション鍼灸学	3	1			
	高齢者鍼灸学	4		1		
	スポーツ鍼灸学	3		1		
専門	レディース鍼灸学	3		1		
専攻	社会鍼灸学	2	1			
科目	関係法規	4	1			
群	鍼技術学実習	1	2			
	灸技術学実習	2	2			
	鍼灸治理論実習	3	2			
	臨床鍼灸学実習Ⅰ(内科・神経内科)	3	2			
	臨床鍼灸学実習Ⅱ(運動器)	3	2			
	臨床鍼灸学実習Ⅲ(感覚器)	3	2			
	メンタルヘルス鍼灸学実習	3	2			
	リハビリテーション鍼灸学実習	4	1			
	高齢者鍼灸学実習	4		1		
	スポーツ鍼灸学実習	3		1		
	レディース鍼灸学実習	3		1		
	健康美容鍼灸学実習	4		1		
	臨床実習Ⅰ	2	1			
	臨床実習Ⅱ	3	2			
	臨床実習Ⅲ	4	1			
	医療面接演習	2	1			
	臨床倫理学	3	1			
	鍼灸経管学	3	1			
	運動機能解剖学	2	1			
	鍼灸健康学特講演習Ⅰ(基礎)	4	1			
	鍼灸健康学特講演習Ⅱ(臨床)	4	1			
	シニアスポーツ鍼灸学	3		1		
	健康美容鍼灸学	3		1		
	手治療法演習	3		1		
	鍼灸臨床で応用するストレッチ術演習	3		1		
	新領域の鍼灸	3		1		
	鍼灸の歴史と偉人	3		1		
	災害と鍼灸	3		1		
	医療連携と鍼灸	4		1		
	鍼灸と統合医療	2		1		
	卒業研究	4	4			
	小計		56	16	0	卒業要件：6.6単位以上
	合計		108	71	0	卒業要件：4年以上在学し、かつ12.4単位以上取得

## 新潟医療福祉大学教授会規程

### (趣 旨)

第1条 この規程は、新潟医療福祉大学学則（以下「学則」という。）第10条の規定に基づき、新潟医療福祉大学（以下「本学」という。）に置く教授会の組織、運営等について定める。

### (設 置)

第2条 学則第10条第1項の規定に基づき、本学に教授会を置く。

### (構 成)

第3条 教授会は、学則第10条第2項の規定に基づき、全学部の専任の教授をもって構成する。

- 2 同条同項のただし書きにより、その他の教職員を加える場合に当たっては、准教授及び講師を構成員とする。
- 3 助教及び助手は、準構成員とする。
- 4 前項による取扱いは教授会に諮り、総務会の議を経て学長が決定する。

### (審議事項)

第4条 教授会は、学則第10条第3項に定める次の重要事項について、学長が決定を行うに当たり、審議した結果を学長に意見として述べるものとする。

- (1) 学生の入学、卒業に関すること
  - (2) 学位の授与に関すること
  - (3) 教育・研究の基本方針に関すること
  - (4) 教育課程及び履修方式に関すること
  - (5) 学生の指導、賞罰及び除籍に関すること
- 2 教授会は、学則第10条第4項の規定に基づき、前項各号に掲げるもののほか、学長及びその他の教授会が置かれる組織の長（以下「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議する。
- 3 教授会は、学則第10条第5項の規定に基づき、前2項で審議した事項について、学長等の求めがあった場合、その結果を学長等に意見として述べるができる。

### (会 議)

第5条 教授会に議長を置き、副学長をもって充てる。ただし、やむを得ない事故があるときは、あらかじめ副学長の指名した者がその職務を代行する。

- 2 議長は、教授会を主宰する。
- 3 教授会は、原則として、毎月1回開催するものとする。ただし、議長が必要と認めた場合は、臨時に会議を招集することができる。
- 4 教授会構成員の3分の1以上が開催を要求したときは、議長は教授会を招集しなければならない。

(会議の成立要件)

第6条 教授会は、構成員（授業中、止むを得ない理由による学生指導中、海外出張中及び休職中の者を除く。）の3分の2以上の出席がなければ開くことができない。

(代議員会)

第7条 教授会は、教授会に属する一部の者をもって構成される代議員会を置くことができる。

2 前項の代議員会の組織運営については、教授会に諮り、総務会の議を経て学長が定める。

(委 任)

第8条 教授会は、次に掲げる審議事項について、代議員会に委任することができる。

(1) 学生の入学、卒業に関すること

(2) 学位の授与に関すること

2 その他代議員会に委任することができる審議事項については、教授会に諮り、総務会の議を経て学長が定めることができる。

3 教授会は、代議員会に対してその審議結果等の報告を求めるものとする。

(議事の議決)

第9条 議事の議決は、出席者の過半数の賛成をもって決する。ただし、可否同数のときは、議長の決するところによる。

2 教授会は、代議員会の議決をもって、教授会の議決とすることができる。

(委員会の設置)

第10条 教授会は、専門の事項について審議する必要があるときは、専門的知見を持った教員から構成される委員会を置くことができる。

2 前項の委員会の組織運営については、教授会の議を経て学長が定める。

(構成員以外の出席)

第11条 議長は、必要があるときは教授会の決定により教授会に加える者以外の者を出席させ、報告又は意見を求めることができる。

(議事の記録)

第12条 教授会の議事の要旨を記録して、次回の定例教授会で確認を得るものとする。

(庶 務)

第13条 教授会に関する事務並びに議事要旨の作成及び保管は、議長の指示に基づき、事務局総務部総務課が行う。

(改 正)

第14条 この規程の改正は、教授会に諮り、総務会の議を経て学長が行う。

(雑 則)

第15条 この規程に定めるもののほか、教授会の運営に関し必要なことは、別に定める。

**附 則**

この規程は、平成13年7月4日から施行する。

**附 則**

この規程は、平成21年7月21日から施行する。

**附 則**

この規程は、平成25年5月1日から施行する。

**附 則**

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

## 新潟医療福祉大学総務会規程

### (目 的)

第1条 この規程は、新潟医療福祉大学学則（以下「学則」という。）第9条の規定に基づき、総務会について必要な事項を定めるものとする。

### (審議事項)

第2条 総務会は、学則第9条第3項に掲げる、次の全学的な重要事項について審議する。

- (1) 教育研究環境の整備に関すること
- (2) 学則その他重要な規程の制定・改廃に関すること
- (3) 教育職員人事に関すること
- (4) 学生の定員に関すること
- (5) 学生の生活、身分に関する重要な事項について
- (6) 理事会が諮問する事項について
- (7) 学長が諮問する事項について
- (8) 教育研究に関する全学的な重要事項について
- (9) 各学部・学科間の調整事項について
- (10) その他大学運営に関する重要な事項について

### (委員会設置)

第3条 総務会は、必要に応じて個別の議案を審議させるための専門委員会（以下「委員会」という）を置くことができる。

- 2 委員会における審議結果は総務会に報告し、学長の承認を経なければならない。
- 3 委員会に関する規程は、別に定める。

### (議 長)

第4条 総務会に議長を置き、学長をもって充てる。

- 2 議長は、総務会を主宰する。

### (開 催)

第5条 総務会は、原則として、毎月1回開催する。

- 2 前項の規定にかかわらず、議長は、必要に応じて臨時に総務会を開催することができる。

### (議案の提出)

第6条 議案は、議長が提出する。

- 2 前項の規定にかかわらず、当該総務会構成員は、その3分の1以上の連署をもって議案を提出することができる。

### (議 事)

第7条 総務会は、公務により出張中の者、休職者及び30日以上病気休暇中の者並びに大学が企画運営する行事により欠席する者を除き、議題ごとに当該議決権を有する者の



3分の2以上の出席がなければ議事を行うことができない。

2 総務会の議事は、他に特別の定めのある場合を除き、議決権を有する出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(構成員以外の者の出席)

第8条 総務会は、必要に応じて構成員以外の者を総務会に出席させ、意見を聴くことができる。

(審議事項の報告)

第9条 第2条の規定に基づき審議された事項のうち、大学の円滑な運営を図るために教授会への報告が必要とされる事項については、議長を通じて教授会に報告しなければならない。

(庶務)

第10条 総務会の庶務は、事務局総務部総務課が処理する。

(規程の改廃)

第11条 この規程の改廃は、総務会の議を経て学長が行う。

(運営の細目)

第12条 この規程に定めるもののほか、総務会の運営について必要な事項は、総務会の議を経て議長が別に定める。

附 則

この規程は、平成18年10月4日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

# 学則の変更の趣旨等を記載した書類

## 目次

1. 学則変更(収容定員変更)の内容	1
2. 学則変更(収容定員変更)の必要性	1
1) 新潟医療福祉大学の特色	1
2) リハビリテーション学部鍼灸健康学科の設置	2
(1) 鍼灸師を取り巻く社会的背景	2
(2) 鍼灸師配置の現況及び活用の検討状況	5
(3) 設置の必要性	6
3) 鍼灸健康学科の設置の趣旨	7
(1) 教育研究上の理念及び目的	7
(2) 養成する人材像	8
(3) 鍼灸健康学科の特色	9
3. 学則変更(収容定員変更)に伴う教育課程の変更内容	10
1) 新設学科の教育課程の編成の考え方	10
(1) 全学共通科目	10
(2) 学科専門科目	11
(3) 本学科設置による教育課程上の他学科への影響	14
2) 教育方法及び履修指導方法	14
(1) 教育方法	14
(2) 履修指導方法	16
(3) 他大学における授業科目の履修の考え方	18
(4) ディプロマポリシー及び卒業要件	19
3) 教員組織の変更内容	20
(1) 鍼灸健康学科の専任教員構成	20
(2) 本学科設置による他学科への影響	21
4. 校舎等施設、設備等の整備計画	21
1) 大学全体としての施設、設備の整備	21
(1) 第11研究・実習棟(U棟)内の講義室	22
(2) 第4体育館(R棟)	22
(3) 就職センターの拡充	22
(4) 図書館の整備計画	22
(5) 学生食堂	23
2) 学科独自の設備	24
3) 教育課程外への影響	24
(1) 鍼灸健康学科	24
(2) 教育課程外への影響	25

## 学則の変更の趣旨等を記載した書類

### 1. 学則変更(収容定員変更)の内容

2023年度(令和5年度)から、下表のとおり、新潟医療福祉大学リハビリテーション学部鍼灸健康学科(入学定員40名)を設置する。これに伴い、本学全体の入学定員は1,142名から1,182名とし、収容定員4,604名から4,764名に変更する。

		変更前 (令和5年3月末日)	→	変更後 (令和5年4月1日以降)
リハビリテーション学部 鍼灸健康学科	入学定員	—	→	40名
	編入学定員	—		—
	収容定員	—		160名

		変更前	→	変更後
大学全体	入学定員	1,142名	→	1,182名
	編入学定員 (3年次)	(* )18名		(* )18名
	収容定員	4,604名		4,764名

(\* ) 健康科学部健康スポーツ学科 5名、看護学部看護学科 3名

社会福祉学部社会福祉学科 5名、医療経営管理学部医療情報管理学科 5名

### 2. 学則変更(収容定員変更)の必要性

#### 1) 新潟医療福祉大学の特色

新潟医療福祉大学(以下、「本学」)は、2001年度(平成13年度)に設立され、現在6学部13学科から構成されている。設立の目的は、学則第1条に示されており、「教育基本法及び学校教育法の精神に基づき、広く保健・医療・福祉に関する専門の学芸を教授研究し、豊かな人間性と高潔な倫理性を涵養し、保健・医療・福祉に関する指導的人材の養成を目指し、もって学術文化の発展に寄与し、人類の福祉の向上に貢献することを目的とする」ことにある。

すなわち、保健・医療・福祉分野の異なる専門職種間の「連携教育」により、「対象者のQOL(生活と人生の質)向上を考え、QOL向上のため支援を実践する人材(QOLサポーター)を育成」することを目的に、教職員・学生の社会貢献等により地域社会のニーズに応えることを教育理念とし、各専門領域の横断的連携教育と地域社会との協働による教育を特色としている。

当初は医療技術学部と社会福祉学部の2学部5学科でスタートして、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、社会福祉士の育成を行ってきた。その後、2005

年度（平成17年度）に健康スポーツ学科を設置し、健康分野の人材育成を開始するとともに、2006年度（平成18年度）に専門職の中核をなす看護師等を育成する看護学科を設置した。また、2005年度（平成17年度）に高度専門職の育成と研究の場として、大学院医療福祉学研究所（修士課程）を設置し、2007年度（平成19年度）には博士後期課程（医療福祉学専攻）を設置した。

さらに、2007年度（平成19年度）には医療技術学部を改組し、健康栄養学科、健康スポーツ学科、看護学科から成る健康科学部を設置し、学科としては全国初となる義肢装具自立支援学科を医療技術学部を設置した。2010年度（平成22年度）には医療の質向上に資する診療情報管理を中心とした事務業務を担う人材を育成するために医療経営管理学部を設置した。2011年度（平成23年度）には全国初となる臨床工学技士・臨床検査技師の2つの資格取得を目指す臨床技術学科、2014年度（平成26年度）には視機能科学科、2017年度（平成29年度）には救急救命学科、2018年度（平成30年度）には診療放射線学科を設置した。それに伴い、医療技術学部・健康科学部を改組し、新たにリハビリテーション学部・看護学部を設置した。結果現在の6学部13学科となっている。

このように、本学は「保健・医療・福祉・スポーツの総合大学」として、保健・医療・福祉の各分野で活躍できる人材を育成することにより、地域社会への貢献に対して各方面から期待されている。

## 2) リハビリテーション学部鍼灸健康学科の設置

### (1) 鍼灸師を取り巻く社会的背景

鍼灸師とは「鍼(はり)」と「灸(きゅう)」を使い全身にあるツボや筋肉に刺激を与え、自然治癒力を高め、病気の改善や予防、健康回復を目的として治療を行うことを業とする者である。

鍼灸師を志す者は、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律に基づき、「医師以外の者で、あん摩、マッサージ若しくは指圧、はり又はきゅう業としようとする者は、それぞれ、あん摩マッサージ指圧師免許、はり師免許又はきゅう師免許をうけなければならない。」(同法第1条と定められている。

近年はあらゆる分野で、はり師、きゅう師が活躍しており、「医療鍼灸」「スポーツ鍼灸」「高齢者鍼灸」「レディース鍼灸」「美容鍼灸」など業務は多岐にわたっている。我が国における保健、医療、福祉をめぐる環境は社会の変化に伴い著しく変化した。少子高齢化の進行、予防的医療へのニーズの高まり、医学研究、医療技術の進歩による医療の高度化が進展する一方、現代医学の視点によるアプローチとは異なる、東洋医学、代替医療への関心の高まりとともに、現代医学との相互補完による統合医療の考え方がクローズアップされてきている。加えて、社会構造の変化、情報化の急速な進展による人間関係の複雑化から心身両面のケアを必要とする人々が増加している。

実際に脳卒中の後遺症に対する鍼灸は、難治性の中枢性疼痛や手足の拘縮、歩行障害などに対して鍼灸治療が行われ、鎮痛や拘縮の軽減などが認められ、患者のQOL(生活と人生の質)の向上に寄与している。新潟においても「脳梗塞リハビリセンター新潟」にて、鍼灸治療が併用され効果を認めている。寝たきりや介護が必要となる原因の上位を占める本疾患の症状を軽減する上で、鍼灸の役割は重要であり、社会的意義も大きいものとする。

また、東洋医学の領域において、生活習慣病などの慢性疾患や心身症、うつ病などの心の病に対して、現代医学では限界があるとして伝統医学の導入がはかられるようになり、東洋医学の有用性の実証的研究により、新たな研究領域の確立が国内はもとより、アジア、欧米等全世界的に期待が高まってきている。中国や欧米における大学レベルの研究、米国 NIH (国立衛生研究所) における、成人の術後および化学療法による嘔気・嘔吐、歯科の術後痛、妊娠悪阻(つわり)の軽減等の研究の進展は目を見張るものがあり、日本における大学レベルでの研究をさらに加速する必要があるが、関西圏に比べ、東日本では、鍼灸師養成の大学(学部学科)が未だ少なく、特に北海道・東北地方・北信越地方には1校も設置されていない状況であり、大学における養成課程の設置が強く望まれているところである。本学が鍼灸師養成学科を設置することにより、鍼灸学に関する研究者の育成、研究業績の蓄積、発表による医学界への貢献が期待されている。

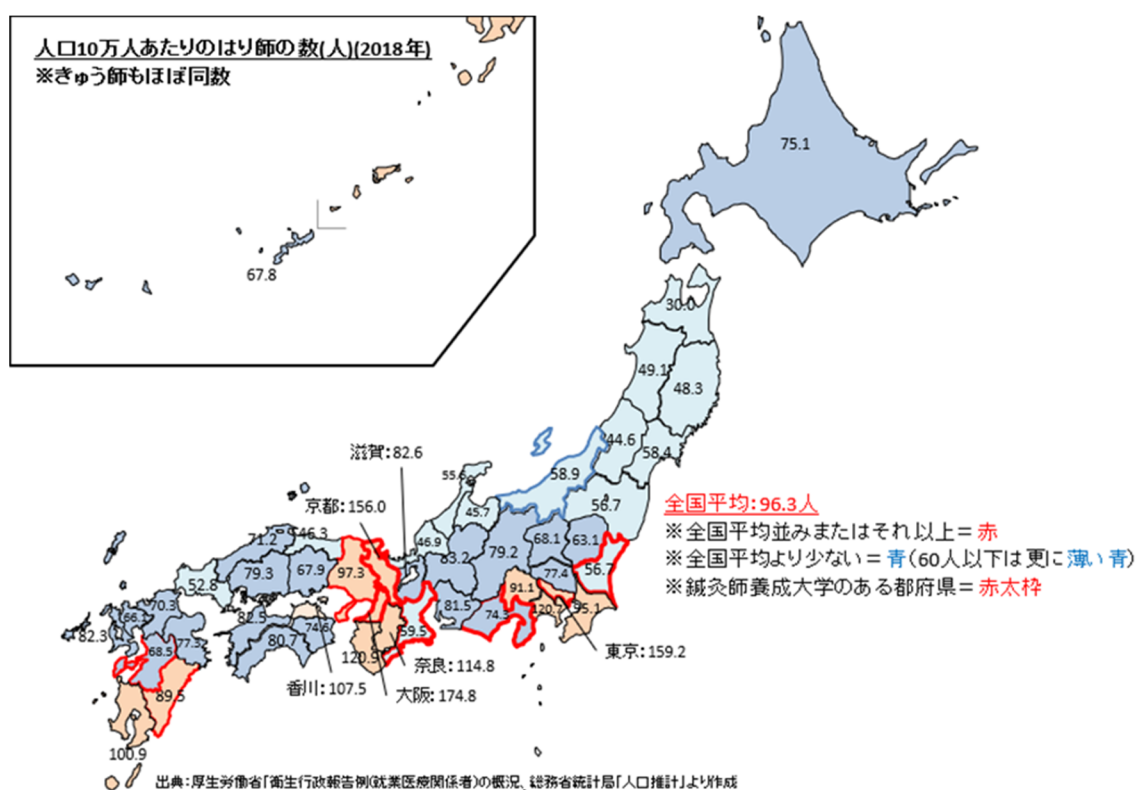
鍼灸師養成大学の分布



さらに、2018年(平成30年)における人口10万人あたりのはり師数を都道府県別にみると、新潟県は58.9人(全国平均は96.3人)で全国35位と下位に位置しており、きゅう師もほぼ同数である。

また、鍼灸師養成大学が存在しない北海道・東北地方・北信越地方は人口10万人あたりのはり師数も少ない傾向にあり、こうした偏りの是正が求められている。このような観点からも、本学が鍼灸師を養成する必要性は高く、新潟県を拠点に、近隣県を含め鍼灸師を育成することで、鍼灸業界の更なる発展に寄与し、引いては医療の発展の一助としたい考えである。

### 人口10万人あたりのはり師数



## 人口 10 万人あたりのはり師数の都道府県別順位(平成 30 年)

東北地方			北信越地方		
順位	都道府県	(人)	順位	都道府県	(人)
1	大阪	174.8	25	静岡	74.3
2	東京	159.2	26	島根	71.2
3	京都	156.0	27	福岡	70.3
4	和歌山	120.9	28	熊本	68.5
5	神奈川	120.7	29	群馬	68.1
6	奈良	114.8	30	岡山	67.9
7	香川	107.5	31	沖縄	67.8
8	鹿児島	100.9	32	佐賀	66.1
9	兵庫	97.3	33	栃木	63.1
10	千葉	95.1	34	三重	59.5
11	山梨	91.1	35	新潟	58.9
12	宮崎	89.5	36	宮城	58.4
13	岐阜	83.2	37	茨城	56.7
14	滋賀	82.6	38	福島	56.7
15	愛媛	82.5	39	石川	55.6
16	長崎	82.3	40	山口	52.8
17	愛知	81.5	41	秋田	49.1
18	高知	80.7	42	岩手	48.3
19	広島	79.3	43	福井	46.9
20	長野	79.2	44	鳥取	46.3
21	埼玉	77.4	45	富山	45.7
22	大分	77.3	46	山形	44.6
23	北海道	75.1	47	青森	30.0
24	徳島	74.6	参考	全国平均	96.3

出典：厚生労働省「衛生行政報告例(就業医療関係者)の概況、総務省統計局「人口推計」より作成

### (2) 鍼灸師配置の現況及び活用の検討状況

2018 年(平成 30 年)の保健・衛生行政業務報告(厚生労働省)によると、はり師は 121,757 人、きゅう師は 119,796 人(ほとんどがはり師・きゅう師の免許を同時取得)で、2016 年(平成 28 年)に比べると、はり師は 5.0%、きゅう師は 5.0%増加している。はり師・きゅう師の最終的な進路は独立開業が中心であり、2018 年(平成 30 年)現在の鍼灸関連施術所数は 30,450 件で、2016 年(平成 28 年)に比べると、7.6%増加している。上述のように、施術所勤務者の多くが数年で独立開業に至っているため、施術所では慢性的な人手不足が続いている。これは、はり師・きゅう師を雇用している病院・診療所などでも同様の傾向が見られる。

はり師・きゅう師の進路については、高齢化社会の現状を考えるとはり師・きゅう師に対する独立開業の需要はさらに増加すると考えられる。さらに、鍼灸治療に適用される療養費払いでの治療期間制限が撤廃され、患者が療養費を支給されやすくなったことも、はり師・きゅう師の独立開業を後押しする要素となっている。

美容界では、2005 年(平成 17 年)アメリカのウェブメディアが世界に向けて情報を発信したことをきっかけに、日本でも美容鍼を取り入れる鍼灸院が少しずつ増加しはじめた。

2006年(平成18年)に医道の日本社が『臨時増刊 美容と鍼灸』を発刊したことを皮切りに、現在に至るまで急激な発展を遂げている。マスメディアでも取り上げられる機会も増えており、消費者の関心の高まりとともに、市場はより一層拡大していくことが予想され、求人も増加していくものと考えられる。

スポーツ界では、アメリカなどの影響で、科学的なトレーニングや身体的ケアの重要性が認識され、スポーツトレーナーの需要が増加している。はり師・きゅう師は医療知識と施術能力に優れた人材としての期待から、運動施設やスポーツ団体への就職が増加している。国民の健康に対する意識の向上から、今後この方面からの求人も増加するものと考えられる。

### 就業あん摩マッサージ指圧師等数の年次推移

(単位：人)

各年末現在

	平成20年 (2008)	22年 <sup>1)</sup> (‘10)	24年 (‘12)	26年 (‘14)	28年 (‘16)	30年 (‘18)	対平成28年	
							増減数	増減率(%)
あん摩マッサージ指圧師	101 913	104 663	109 309	113 215	116 280	118 916	2 636	2.3
はり師	86 208	92 421	100 881	108 537	116 007	121 757	5 750	5.0
きゅう師	84 629	90 664	99 118	106 642	114 048	119 796	5 748	5.0
柔道整復師	43 946	50 428	58 573	63 873	68 120	73 017	4 897	7.2

注：1)平成22年は、東日本大震災の影響により、宮城県が含まれていない。

出典：平成30年衛生行政報告例(就業医療関係者)の概況

### あん摩、マッサージ及び指圧を行う施術所等数の年次推移

(単位：か所)

各年末現在

	平成20年 (2008)	22年 <sup>1)</sup> (‘10)	24年 (‘12)	26年 (‘14)	28年 (‘16)	30年 (‘18)	対平成28年	
							増減数	増減率(%)
あん摩、マッサージ及び指圧を行う施術所	21 092	19 983	19 880	19 271	19 618	19 389	△ 229	△ 1.2
はり及びきゅうを行う施術所	19 451	21 065	23 145	25 445	28 299	30 450	2 151	7.6
あん摩、マッサージ及び指圧、はり並びにきゅうを行う施術所	35 808	36 251	37 185	37 682	37 780	38 170	390	1.0
その他の施術所	2 892	2 693	3 103	2 862	2 739	2 679	△ 60	△ 2.2
柔道整復の施術所	34 839	37 997	42 431	45 572	48 024	50 077	2 053	4.3

注：1)平成22年は、東日本大震災の影響により、宮城県が含まれていない。

出典：平成30年衛生行政報告例(就業医療関係者)の概況

### (3) 設置の必要性

医学、医療の高度化と専門化に加え、高齢化の進行、疾病構造の変化等に伴って、医療や健康に対する社会的要求も多様化、複雑化し、質の高い医療技術の提供と、予



防医学・全人的な視点による医療が求められている。このため、現代医学を補完する、補完代替医療（CAM：Complementary and Alternative Medicine）が医療現場に積極的に取り込まれるようになり、最近では、現代医学とCAMの関係をさらに発展させ、両者を統合した統合医療（Integrative Medicine）を構築すべき様々な試みがなされている。このうち、特にCAMの中核である鍼灸医療には、大きい期待が寄せられており、鍼灸師が病院・診療所などの医療機関から求められるようになり、今後益々この傾向は高まるものと予想される。医療機関においては、鍼灸師も医師をはじめ看護師、理学療法士などとチームを組んで医療にあたることが求められている。

また、開業鍼灸師においても、社会および医療の多様化の要請に対応するためには、医療機関との連携が必須となってきている。このような時代の要請に応じるために、幅広い教養と倫理観を身につけ、高度な医療に関する知識・技術を駆使し、他の医療分野の専門家と連携することのできる人材の養成が必要とされている。

本学は保健・医療・福祉・スポーツの総合大学であり、実践的な連携教育を通じてチーム医療を学ぶことができる特色があり、上述の統合医療を担う鍼灸師を育成する下地が整っている。また、2022年(令和4年)1月に文部科学省が発表した「2021年度(令和3年度)科学研究費採択件数」において、「スポーツ科学、体育、健康科学、およびその関連分野(リハビリテーション科学を含む)」で本学は全国4位(私立大学では第2位)となり、本学の研究力の高さを示す結果となった。本学科設置に伴い、神経生理学的アプローチによる基礎研究を専門としている専任教員も着任予定であり、今後学科間連携、産官学連携等を通じたさらなる研究力の向上が期待される。

このような、本学の環境・実績のもと、上記のような社会的要請に応えるため、高度な知識と技術を持ち、日々進歩を続ける鍼灸医療に対応していくことのできる鍼灸師を養成する。

### **3) 鍼灸健康学科の設置の趣旨**

#### **(1) 教育研究上の理念及び目的**

本学の教育理念は、「対象者のQOL（生活と人生の質）向上を考え、QOL向上のため支援を実践する人材（QOLサポーター）を育成」することにある。この教育理念のもと、高度な専門知識・技術と、豊かな人間性、高い倫理観を備えた質の高い医療人の育成を目指すことが目的となる。また、現代医療における鍼灸医療の役割に鑑み、時代のニーズに応え、より指導的な人材を育成することにより、我が国における保健医療へ貢献することを目指す。

教育方針は、いわゆるEBM（Evidence Based Medicine）に基づく現代医学の知識を踏まえ、東洋医学、伝統医療の科学的根拠の研究を進化させ、その研究成果により、現代医療との密接で有機的な繋がりを深めることと、ケアの本来あるべき姿を実践の場において具現化することを目指し、人間形成を重視した基礎教育と充実した実習

時間の確保に加え、専門分野の教育、異なる学科間の交流研鑽を図り、医療福祉現場において鍼灸師もチーム医療の一員として、多職種との連携並びに役割の提示を行い社会的向上を図る。

このような教育方針のもと、我が国における保健医療福祉分野におけるリーダー、教育者、研究者等の人材の輩出により、患者、利用者の生活の自立と QOL の向上を図り、国民の保健衛生、社会発展に寄与、貢献することを本学の使命とする。研究テーマとしては、保健医療福祉を受ける側の多様化した現状を踏まえ、代替医療、予防医学、高齢者、障害者に対する医療、看護、ストレスマネジメント、難病の緩和ケア、ターミナルケア、スポーツ障害、美容鍼灸等の領域における鍼灸の可能性を追究していく。

本学は2001年（平成13年）に開学して以来、医療専門職の学科増設を重ねている。本学では全学共通のコアカリキュラムに「連携基礎ゼミ」、「連携総合ゼミ」等の科目を設定しており、さまざまな医療専門職を理解し、連携を図る「チーム医療」の基礎を学べるのが大きな特色のひとつである。鍼灸師は地域医療や現代医療において他の医療専門職と協働してチーム医療を実践することが求められている。そのため、医療機関に勤務するさまざまな専門職の役割や考え方、さらには連携の仕方をこの学びの中で理解し実践することは、卒業後に医療専門職として従事するうえで貴重な経験となる。

以上の理念及び目的のもと、チーム医療の一翼を担う医療専門職として、幅広い視野と豊かな人間性、高い倫理観をもち、的確な対人関係形成力、他者との協調・協働力、継続的な自己研鑽力を身に付け、他の医療専門職と協働して地域医療や現代医療に貢献できる鍼灸師を養成するため、リハビリテーション学部鍼灸健康学科を設置する。なお、本学科において研究対象とする中心的な学問分野については、保健衛生学／鍼灸健康学である。

## (2) 養成する人材像

本学科では、以下の資質・能力を備える鍼灸師を養成する。

- ① 優れた治療技術を有するだけでなく、現代医療における鍼灸医療の役割を踏まえて医師および他の医療従事者と適切な連携ができる。
- ② 人々に寄り添い、医療人として、その健康を真摯に支えることができる。
- ③ 臨床データを踏まえた科学的なアプローチによって、医学の科学的解明に貢献できる。

養成する人材像に鑑み、鍼灸健康学科においては、高度な専門的知識と技能に加え、医療専門職として多職種間で連携した課題探求能力、問題解決力、論理的に思考し議論する能力を身に付け、科学的な根拠に基づいた適切な判断能力をも身につけた人材を育成することに努める。地域医療や現代医療に貢献するため、「はり師」「き

ゅう師」の国家資格を取得し、鍼灸師として保健・医療・福祉の分野において活躍する人材の育成を行う。本学科及び本学内において、「保健・医療・福祉・スポーツの総合大学」としての特色を活かした保健・医療・福祉領域の高度の連携教育を提供することは、幅広い教養と豊かな人間性を涵養し、このような人材の育成へと繋がるものとする。

### (3) 鍼灸健康学科の特色

中央教育審議会答申『我が国の高等教育の将来像』（2005年（平成17年）1月）において、新時代の高等教育は、全体として多様化し学習者の様々な需要に対応できるか求められている。「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」の項目では、特に大学がもつ機能として次の7つが挙げられている。

- ①世界的研究・教育拠点、
- ②高度専門職業人養成、
- ③幅広い職業人養成、
- ④総合的教養教育、
- ⑤特定の専門的分野（芸術、体育等）の教育・研究、
- ⑥地域の生涯学習機会の拠点、
- ⑦社会貢献機能（地域貢献、産学官連携、国際交流等）

本学は「保健・医療・福祉・スポーツの総合大学」として、『QOLサポーターを支える人材を育成する大学』『地域社会のニーズにこたえる大学』『国際社会に貢献する大学』の3つを大学の基本理念にあげている。上述の大学がもつ7つの機能のうち、大学全体としては特に「③幅広い職業人養成」「⑦社会貢献機能」が本学の主たる機能であると考えられる。

したがって、本学科ではこれらの主たる機能を具現化するため、以下の4点を重視した鍼灸師養成教育課程を構成する。

(ア) チーム医療の中で鍼灸の役割を踏まえ、医師および医療関係者と適切な連携ができる鍼灸師の養成

具体的には以下の4点を兼ね備えた鍼灸師を養成する。

- ① 現代医学的な知識を深め、医療スタッフとは共通言語で話し、鍼灸治療の評価も医療スタッフが理解出来る共通の評価法を用いて評価が出来ること。
- ② 鍼灸治療の適否を的確に判断して、適切な対応をとることができ、かつ治療効果を適切な指標を用いて評価し、客観的なデータで記録できること。
- ③ 東洋医学的治療を行う上で大切な問診や触診や治療技術を高め、患者との信頼関係が構築できること。
- ④ 鍼灸医学の科学的解明に興味を持ち、実証的・論理的・体系的思考力を身につけること。

(イ) 医療分野、福祉分野、スポーツ・美容領域に貢献できる鍼灸師の養成

医療分野、福祉分野、スポーツ・美容領域に精通する、新しい鍼灸医学の構築を目指した包括的なカリキュラムの中で、それぞれの固有性を発揮して機能するための

基礎能力を高め、臨床における確かな実践力を養う。同時に、他職種との協同活動を展開するための幅広い視野と知識を育成し、諸問題への解決能力を養成する。

(ウ)豊かな人間性とコミュニケーション能力を持つ鍼灸師の養成

他学科の学生との融合授業を通し、人と適切なコミュニケーションを図れる人材養成に取り組み、人への思いやりと共感することの出来る心を培い、医療人としての基本的な人間性を養成することに重点を置く。

(エ)豊かな人間性と幅広い知識、技術、それに基づく適正な判断力を身につけた指導的立場に立ち得る鍼灸師の養成

臨床現場においては患者の人格を尊重し、患者本位の立場から安全で有効な最善の医療を施すことが重要である。また、科学的根拠に基づき患者個々にきめ細かく治療法の選択や患者の指導管理を行える能力が要求される。さらに、鍼灸師は独立開業し施術を行う場合が多く、社会性の高い倫理観、問題提起や問題解決能力が強く求められる。本学科では、これらを兼ね備え常に向上心を持ち患者の痛みがわかる専門職医療人を養成する。

上記 4 点を踏まえた「幅広い職業人養成」を行うとともに、大学の基本理念である「地域社会のニーズに応える大学」のもと、鍼灸師会や鍼灸マッサージ師会といった職能団体やその会員および病院等医療機関との連携を通じた教育研究を推進することで「社会貢献機能」を果たしていく。また、これらの活動を通して地域社会に貢献する人材の育成と本学の発展に寄与する。

### 3. 学則変更(収容定員変更)に伴う教育課程の変更内容

#### 1) 新設学科の教育課程の編成の考え方

本学の教育課程は、すべての学科が基礎教養科目群、保健医療福祉基礎科目群、保健医療福祉連携科目群、専門基礎科目群、専門専攻科目群の5つの科目群から構成されている。

そのうち前者3群は全学共通に履修する科目で、後者2群は学科特有の科目である。

#### (1) 全学共通科目

##### ① 基礎教養科目群

基礎教養科目群では、大学人として身に付けるべき必要な情報処理能力、日本語能力、外国語能力、健康体育(スポーツ)に関する科目を配置している。その他学生の安全に対するセーフティーネットとしても働くように、またアドバイザー教員との関

係を築くことができるように「基礎ゼミ」を設けている。

## ② 保健医療福祉教養科目群

保健医療福祉教養科目群は、保健医療福祉と自然科学及び社会科学の主に3つのカテゴリから構成される。保健医療福祉のカテゴリでは、ボランティア、コミュニケーション、心理、人間、QOLという本学の特徴として取り揃えてきたテーマを教授することで幅広く豊かな人間形成を図る。自然科学のカテゴリには、食、命、加齢などを含み、より臨床などの現場に即した内容を展開していく。

さらに、社会科学のカテゴリでは、新潟、国際、制度や法律など、個々人を取り巻く社会の実際について知識を深める。

## ③ 保健医療福祉連携科目群

保健医療福祉連携科目群は、医療福祉関連専門職者として様々な専門知識を習得する上でベースとなる基礎能力を身につけ、専門職種間の相互理解を促す。また、連携教育を行う上で連続する継続的な教育課程とし、到達目標を明確にすることを心がけている。

## (2) 学科専門科目

学科専門科目については、本学科が鍼灸師の養成を目的としていることから、「はり師」「きゅう師」国家試験受験資格に対応する科目編成としており、あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師に係る学校養成施設認定規則別表第一（第二条及び第五条関係）に対応している。

## ① 専門基礎科目群

はり師・きゅう師に必要な医学教養科目、チーム医療の一員として、はり師・きゅう師に要求される現代医学及びスポーツ領域における知識を習得するための科目を配置する。

専門基礎科目群は、はり師・きゅう師学校養成所指定規則で定められている専門基礎分野の教育内容（「人体の構造と機能」12単位、「疾病の成り立ち、予防及び回復の促進」12単位、「保健医療福祉とあん摩マッサージ指圧・はり及びきゅうの理念」3単位）を踏まえた教育課程を編成している。なお、この課程の教育内容は、はり師・きゅう師国家試験受験資格を得るために必要なものとなっている。

専門基礎科目で学習する科目は、1年次から3年次にかけて段階的に配置され、十分な時間をかけて学習することができる編成となっている。具体的には、はり師・きゅう師に必要とされる基礎医学全般の「解剖学Ⅰ」2単位、「解剖学Ⅱ」2単位、「解剖学実習」2単位、「生理学」2単位、「生理学実習」2単位、「病理学」1単位、「病理学実

習」1単位の学習を基に鍼灸師としての医学的基礎力と応用力を養う。

疾病の成り立ち、予防及び回復の促進「免疫学」1単位、「臨床薬理学」1単位、「公衆衛生学」1単位、「公衆衛生学演習」1単位、「臨床医学総論」1単位、「臨床医学各論Ⅰ内科・神経内科」1単位、「臨床医学各論Ⅱ運動器」1単位、「臨床医学各論Ⅲ外科」1単位、「臨床医学各論Ⅳ感覚器」1単位、「疼痛学」1単位、「救急学」1単位、「運動生理学」1単位、「スポーツ心理学」1単位、「トレーニング論」1単位、「予防とコンディショニング演習」1単位、「スポーツ外傷」1単位、「ジェンダー論」1単位、「高齢社会学」1単位の学習をする。それにより鍼灸臨床を行う上で必要な臨床医学である診察診断学、臨床医学各論などの科目を学習し、鍼灸師としての臨床能力を養うとともに医療関係者と適切なコミュニケーションがとれる能力を身につけることを目的とする。

保健医療福祉とあん摩マッサージ指圧・はり及びきゅうの理念「メンタルヘルス学」1単位、「養生学」1単位、「栄養学」1単位、「心の発達と維持」1単位、「メンタルヘルスマネジメント」1単位、「漢方薬概論」1単位、「生薬学」1単位、「方剤学」1単位、「高齢者ケア実習」1単位、「経済と経営」1単位、「起業の精神と実践」1単位の学習を基に、鍼灸師としての臨床や経営能力を養うとともに医療関係者と適切なコミュニケーションがとれる能力を身につけさせるため配置する。「基礎医学研究セミナー」1単位、そして、卒業研究に向けて、研究手法やプレゼン技法を学ぶために、「プレゼンテーション方法論」1単位、「臨床研究デザイン学」1単位の計14単位を配置した。

以上のはり師・きゅう師養成所指定規則で定められている科目は全て必修科目として配置しており、本学科の人材育成の目的に照らし、1年次には基礎医学全般を、2年次と3年次には鍼灸医学基礎並びに臨床医学について学習する。これにより医療人として当然具有すべき高い倫理観と創造性豊かな思考力と科学的判断力を身につけるために、生命倫理や医療に関する法的知識、さらには人間の心理、医療に関わる歴史と文化、漢方医学などについて広く学び、東洋医学の専門家としての資質の向上を図ることができる能力を養う。

## ② 専門専攻科目群

鍼灸やその安全性に関する知識と技術、鍼灸治療に必要な東洋医学の基本的な生理観、病理観、治療技術やその評価法、および鍼灸治療の適応範囲に関する知識を習得させるための科目を配置する。

さらに、これらの知識や技術を臨床の場で確認、実践するための臨床実習科目、および鍼灸医学が医療を担う一分野として発展していく上で必要な、現代医学に基づく基本的な科学的思考を身につけさせる科目を配置する。

専門専攻科目群は、専門基礎科目群と同様のはり師・きゅう師養成所指定規則で定められている専門分野の教育内容「基礎あん摩マッサージ指圧学、はり学・きゅう学」9単位、「臨床あん摩マッサージ指圧学、はり学・きゅう学」13単位、「社会あん摩マ

「マッサージ指圧学、はり学・きゅう学」2 単位、「実習」15 単位、「臨床実習」4 単位、「総合領域」10 単位を踏まえた教育課程を編成している。

すなわち、専門科目では、共通基礎科目、専門基礎科目で学習したことをベースとし、鍼灸医学の基本的診療能力を学習させるとともに、鍼灸師としての人間的な資質の向上と鍼灸臨床を自立して実践できる臨床能力を養うことを目的とした科目として配置する。

専門専攻科目で学習する科目は、はり師・きゅう師養成所指定規則で定められている専門分野別に、1 年次から 4 年次にかけて配置され、十分な時間をかけて学習することができる編成となっている。

「基礎あん摩マッサージ指圧学、はり学・きゅう学」では、本学科の目指す鍼灸健康学、鍼灸の歴史や概論、治効理論等について学習するため「鍼灸健康学ゼミ」1 単位、「鍼灸健康学概論」1 単位、「経絡経穴学」2 単位、「経穴経絡学実習」2 単位、「東洋医学概論」2 単位、「伝統鍼灸学概論」1 単位、「鍼灸治効理論」1 単位、「中医診断学基礎」1 単位の 8 科目を必修科目として学習する。

次に、「臨床あん摩マッサージ指圧学、はり学・きゅう学」では、人体各部の臓器、構造、疾患、病態などを正しく理解し、鍼灸臨床において診断、鑑別、評価、治療について学習するため、「伝統鍼灸診断学演習」1 単位、「臨床鍼灸学Ⅰ（内科・神経内科）」2 単位、「臨床鍼灸学Ⅱ（運動器）」2 単位、「臨床鍼灸学Ⅲ（感覚器）」2 単位、「疼痛管理鍼灸学」1 単位、「リハビリテーション学総論」1 単位、「リハビリテーション学各論」1 単位、「中医診断学演習」1 単位、「メンタルヘルス鍼灸学」1 単位、「鍼灸リスクマネジメント学」1 単位、「リハビリテーション鍼灸学」1 単位の計 14 単位を必須として配置し、「スポーツ鍼灸学」1 単位、「レディース鍼灸学」1 単位、「高齢者鍼灸学」1 単位の 3 単位を選択として学習する。

次に、「社会あん摩マッサージ指圧学、はり学・きゅう学」では、「社会鍼灸学」1 単位、「関係法規」1 単位と計 2 単位を学習する。

次に、「実習」では、臨床各科領域における主要疾患と主要症状、および鍼灸臨床と関連の深い特定疾患と特定症状を取り上げ、疾患の概要と病態の把握の方法、鑑別および評価について学習する目的で、「鍼技術学実習」2 単位、「灸技術学実習」2 単位、「鍼灸治効理論実習」2 単位、「臨床鍼灸学実習Ⅰ（内科・神経内科）」2 単位、「臨床鍼灸学実習Ⅱ（運動器）」2 単位、「臨床鍼灸学実習Ⅲ（感覚器）」2 単位、「メンタルヘルス鍼灸学実習」2 単位、「リハビリテーション鍼灸学実習」1 単位の計 15 単位を必須とし、「高齢者鍼灸学実習」1 単位、「スポーツ鍼灸学実習」1 単位、「レディース鍼灸学実習」1 単位、「健康美容鍼灸学実習」1 単位の計 3 単位を選択科目として配置する。この実習では、鍼灸治療の適応と限界を的確に判断できるようにし、現代医療における鍼灸の役割とそれとの関連性について理解できるようにする。その上で、学習で取り上げた疾患や症状に対して鍼灸治療の基本的な方法をシミュレ

ーション実習により習得させる。

次に「総合領域」では、実地臨床で適切に患者対応ができるようにするために医療面接の技法を学習させ、臨床実習につなげるようにした。科目としては、「医療面接演習」1単位、「臨床倫理学」1単位、「鍼灸経営学」1単位、「運動機能解剖学」1単位、「鍼灸健康学特講演習Ⅰ（基礎）」1単位、「鍼灸健康学特講演習Ⅱ（臨床）」1単位の計6単位を必須項目として配置する。また選択科目として、「シニアスポーツ鍼灸学」1単位、「健康美容鍼灸学」1単位、「手技療法演習」1単位、「鍼灸臨床で応用するストレッチ術演習」1単位、「新領域の鍼灸」1単位、「鍼灸の歴史と偉人」1単位、「災害と鍼灸」1単位、「医療連携と鍼灸」1単位、「鍼灸と統合医療」1単位の計9単位として配置する。

これらの臨床鍼灸医学に係る授業の学習成果を踏まえて、附属鍼灸センターでの臨床実習を行い、実地臨床の実習現場において、基礎から臨床それぞれの科目が有機的に結合できる診療能力を養う。加えて、実習日の午後には症例報告の書き方・発表の仕方の指導、症例検討（カンファレンス）を行い、着実に臨床技術が習得できるようにする。〔資料1：教育課程等の概要〕〔資料2：教育課程と指定規則との対比表〕〔資料3：臨床実習施設機関一覧〕

### **(3) 本学科設置による教育課程上の他学科への影響**

#### **① 全学共通科目（基礎教養科目群、保健医療福祉教養科目群、保健医療福祉連携科目群）**

本学科が設置されても全学共通科目の教育課程の変更はなく、従来と同等の内容が担保される。

#### **② 専門基礎科目群及び専門専攻科目群**

専門基礎科目群及び専門専攻科目群は、原則として、本学科単独開講する。ただし、専門基礎科目群の一部科目（解剖学・生理学等）においては、複数学科による合同授業とする。本学科の開設により、他学科の教育課程に影響を及ぼすことなく、教育課程も従来と同等の内容が担保される。

## **2) 教育方法及び履修指導方法**

### **(1) 教育方法**

#### **① 授業形態・内容に応じたクラスサイズ**

本学科の授業科目は、1学年2クラスとして授業を開講する。ただし、全学共通科目は一部を除き、授業形態や授業効果等を考慮し、合同クラスとして開講し、専門基礎科目群及び専門専攻科目群では、実技を伴う授業においてグループ分けによる授業を実施する。なお、保健医療福祉教養科目群の各科目（計29科目）は、学生が興味・関心に



応じて選択する科目であり、全学で1クラス200人程度を履修定員の上限としている。

〈複数クラス・グループ及び複数の担当教員で実施する科目〉

(ア)全学共通科目(基礎教養科目群、保健医療福祉教養科目群、保健医療福祉連携科目群)

- ・「英語Ⅰ・Ⅱ」については、学生の能力別のクラス編成とする。(1クラス30人以内)。その他の外国語科目(選択科目)についても、同様のクラスサイズとする。
- ・「スポーツ・健康」は安全面を考慮し、学生を1クラス35人以下のクラス編成とし、演習形式で実施する。「スポーツ・実践」についても同様のクラスサイズとする。
- ・必修科目である「基礎ゼミ」は、4学科ともに1クラス4~5人とし、学科の専任教員が各ゼミを担当する。また、本学全13学科の学生の混成による「連携基礎ゼミ」については、1クラス5~6人とする。

(イ)専門基礎科目群及び専門専攻科目群

- ・実習科目については、複数の専任教員を中心に兼担・兼任を含め担当する。
- ・演習・実習形式の授業は、グループ学習により実施し、1グループ6~8名程度とする。

## ② 入学前教育の実施

本学では総合型選抜及び推薦入試により合格した入学予定者を対象とし、入学前教育を実施している。対象者には入学手続書類とともに課題を同封し、期限までに提出を義務づける。

具体的な実施内容は、基礎科目強化のための学科指定科目のドリル配布、eラーニングを活用したスタディスキルの習得に加え、スクーリングの実施により入学前の動機づけを図る。また、学習支援センターと連携し、入学前学習セミナー(高等学校での未履修科目等への対応)や大学講義体験セミナーを実施しており、一部のセミナーは一般入試による入学決定者も対象に受講を募っている。

本学科の入学生に対しても同様の入学前教育を実施することで、入学後の授業に備えるための支援とする。

## ③ 「基礎ゼミ」の実施

「基礎ゼミ」(1年次前期)は大学生活のスタートにあたり、担当の専任教員がアドバイザーとなり、さまざまな相談ができる体制を取っている。「基礎ゼミ」の授業内容は、学生によるゼミ活動が中心となるが、これから専門分野を学習するために必要な基礎的な知識や技術として、コミュニケーションスキルやスタディスキル、レポート

の作成法やプレゼンテーション技術、図書館における情報検索のオリエンテーションについて学ぶ。さらに、大学入学時点から鍼灸師としてのキャリアデザインの形成、国家試験受験への意識づけについても行う。

#### ④ 教育課程を通じた規律性の醸成

はり師・きゅう師として必要とされる専門知識と技術を習得し、常に進歩する現代医学や医療技術に対応しうる能力を有し、健全な人間性と倫理観、常に専門性を追求する意欲をもち、他の専門職と協働して地域医療や介護・福祉医療に貢献する能力が求められている。

したがって、授業の開始・終了時や日常の学生・教員間の挨拶を励行するとともに、演習・実習の授業時において、他者と協同する学修活動を通じ、チームとしての規律性や連帯感の意義を醸成する。

#### ⑤ 本学科設置による他学科への影響等

上記①～④で述べたことを踏まえ、本学科の設置による他学科への教育方法の影響は次のとおりである。

ア) 全学共通科目については、他学科においても上記①で述べたクラスサイズを踏襲している。したがって、本学科においても全学共通科目の教育方法は同等以上に保たれる。

イ) 上記②・③は、本学で既に実施されており、学科の専任教員の活用と十分な職員体制により、従来の方法を踏襲可能としている。

ウ) 保健医療福祉教養科目群は計 29 科目の開講となる。

収容定員増に対応するべく、従前の教育課程に 1 科目を追加し、履修定員 200 人以内を維持する。

エ) 専門基礎科目群及び専門専攻科目群については、一部の科目を除き、本学科の単独開講である。ただし、専門基礎科目群の一部科目(解剖学・生理学等)においては、リハビリテーション学部内の複数学科による合同授業とするが、他学部との合同授業を行う科目はない。

上記ア)～エ)で述べたことから、本学科の設置により、他学科に大きな影響を及ぼすような教育方法の変更が生じることはない。また、他学科と同等以上の教育方法が保たれる。

## (2) 履修指導方法

### ① オリエンテーションの実施

入学時にオリエンテーションを実施し、科目の履修登録方法、シラバスの活用方

法、CAP 制等について指導する。また、各学年末にも新年度の履修等についてオリエンテーションを実施し、指導する。

#### 〈CAP 制の考え方〉

CAP 制については、本学科では原則として年間 50 単位までとする。本学科の教育課程における各科目の配当年次から、実際には 1 年次に 36 単位程度、2 年次に 36 単位程度、3 年次に 38 単位程度を履修することとなるが、学生の興味・関心に応じ、全学共通科目を卒業要件以上に履修できる余地を残し、年間の履修上限単位数は 50 単位までとした。

### ② アドバイザー制

基礎ゼミを担当する担当専任教員がアドバイザーとなり、「大学での学習」、「将来の目標」、「友人や先生との人間関係」等、新入生が抱くさまざまな不安に対し 1 年間を通じて相談に応じ、充実した大学生活を送ることができるように支えていく。本アドバイザー制は、すべての学科に共通の支援体制として導入している。

### ③ 学年担任制

本学科では「鍼灸健康学ゼミ」（2 年次前期）の担当教員及び卒業研究（4 年次）担当教員と併せ、学年担任制（各学年 2 名）を導入する。学科ゼミを開講しない期間（1 年次、2 年次後期、3 年～4 年次）の指導・支援体制を補完するとともに、1 年次から卒業時まで当該学年の担任が責任を持ち、一貫して学生指導・支援を行う体制とする。

### ④ 履修モデルの提示

履修モデルは、様々な分野で活躍できる鍼灸師を目指す学生の多様なニーズに対応できるモデルとなっている。学期ごとに学年別の履修ガイダンスを実施したうえで、学生の適性や能力に応じて履修選択科目に関する助言を行う体制を整備し、学生の履修指導体制を構築する。

1 年次には、導入教育および教養教育を主に行う。また、鍼灸師となるためのモチベーションを高めるとともに、2 年次以降にある専門科目を学ぶための基礎となる現代医学の基礎を学びながら、鍼灸医学の基礎である東洋医学への理解を深めることを中心に構成した。

2 年次には現代医学の専門基礎科目に臨床科目を加え、臨床鍼灸学を学ぶ準備段階として位置付け構成した。

3 年次前期には臨床系鍼灸学を中心に学習するようにした。

3 年次後半から 4 年次では、基礎分野、専門基礎分野で学習したことをもとに、現代

医学的な病態把握の理解を深めつつ、医療面接、臨床実習、カンファレンス（症例検討）、症例報告の書き方・発表の仕方などを通して、鍼灸医学の臨床実践能力を習得することができる科目を配当した。

臨床実習は、2・3・4年次に配当し、講義や演習、実習で学んだ内容を基本にしなが  
ら、鍼灸診療の実践を身につけるように配置した。

さらに、卒業研究を通して、これまでに学習してきた科学的な思考と分析と総合する能力を、卒業研究課題を通して習得させることとした。〔資料4：履修モデル〕

### ⑤ オフィス・アワー

各専任教員は、学生からの学修・進路相談等にに対応できるように、週1回以上、オフィス・アワーを設定する。設定されたオフィス・アワーにおいては、学生はいつでも専任教員の研究室を訪問することができる。全学科共通の指導・支援体制として導入している。

### ⑥ 本学科設置による他学科への影響等

上記①～⑤で述べたことを踏まえ、本学科の設置による他学科への履修指導方法の影響は次のとおりである。

(i) 上記①～⑤は、すべて従前のリハビリテーション学部において、すでに取り組みられている方法であり、学科の専任教員と十分な職員体制により、従来の方法を踏襲する。

(ii) 上記③については、各学科において運用方法の差異はあるものの、アドバイザー制との併用により、強固な履修指導方法体制であると考ええる。

上記(i)(ii)で述べたことから、本学科の設置により、他学科に影響を及ぼすような履修指導方法の変更が生じることはない。また、他学科と同等以上の教育方法が保たれる。

### (3) 他大学における授業科目の履修の考え方

教育上有益と認められるときは、本学入学前に他の大学（又は短期大学）において履修した授業科目について既に修得した単位を、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。また、同じく教育上有益と認められるときは、他の大学（又は短期大学）との協議に基づき、当該他大学（又は短期大学）の授業科目を履修させることができる。この場合、履修した授業科目について修得した単位については、60単位を限度として卒業要件単位として認める。

#### (4) ディプロマポリシー及び卒業要件

本学では建学の精神である「優れた QOL サポーターの育成」のもと、これに求められる資質・能力を5項目あげ、その英語の頭文字をとって「STEPS」と定義している。本学科のディプロマポリシーにおいても既設学科同様、「STEPS」に基づいたポリシーを作成しており、その内容は以下のとおりである。

##### 〈本学科のディプロマポリシー〉

Science & Art 科学知識と技術を活用する力	鍼灸師に必要とされる科学的知識と技術を習得し、幅広い教養を有するとともに、鍼灸師に必要とされる科学的知識と技術を習得し、それらを臨床現場で活用できる。
Teamwork & Leadership チームワークとリーダーシップ	鍼灸師としての高い技術と多職種連携の技能を有し、アジア地域の一員として、対象者および他の職種と良好なコミュニケーションを図りながら、リーダーシップを発揮できる。
Empowerment 対象者を支援する力	社会人として、また医療人として、幅広い視野を持ってさまざまな問題に柔軟に対応できる能力を備え、高い倫理観や協調性を身につけている。
Problem-solving 問題を解決する力	鍼灸師として必要な専門知識と技術などの論理的思考力を有し、それらを総合的に活用しながら正確な判断のもと問題解決ができる。
Self-realization 自己実現意欲	最新の医療・鍼灸技術の進歩に広く関心をもち、生涯を通じて主体的・意欲的に学習できる。

本学科の教育課程は、全学共通科目である基礎教養科目群、保健医療福祉基礎科目群、保健医療福祉連携科目群と学科専門科目である専門基礎科目群、専門専攻科目群から構成されている。卒業にあたっては、各科目群の最低取得単位数を修得することが必要である。卒業のために必要な科目数、履修単位等については次表の通りである。

##### 鍼灸健康学科の卒業要件

科目群	履修科目数/単位数
基礎教養科目群	必修 6 科目/6 単位 計 6 科目以上/6 単位以上
保健医療福祉教養科目群 保健医療福祉連携科目群	必修 2 科目/2 単位 選択 6 科目以上/6 単位以上 計 8 科目以上/8 単位以上
専門基礎科目群	必修 39 科目/44 単位 計 39 科目/44 単位
専門専攻科目群	必修 39 科目/56 単位 選択 10 科目以上/10 単位以上 計 49 科目以上/66 単位以上
合計	必修 86 科目/108 単位 選択 16 科目以上/16 単位以上 計 102 科目以上/124 単位以上

### 3) 教員組織の変更内容

#### (1) 鍼灸健康学科の専任教員構成

本学科では、医療サービス対象者と良好な関係を構築するためのコミュニケーション力、論理的思考力、判断力を身に付け、科学的考察に基づく総合的な問題解決能力を有する鍼灸師を養成するため、演習科目や卒業研究の指導に関しても十分な教育力、指導力をもつ教員を配置し、他の医療専門職と協働して地域医療や現代医療に貢献できる鍼灸師の育成を目指す。

専任教員は教授4名、准教授2名、講師2名、助教1名の計9名を配置する計画である。あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師に係る学校養成施設認定規則により、入学定員40名の本学科では、鍼灸師、医師またはこれと同等以上の学識経験を有する者である専任教員が6名以上必要となるが、本学科の専任教員は医師1名、鍼灸師8名から構成される。鍼灸師である教員はり師・きゅう師の分野において教育上、研究上の優れた知識と能力を有している。

また、専任教員の配置にあたっては、博士号の学位の保有状況をはじめ、それぞれの領域(医療鍼灸2名、福祉鍼灸2名、スポーツ鍼灸2名、女性・美容鍼灸1名、漢方医1名、基礎研究1名)における教育実績や研究業績、実務経験などと担当予定授業科目との適合について、十分な検討のもとに配置しており、はり師・きゅう師養成所指定規則で定められている、主要科目については専任の教授・准教授を中心に教員を配置している。さらに、職業人養成機能を果たすことから、鍼灸健康学に関する豊富な臨床経験を有する教員を配置するとともに、学部教育として研究機能を果たすことから、博士号等の学位や十分な研究業績を有する教員をバランスよく配置している。なお、専任教員9名のうち、博士号取得者は7名、修士号取得者は2名である。専門科目については、医療専門職養成の観点から臨床現場の経験が豊富な鍼灸師を配置することで、臨床に直結した教育に反映することが可能となる。

また、大学という高度な専門的知識の教育と研究の場としての役割を果たすべく、教育実績及び研究実績の豊富な教員を配置することで、教育及び最新の研究と臨床現場で必要とされている能力が直結できるように工夫する。さらに、卒業研究は教授、准教授、講師、助教が全員担当することで、常に進歩する鍼灸技術や医療技術に対応しうる能力、科学的考察に基づく総合的な問題解決能力が身に付くように配慮した。

就任時期に関しては、専任教員9名のうち、全教員が開設時に、就任する予定である。〔資料5：学校法人新潟総合学園就業規則(抄)〕

## (2) 本学科設置による他学科への影響

本学科の設置により他学科の教員組織に与える影響については、下記のとおりである。

- ア) 本学科設置による専任教員は全員新規採用のため、他学科の教員組織に変更は生じない。
- イ) 基礎教養科目群の必修科目である「英語Ⅰ・Ⅱ」「スポーツ・健康」については、上述の通り、1クラス30人以内、35人以内の編成を原則としている。  
本学科の入学定員を2クラスに編成した授業時間割とするため、各科目ともに兼任教員2名の担当が増加する。これらの、必修科目の兼任教員は各開講学期において、担当授業が1コマずつ増えることとなるが、過重な負担が生じないように担当教員を配置しており、教育・研究に支障が生じるほどの影響はない。
- ウ) 保健医療福祉教養科目群(計29科目：各1単位)は、従来までの教育課程に1科目追加する。したがって、新規に科目を担当する専任及び兼任教員の負担は1単位(講義8回)分増加するものの、過重な負担とはならない。
- エ) 専門基礎科目群の「解剖学Ⅰ」「解剖学Ⅱ」「解剖学実習」「生理学」「生理学実習」「臨床薬理学」「公衆衛生学」「公衆衛生学演習」「救急学」「栄養学」については、兼任教員が担当する。したがって、一部科目の担当教員は各開講学期において、担当授業が1コマずつ増えることとなるが、過重な負担が生じないように担当教員を配置しており、教育・研究に支障が生じるほどの影響はない。一方、これらを除いた専門基礎科目群及び専門専攻科目群については、本学科の専任教員または兼任教員が担当するため、兼任教員の負担は生じない。  
上記ア)～エ)で述べたことから、本学科が設置された後においても従来と同等以上の教員組織が維持される。

## 4. 校舎等施設、設備等の整備計画

### 1) 大学全体としての施設、設備の整備

本学は新潟市北区に所在し、周囲は農地等に接する森閑とした地域に229,924㎡の校地を有している。キャンパス周辺に商業施設等がないことから、後述のように学内の学修環境の充実を図るとともに、学生の休息利用を含めた空地にも十分な面積を確保している。

運動場用地としては、58,612㎡を有しており、運動施設としては、体育館4棟(1709.43㎡、630.00㎡、2630.51㎡、1807.38㎡)、温水プール(25m×6コース)が整備済みであり、これらを全学科で共用している他、第4種公認の全天候型400mトラック陸上競技グラウンド、硬式野球グラウンド、及び人工芝テニスコート4面、トレーニングセンター3室、屋内投てき練習場が整備されている。

また、2015年度（平成27年度）に、新校舎を建築した旧グラウンドの代替として、隣接地を多目的広場（4762.00㎡）として整備し、授業及びクラブ・サークル等の学生の厚生活動のために利用している。

大学設置基準に定める必置施設は既存校舎において整備されており、今回の収容定員の増加に備え、大学全体として既存・新設含め以下の施設の整備を進めており、本学科が設置されても施設設備に関して教育研究上の支障は生じない計画とする。

### **(1) 第11研究・実習棟（U棟）内の講義室**

後述する、鍼灸健康学科の学科専用施設となる第11研究・実習棟（U棟）の1・2階に、大学全体で共用する大講義室（210人規模）1室、中講義室1室（120人規模）小講義室（60人規模）2室を設置する。第2講義棟と併せて講義科目や演習科目での使用を中心に収容定員の増加に対応可能としている。

### **(2) 第4体育館（R棟）**

第4体育館（R棟）は基礎教養科目群の「スポーツ・健康」や「スポーツ・実践」を始めとする利用に対応しており、今回の収容定員の増加に伴うクラス数の増加に対応できるようにしている。

### **(3) 就職センターの拡充**

就職センターには、キャリア開発室の専任職員が増員され、現在10名が常駐している。また、各学科の就職センター運営委員とキャリア開発室が一体で就職支援にあたり、学生一人ひとりの就職活動及び内定状況の情報を共有し、活動が遅れている学生に対しては、就職センター運営委員及び卒業研究ゼミの担当教員が個別に支援している。

開室時間内であれば、学生は専任職員にいつでも相談ができる体制であるが、大学全体の収容定員の増加に伴い、施設・設備が手狭になったことから、2016年度（平成28年度）に同一校舎内の別室に移転し、センター機能を拡充した。

また、新型コロナウイルス感染症の感染予防のため、必要に応じて対面での支援に加え、オンラインを活用した支援を充実させ、学生のニーズに伴った相談支援体制を構築した。

### **(4) 図書館の整備計画**

本学図書館は閲覧席を主として3階フロアに配置し、館内全体で394席確保されている。2階フロアは主として書架が配置されている。1階フロアにはラーニングコモンズと学習支援センターの機能が付加されており、図書館のさまざまな情報資源を棟内に居ながら活用できる学習環境となっており、学生の研究活動等に資する施設・設備



をとっている。

蔵書はデータベース化されており、OPAC（オンライン蔵書目録）から学内図書及び電子ジャーナル等の検索が可能であるとともに、図書検索用パソコンや学生個人パソコンの使用スペースも確保されている。また、他の図書館が所蔵する図書を取り寄せることも可能である。平日は午前8時45分から午後10時まで、土曜日は午前9時から午後5時を開館時間としているが、定期試験及び国家試験等の開催時期に合わせ、日曜日・祝祭日も開館している。2015年度(平成27年度)には年間300日以上の開館実績を持ち、学生がより利用しやすい学習環境の開放・提供に努めている。

なお、購入する図書の一部については、図書館の蔵書管理下で合同研究室等にも配置することにより、学生の利便を図ることとしている。

本学の図書館では2022年（令和4年）3月現在、約128,000冊の書籍及び約10,000種の学術雑誌を揃えており（蔵書可能数105,000冊余）、大学の特質から特に基礎医学系の図書が充実している。そのため、鍼灸健康学に関する図書を中心に、学科開設時に350冊の書籍、28冊の雑誌、1冊の洋書、11のDVDを新規に購入する。

紙媒体の学術雑誌についても、本学図書館に基礎医学系の雑誌が充分揃っていることから、鍼灸学の主要誌である『全日本鍼灸学会』『Journal of Integrative and Complementary Medicine』『Complementary Medicine Research』『Acupuncture in medicine』『日本温泉気候物理医学会雑誌』『日本東洋系物理療法学会誌』『伝統鍼灸』『鍼灸 osaka』『日本東洋医学雑誌』『東方医学』『経絡治療』『現代鍼灸学』『中医臨床』の計13誌を定期購入する予定である。また、利用契約を結んでいる「メディカルオンライン」「医書.jp オールアクセス」等から電子ジャーナルの閲覧が可能であることから、本学科の学修に必要な図書・学術雑誌に不足はないと考える。そのほか、インターネット上の各種データベース検索機能の整備、及び医学系の分野で定評のある電子ジャーナル媒体との契約（合計約5,500タイトル）により、教員・学生へのニーズに対応している。引き続き、最新情報や論文のフルテキストを取得できる電子ジャーナルの充実に努める。

なお、本学図書館は、全国組織としての日本図書館協会（大学図書館部会）、私立大学図書館協会、JUSTICE（大学図書館コンソーシアム連合）に加盟しており、全国の大学を始めとした図書館とネットワークを組んでいる。

## **(5) 学生食堂**

大学全体では、現在4つの学生食堂が設置されており、座席数2,270席が確保されている。中でも、第9研究・実習棟（S棟）2階に配置してある学生食堂には、座席数696席が確保されており、学生の学習スペースとしても十分に活用できるように、LAN環境を整備し、インターネットによる文献検索や情報収集を行うことができる場所となっている。他3つの学生食堂と分散した利用がされており、今回の収容定員増

加にも十分対応できる施設数となっている。

## 2) 学科独自の設備

大学敷地内に新たに5階建の第11研究・実習棟(U棟)を建築し、1階、2階、3階の一部が鍼灸健康学科の専用となる計画となっている。1階の附属鍼灸センターには、治療室5室、美容鍼灸治療室1室、等を設置する。その他、待合室、スタッフルーム等の鍼灸センターを運営していくうえで、必要なフロアを設置する。

2階は実習フロアとなっており、1179.75 m<sup>2</sup>のうち385.95 m<sup>2</sup>が専用となり、鍼灸実習室2室、小講義室2室、多目的室を設置する。この他に、更衣室、ゼミ室、用具庫等を配置する。1階附属附属鍼灸センターと2階実習フロアの実習室を合わせ、鍼灸師養成教育にとって必要な実践的で効果的な実習教育を実施するための充実した環境を構築することになっており、実験・実習が無理なく実施することが可能である。養成施設指導要領に記載のある「基礎医学実習室」は第2実験実習棟(GA棟)4階の実習室を使用する予定である。

3階フロアは、1299.13 m<sup>2</sup>を有し、専任教員用研究室10室、合同研究室1室、院生室1室を配置する。

教室については、他学科と共同で利用する1階の大講義室1室、2階の中講義室1室、小講義室2室、多目的室1室のほか、第2講義棟(Q棟)等を利用する。第2講義棟(Q棟)には小講義室5室、大講義室6室を設けている。そのため、講義室には余裕があり、施設・設備の使用に支障が出ることはない。

## 3) 新設学部等の設置による施設稼働上の影響

### (1) 鍼灸健康学科

#### ① 全学共通科目

ア) 記述のとおり、「英語Ⅰ・Ⅱ」は、本学科1学年2クラス編成とするため、小講義室の使用が2室増加するが、第2講義棟(Q棟)、今回新築の第11研究・実習棟(U棟)の稼働により、講義室の不足が生じることはない。

イ) 「情報処理Ⅰ・Ⅱ」は、本学科1クラスがLAN環境の整備された既存校舎の中講義室(120～160名規模)を使用する。中講義室の稼働率は現在平均60%程度であること、また今回新築の第11研究・実習棟(U棟)内にLAN環境の整備された大講義室を設置予定であり、本学科の開設により講義室が不足することはない。

ウ) 「スポーツ・健康」は、学内の体育館、グラウンド等の運動施設で行う。既存の運動施設により十分対応可能であり、本学科開設による授業の実施に支障はない。

エ) 保健医療福祉教養科目群の各科目は、大講義室を使用する。既述の通り、第2講義棟(Q棟)、今回新築の第11研究・実習棟(U棟)を使用することにより、大講義室が不足することはない。

## ② 専門基礎科目群及び専門専攻科目群

ア) 講義及び演習形式の科目を原則として第 11 研究・実習棟 (U 棟) において実施することとする。2021 年度(令和 3 年度)の状況では、他の 13 学科の授業時間割においても支障はなかったが、第 11 研究・実習棟 (U 棟) の供用開始により、いっそう講義室の余裕が生じることとなり、施設・設備の使用に支障が出ることはない。

イ) 実習科目については、本学科専有である第 11 研究・実習棟 (U 棟) 内の各実習室で授業を行うため、他学科への影響は生じない。

[資料 6-1 : 完成年度の鍼灸健康学科時間割案(令和 8 年度前期)]

[資料 6-2 : 完成年度の鍼灸健康学科時間割案(令和 8 年度後期)]

## (2) 教育課程外への影響

2017 年度 (平成 29 年度) に供用開始となった第 9 研究・実習棟 (S 棟) 2 階は厚生施設 (学生食堂) を配置している。座席数は約 700 となっており、本学科の開設等による学生数の増加に対応するべく、学生の学習スペースとしても十分に活用できるように、LAN 環境を整備し、インターネットによる文献検索や情報収集を行うことができる場所とする。従来は、昼食時間帯や定期試験時期等のピーク時を中心に、厚生施設が混み合うことが目立っていたが、新たな厚生施設の稼働により、既存の厚生施設と併せ、分散した利用が期待される。

## 学則の変更の趣旨等を記載した書類 添付資料目次

資料 1	教育課程等の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
資料 2	指定規則との対比表・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
資料 3	臨床実習施設機関一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8
資料 4	鍼灸健康学科履修モデル 1・2・・・・・・・・・・・・・・・・	9
資料 5	学校法人新潟総合学園就業規則(抄)・・・・・・・・・・	10
資料 6 - 1	完成年度の鍼灸健康学科時間割案(令和 5 年度前期)・・	12
資料 6 - 2	完成年度の鍼灸健康学科時間割案(令和 5 年度後期)・・	14

〔資料1〕

別記様式第2号 (その2の1)

(用紙 日本産業規格A4縦型)

教育課程等の概要														
(リハビリテーション学部鍼灸健康学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎 教養 科目 群	基礎ゼミ	1前	1				○		4	2	2	1	0	兼1 兼1 兼2 兼2 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼2 兼1 兼1 兼1 兼1
	情報処理Ⅰ	1前	1				○							
	情報処理Ⅱ	1後	1				○							
	情報処理Ⅲ	2前		1			○							
	英語Ⅰ	1前	1				○							
	英語Ⅱ	1後	1				○							
	アカデミック英語Ⅰ	2・3・4前		1			○							
	アカデミック英語Ⅱ	2・3・4後		1			○							
	アカデミック英語Ⅲ	2・3・4後		1			○							
	韓国語Ⅰ	1・2後		1			○							
	中国語Ⅰ	1・2後		1			○							
	スペイン語Ⅰ	1・2後		1			○							
	ドイツ語Ⅰ	1・2後		1			○							
	韓国語Ⅱ	2・3前		1			○							
	中国語Ⅱ	2・3前		1			○							
	スペイン語Ⅱ	2・3前		1			○							
	ドイツ語Ⅱ	2・3前		1			○							
	日本語表現法Ⅰ	1後		1			○		1					
	日本語表現法Ⅱ	1後		1			○		1					
	スポーツ・健康	1前	1					○						
	スポーツ・実践	2・3・4前・後		1				○						
	研究プロジェクト演習Ⅰ	1後		1				○						
	研究プロジェクト演習Ⅱ	2前		1				○						
研究プロジェクト演習Ⅲ	2後		1				○							
研究プロジェクト演習Ⅳ	3前		1				○							
研究プロジェクト演習Ⅴ	3後		1				○							
研究プロジェクト演習Ⅵ	4前		1				○							
小計 (27科目)		—	6	21	0		—		4	2	2	1	0	兼11
保健 医療 福祉 教養 科目 群	ボランティアの世界	1前		1			○							兼1 兼1
	コミュニケーション学入門	1前		1			○							
	対人コミュニケーション論	1後		1			○							
	心理学概論	1後		1			○							
	人間を知る	1前		1			○							
	命の倫理	1後		1			○							
	QOLの世界	1後		1			○							
	こどもの世界	1後		1			○							
	アスリートの世界	1前		1			○							
	臨床医の世界	1後		1			○							
	加齢と身体	1後		1			○							
	食を楽しむ	1前		1			○							
	眼の神秘	1前		1			○							
	義肢装具の世界	1後		1			○							
	新潟学	1後		1			○							
	国際保健の世界	1後		1			○							
	国民の生活と健康を支える仕組み	1前		1			○							
	現代社会と経済	1前		1			○							
	法学Ⅰ	1後		1			○							
	法学Ⅱ	1後		1			○							
	臨床の哲学	1前		1			○							
	臨床技術の世界	1前		1			○							
	留学の魅力	1前		1			○							
シテイズンシップ教育入門	1後		1			○								
放射線の基礎と人体への影響	1前		1			○								
新潟水保病の理解	1前		1			○								
統計入門	1後		1			○								
一次救命処置法	1前		1			○								
東洋医学的養生	1前		1			○			1					
小計 (29科目)		—	0	29	0		—		1	0	0	0	0	兼23
福保 社健 連医 療	連携基礎ゼミ	2後	1				○		4	2	2	1	0	兼7 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1
	チームアプローチ入門	1後	1				○							
	保健医療福祉連携学	2・3前		1			○				2			
	地域連携学	3前		1			○							
	連携総合ゼミ	3後・4前		1				○						
	社会連携実践演習Ⅰ	1・2・3・4前		1				○						
	社会連携実践演習Ⅱ	1・2・3・4後		1				○						
小計 (7科目)		—	2	5	0		—	4	2	2	1	0	兼8	

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(リハビリテーション学部鍼灸健康学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
専 門 基 礎 科 目 群	解剖学Ⅰ	1前	2			○										兼1
	解剖学Ⅱ	1後	2			○										兼1
	解剖学実習	2後	2					○								兼1
	生理学	1前	2			○										兼1
	生理学実習	2前	2													兼1
	病理学	1前	1			○			1							兼1
	病理学実習	1後	1						1							
	免疫学	2後	1						1							
	臨床薬理学	2後	1			○										兼1
	公衆衛生学	1前	1			○										兼1
	公衆衛生学演習	2後	1					○								兼1
	臨床医学総論	2前	1			○					1					
	臨床医学各論Ⅰ内科・神経内科	2前	1			○			1							
	臨床医学各論Ⅱ運動器	2前	1			○				1						
	臨床医学各論Ⅲ外科	2前	1			○						1				
	臨床医学各論Ⅳ感覚器	2前	1			○			1							
	疼痛学	2後	1			○			1							
	救急学	2前	1			○										兼1
	運動生理学	2後	1			○				1						
	スポーツ心理学	3前	1			○						1				
	トレーニング論	3前	1			○				1						
	予防とコンディショニング演習	2前	1					○				1				
	スポーツ外傷	3後	1			○				1						
	ジェンダー論	3後	1			○						1				
	高齢社会学	3前	1			○						1				
	メンタルヘルス学	2後	1			○			1							
	養生学	2後	1			○				1						
	栄養学	2後	1			○										兼1
	心の発達と維持	3後	1			○						1				
	メンタルヘルスマネジメント	3前	1			○				1						
	漢方薬概論	2後	1			○			1							
	生薬学	2後	1			○			1							
	方剤学	3前	1			○				1						
	基礎医学研究セミナー	3前	1			○						1				
	高齢者ケア実習	4前	1									1				
	経済と経営	3前	1			○						1				
	起業の精神と実践	3前	1			○				1						
	プレゼンテーション方法論	3前	1			○						1				
	臨床研究デザイン学	3後	1			○				1						
小計 (39科目)			44	0					4	2	2	1	0		兼7	

# 教 育 課 程 等 の 概 要

(リハビリテーション学部鍼灸健康学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門 専攻 科目 群	鍼灸健康学ゼミ	2前	1					○			3	2	2	1		
	鍼灸健康学概論	1後	1			○					1					
	経路経穴学	1後	2			○					1					
	経路経穴学実習	2前	2			○								1		
	東洋医学概論	1前	2			○					1					
	伝統鍼灸学概論	2前	1			○						1				
	鍼灸治効理論	2前	1			○						1				
	中医診断学基礎	2前	1			○						1				
	伝統鍼灸診断学演習	2前	1			○						1				
	臨床鍼灸学Ⅰ(内科・神経内科)	3後	2			○		○					1			
	臨床鍼灸学Ⅱ(運動器)	3後	2			○						1				
	臨床鍼灸学Ⅲ(感覚器)	3前	2			○							1			
	疼痛管理鍼灸学	3前	1			○						1				
	リハビリテーション学総論	2後	1			○						1				
	リハビリテーション学各論	3前	1			○						1				
	中医診断学演習	3後	1			○		○				1				
	メンタルヘルス鍼灸学	3前	1			○						1				
	鍼灸リスクマネジメント学	2前	1			○							1			
	リハビリテーション鍼灸学	3後	1			○						1				
	高齢者鍼灸学	4前		1		○								1		
	スポーツ鍼灸学	3後		1		○							1			
	レディース鍼灸学	3後		1		○								1		
	社会鍼灸学	2前	1			○						1				
	関係法規	4前	1			○								1		
	鍼技術学実習	1後	2									1				
	灸技術学実習	2前	2											1		
	鍼灸治効理論実習	3前	2									1				
	臨床鍼灸学実習Ⅰ(内科・神経内科)	3後	2										1			
	臨床鍼灸学実習Ⅱ(運動器)	3後	2											1		
	臨床鍼灸学実習Ⅲ(感覚器)	3前	2									1				
	メンタルヘルス鍼灸学実習	3後	2									1				
	リハビリテーション鍼灸学実習	4前	1									1				
	高齢者鍼灸学実習	4前		1										1		
	スポーツ鍼灸学実習	3後		1									1			
	レディース鍼灸学実習	3後		1										1		
	健康美容鍼灸学実習	4前		1										1		
	臨床実習Ⅰ	2前	1									3	2	2	1	
	臨床実習Ⅱ	3前	2									3	2	2	1	
	臨床実習Ⅲ	4前	1									3	2	2	1	
	医療面接演習	2後	1						○			1				
	臨床倫理学	3前	1										1			
	鍼灸経営学	3後	1											1		
	運動機能解剖学	2後	1						○				1			
	鍼灸健康学特講演習Ⅰ(基礎)	4後	1							○		3	2	2	1	
	鍼灸健康学特講演習Ⅱ(臨床)	4後	1							○		3	2	2	1	
	シニアスポーツ鍼灸学	3前		1									1			
	健康美容鍼灸学	3前		1										1		
	手技療法演習	3後		1						○		1				
	鍼灸臨床で応用するストレッチ術演習	3後		1						○				1		
	新領域の鍼灸	3後		1						○					1	
	鍼灸の歴史と偉人	3前		1								1				
	災害と鍼灸	3前		1										1		
	医療連携と鍼灸	4前		1								1				
	鍼灸と統合医療	2前		1									1			
	卒業研究	4後		4								3	2	2	1	
小計(55科目)	—	—	56	16	0	—	—	—	—	—	4	2	2	1	0	兼0
合計(157科目)		—	108	71	0	—	—	—	—	—	4	2	2	1	0	兼46
学位又は称号	学士(鍼灸健康学)		学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)										
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
基礎教養科目群から必修を含め6単位以上、保健医療福祉教養科目群及び保健医療福祉連携科目群から必修2単位を含め8単位以上、専門基礎科目群から必修44単位、専門専攻科目群から必修56単位を含め66単位以上、あわせて124単位以上を修得すること。(履修科目の登録の上限:50単位(年間))						1学年の学期区分			2学期							
						1学期の授業期間			15週							
						1時限の授業時間			90分							

[資料2]

様式第2号(その2)

教育課程と指定規則との対比表

(鍼灸健康学科)

指定規則の教育内容		別表第1 (鍼灸師課程)																			
		基礎分野		専門基礎分野			専門分野					計									
		科学的思考の基盤	人間と生活	人体の構造と機能	疾病の成り立ち、予防及び回復の促進	保健医療福祉とあん摩マッサージ指圧、はり及びきゅうの理念	基礎あん摩マッサージ指圧学、基礎はり学、きゅう学	臨床あん摩マッサージ指圧学、臨床はり学、臨床きゅう学	社会あん摩マッサージ指圧学、社会はり学、社会きゅう学	実習	臨床実習		総合領域								
14	12	12	3	9	13	2	15	4	10	94											
区分	授業科目	配当年次	単位数		履修方法及び卒業要件																
			必修	選択																	
基礎 教養 科目 目録	基礎ゼミ	1前	1		30	○															
	情報処理 I	1前	1		30	○															
	情報処理 II	1後	1		30	○															
	情報処理 III	2前		1	30	○															
	英語 I	1前	1		30	○															
	英語 II	1後	1		30	○															
	アカデミック英語 I	234前		1	30	○															
	アカデミック英語 II	234後		1	30	○															
	アカデミック英語 III	234後		1	30	○															
	韓国語 I	12後		1	30	○															
	中国語 I	12後		1	30	○															
	スペイン語 I	12後		1	30	○															
	ドイツ語 I	12後		1	30	○															
	韓国語 II	23前		1	30	○															
	中国語 II	23前		1	30	○															
	スペイン語 II	23前		1	30	○															
	ドイツ語 II	23前		1	30	○															
	日本語表現法 I	1後		1	15	○															
	日本語表現法 II	1後		1	15	○															
	研究プロジェクト演習 I	1後		1	30	○															
	研究プロジェクト演習 II	2前		1	30	○															
研究プロジェクト演習 III	2後		1	30	○																
研究プロジェクト演習 IV	3前		1	30	○																
研究プロジェクト演習 V	3後		1	30	○																
研究プロジェクト演習 VI	4前		1	30	○																
スポーツ・健康	1前		1	30	○																
スポーツ・実践	234前/後		1	30	○																
小計					6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
保健 医療 福祉 科目 目録	ボランティアの世界	1前		1	15	○															
	コミュニケーション学入門	1前		1	15	○															
	対人コミュニケーション論	1後		1	15	○															
	心理学概論	1後		1	15	○															
	人間を知る	1前		1	15	○															
	命の倫理	1後		1	15	○															
	QOLの世界	1後		1	15	○															
	こどもの世界	1後		1	15	○															
	アスリートの世界	1前		1	15	○															
	臨床医の世界	1後		1	15	○															
	加齢と身体	1後		1	15	○															
	食を楽しむ	1前		1	15	○															
	眼の神秘	1前		1	15	○															
	義肢装具の世界	1後		1	15	○															
	新潟学	1後		1	15	○															
	国際保健の世界	1後		1	15	○															
	国民の生活と健康を支える仕組み	1前		1	15	○															
	現代社会と経済	1前		1	15	○															
	法学 I	1後		1	15	○															
	法学 II	1後		1	15	○															
	臨床の哲学	1前		1	15	○															
臨床技術の世界	1前		1	15	○																
留学の魅力	1前		1	15	○																
シティズンシップ教育入門	1後		1	15	○																
放射線の基礎と人体への影響	1前		1	15	○																
新潟水俣病の理解	1前		1	15	○																
統計入門	1後		1	15	○																
一次救命処置法	1前		1	15	○																
東洋医学的養生	1前		1	15	○																
チームアプローチ入門	1後		1	15	○																
連携基礎ゼミ	2後		1	30	○																
保健医療福祉連携学	23前		1	15	○																
地域連携学	3前		1	15	○																
社会連携実践演習 I	1234前		1	30	○																
社会連携実践演習 II	1234後		1	30	○																
連携総合ゼミ	34前後		1	30	○																
小計					8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			



指定規則の教育内容					別表第1 (鍼灸師課程)													
					基礎分野		専門基礎分野				専門分野				計			
区分	教育課程	授業科目	配当年次	単位数		履修方法及び卒業要件	科学的思考の基盤	人間と生活	人体の構造と機能	疾病の成り立ち、予防及び回復の促進	保健医療福祉とあん摩マッサージ指圧、はり及びきゅうの理念	基礎あん摩マッサージ指圧学、基礎はり学、きゅう学	臨床あん摩マッサージ指圧学、臨床はり学、臨床きゅう学	社会あん摩マッサージ指圧学、社会はり学、社会きゅう学		実習	臨床実習	総合領域
				必修	選択										14			
専門基礎科目群	解剖学 I	1前	2		15			○										
	解剖学 II	1後	2		15			○										
	解剖学実習	2後	2		30			○										
	生理学	1前	2		15			○										
	生理学実習	2前	2		30			○										
	病理学	1前	1		15			○										
	病理学実習	1後	1		30			○										
	免疫学	2後	1		15				○									
	臨床薬理学	2後	1		15				○									
	公衆衛生学	1前	1		15				○									
	公衆衛生学演習	2後	1		30				○									
	臨床医学総論	2前	1		15				○									
	臨床医学各論 I 内科・神経内科	2前	1		15				○									
	臨床医学各論 II 運動器	2前	1		15				○									
	臨床医学各論 III 外科	2前	1		15				○									
	臨床医学各論 IV 感覚器	2前	1		15				○									
	疼痛学	2後	1		15				○									
	救急学	2前	1		15				○									
	運動生理学	2後	1		15				○									
	スポーツ心理学	3前	1		15				○									
	トレーニング論	3前	1		15				○									
	予防とコンディショニング演習	2前	1		30				○									
	スポーツ外傷	3後	1		15				○									
	ジェンダー論	3後	1		15				○									
	高齢社会学	3前	1		15				○									
	メンタルヘルス学	2後	1		15					○								
	養生学	2後	1		15					○								
	栄養学	2後	1		15					○								
	心の発達と維持	3後	1		15					○								
	メンタルヘルスマネジメント	3前	1		15					○								
	漢方薬概論	2後	1		15					○								
	生薬学	2後	1		15					○								
	方剤学	3前	1		15					○								
	基礎医学研究セミナー	3前	1		15					○								
	高齢者ケア実習	4前	1		30					○								
	経済と経営	3前	1		15					○								
	起業の精神と実践	3前	1		15					○								
	プレゼンテーション方法論	3前	1		15					○								
	臨床研究デザイン学	3後	1		15					○								
	小計						0	12	18	14	0	0	0	0	0	0	0	
											選択科目0単位							

指定規則の教育内容					別表第1 (鍼灸師課程)													
					基礎分野		専門基礎分野				専門分野				計			
区分	授業科目	配当年次	単位数		履修方法及び卒業要件	科学的思考の基盤	人間と生活	人体の構造と機能	疾病の成り立ち、予防及び回復の促進	保健医療福祉とあん摩マッサージ指圧、はり及びきゅうの理念	基礎あん摩マッサージ指圧学、基礎はり学、きゅう学	臨床あん摩マッサージ指圧学、臨床はり学、臨床きゅう学	社会あん摩マッサージ指圧学、社会はり学、社会きゅう学	実習		臨床実習	総合領域	
			必修	選択											14			12
専門 専攻 科目 群	鍼灸健康学ゼミ	2前	1		30						○							
	鍼灸健康学概論	1後	1		15						○							
	経絡経穴学	1後	2		15						○							
	経絡経穴学実習	2前	2		30						○							
	東洋医学概論	1前	2		15						○							
	伝統鍼灸学概論	2前	1		15						○							
	鍼灸治効理論	2前	1		15						○							
	中医診断学基礎	2前	1		15						○							
	伝統鍼灸診断学演習	3前	1		30								○					
	臨床鍼灸学Ⅰ(内科・神経内科)	3後	2		15								○					
	臨床鍼灸学Ⅱ(運動器)	3後	2		15								○					
	臨床鍼灸学Ⅲ(感覚器)	3前	2		15								○					
	疼痛管理鍼灸学	3前	1		15								○					
	リハビリテーション学総論	2後	1		15								○					
	リハビリテーション学各論	3前	1		15								○					
	中医診断学演習	3後	1		30								○					
	メンタルヘルス鍼灸学	3前	1		15								○					
	鍼灸リスクマネジメント学	2前	1		15								○					
	リハビリテーション鍼灸学	3後	1		15								○					
	高齢者鍼灸学	4前		1	15	必修56単位 を含む66単位 以上を履修							○					
	スポーツ鍼灸学	3後		1	15									○				
	レディース鍼灸学	3後		1	15									○				
	社会鍼灸学	2前	1		15									○				
	関係法規	4前	1		15									○				
	鍼技術学実習	1後	2		30										○			
	灸技術学実習	2前	2		30										○			
	鍼灸治効理論実習	3前	2		30										○			
	臨床鍼灸学実習Ⅰ(内科・神経内科)	3後	2		30										○			
	臨床鍼灸学実習Ⅱ(運動器)	3後	2		30										○			
	臨床鍼灸学実習Ⅲ(感覚器)	3前	2		30										○			
	メンタルヘルス鍼灸学実習	3後	2		30										○			
	リハビリテーション鍼灸学実習	4前	1		30										○			
	高齢者鍼灸学実習	4前		1	30										○			
	スポーツ鍼灸学実習	3後		1	30										○			
	レディース鍼灸学実習	3後		1	30										○			
	健康美容鍼灸学実習	4前		1	30										○			
	臨床実習Ⅰ	2前	1		45											○		
	臨床実習Ⅱ	3前	2		45											○		
	臨床実習Ⅲ	4前	1		45											○		
	医療面接演習	2後	1		30												○	
	臨床倫理学	3前	1		15												○	
	鍼灸経営学	3後	1		15												○	
	運動機能解剖学	2後	1		15												○	
	鍼灸健康学特講演Ⅰ(基礎)	4後	1		30												○	
	鍼灸健康学特講演Ⅱ(臨床)	4後	1		30												○	
シニアスポーツ鍼灸学	3前		1	15												○		
健康美容鍼灸学	3前		1	15												○		
手技療法演習	3後		1	30												○		
鍼灸臨床で応用するストレッチ術演習	3後		1	30												○		
新領域の鍼灸	3後		1	15												○		
鍼灸の歴史と偉人	3前		1	15												○		
災害と鍼灸	3前		1	15												○		
医療連携と鍼灸	4前		1	15												○		
鍼灸と統合医療	2前		1	15												○		
卒業研究	4後			30												○		
小計					0		0	0	0		11	14	2	15	4	10	94	
卒業要件単位数					14			12	18	14		11	14	2	15	4	10	114
指定規則に対する増単位数					0			0	6	11		2	1	0	0	0	0	

## 〔資料3〕

## 臨床実習施設機関一覧

No.	施設名	住所
1	新潟医療福祉大学附属鍼灸センター	新潟県新潟市北区島見町 1398 番地

履修モデル: 医療機関等で鍼灸師としての業務に就くことを希望する者に対する履修科目選択例

養成する人材像

- ①優れた治療技術を有するだけでなく、現代医療における鍼灸医療の役割を踏まえて医師および他の医療従事者と適切な連携ができる。
- ②人々に寄り添い、医療人として、その健康を真摯に支えることができる。
- ③臨床データを踏まえた科学的なアプローチによって、医学の科学的解明に貢献できる。

◎: 必修科目   ○: 選択科目   △: 自由科目

履修科目群	履修科目	1年次						2年次						3年次						4年次					
		前期			後期			前期			後期			前期			後期			前期			後期		
		授業科目名	養成する人材像	単位数	授業科目名	養成する人材像	単位数	授業科目名	養成する人材像	単位数	授業科目名	養成する人材像	単位数	授業科目名	養成する人材像	単位数	授業科目名	養成する人材像	単位数	授業科目名	養成する人材像	単位数	授業科目名	養成する人材像	単位数
基礎 教養科目群	必修 6単位	◎ 基礎ゼミ ◎ 情報処理 I ◎ 英語 I ◎ スポーツ健康	① ③ ③ ②	1 1 1 1	◎ 情報処理 II ◎ 英語 II	③ ③																			
	選択 0単位以上																								
保健 医療福祉 教養科目群	必修 2単位	○ コミュニケーション学入門 ○ 国民の生活と健康を支える仕組み ○ 現代社会と経済 ○ 東洋医学的養生	①② ① ③ ①②	1 1 1 1	○ 新鴻学 ○ 命の倫理	② ①②																			
	選択 6単位以上																								
保健 医療福祉 専門科目群					◎ チームアプローチ入門	①②③	1			◎ 連携基礎ゼミ	①②③	1													
専門 基礎科目群	必修 44単位	◎ 解剖学 I ◎ 生理学 ◎ 病理学 ◎ 公衆衛生学	③ ③ ③ ③	2 2 1 1	◎ 解剖学 II ◎ 病理学実習	③ ①③	2 2	◎ 臨床医学総論 ◎ 臨床医学各論 I 内科・神経内 ◎ 臨床医学各論 II 運動器 ◎ 臨床医学各論 III 外科 ◎ 臨床医学各論 IV 感覚器 ◎ 救急学	①②③ ①②③ ①②③ ①②③ ①②③ ①②③	1 1 1 1 1 1	◎ 養生学 ◎ 栄養学 ◎ メンタルヘルス学 ◎ 免疫学 ◎ 臨床薬理学 ◎ 疼痛学 ◎ 漢方薬概論 ◎ 運動生理学 ◎ 生薬学	①② ①② ①② ①② ①②③ ①② ①②③ ①② ①②	1 1 1 1 1 1 1 1 1	◎ メンタルヘルスマネジメント ◎ スポーツ心理学 ◎ 基礎医学研究セミナー ◎ 方剤学 ◎ 高齢社会学 ◎ トレーニング論 ◎ プレゼンテーション方法論 ◎ 経済と経営 ◎ 起業の精神と実践	①②③ ①②③ ①②③ ①② ①②③ ①②③ ①②③ ①② ①②	1 1 1 1 1 1 1 1 1	◎ 臨床研究デザイン学 ◎ スポーツ外傷 ◎ ジェンダー論 ◎ 心の発達と維持	①②③ ①②③ ①② ①②	1 1 1 1	◎ 高齢者ケア実習	①②③	1			
	選択 10単位以上				◎ 経路経穴学 ◎ 鍼灸健康学概論	①② ①②	2 2	◎ 鍼灸リスクマネジメント学 ◎ 鍼灸治療理論 ◎ 中医診断学基礎 ◎ 社会鍼灸学 ◎ 鍼灸と統合医療	①② ①②③ ①② ①②③ ①②③	1 1 1 1 1	◎ リハビリテーション学総論 ◎ 運動機能解剖学	①②③ ①②③	1 1	◎ 臨床鍼灸学Ⅲ(感覚器) ◎ メンタルヘルス鍼灸学 ◎ リハビリテーション学各論 ◎ 疼痛管理鍼灸学 ◎ 臨床倫理学 ◎ 災害と鍼灸 ◎ シニアスポーツ鍼灸学 ◎ 健康美容鍼灸学	①②③ ①②③ ①②③ ①②③ ①②③ ①②③ ①②③ ①②③	1 1 1 1 1 1 1 1	◎ 関係法規 ◎ 高齢者鍼灸学	①② ①②③	2 2	◎ 鍼灸健康学特講演習Ⅰ(基礎) ◎ 鍼灸健康学特講演習Ⅱ(臨床)	①②③ ①②③	1 1			
専門 専攻科目群	必修 56単位	◎ 東洋医学概論	①②	2	◎ 経路経穴学 ◎ 鍼灸健康学概論	①② ①②	2 2	◎ 鍼灸リスクマネジメント学 ◎ 鍼灸治療理論 ◎ 中医診断学基礎 ◎ 社会鍼灸学 ◎ 鍼灸と統合医療	①② ①②③ ①② ①②③ ①②③	1 1 1 1 1	◎ リハビリテーション学総論 ◎ 運動機能解剖学	①②③ ①②③	1 1	◎ 臨床鍼灸学Ⅲ(感覚器) ◎ メンタルヘルス鍼灸学 ◎ リハビリテーション学各論 ◎ 疼痛管理鍼灸学 ◎ 臨床倫理学 ◎ 災害と鍼灸 ◎ シニアスポーツ鍼灸学 ◎ 健康美容鍼灸学	①②③ ①②③ ①②③ ①②③ ①②③ ①②③ ①②③ ①②③	1 1 1 1 1 1 1 1	◎ 関係法規 ◎ 高齢者鍼灸学	①② ①②③	2 2	◎ 鍼灸健康学特講演習Ⅰ(基礎) ◎ 鍼灸健康学特講演習Ⅱ(臨床)	①②③ ①②③	1 1			
	選択 10単位以上				◎ 鍼灸健康学概論	①②	2	◎ 鍼灸健康学ゼミ ◎ 灸技術学実習 ◎ 経路経穴学実習 ◎ 臨床実習Ⅰ	①②③ ①②③ ①②③ ①②③	1 2 2 1	◎ 医療面接演習	①②③	1	◎ 鍼灸治療理論実習 ◎ 臨床実習Ⅱ ◎ 伝統鍼灸診断学演習 ◎ 臨床鍼灸学実習Ⅲ(感覚器)	①②③ ①②③ ①②③ ①②③	2 2 1 2	◎ 臨床鍼灸学実習Ⅰ(内科・神経内) ◎ 臨床鍼灸学実習Ⅱ(運動器) ◎ リハビリテーション鍼灸学実習 ◎ スポーツ鍼灸学実習 ◎ レディース鍼灸学実習	①②③ ①②③ ①②③ ①②③ ①②③	1 1 1 1 1	◎ リハビリテーション鍼灸学実習 ◎ 臨床実習Ⅲ ◎ 高齢者鍼灸学実習	①②③ ①②③ ①②③	1 1 1	◎ 卒業研究	①②③	4

<卒業要件>  
必修 108単位  
選択 16単位  
合計 124単位以上

学期修得単位数計	16	13	21	16	25	21	6	6
1年次修得単位数計	29		21	16	25	21	6	6
2年次修得単位数計	29		37		25	21	6	6
3年次修得単位数計	29		37		46		6	6
4年次修得単位数計	29		37		46		12	

本モデルの修得単位数合計 124

〔資料5〕

学校法人新潟総合学園就業規則(抄)

(定年)

第20条 教育職員のうち無期雇用契約および途中で有期雇用契約から無期雇用契約に転換した教授、准教授、講師の定年は満65歳とし、定年年令に達した年の年度末をもって退職とする。但し、職員、学園双方協議のうえ再雇用して3年以内勤務させることができるものとし、当該任期が経過した後の再任は個別に決定する。

2 教育職員のうち、無期雇用契約および途中で有期雇用契約から無期雇用契約に転換した助教・助手の定年は満60歳とし、定年年令に達した年の年度末をもって退職とする。但し、定年退職後の再雇用を希望する者で、就業規則第21条(解雇)または第22条(懲戒解雇)に該当しない者であって、高年齢者雇用安定法一部改正法附則第3項に基づきなお効力を有することとされる改正前の高年齢者雇用安定法第9条第2項に基づく労使協定の定めるところにより、次の(1)～(3)の全て、もしくは(4)に該当する者においては65歳に達した年の年度末まで、基準のいずれかを満たさない者については基準の適用年齢の年度末まで、学園の提示した労働条件に合意した者と1年単位の再雇用契約を締結する。

(1) 過去3年間の定期健康診断の結果、及び日常の本人の心身の状態から従事する業務に支障がないと判断されること

(2) 次の健康状態であること

・過去3年間、2週間以上連続して疾病で休んでいないこと

・慢性的な疾患により、通院治療が必要な病気に罹患していないこと。但し、常用する薬の受け取りが主たる目的である通院を除く

(3) 過去10年間に懲戒処分を受けていないこと

(4) その他前各号を満たさない者でも、学園が特に必要と認めた者

3 前項の場合において、次の表の左欄に掲げる期間における当該基準の適用については、同表の左欄に掲げる区分に応じ、それぞれ右欄に掲げる年齢以上の者を対象に行うこととする。

平成25年4月1日から平成28年3月31日まで	61歳
平成28年4月1日から平成31年3月31日まで	62歳
平成31年4月1日から平成34年3月31日まで	63歳

平成34年4月1日から平成37年3月31日まで	64歳
-------------------------	-----

- 4 第2項の規定にかかわらず、学園が特に必要と認めた場合、雇用終了年令を超えて勤務することがある。
- 5 定年を超える期間に対しては退職金を支給しない。

#### 附 則

- 1 (略)
- 2 第20条については、次のとおり経過措置を定める。  
施行の際既に定年年齢を超えている職員並びに平成17年3月末日までに定年年齢に達する職員については、採用から4年を経過した日をもって定年とする。
- 3 第20条に係わらず学部・学科の新増設、大学院の新設など特別の事情があるときは、理事会において定年の延長を個別に措置することができる。

<凡例> ・青文字: 全学共通科目の必修 ・黒文字: 全学共通科目の選択科目 ・赤文字: 専門基礎/専門専攻科目群の必修科目  
 ・(赤文字): 専門基礎/専門専攻科目群の選択科目  
 ・担当者欄の斜字: 兼任教員/兼任教員  
 ・科目名の(a)(b): 講義1単位の科目(8回講義)。(a)が学期の前半開講、(b)が後半開講とする。

【月曜日】

配当年次	1年			2年			3年			4年		
時限	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室
1限	(a)公衆衛生学	石上	U棟小講義室1	アカデミック英語 I	今井	D201	鍼灸治効理論実習	久保	U棟鍼灸実習室1			
				韓国語 II	朴	D203						
				中国語 II	斯日	Q107						
				スペイン語 II	Calderon	Q108						
				ドイツ語 II	Ebert	Q105						
2限	(a)放射線の基礎と人体への影響	吉田	Q102	経路経穴学実習	村越	U棟鍼灸実習室2	鍼灸治効理論実習	久保	U棟鍼灸実習室1			
	(b)一次救命処置法	大松	Q201									
3限	英語 I	五十嵐	Q103	経路経穴学実習	村越	U棟鍼灸実習室2	臨床鍼灸学Ⅲ(感覚器)	高野	U棟小講義室2			
		今井	Q105									
4限	病理学	久保	U棟小講義室1	臨床医学各論Ⅰ 内科・神経内科	津田	U棟中講義室	(シニアスポーツ鍼灸学)	木村	U棟小講義室2			
5限				(a)保健医療福祉連携学	松井	IA402	(健康美容鍼灸学)	高野	U棟小講義室1			
備考												

【火曜日】

配当年次	1年			2年			3年			4年		
時限	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室
1限	東洋医学概論	津田	U棟中講義室	臨床医学各論Ⅱ 運動器	金子	U棟大講義室	(鍼灸の歴史と偉人)	江川	U棟小講義室1	関係法規	福田	U棟小講義室2
2限	(a)コミュニケーション学入門	五十嵐	N201	社会連携実践演習Ⅰ	東江	U棟中講義室	トレーニング論	木村	U棟小講義室1	研究プロジェクト演習Ⅵ	阿部	U棟小講義室2
3限	(b)アスリートの世界	久保倉	GA101	鍼灸リスクマネジメント学	福田	U棟小講義室1	研究プロジェクト演習Ⅳ	阿部	U棟中講義室			
	(b)食を楽しむ	渡辺	IA401									
4限				研究プロジェクト演習Ⅱ	阿部	U棟中講義室	メンタルヘルスマネジメント	金子	U棟小講義室1			
5限				鍼灸治効理論	久保	U棟小講義室1	臨床鍼灸学実習Ⅲ(感覚器)	粕谷	U棟鍼灸実習室1			
6限							臨床鍼灸学実習Ⅲ(感覚器)	粕谷	U棟鍼灸実習室1			
備考												

【水曜日】

配当年次	1年			2年			3年			4年		
時限	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室
1限	解剖学Ⅰ	奈良	U棟中講義室	中医診断学基礎	江川	U棟大講義室	基礎医学研究セミナー	福田	U棟小講義室1	(医療連携と鍼灸)	粕谷	U棟小講義室2
2限				臨床医学総論	高野	U棟中講義室	起業の精神と実践	木村	U棟小講義室1	(高齢者鍼灸学)	福田	U棟小講義室2
3限	基礎ゼミ	全教員	各研究室	救急学	竹井	U棟小講義室1						
4限	(a)眼の神秘	石井	IA402	情報処理Ⅲ	寺島	L312	地域連携学	河野	U棟小講義室1	高齢者ケア実習	福田	U棟鍼灸実習室1
5限				伝統鍼灸学概論	金子	U棟小講義室1	経済と経営	高野	U棟小講義室2	高齢者ケア実習	福田	U棟鍼灸実習室1
備考												

【木曜日】

配当年次	1年			2年			3年			4年		
	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室
1限				生理学実習	八坂	GA棟生理学実習室	スポーツ心理学	村越	U棟小講義室2	リハビリテーション鍼灸学実習	粕谷	U棟鍼灸実習室1
2限				生理学実習	八坂	GA棟生理学実習室	疼痛管理鍼灸学	久保	U棟小講義室1	リハビリテーション鍼灸学実習	粕谷	U棟鍼灸実習室1
3限	情報処理 I	寺島	L312	鍼灸健康学ゼミ	全教員(津田先生除く)	各研究室	伝統鍼灸診断学演習	津田	U棟小講義室1			
4限	(a)東洋医学的養生	粕谷	U棟大講義室	臨床医学各論Ⅲ 外科	村越	U棟小講義室2	伝統鍼灸診断学演習	津田	U棟小講義室1	(健康美容鍼灸学実習)	高野	U棟鍼灸実習室1
5限	(a)ボランティアの世界	青木	N201	社会鍼灸学	江川	U棟小講義室1	プレゼンテーション方法論	福田	U棟小講義室2	(健康美容鍼灸学実習)	高野	U棟鍼灸実習室1
	(b)人間を知る	斎藤	Q201									
	(b)現代社会と経済	伊藤	Q202									
	(a)留学の魅力	前田	T棟大講義室1									
	(b)臨床技術の世界	大山	GA101									
(b)新潟水俣病の理解	青木	Q203										
備考												

【金曜日】

配当年次	1年			2年			3年			4年		
	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室
1限	生理学	八坂	U棟中講義室	臨床医学各論Ⅳ 感覚器	粕谷	U棟小講義室1	(災害と鍼灸)	福田	U棟小講義室2			
2限	スポーツ・健康	佐藤 山本	第1体育館 第3体育館	(鍼灸と統合医療)	金子	U棟小講義室2	高齢社会学	福田	U棟小講義室1			
3限	(b)国民の生活と健康を支える仕組み	河野	N201	予防とコンディショニング演習	村越	U棟小講義室2	リハビリテーション学各論	粕谷	U棟小講義室1	(高齢者鍼灸学実習)	福田	U棟鍼灸実習室1
4限				予防とコンディショニング演習	村越	U棟小講義室2	臨床倫理学	金子	U棟小講義室1	(高齢者鍼灸学実習)	福田	U棟鍼灸実習室1
5限				灸技術学実習	福田	U棟鍼灸実習室1	方剂学	金子	U棟小講義室1			
6限				灸技術学実習	福田	U棟鍼灸実習室1	メンタルヘルス鍼灸学	金子	U棟小講義室2			
備考												

※連携総合ゼミ(教室:U棟大講義室)、臨床の哲学、はいずれも集中講義にて、臨床実習Ⅰ～Ⅲは臨床実習施設で実施するため、上記表中には含まず。



<凡例> ・青文字:全学共通科目の必修 ・黒文字:全学共通科目の選択科目 ・赤文字:専門基礎/専門専攻科目群の必修科目  
 ・(赤文字):専門基礎/専門専攻科目群の選択科目  
 ・担当者欄の斜字:兼任教員/兼任教員  
 ・科目名の(a)(b):講義1単位の科目(8回講義)。(a)が学期の前半開講、(b)が後半開講とする。

【月曜日】												
配当年次	1年			2年			3年			4年		
時限	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室
1限	解剖学Ⅱ	澤田	U棟小講義室2	アカデミック英語Ⅱ	五十嵐	Q108	(スポーツ鍼灸学)	木村	U棟小講義室1			
2限	経路経穴学	江川	U棟中講義室	運動生理学	木村	U棟小講義室1	臨床研究デザイン学	金子	U棟小講義室2			
3限	情報処理Ⅱ	寺島	L312	医療面接演習	津田	U棟中講義室	リハビリテーション鍼灸学	粕谷	U棟小講義室1			
4限				医療面接演習	津田	U棟中講義室	(鍼灸臨床で応用するストレッチ術演習)	木村	U棟小講義室1			
							(手技療法演習)	粕谷	U棟小講義室2			
5限							(鍼灸臨床で応用するストレッチ術演習)	木村	U棟小講義室1			
							(手技療法演習)	粕谷	U棟小講義室2			
備考												

【火曜日】												
配当年次	1年			2年			3年			4年		
時限	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室
1限	(a)新潟学	池田	T棟大講義室	栄養学	服部(稲葉)	U棟小講義室1	ジェンダー論	高野	U棟小講義室2			
2限				リハビリテーション学総論	粕谷	U棟小講義室1	スポーツ外傷	木村	U棟小講義室2			
3限	(b)心理学概論	石本	Q202	スポーツ・実践	佐藤 敏	第1体育館	臨床鍼灸学Ⅱ(運動器)	木村	U棟小講義室1			
	(b)加齢と身体	佐藤	IA302									
	(a)こどもの世界	吉田	Q102									
4限	鍼灸健康学概論	粕谷	U棟小講義室1				(スポーツ鍼灸学実習)	木村	U棟鍼灸実習室1			
							(レディース鍼灸学実習)	高野	U棟鍼灸実習室2			
5限	(b)国際保健の世界	古西	Q202	養生学	金子	U棟小講義室1	(スポーツ鍼灸学実習)	木村	U棟鍼灸実習室1			
	(a)統計入門	柴山	T棟大講義室2				(レディース鍼灸学実習)	高野	U棟鍼灸実習室2			
	(a)シニズンシップ教育入門	佐藤 裕	T棟大講義室1									
	(b)QOLの世界	能登	Q101									
備考												

【水曜日】												
配当年次	1年			2年			3年			4年		
時限	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室
1限	(a)法学Ⅰ	渡部	Q201	運動機能解剖学	木村	U棟小講義室1	鍼灸経営学	高野	U棟小講義室2			
	(b)法学Ⅱ	渡部	Q201									
2限	韓国語Ⅰ	朴	D201	臨床薬理学	児玉	U棟小講義室1	研究プロジェクト演習Ⅴ	阿部	U棟小講義室2	卒業研究	全教員 (津田先生除く)	各研究室
	中国語Ⅰ	斯日	D203									
	スペイン語Ⅰ	Calderon	D205									
	ドイツ語Ⅰ	Ebert	D207									
3限				連携基礎ゼミ	全教員	各研究室						
4限	(b)義肢装具の世界	須田	Q201	研究プロジェクト演習Ⅲ	阿部	U棟小講義室1	メンタルヘルス鍼灸学実習	久保	U棟鍼灸実習室1			
5限	英語Ⅱ	五十嵐	Q103	免疫学	津田	U棟小講義室1	メンタルヘルス鍼灸学実習	久保	U棟鍼灸実習室1			
		今井	Q105									
備考												

【木曜日】

配当年次	1年			2年			3年			4年		
	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室
1限	(b)対人コミュニケーション論	五十嵐	D204	漢方薬概論	津田	U棟小講義室1	臨床鍼灸学実習Ⅰ(内科・神経内科)	金子	U棟鍼灸実習室1			
2限	(a)日本語表現法Ⅰ	津田	U棟小講義室1	社会連携実践演習Ⅱ	栗江	U棟中講義室	臨床鍼灸学実習Ⅰ(内科・神経内科)	金子	U棟鍼灸実習室1			
	(b)日本語表現法Ⅱ	江川	U棟小講義室1									
3限	病理学実習	久保	GA棟解剖学実習室	メンタルヘルス学	津田	U棟小講義室1	臨床鍼灸学Ⅰ(内科・神経内科)	高野	U棟小講義室2			
4限	病理学実習	久保	GA棟解剖学実習室				臨床鍼灸学実習Ⅱ(運動器)	村越	U棟鍼灸実習室1			
5限				生薬学	津田	U棟小講義室1	臨床鍼灸学実習Ⅱ(運動器)	村越	U棟鍼灸実習室1			
備考												

【金曜日】

配当年次	1年			2年			3年			4年		
	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室
1限	鍼技術学実習	江川	U棟鍼灸実習室1	疼痛学	久保	U棟小講義室1	(レディース鍼灸学)	高野	U棟小講義室2			
2限	鍼技術学実習	江川	U棟鍼灸実習室1	公衆衛生学演習	石上	U棟小講義室1	心の発達と維持	村越	U棟小講義室2			
3限	(a)命の倫理	宮坂	N201	公衆衛生学演習	石上	U棟小講義室1	中医診断学演習	江川	U棟小講義室2			
	(b)臨床医の世界	今村	IA401									
4限	研究プロジェクト演習Ⅰ	阿部	U棟中講義室	解剖学実習	奈良	GA棟解剖学実習室	中医診断学演習	江川	U棟小講義室2			
5限				解剖学実習	奈良	GA棟解剖学実習室	(新領域の鍼灸)	村越	U棟小講義室1			
備考												

※:チームアプローチ入門、アカデミック英語Ⅲ、連携総合ゼミ、鍼灸健康学特講演習Ⅰ(基礎)、鍼灸健康学特講演習Ⅱ(臨床)はいずれも集中講義にて実施するため、上記表中には含まず。

# 学生の確保の見通し等を記載した書類

## 目次

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	1
1) 学生の確保の見通し	1
(1) 定員充足の見込み	1
① 入学定員設定の考え方	1
② 定員充足の見込み	1
(2) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要	1
① 新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部鍼灸健康学科」 の特色に対するニーズ	2
② 18歳人口と大学進学率の推移・予測	3
③ 本学の入学状況	3
④ 競合校の入学状況	3
⑤ 本学科設置に係る進学意向調査結果	5
(3) 学生納付金の設定の考え方	9
2) 学生確保に向けた具体的な取組状況	9
2. 人材需要の動向等社会の要請	10
1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）	10
(1) 教育研究上の理念及び目的	10
(2) 養成する人材像	12
2) 上記1) が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたもので あることの客観的な根拠	12
(1) 鍼灸師の社会的な人材需要	12
① 鍼灸師数の推移	12
(2) 本学学生の社会的、地域的な人材需要	14
① 本学の既存学科の就職実績	14
② 人口10万人あたりの鍼灸師数	14
③ 本学科設置に係る採用意向調査結果	16

## 学生の確保の見通し等を記載した書類

### 1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

#### 1) 学生の確保の見通し

##### (1) 定員充足の見込み

###### ① 入学定員設定の考え方

鍼灸健康学科の入学定員は40名とする。この定員設定の主たる根拠は以下の2点である。まず一つ目は、全国の鍼灸師養成校の定員数との比較における妥当性である。既設の鍼灸師養成大学(10校)の平均入学定員は47.8名、大学と専門学校(72校)を合わせた合計82校の平均は、33.6名であり、定員40名の設定は妥当と判断したからである。〔資料1：鍼灸師養成校一覧〕

また二つ目に、本学での受入れ体制として、開設時の専任教員数(9名)と本学科の教育内容の性格(実践的教育内容、個人に対する指導、実習科目の実施等)を勘案し、40名であれば十分な指導体制を構築できると判断したからである。

本学科の教育課程において、講義科目で獲得した知識を実習科目により実践させることで、学生に修得させるべき能力を養成する学内実習では、1クラスに6~8名程度のグループを編成し、1グループの実習に2名の専任教員を配置することが適切であると判断した。専任教員は9名で、そのうち、はり師・きゅう師免許を有する専任教員を8名配置している。学内実習においては、担当時間割等の負担を考慮しつつ、3名の専任教員がそれぞれ8名のグループを担当するとすれば、最大で1クラス24名となり、2クラス体制なので最大で48名と、入学定員の40名を上回り、学内実習を行うための専任教員と入学定員のバランスは合理性を有しているといえる。なお、このグループ編成を確実に実施するため、本学科ではより厳格な定員管理を行うこととする。

###### ② 定員充足の見込み

まず、主たるターゲットとして北海道、東北地方、北信越地方を想定している。当該地方には鍼灸師養成課程を持つ大学が1件もないため、当該地方からの進学希望者のニーズに本学が十分応えられると考えるからである。

令和3年9月から10月にかけて、新潟県内及び東北、関東、信越地方の高校2年生17,095名(110校)を対象に、「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」設置に関するニーズ調査を実施し、10,726人(94校)から有効回答を得た。(回収率62.7%)

その調査結果においては、「受験したいと思う」10,726人中604人、そのうち「入学したいと思う」604人中533人で、予定されている入学定員40人を10倍以上上回っている。

なお、県別の調査結果においては、「新潟県」の入学意向は、新潟県の高校在籍者3,906

人中 191 人と入学定員を 4 倍以上上回っている。「福島県」の入学意向は福島県高校在籍者 1,921 人中 93 人、「長野県」の入学意向は、長野県高校在籍者 917 人中 53 人と入学定員を上回っており、志す職業として志願する者が多いものの、現状は当該地方の専門学校への進学か、(主として)関東地方への大学進学しか選択肢がないため、鍼灸師養成大学への進学ニーズに本学が充分応え得ると考える。

また、本学在籍者数が多い上位 2 県の福島県 (329 名)、長野県 (292 名) からの入学意向が多く、既存学科同様、近隣県からの入学を促進していく。〔資料 2：新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」設置に関するニーズ調査結果報告書【高校生対象調査】〕

## (2) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

### ① 新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」の特色に対するニーズ

「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」設置に関するニーズ調査によれば、本学で鍼灸を学ぶ魅力度として 69% の高校生が、「アスリートを支えるスポーツ鍼灸・女性特有の症状に対応するレディース鍼灸・アンチエイジングをサポートする健美 (美容) 鍼灸」に魅力を感じ、65% の高校生が、「現代医学の知識や科学的なアプローチについても学び、チーム医療の中での鍼灸の役割を理解し、医師や他の医療関係者と適切に連携できる力を身に付けられる専門性を持った魅力的な職業」と映っていることが分かる。

本学では、全国でも数が少ない看護・医療・リハビリ・栄養・スポーツ・福祉・医療 IT の、計 7 分野の医療系専門職人材を養成する総合大学である。その強みを活かし、「優れた QOL サポーター」育成を基本理念としながら、「保健医療福祉スポーツ」分野の人材育成のための教育研究活動を行っている。

上述の通り、高校生から高い関心のある「スポーツ」や「医療」はこれまで本学が培ってきた教育研究分野との関連性が深く、本学科の強み、特色としても強く打ち出している要素である。また、「美容」については、本学既存の学科では大きな強みにはなっていないものの、本学科の設置に伴い本学の持つ新たな魅力訴求点として、教育研究活動を推進していく。

「医療分野」については、既存 6 学部 13 学科が連携しながら、多職種連携を学べる環境があり、本学科は 14 個目の学科としてチーム医療を学ぶ仲間として加わることとなる。特に、学科長をはじめ、病院の中でチーム医療の一員として臨床現場で鍼灸師として活躍している教員が複数おり、現場の生の経験を直接学ぶ機会があることもまた、入学志願に繋がる要素と考えている。

次に「スポーツ分野」については、本学では現在 12 の強化指定スポーツクラブがあり、プロスポーツ選手やオリンピック代表選手を輩出している。また、2021 年にはサッカー J2 に所属するアルビレックス新潟、WE リーグ所属のアルビレックス新潟レディース

スそして新潟リハビリテーション病院との連携協定を締結しており、強化指定スポーツクラブやプロチームとの連携の中で実践的に学ぶことで、「スポーツ鍼灸」について教育研究の推進がなされることが期待される。こうした恵まれた環境を魅力的に感じる高校生にしっかりと訴求していく所存である。

### ②18歳人口と大学進学率の推移・予測

全国の18歳人口は、1992年(平成4年)の205万人のピークから減少傾向にある。2020年(令和2年)には116.7万人にまで減少しており、今後、さらに年々減少していくことが予測されている。

他方、全国の大学進学率は、2015年(平成27年)～2019年(平成31年)の5年間51%～53%で推移し、緩やかに増加傾向にある。〔資料3-1：18歳人口と高等教育機関等への進学率等の推移〕〔資料3-2：高等学校卒業生数・大学(学部)志願者数・大学(学部)入学定員の推移〕

新潟県ではこの5年間43%前後また、本学入学者の多い近隣県では、秋田県38%前後、山形県39%前後、福島県40%前後、富山県45%前後、長野県40%前後の間で推移し、全国と同様、今後もこれらの割合が激変することはないと考えられ、少子化の懸念は引き続き続くものの、本学科の特異性より入学定員40人の充足は十分可能であると判断している。〔資料4：大学への現役進学率(新潟県及び近県)〕

### ③ 本学の入学状況

2019年度～2021年度の過去3年間での既設学部の入学状況は、リハビリテーション学部では2019年(平成31年)募集定員250名に対して入学者266名、2020年(令和2年)入学者275名で2021年(令和3年)入学者276名平均入学定員超過率は1.08である。医療技術学部では2019年(平成31年)募集定員295名に対して入学者293名、2020年(令和2年)入学者297名で2021年(令和3年)入学者303名平均入学定員超過率は0.99である。健康学部では2019年(平成31年)募集定員240名に対して入学者264名、2020年(令和2年)入学者262名で2021年(令和3年)募集定員290名に対して(健康スポーツ学科定員50名増)入学者258名平均入学定員超過率は1.06と定員超過に至っている。この通り、本学は開学以来、順調に入学者を確保しており、本学の医療系総合大学のブランドイメージが新設学科にも好影響を与えると考える。

### ④ 競合校の入学状況

2022年(令和4年)3月現在、鍼灸師養成大学は、全国に10校存在する。しかし現状、関東、関西、東海および九州各地方に設置されており、新潟県のほか、北海道、東北、北陸および甲信各地方にはない状況にある。

したがって、本学への入学者が多い東北、北信越地方の鍼灸師の大学進学希望者は、関東地方への進学を志向する者が多いと考えられる。2019年度(平成31年度)から2021年度(令和3年度)までの3年間の関東地方の入学状況は、東京有明医療大学保健医療学部鍼灸学科では、2019年(平成31年)入学定員60名に対して志願者数66名、入学者58名で入学定員超過率は0.96、2020年(令和2年)志願者数67名、入学者60名で入学定員超過率は1.00、2021年(令和3年)志願者数は、52名、入学者42名で入学定員超過率は0.70となっている。また、帝京平成大学ヒューマンケア学部鍼灸学科では、2019年(平成31年)入学定員88名に対して志願者数231名、入学者93名で入学定員超過率は1.05、2020年(令和2年)志願者数207名、入学者82名で入学定員超過率は0.93、2021年(令和3年)志願者数189名、入学者69名で入学定員超過率は0.78である。〔資料5：鍼灸健康学科競合校の入試状況(平成31年度～令和3年度)〕

全国10大学におけるはり師国家試験合格率は、2019年度(平成31年度)～2021年度(令和3年度)3年間平均で72.8%と全体平均73.3%とほぼ同水準となっている(きゅう師についてもほぼ同割合)。また各大学HPによると、就職実績については平均すると就職率90.4%となっている。本学は、国家試験及び就職に強い大学として、既設学科では全国平均を上回る国家試験合格率と、99.6%の就職実績を残しており、本学科においてもこれまで大学が培ってきたノウハウと本学科教員の指導力により、他大学を上回る実績を残すことを目標としている。〔資料6：第27回～第29回 あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師国家試験の学校別合格者状況(厚生労働省)〕

なお、先述の通り、本学科は北海道、東北、北信越地方初の鍼灸師養成大学であり、地理的に最も近いのが東京であり、直接的な競合大学は無いと想定している。他方、東京の2大学については、これまで新潟県をはじめ、上述の鍼灸師養成大学の無い地方から大学進学を希望する層の流出があったと想像されるが、本学科は、こうした層の獲得を推進していく。この層については地理的關係から東京の2大学との併願者は少ないと見ており、また、東京の2大学進学を希望する関東圏在住者が本学を併願するケースも少ないと考えている。併願や競合の可能性が高いのは大学より出身県内にある専門学校と想定しているが、上述の確かな出口実績や大学ならではの充実した教育研究体制等、専門学校との違いを明確に打ち出すことにより、しっかりと定員を充足させる計画である(広報戦略については、「2)学生確保に向けた具体的な取組状況」参照)。

## 鍼灸師養成大学の分布



### ⑤ 本学科設置に係る進学意向調査結果

本学科の設置にあたり、主に本学への入学実績のある高等学校に対し、2年生を対象とした進学意向調査の実施を依頼した。【実査期間：2021年(令和3年)9月1日～2021年(令和3年)10月4日】調査票とともに、本学科のカリキュラムの特色や取得可能な資格等を記載した設置構想資料も配布し、回答者には一読していただいた後に回答していただく形式とした。なお、この調査の実施においては株式会社進研アドを調査実施機関とし、調査票の送付・回収及び調査の分析等を委託した。

ニーズ調査対象高等学校は、鍼灸師養成課程を持つ大学が1件もない東北地方、北信越地方に所在する高校とした。本学在籍者数が多い県は上から、新潟県(2529名)、福島県(329名)、長野県(292名)、山形県(286名)富山県(147名)、秋田県(135名)、群馬県(100名)(※2021年5月1日現在)となっており、鍼灸師養成課程を持つ大学の無い県と合致しているため、本学既設学科の入学実績が多い県、高校を基準として、高等学校94校(新潟県内27校、新潟県外67校)に調査を実施し、10,726名分の回答済みの調査票が返送された。

調査の結果、高校卒業後の希望進路先「国公立大学に進学」が47.7%で最も高く「私立大学に進学」が39.5%、「専門学校・専修学校に進学」が21.8%となっており、また私立大学進学希望者の中で「私立大学に進学を考えている、かつ、リハビリテーション学に興味がある回答者の入学意向は、25.4%(637人中162人)となっており、「鍼灸健

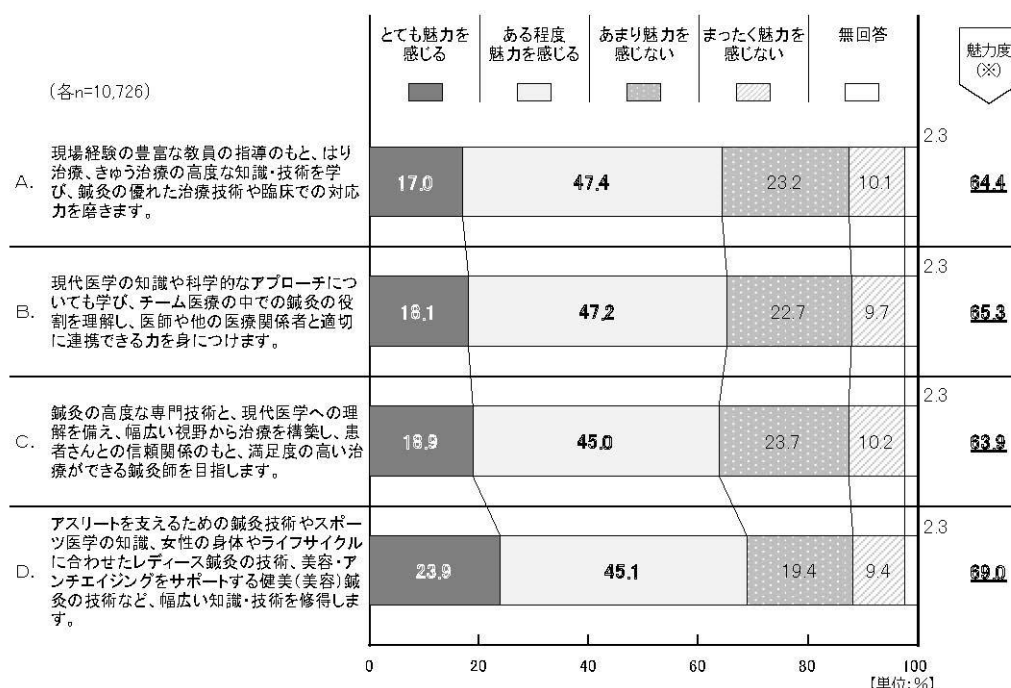


康学科」を受験・入学する可能性がより高いと考える。

「鍼灸健康学科」の特色に対する魅力度の4項目で、最も魅力が高い項目は、「アスリートを支えるための鍼灸技術やスポーツ医学の知識、女性の身体やライフサイクルに合わせたレディース鍼灸の技術、美容・アンチエイジングをサポートする健美（美容）鍼灸の技術など、幅広い知識・技術を修得」が69%の支持を得た。次に魅力度が高いのは「現代医学の知識や科学的なアプローチについても学び、チーム医療の中での鍼灸の役割を理解し、医師や他の医療関係者と適切に連携できる力を身に付けます」で65%以上の支持があり、本学の特色である「チーム医療」や「スポーツ」に興味を持っていると認識できる。なお、後述する各施設に行った採用意向調査においても、89.9%が本学科の特色に魅力を感じており、入口出口共に本学の目指す鍼灸師養成学科が期待されている結果となっている。

### ■新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」の特色に対する魅力度

Q3. 新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部「鍼灸健康学科」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



※魅力度=「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

※魅力度は、人数をもとに%を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

なお、本学科への入学意向について性別で見ると、回答者の性別は男性が49.5%、女性が48.3%に対し、入学意向は男性が54.0%、女性が43.7%となっており、わずかながら男性の入学意向が強い傾向が見受けられる。

また、新潟医療福祉大学の所在地である「新潟県」の入学意向は、191人と入学意向者全体の35.8%を占めており、まずは本学の所在地からの進学が中心となる見通しである。

次に、本学への興味が示す結果として、「鍼灸健康学科」の学びと関連する「リハビリテーション学」に興味がある回答者の入学意向は21.4%（リハビリテーション学に興味があると回答した1,176人中、252人）と入学定員数を6倍以上上回っている。

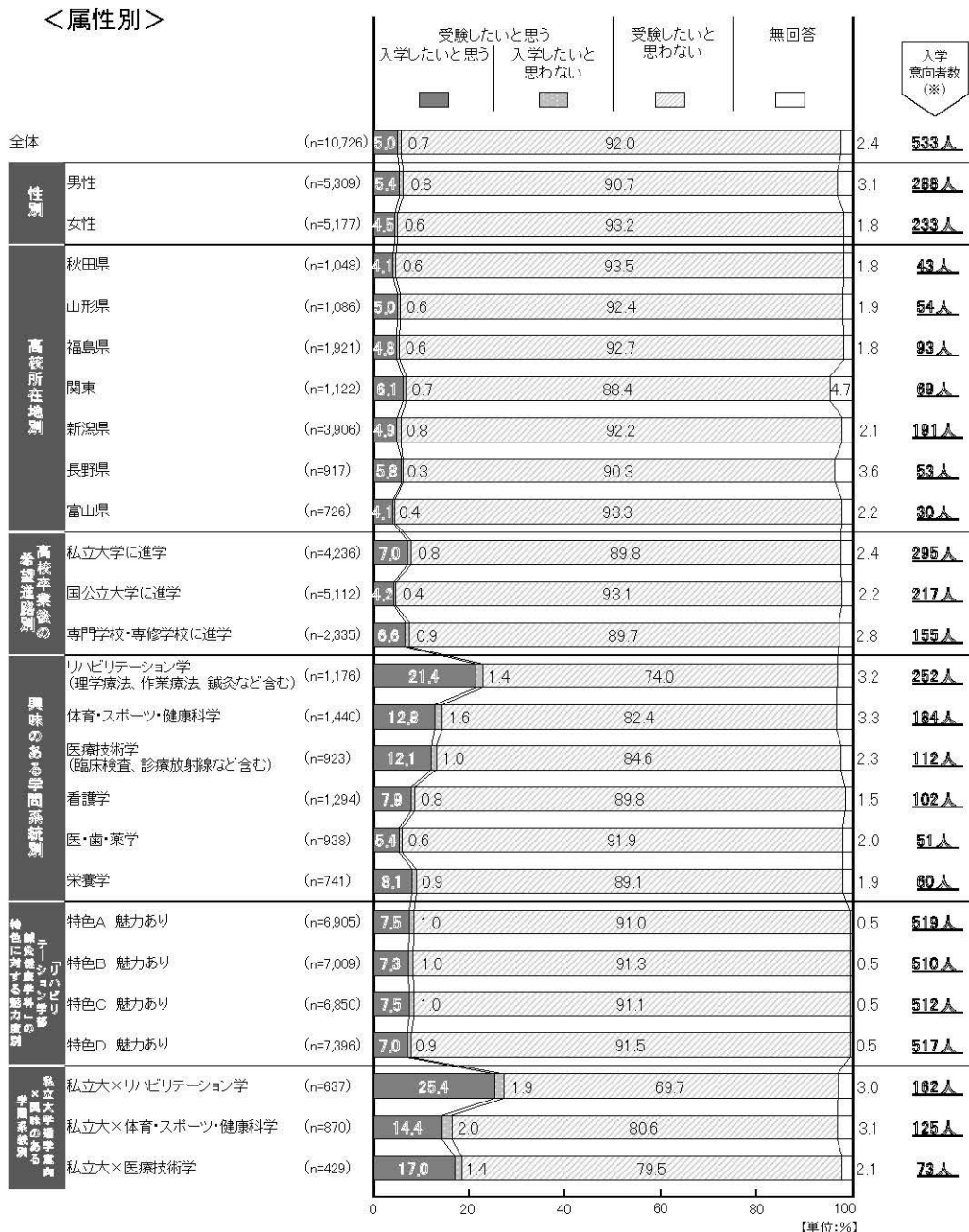
「医療技術学」に興味があると回答者の入学意向は12.1%（医療技術学に興味があると回答した923人中、112人）と入学定員数を2倍以上上回っている。

「体育・スポーツ・健康科学」に興味がある回答者の入学意向は12.8%（体育・スポーツ・健康科学に興味があると回答した1,440人中、184人）と入学定員数を4倍以上上回っていることから本学への進学に高い興味を示していることが分かる。

「鍼灸健康学科」への受験意欲については、「受験したいと思う」と答えた人は、5.6%（10,726人中、604人）であり、そのうち「入学したいと思う」と回答した人は、そのうち88.2%（533名）である（全体の5.0%）。「鍼灸健康学科」の特色に魅力を感じている学生の入学意向は、全体の5.0%に対し、いずれの特色でも7%程度みられ、新学科の特色に強く魅力を感じた学生からの入学意向が高い傾向にあり、入学意向者533名は入学定員40名の13.3倍にのぼり、受験意向及び入学意向のエビデンスとして重視される十分な学生の意向が裏づけられたと考える。〔資料 2(再掲)：新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」設置に関するニーズ調査結果報告書【高校生対象調査】〕

## ■新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」への 受験意向別入学意向〈属性別〉

※新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」に対して、Q4で「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「入学したいと思う」と回答した人を新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」の入学意向者と定義する。



※入学意向者数=「受験したいと思う」かつ「入学したいと思う」と回答した人の人数

### (3) 学生納付金の設定の考え方

学生納付金については、入学金 350,000 円、授業料 1,000,000 円、施設設備金 350,000 円、実験実習料 150,000 円とし、初年度学生納付金の合計を 1,850,000 円(2 年次以降は 1,500,000 円)とした。

学生納付金の設定の考え方は、学科運営に係る財務的な視点と学生納付金の学生への還元など受益者に対する説明責任の観点を踏まえるとともに、競合校の学生納付金の設定状況を勘案したうえで設定した。

また、競合校 10 大学の学生納付金一覧は資料 7 のとおりである。〔資料 7：鍼灸健康学科競合校の学生納付金一覧〕

初年度納入額で最も高額な大学が 2,350,000 円となっている一方、もっとも低額な大学は 1,400,000 円となっておりバラツキが大きい。本学は競合校の中では 6 番目の金額設定となっており、競合校と比較しても妥当な金額であると考ええる。

## 2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

本学では、広報委員会において全学的な広報活動方針やオープンキャンパス等の実施内容を決定し、これに基づき事務局入試広報部と各学科が協議のうえ、学生募集・広報活動計画を立案する体制となっている。

2022 年(令和 4 年)2 月より、受験生向けの各媒体において鍼灸健康学科を「設置構想中」として広報を開始し、2 月にはホームページ、および、学科紹介リーフレットによって学科概要や取得資格について周知し、受験対象者の興味関心を喚起していく。この時期からの広報活動開始については、現高校 3 年生が受験可能との誤解を防ぐため、また、現高校 2 年生が春からの志望校選択の時期前に情報提供を行うため「鍼灸健康学科」の広報は、本州日本海側に初めて開設される鍼灸師養成の私立大学であること。これまで主に首都圏の鍼灸師養成大学に進学していた東日本全域の受験生から、注目が集まるものと考えていること。年間の学生募集・広報活動計画に基づき、教職員が一体となって学生募集を行い、受験対象者に鍼灸師の業務と使命を訴え、東洋医学のスペシャリストであることを周知するとともに、本学科ではスポーツや美容などあらゆるフィールドで活躍できる鍼灸師を養成すること、またチーム医療に貢献できる鍼灸師を育成することをアピールしていくことを現高校 2 年生、高校の進路指導教員、保護者に繰り返し直接高校への訪問を行うことでアピールしていく。近年は、コロナ過の影響を大いに受け、2020 年度は高校への訪問が相次いで中止となったが、一方で、2021 年度はオンラインでの実施も可能となり、移動時間や距離の制限も無くなったことで参加数は増加している。進路ガイダンスの推移は、2018 年度 347 件、2019 年度 366 件、2020 年度 311 件、2021 年度 424 件と 2021 年度は大幅に増加しており、より密にガイダンスが実施できている。進路ガイダンスでは、多様化する資格・職業観の中から、HP・リーフレット・出張講義といった媒体で、当該資格・職業の魅力・やりがい・活躍の場・将来性を

アピールし、受験対象者に理解してもらうきっかけを提供している。

また、本学着任予定の教員は、各セミナーや講演にて本学科が新設される旨を積極的に PRするとともに、高校で実施される出張講義では、学力・偏差値・模試の判定を基準とした進路選択から、本当に自分の目指したい資格を取得できる、職業に就ける大学、学びたい教育や研究がある大学を選ぶという進路選択への導きとなる「職業」について講義を行っている。

本学への入学を希望する学生の意欲の高さが以下の点で挙げられる。

- ・総合型選抜・学校推薦型選抜出願者（第1志望層）の増加
- ・総合型選抜・学校推薦型選抜の面接試験時の本学教育や研究力への理解度の高さ
- ・進路変更に伴う退学者の減少
- ・卒業後の進路選択での専門職就職の実績の高さ

3月以降に実施されるオープンキャンパスでは、本学教育の特徴や、スポーツ科学、体育、健康科学、およびその関連分野（リハビリテーション科学を含む）において、採択件数（過去4年間の新規採択の累計数）が全国第4位（私立大学では第2位）となっているように優れた研究実績、学生支援体制、キャンパスライフなどへの深い理解に繋げており、現時点での鍼灸健康学科関連ページへの各種アクセス数が、他学科のページに比べて約2倍を記録しており、新設学科への注目度の高さを、志望度向上に繋げていく。また併せて、入学者選抜試験に向けての各種対策講座も実施し、受験対象者の入学意欲醸成を図り、出願に繋げていく。

〔資料8：鍼灸健康学科新設 年間学生募集計画〕。

## 2. 人材需要の動向等社会の要請

### 1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要)

#### (1) 教育研究上の理念及び目的

本学の教育理念は、「対象者のQOL（生活と人生の質）向上を考え、QOL向上のため支援を実践する人材（QOL サポーター）を育成」することにある。この教育理念のもと、高度な専門知識・技術と、豊かな人間性、高い倫理観を備えた質の高い医療人の育成を目指すことが目的となる。また、現代医療における鍼灸医療の役割に鑑み、時代のニーズに応え、より指導的な人材を育成することにより、我が国における保健医療へ貢献することを目指す。

教育方針は、いわゆる EBM（Evidence Based Medicine）に基づく現代医学の知識を踏まえ、東洋医学、伝統医療の科学的根拠の研究を進化させ、その研究成果により、現代医療との密接で有機的な繋がりを深めることと、ケアの本来あるべき姿を実践の場において具現化することを目指すことを目標とし、人間形成を重視した基礎教育と充実した実習時間の確保に加え、専門分野の教育、異なる学科間の交流研鑽を図り、医療福祉現場において鍼灸師もチーム医療の一員として、多職種との連携並びに役割の提示を行

い社会的向上を図る。

このような教育方針のもと、我が国における保健医療福祉分野におけるリーダー、教育者、研究者等の人材の輩出により、患者、利用者の生活の自立と QOL(生活と人生の質)の向上を図り、国民の保健衛生、社会発展に寄与、貢献することを本学科の使命とする。

研究テーマとしては、保健医療福祉を受ける側の多様化した現状を踏まえ、代替医療、予防医学、高齢者、障害者に対する医療、看護、ストレスマネジメント、難病の緩和ケア、ターミナルケア、スポーツ障害、美容鍼灸等の領域における鍼灸の可能性を追究していく。

本学では建学の精神である「優れた QOL サポーターの育成」のもと、これに求められる資質・能力を 5 項目あげ、その英語の頭文字をとって「STEPS」と定義している。本学科のディプロマポリシーにおいても既設学科同様、「STEPS」に基づいたポリシーを作成しており、その内容は以下のとおりである。

〈本学科のディプロマポリシー〉

<b>Science &amp; Art</b> 科学知識と技術を活用する力	鍼灸師に必要とされる科学的知識と技術を習得し、幅広い教養を有するとともに、鍼灸師に必要とされる科学的知識と技術を習得し、それらを臨床現場で活用できる。
<b>Teamwork &amp; Leadership</b> チームワークとリーダーシップ	鍼灸師としての高い技術と多職種連携の技能を有し、アジア地域の一員として、対象者および他の職種と良好なコミュニケーションを図りながら、リーダーシップを発揮できる。
<b>Empowerment</b> 対象者を支援する力	社会人として、また医療人として、幅広い視野を持ってさまざまな問題に柔軟に対応できる能力を備え、高い倫理観や協調性を身につけている。
<b>Problem-solving</b> 問題を解決する力	鍼灸師として必要な専門知識と技術などの論理的思考力を有し、それらを総合的に活用しながら正確な判断のもと問題解決ができる。
<b>Self-realization</b> 自己実現意欲	最新の医療・鍼灸技術の進歩に広く関心をもち、生涯を通じて主体的・意欲的に学習できる。

本学は 2001 年（平成 13 年）に開学して以来、医療専門職の学科増設を重ねている。本学では全学共通のコアカリキュラムに「連携基礎ゼミ」、「連携総合ゼミ」等の科目を設定しており、さまざまな医療専門職を理解し、連携を図る「チーム医療」の基礎を学べることが大きな特色のひとつである。鍼灸師は地域医療や現代医療において他の医療専門職と協働してチーム医療を実践することが求められる。そのため、医療機関に勤務するさまざまな専門職の役割や考え方、さらには連携の仕方をこの学びの中で理解し実践することは、卒業後に医療専門職として従事するうえで貴重な経験となる。

以上の理念及び目的のもと、チーム医療の一翼を担う医療専門職として、幅広い視野

と豊かな人間性、高い倫理観をもち、的確な対人関係形成力、他者との協調・協働力、継続的な自己研鑽力を身に付け、他の医療専門職と協働して地域医療や現代医療に貢献できる鍼灸師を養成するため、リハビリテーション学部鍼灸健康学科を設置する。なお、本学科において研究対象とする中心的な学問分野については、保健衛生学／鍼灸健康学である。

## (2) 養成する人材像

鍼灸健康学科では、以下の資質・能力を備える鍼灸師を養成する。

- ① 優れた治療技術を有するだけでなく、現代医療における鍼灸医療の役割を踏まえて医師および他の医療従事者と適切な連携ができる。
- ② 人々に寄り添い、医療人として、その健康を真摯に支えることができる。
- ③ 臨床データを踏まえた科学的なアプローチによって、医学の科学的解明に貢献できる。

養成する人材像に鑑み、鍼灸健康学科においては、高度な専門的知識と技能に加え、医療専門職として多職種間で連携した課題探求能力、問題解決力、論理的に思考し議論する能力を身に付け、科学的な根拠に基づいた適切な判断能力をも身につけた人材を育成することに努める。地域医療や現代医療に貢献するため、「はり師」「きゅう師」の国家資格を取得し、鍼灸師として保健・医療・福祉の分野において活躍する人材の育成を行う。本学科及び本学内において、「保健・医療・福祉・スポーツの総合大学」としての特色を活かした保健・医療・福祉領域の高度の連携教育を提供することは、幅広い教養と豊かな人間性を涵養し、このような人材の育成へと繋がるものとする。

## 2) 上記1) が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

### (1) 鍼灸師の社会的人材需要

#### ① 鍼灸師数の推移

鍼灸師は、上述の通り業務範囲が拡大していく中、人材需要に応える形で人口も増加している。全国のはり師・きゅう師数の推移を厚生労働省「衛生行政報告例」でみると、2008年(平成20年)は、はり師86,208人、きゅう師84,629人だったが、その後、年々増加し、2018年(平成30年)には、はり師121,757人、きゅう師119,796人と10年間で約40%増加している。

背景として、古代中国を起源として、日本へ伝わった歴史のある鍼灸だが、現在は医療の枠を超えて美容、スポーツといった幅広いジャンルにまで需要が広がっている。鍼灸は施術の方法上、同性の鍼灸師からの施術を望む傾向にあり、性差医療が叫ばれる現代において、女性特有の疾患傾向は循環器疾患、自己免疫疾患、腫瘍学、精神疾患、代謝疾患など、自身の症状に対する理解が得やすい女性鍼灸師は貴重な存在である。更に

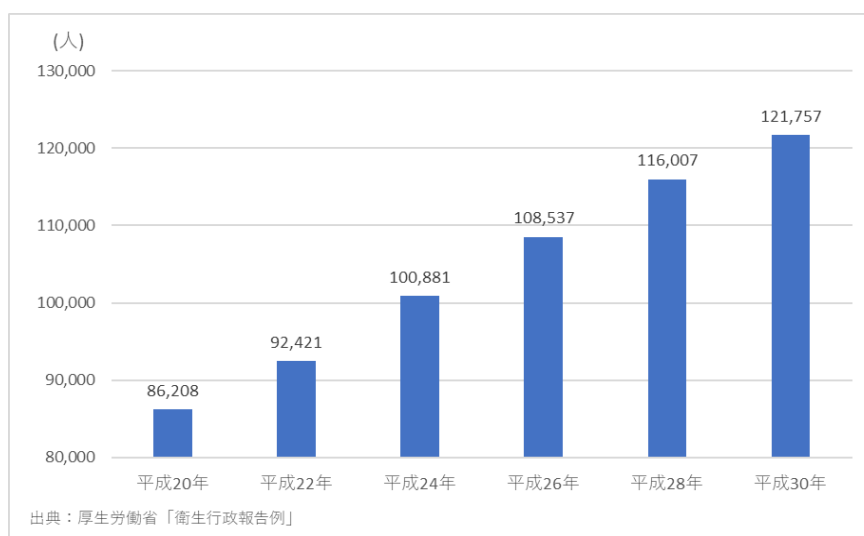
そういった中で近年、鍼灸でも特に注目されているのは美容分野である。今後、アンチエイジングを目的として施術を受ける人が増加することから女性鍼灸師に対するニーズの増加とそれに伴う女性鍼灸師の増加が予想される。

また、現代の高齢化社会では、少子化対策と並行して高齢者の健康のケアで介護現場（ディケアサービス、特別養護老人ホーム）において「機能訓練指導員」として、鍼灸師も平成30年より資格要件に追加されており、本分野においてもますます鍼灸師の需要が高まっている状況である。

更にスポーツ分野においては、Jリーグやプロ野球など、多くのプロスポーツチームにおいて鍼灸師をトレーナーとして所属している。コンディショニングやリハビリテーションの現場で鍼灸を活用する事例は国外のチームでも増えてきており、スポーツ鍼灸の国際的なニーズが高まっている。

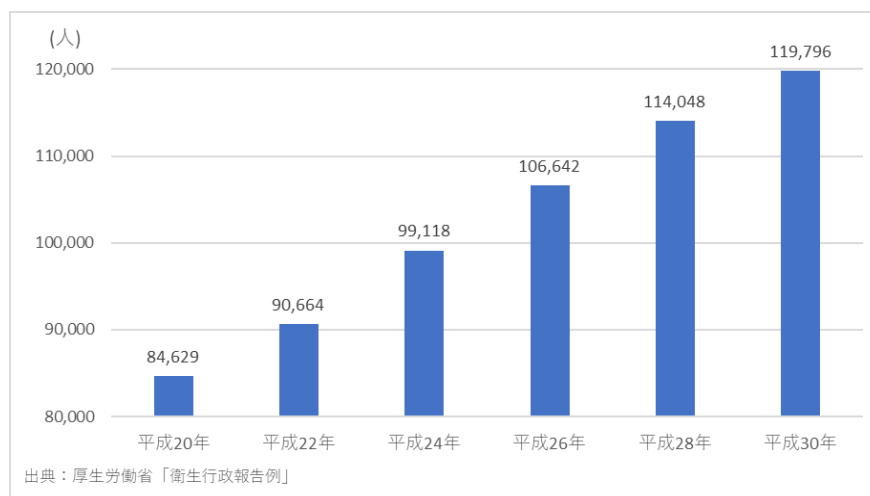
このように、今後も鍼灸を用いた疾病の検査や治療は増加することが見込まれることから、人材需要についても増加すると考えられる。

### はり師の推移(全国)





## きゅう師の推移(全国)



### (2) 本学学生の社会的、地域的な人材需要

#### ① 本学の既存学科の就職実績

先述のとおり、本学は「保健・医療・福祉・スポーツの総合大学」を標榜し、各学科専任教員が医療専門職系の国家試験受験資格をはじめとする各種資格取得の支援に重点を置くとともに、「優れた QOL サポーターの育成」を目指すという教育研究上の目的のもと、他学科（他職種）との連携教育も特色としている。

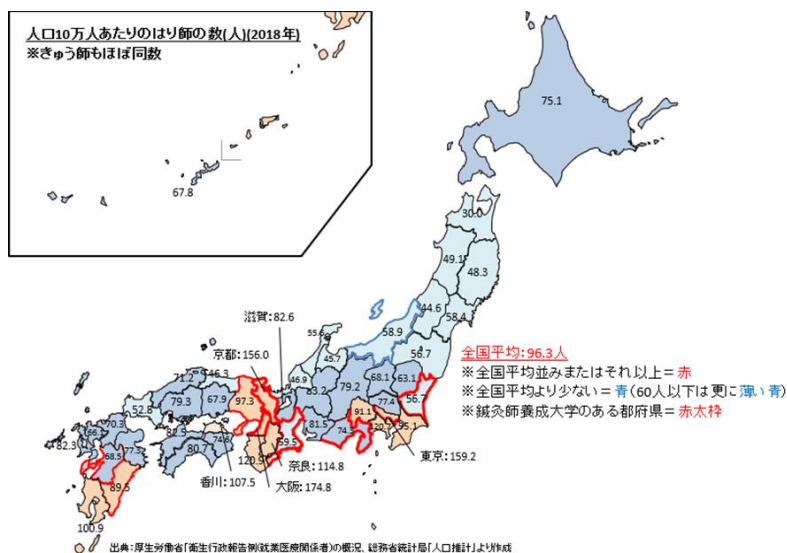
このような特色化した大学教育により、2020 年度（令和 2 年度）の本学卒業生の就職内定率は、99.6%に達した。また、本学に寄せられる学生 1 人あたりの求人は約 23.5 人に上っている。このような高い就職実績は、国家試験受験資格をはじめとする各種資格取得への支援は勿論のこと、学生一人ひとりの希望や適性に応じて、本学のキャリア支援室と各学科専任教員が一体となり、毎年度、就職支援にあたっていることが高い就職内定率として表れているものと評価する。

#### ② 人口 10 万人あたりの鍼灸師数

2018 年（平成 30 年）における人口 10 万人あたりのはり師数を都道府県別にみると、新潟県は 58.9 人（全国平均は 96.3 人）で全国 35 位と下位に位置しており、きゅう師もほぼ同数である。

また、鍼灸師養成大学が存在しない北海道・東北地方・北信越地方は人口 10 万人あたりのはり師数も少ない傾向にあり、こうした偏りの是正が求められている。このような観点からも、本学が鍼灸師を養成する必要性は高く、新潟県を拠点に、近隣県を含め鍼灸師を育成することで、鍼灸師数の地域格差を是正するとともに、鍼灸業界の更なる発展に寄与し、引いては医療の発展の一助としたい考えである。

## 人口 10 万人あたりのはり師数



## 人口 10 万人あたりのはり師数の都道府県別順位(平成 30 年)

東北地方			北信越地方		
順位	都道府県	(人)	順位	都道府県	(人)
1	大阪	174.8	25	静岡	74.3
2	東京	159.2	26	島根	71.2
3	京都	156.0	27	福岡	70.3
4	和歌山	120.9	28	熊本	68.5
5	神奈川	120.7	29	群馬	68.1
6	奈良	114.8	30	岡山	67.9
7	香川	107.5	31	沖縄	67.8
8	鹿児島	100.9	32	佐賀	66.1
9	兵庫	97.3	33	栃木	63.1
10	千葉	95.1	34	三重	59.5
11	山梨	91.1	35	新潟	58.9
12	宮崎	89.5	36	宮城	58.4
13	岐阜	83.2	37	茨城	56.7
14	滋賀	82.6	38	福島	56.7
15	愛媛	82.5	39	石川	55.6
16	長崎	82.3	40	山口	52.8
17	愛知	81.5	41	秋田	49.1
18	高知	80.7	42	岩手	48.3
19	広島	79.3	43	福井	46.9
20	長野	79.2	44	鳥取	46.3
21	埼玉	77.4	45	富山	45.7
22	大分	77.3	46	山形	44.6
23	北海道	75.1	47	青森	30.0
24	徳島	74.6	参考	全国平均	96.3

出典：厚生労働省「衛生行政報告例(就業医療関係者)の概況、総務省統計局「人口推計」より作成

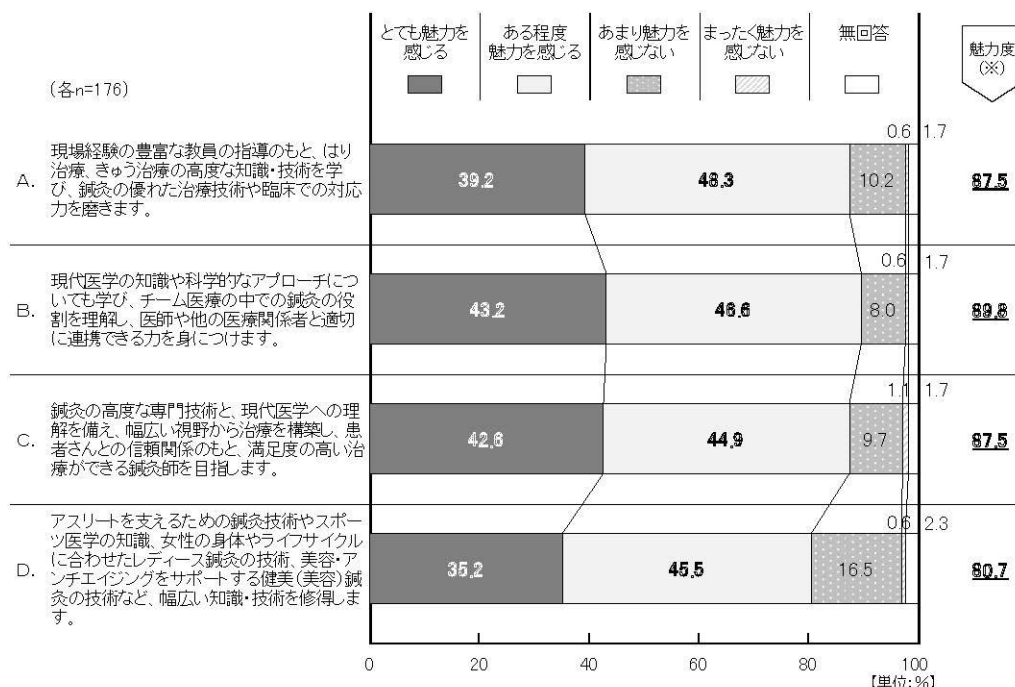
### ③ 本学科設置に係る採用意向調査結果

鍼灸師の就職先である病院等医療機関をはじめ、鍼灸治療院、社会福祉施設、スポーツ関連施設等の採用担当者に本学科を卒業する学生の採用意向調査を実施し、176 事業所から回答していただいた。【実査期間：2021 年(令和 3 年)9 月 1 日～2021 年(令和 3 年)10 月 4 日】なお、この調査の実施においては株式会社進研アドを調査実施機関とし、調査票の送付・回収及び調査の分析等を委託した。

調査の結果、施設の採用担当者が「鍼灸健康学科」の特色に対して最も魅力を感じた項目は、「現代医学の知識や科学的なアプローチについても学び、チーム医療の中での鍼灸の役割を理解し、医師や他の医療関係者と適切に連携できる力を身につけます。」であり、89.8%がこのような人材採用を希望している。これは学生が本学科に 2 番目に魅力を感じている項目でもある。先述の通り、本学は既に 13 学科の医療専門職を育成する医療総合大学であり、入口・出口双方の期待に充分に応えられる大学であると考えられる。

#### ■新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」の特色に対する魅力度

Q8. 新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部「鍼灸健康学科」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。貴社・貴施設(ご回答者)にとって、これらの特色はそれぞれどの程度魅力に感じますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値  
 ※魅力度は、人数をもとに％を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

施設の採用意向の詳細は下記の通りである。「鍼灸師が不足している」と感じている施設は 26.6%あり、当該施設の採用意向は、83.0% (47 施設中、39 施設)、採用想定人数 113 人と入学定員数の 2 倍以上上回っている。中でも「関東」エリアに本部がある施設の採用意向は、57.5% (40 施設中、23 施設)、採用想定人数は 82 人と入学定員数の 2 倍以上上回っている。鍼灸師人数別にみると鍼灸師の人数が多い施設からの採用意向が 94.7% (19 施設中、18 施設)、採用想定人数 73 人と入学定員数を上回っており、法人として鍼灸事業を展開している施設からのニーズが高いことが伺える。

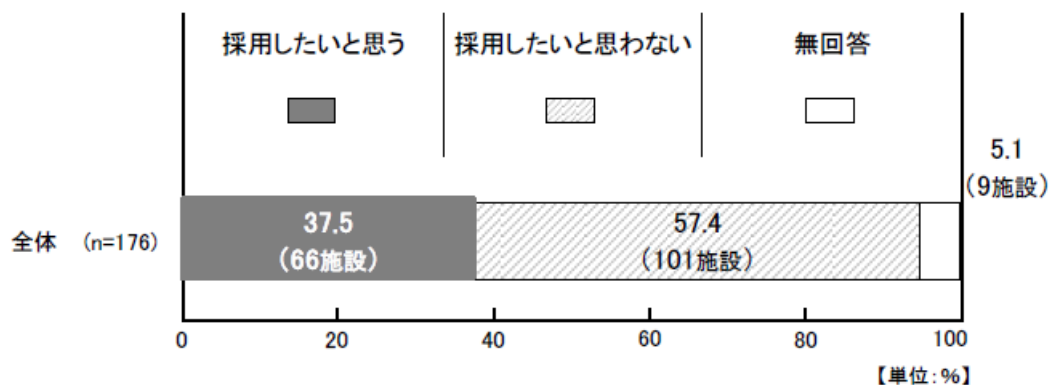
「今後、鍼灸師の需要が高まる」と回答した 32.4%の施設のうち、採用意向を持っている施設は 71.9% (57 施設中、41 施設)、採用想定人数 111 人と入学定員の 2 倍以上上回っており、事業拡大している施設の需要の高さも伺える。

鍼灸師の需要が高まる中で、本学鍼灸健康学科の社会的必要性については、「必要だと思う」が 81.8% (176 施設中、66 施設) にのぼり、鍼灸業界から学科新設の支持を集めた結果となっている。「社会的に必要だと思う」と回答した施設の採用意向は、45.1% (144 施設中、65 施設) で採用想定人数は 136 人で、入学定員数を 3 倍以上上回っている。

さらに、本学科卒業生の毎年の採用想定人数の調査では「採用したいと思う」と回答した事業所全体で、137 人という結果だった。この人数は入学定員 40 名の 3.4 倍に相当する。〔資料 9 新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」設置に関するニーズ調査結果報告書【施設対象調査】 及び下図〕

## ■新潟医療福祉大学リハビリテーション学部鍼灸健康学科卒業生の採用意向

Q10.貴社・貴施設(ご回答者)では、新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部「鍼灸健康学科」(仮称、設置構想中)を卒業した学生について、採用したいと思われますか。(あてはまる番号1つにQ)



「採用したいと思う」と答えた66施設のみ抽出

## ■「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」卒業生の毎年の採用想定人数

Q11.Q10で「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。

採用を考える場合、新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部「鍼灸健康学科」(仮称、設置構想中)を卒業した学生について、毎年何名程度の採用を想定されますか。(あてはまる番号1つにQ)

標本数	単位	1名	2名	3名	4名	5名 ～ 9名	10名 以上	計 (※ よび の採 用設 想定 人数 ・計 人数 を )	
		全体	66	% 54.5%	15.2%	6.1%	1.5%		7.6%
		施設数 36	10	4	1	5	4	60	
		名 36	20	12	4	25	40	137	

※ 毎年の採用想定人数・計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

以上のことから、本学科は入学定員 40 名以上の就職先を確保できる見通しである。これを実現するために、学生一人ひとりの進路希望を早期から把握し、教育課程内外で鍼灸師としての進路に向き合う意識を醸成していく。また、学生一人ひとりの学力、学習の到達度、個性、適性等を学年担当とゼミ担当教員が互いに情報共有しながら、適切に就職指導・支援を行っていくとともに、本学事務局キャリア開発室と学科の就職センター運営委員が連携した体制とする。

## 学生の確保の見通し等を記載した書類 添付資料目次

資料 1	鍼灸師養成校一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
資料 2	新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」 設置に関するニーズ調査結果報告書【高校生対象調査】・・・	4
資料 3 - 1	18 歳人口と高等教育機関への進学率等の推移・・・・・・・・・・	21
資料 3 - 2	高等学校卒業生数・大学（学部）志願者数・大学（学部） 入学定員の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・	22
資料 4	大学等への現役進学率（新潟と近県）・・・・・・・・・・	23
資料 5	鍼灸健康学科競合校の入試状況・・・・・・・・・・	24
資料 6	第 27 回～第 29 回 あん摩マッサージ指圧師、はり師及び きゅう師国家試験の学校別合格者状況（厚生労働省）・・・・・・	25
資料 7	鍼灸健康学科競合校の学生納付金一覧・・・・・・・・・・	57
資料 8	鍼灸健康学科新設 年間学生募集広報計画・・・・・・・・・・	58
資料 9	新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」 設置に関するニーズ調査結果報告書【施設対象調査】・・・・・・	59

[資料1]鍼灸師養成校一覧

令和3年12月現在

	NO.	都道府県	学校名	学部名	学科名	入学定員
私立 大学 10	1	東京都	東京有明医療大学	保健医療学部	鍼灸学科	60
	2	東京都	帝京平成大学	ヒューマンケア学部	鍼灸学科	88
	3	静岡県	常葉大学	健康プロデュース学部	健康鍼灸学科	30
	4	京都府	明治国際医療大学	鍼灸学部	鍼灸学科	50
	5	三重県	鈴鹿医療科学大学	保健衛生学部	鍼灸サイエンス学科	30
	6	大阪府	森ノ宮医療大学	保健医療学部	鍼灸学科	60
	7	大阪府	関西医療大学	保健医療学部	はり灸・スポーツトレーナー学科	50
	8	兵庫県	宝塚医療大学	保健医療学部	鍼灸学科	30
	9	宮崎県	九州保健福祉大学	社会福祉学部	スポーツ健康福祉学科	40
	10	熊本県	九州看護福祉大学	看護福祉学部	鍼灸スポーツ学科	40
	11	北海道	北海道鍼灸専門学校		鍼灸科 昼間部	30
					鍼灸科 夜間部	30
	12	北海道	札幌スポーツ&メディカル専門学校		鍼灸科 昼間部	30
					鍼灸科 夜間部	27
	13	北海道	札幌青葉鍼灸柔整専門学校		鍼灸学科 昼間1部	30
					鍼灸学科 昼間2部	30
	14	北海道	北海道ハイテクノロジー専門学校		スポーツ鍼灸師学科	30
	15	宮城県	赤門鍼灸柔整専門学校		鍼灸マッサージ東洋医療科 昼間部	50
					鍼灸医療科第二部 夜間部	20
	16	宮城県	東日本医療専門学校		鍼灸スポーツ科学科	30
	17	岩手県	盛岡医療福祉スポーツ専門学校		鍼灸学科	30
	18	福島県	福島医療専門学校		鍼灸科	30
	19	東京都	新宿医療専門学校		鍼灸学科	60
	20	東京都	東京医療福祉専門学校		はり・きゅう・あん摩マッサージ指圧科(本科)	46
					はり・きゅう科(専科)	30
	21	東京都	日本健康医療専門学校		鍼灸学科 午前部	30
					鍼灸学科 午後部	30
	22	東京都	東京医療専門学校		鍼灸マッサージ科	60
					鍼灸科	30
					鍼灸科 夜間特修コース	30
	23	東京都	日本医学柔整鍼灸専門学校		鍼灸学科 昼間部	60
					鍼灸学科 夜間部	60
	24	東京都	東洋鍼灸専門学校		鍼灸科 昼間部	30
					鍼灸科 夜間部	30
					鍼灸あん摩マッサージ指圧科 昼間部	30
					鍼灸あん摩マッサージ指圧科 夜間部	30
	25	東京都	国際鍼灸専門学校		本科(はり・きゅう・あん摩マッサージ指圧)	60
	26	東京都	了徳寺学園医療専門学校		鍼灸科 午前部	30
					鍼灸科 午後部	30
	27	東京都	日本工学院八王子専門学校		鍼灸科	30
	28	東京都	東京メディカル・スポーツ専門学校		鍼灸師科 午前コース	30
					鍼灸師科 午後コース	30
	29	東京都	首都医校		鍼灸学科 昼間部	20
					鍼灸学科 夜間部	30
	30	東京都	東京衛生学園専門学校		東洋医療総合学科 1部(昼間)	30
					東洋医療総合学科 2部(夜間)	28
	31	東京都	お茶の水はりきゅう専門学校		はり師きゅう師学科(昼間部)	28
					はり師きゅう師学科(夜間部)	28
	32	東京都	アルファ医療福祉専門学校		はり・きゅう学科	30

33	神奈川県	湘南医療福祉専門学校		東洋療法科	20
34	神奈川県	神奈川衛生学園専門学校		東洋医療総合学科	80
35	神奈川県	横浜医療専門学校		鍼灸科(昼間部)	60
				鍼灸科(夜間部)	30
36	神奈川県	神奈川柔整鍼灸専門学校		鍼灸学科 I部(午前)	30
				鍼灸学科 II部(午後)	30
37	神奈川県	呉竹鍼灸柔整専門学校		鍼灸マッサージ科(午前)	30
				鍼灸マッサージ科(午後)	40
				鍼灸科	30
38	埼玉県	呉竹医療専門学校		鍼灸マッサージ科 I部	60
				鍼灸科 II部	30
39	埼玉県	浦和専門学校		鍼灸科(午前部)	28
				鍼灸科(午後部)	28
				鍼灸科 II部	28
40	千葉県	関東鍼灸専門学校		はり・きゅう科 昼間部	30
				はり・きゅう科 夜間部	30
41	石川県	金沢医療技術専門学校		鍼灸学科 昼間部	10
				鍼灸学科 夜間部	5
42	新潟県	国際メディカル専門学校		鍼灸学科 昼間部	30
				鍼灸学科 夜間部	30
43	新潟県	新潟看護医療専門学校		東洋医療学科	15
44	群馬県	育英メディカル専門学校		鍼灸学科 I部 午前部	30
				鍼灸学科 II部 午後部	30
45	静岡県	専門学校 浜松医療学院		鍼灸学科	30
46	静岡県	静岡医療学園専門学校		鍼灸学科	30
47	静岡県	東海医療学園専門学校		鍼灸マッサージ科	40
48	静岡県	静岡東都医療専門学校		鍼灸学科	30
49	静岡県	専門学校中央医療健康大学校		トータルケア鍼灸学科	26
50	愛知県	名古屋平成看護医療専門学校		はり・きゅう学科 鍼灸専攻 昼間部AM	20
				はり・きゅう学科 鍼灸専攻 昼間部PM	20
51	愛知県	名古屋医健スポーツ専門学校		鍼灸科	30
52	愛知県	中和医療専門学校		あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科(本科)	70
				はり、きゅう科(専科)	30
53	愛知県	名古屋鍼灸学校		はり、きゅう、あん摩マッサージ指圧科	30
54	愛知県	名古屋医専		鍼灸学科(昼)	30
				鍼灸学科(夜)	30
55	大阪府	近畿医療専門学校		鍼灸学科 午前コース	30
				鍼灸学科 午後コース	30
56	大阪府	東洋医療専門学校		鍼灸師学科 昼間部	30
				鍼灸師学科 夜間部	30
57	大阪府	関西医療学園専門学校		東洋医療学科	30
58	大阪府	履正社医療スポーツ専門学校		東洋医療鍼灸学科	30
				鍼灸学科 午前部	30
59	大阪府	森ノ宮医療学園専門学校		鍼灸学科 午後部	30
				鍼灸学科 昼間部 午前コース	50
				鍼灸学科 昼間部 昼間コース	30
60	大阪府	大阪行岡医療専門学校		鍼灸学科 夜間部 夜間コース	30
				鍼灸科	50
61	大阪府	明治東洋医学院専門学校		鍼灸学科 昼間部	60
				鍼灸学科 夜間部	30
62	大阪府	平成医療学園専門学校		鍼灸師科 昼間 I部	30



62	大阪府	大阪医療専門学校	鍼灸師科 昼間Ⅱ部	30
63	大阪府	大阪医療技術学園専門学校	鍼灸美容学科	30
64	大阪府	大阪ハイテクノロジー専門学校	鍼灸スポーツ学科	30
65	大阪府	大阪医専	鍼灸学科(昼)	30
			鍼灸学科(夜)	30
66	京都府	京都医健専門学校	鍼灸科 I部 午後集中コース	30
67	京都府	京都仏眼鍼灸理療専門学校	鍼灸・マッサージ科(本科)	20
			第1鍼灸科 昼間部	30
			第2鍼灸科 夜間部	30
68	兵庫県	神戸医療福祉専門学校	鍼灸科 I部 午前集中コース	30
69	兵庫県	兵庫鍼灸専門学校		40
70	岡山県	朝日医療大学校	鍼灸学科(午前)	30
			鍼灸学科(午後)	30
71	広島県	朝日医療専門学校	鍼灸学科 昼間部(午前コース)	30
			鍼灸学科 昼間部(午後コース)	30
72	香川県	四国医療専門学校	鍼灸マッサージ学科	30
73	愛媛県	河原医療福祉専門学校	鍼灸師科(午前)	28
			鍼灸師科(午後)	28
74	佐賀県	九州医療専門学校	鍼灸師科	30
75	福岡県	福岡天神医療リハビリ専門学校	鍼灸学科	30
76	福岡県	九州医療スポーツ専門学校	鍼灸学科 昼間Ⅰ部	30
			鍼灸学科 昼間Ⅱ部	30
77	福岡県	福岡医健・スポーツ専門学校	鍼灸科 午前集中コース	30
			鍼灸科 美容スポーツコース	30
78	福岡県	福岡医療専門学校	鍼灸科	60
79	長崎県	こころ医療福祉専門学校	スポーツ鍼灸科	30
80	鹿児島県	鹿児島鍼灸専門学校	鍼灸科 あん摩マッサージ指圧学科	20
81	鹿児島県	鹿児島第一医療リハビリ専門学校	はり・きゅう学科	15
82	沖縄県	沖縄統合医療学院	第1鍼灸学科(昼間部)	30
			第2鍼灸学科(夜間部)	30

出所:各養成校ホームページ

〔資料2〕

---

---

新潟医療福祉大学  
「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」(仮称)  
設置に関するニーズ調査  
結果報告書  
【高校生対象調査】

---

---

令和4年1月  
株式会社 進研アド

学生確保(資料) - 4

© Shinken-Ad. Co., Ltd. All Rights Reserved.

# 高校生対象 調査概要

## 1. 調査目的

2023年4月開設予定の新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」新設構想に関して、高校生からの進学ニーズを把握する。

## 2. 調査概要

		高校生対象調査
調査対象		高校2年生
調査エリア		秋田県、山形県、福島県、群馬県、埼玉県、東京都、神奈川県、新潟県、富山県、長野県
調査方法		高校留置き調査
調査対象数	依頼数 (依頼校数)	17,095人(110校)
	有効回収数 (回収校数)	10,726人(94校) 有効回収率:62.7%
調査時期		2021年9月1日(水)～2021年10月4日(月)
調査実施機関		株式会社 進研アド

## 3. 調査項目

高校生対象調査
・性別
・高校種別
・高校所在地
・所属クラス
・高校卒業後の希望進路
・興味のある学問系統
・新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」の特色に対する魅力度
・新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」への受験意向
・新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」への入学意向

## 高校生対象 調査結果まとめ



# 高校生対象 調査結果まとめ

## 回答者の属性

※本調査は、新潟医療福祉大学の「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」に対する需要を確認するための調査として設計。新潟医療福祉大学の主な学生募集エリアと想定される秋田県、山形県、福島県、群馬県、埼玉県、東京都、神奈川県、新潟県、富山県、長野県に所在する高校の高校2年生に調査を実施し、10,726人から回答を得た。

- 回答者の性別は、「男性」が49.5%、「女性」が48.3%である。
- 回答者の在籍高校種別は「公立」が59.0%、「私立」が41.0%である。
- 回答者の在籍高校所在地は、新潟医療福祉大学の所在地である「新潟県」が36.4%を占め、最も多い。次に「福島県」が17.9%、「山形県」が10.1%と続く。
- 回答者の所属クラスは「文系クラス(文系コース)」が36.5%、「理系クラス(理系コース)」が36.0%、「コース選択はない」が12.6%。

## 高校卒業後の希望進路や興味のある学問系統

- 回答者の高校卒業後の希望進路を複数回答で聴取したところ、「国公立大学に進学」の割合が47.7%で最も高い。次いで「私立大学に進学」が39.5%、「専門学校・専修学校に進学」が21.8%と続く。私立大学への進学志望者も多いことから、新潟医療福祉大学がターゲットとする対象に調査を実施出来ていると考えられる。
- 回答者の興味のある学問系統を複数回答で聴取したところ、「経済・経営・商学」が16.0%で最も高い。次いで「工学」が14.2%、「体育・スポーツ・健康科学」が13.4%と続く。

新潟医療福祉大学が新設を予定している「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」の学びと関連する「リハビリテーション学(理学療法、作業療法、鍼灸など含む)」に興味があると回答した人は11.0%。

# 高校生対象 調査結果まとめ

## 新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」の特色に対する魅力度

- 新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」の特色に対する魅力度(※)は、すべての項目において6割を超える。
- 最も魅力度が高いのは、「D. アスリートを支えるための鍼灸技術やスポーツ医学の知識、女性の身体やライフサイクルに合わせたレディース鍼灸の技術、美容・アンチエイジングをサポートする健美(美容)鍼灸の技術など、幅広い知識・技術を修得します。」(69.0%)であり、「とても魅力を感じる」と回答した人の割合も23.9%で最も高い。

次に魅力度が高いのは、「B. 現代医学の知識や科学的なアプローチについても学び、チーム医療の中での鍼灸の役割を理解し、医師や他の医療関係者と適切に連携できる力を身につけます。」(65.3%)、さらに「A. 現場経験の豊富な教員の指導のもと、はり治療、きゅう治療の高度な知識・技術を学び、鍼灸の優れた治療技術や臨床での対応力を磨きます。」(64.4%)、「C. 鍼灸の高度な専門技術と、現代医学への理解を備え、幅広い視野から治療を構築し、患者さんとの信頼関係のもと、満足度の高い治療ができる鍼灸師を目指します。」(63.9%)と続く。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

## 新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」への受験意向／入学意向

- 新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」を「受験したいと思う」と答えた人は、5.6%(10,726人中、**604人**)である。
- 新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」を「受験したいと思う」と答えた604人のうち、新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」に「入学したいと思う」と回答した人は、88.2%(**533人**)である。

# 高校生対象 調査結果まとめ

## 新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」への 入学意向者数

※ここからは、新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」に対して、Q4で「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「入学したいと思う」と回答した人を入学意向者と定義し、分析を行う。

- 回答者全体における入学意向は5.0%（全回答者10,726人中、**533人**）で、予定されている入学定員40人を10倍以上上回る入学意向者がみられた。

<属性別>

### ◇性別

- 「男性」の入学意向は5.4%（男性5,309人中、**288人**）、「女性」の入学意向は4.5%（女性5,177人中、**233人**）と、どちらも予定している入学定員数を5倍以上上回る入学意向者がみられた。

### ◇高校所在地別

- 新潟医療福祉大学の所在地である「新潟県」の高校在籍者からの入学意向は4.9%（新潟県の高校在籍者3,906人中、**191人**）と、予定している入学定員数を4倍以上上回る入学意向者がみられた。

また、新潟県に隣接する「福島県」の高校在籍者からの入学意向は4.8%（福島県の高校在籍者1,921人中、**93人**）、同じく隣接する「長野県」の高校在籍者からの入学意向も5.8%（長野県の高校在籍者917人中、**53人**）と、いずれも予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

### ◇高校卒業後の希望進路別

- 新潟医療福祉大学を受験・入学する可能性が高い「私立大学に進学」を考えている回答者の入学意向は7.0%（私立大学に進学を考えていると回答した4,236人中、**295人**）と、予定している入学定員数を大きく上回る入学意向者がみられた。

# 高校生対象 調査結果まとめ

---

## ◇興味のある学問系統別

- 新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」の学びと関連する「リハビリテーション学(理学療法、作業療法、鍼灸など含む)」に興味がある回答者の入学意向は21.4%(リハビリテーション学に興味があると回答した1,176人中、**252人**)と、予定している入学定員数を6倍以上上回る入学意向者がみられた。
- また、「医療技術学(臨床検査、診療放射線など含む)」に興味がある回答者の入学意向は12.1%(医療技術学に興味があると回答した923人中、**112人**)、「体育・スポーツ・健康科学」に興味がある回答者の入学意向は12.8%(体育・スポーツ・健康科学に興味があると回答した1,440人中、**184人**)と、いずれも予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。

## ◇新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」の特色に対する魅力度別

- 新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」の特色に魅力を感じている回答者の入学意向は、いずれの特色でも7%程度みられ、新学科の特色に魅力を感じた人からの入学意向が高い傾向がうかがえる。

## ◇私立大学進学意向×興味のある学問系統別

- 新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」を受験・入学する可能性がより高いと考えられる、「私立大学に進学」を考慮しており、かつ、「リハビリテーション学」に興味がある回答者の入学意向は25.4%(私立大学に進学を考慮している、かつ、リハビリテーション学に興味があると回答した637人中、**162人**)。ターゲットの条件をより精緻に限定した場合でも、予定している入学定員数を4倍以上上回る入学意向者がみられた。

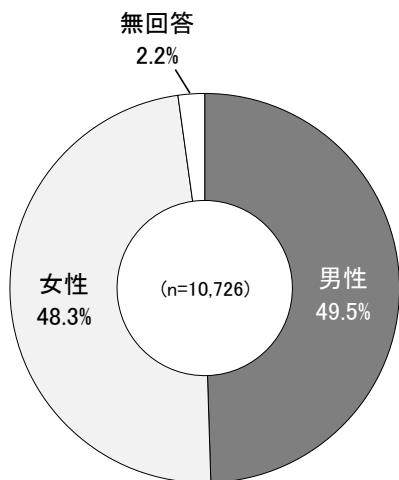


## 高校生対象 調査結果

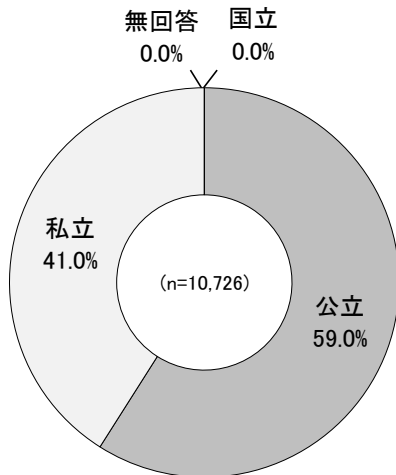


# 回答者の属性(性別／高校種別／高校所在地／所属クラス)

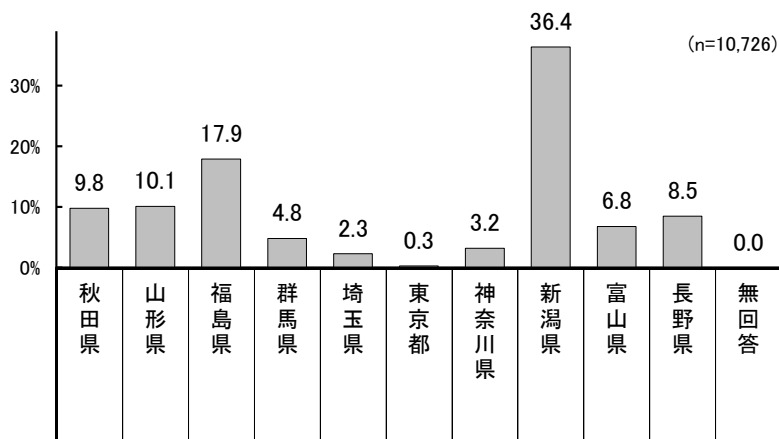
## ■性別



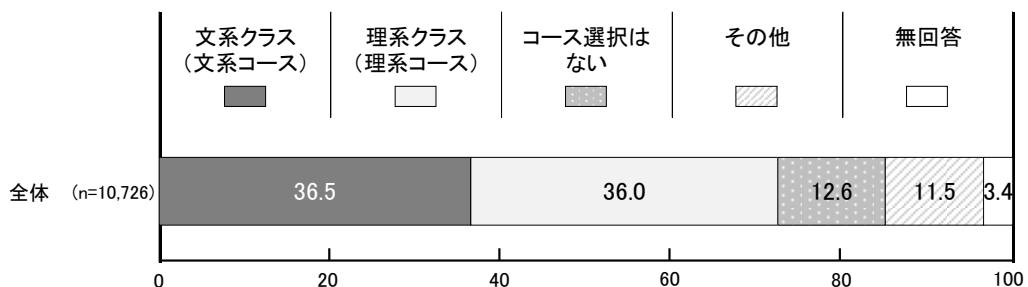
## ■高校種別



## ■高校所在地



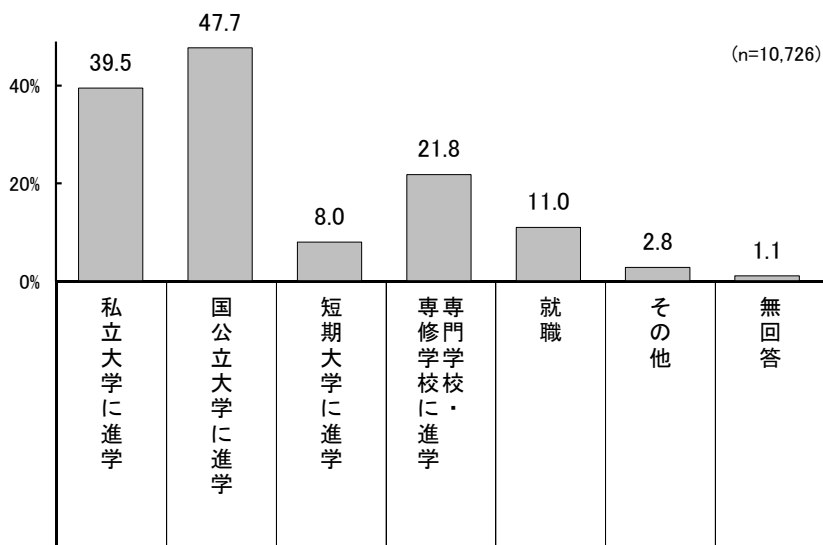
## ■所属クラス



# 高校卒業後の希望進路

## ■高校卒業後の希望進路

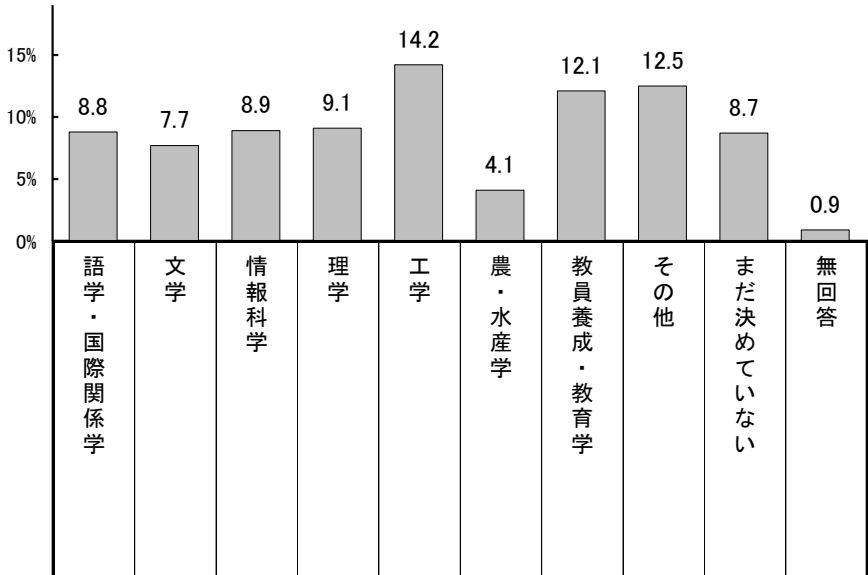
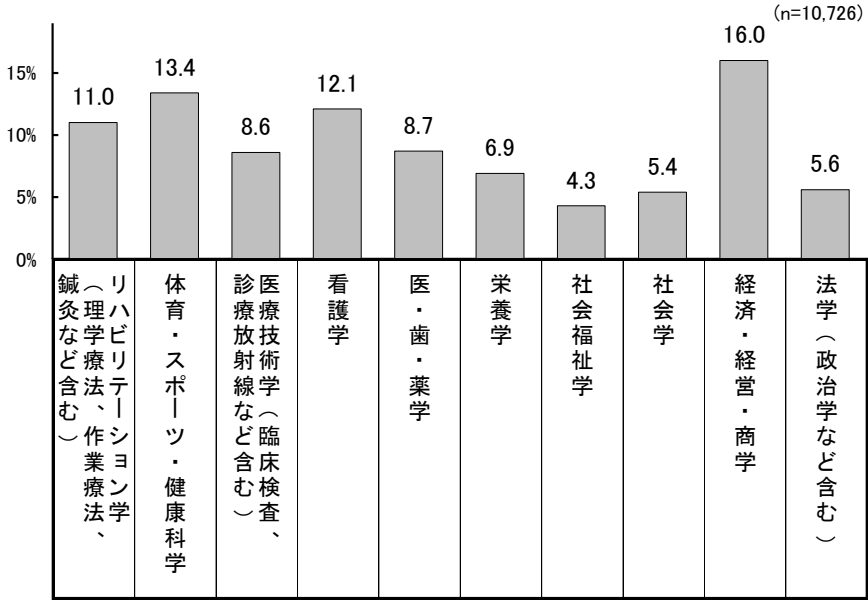
Q1. あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。以下の項目から、あてはまる番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)



# 興味のある学問系統

## ■興味のある学問系統

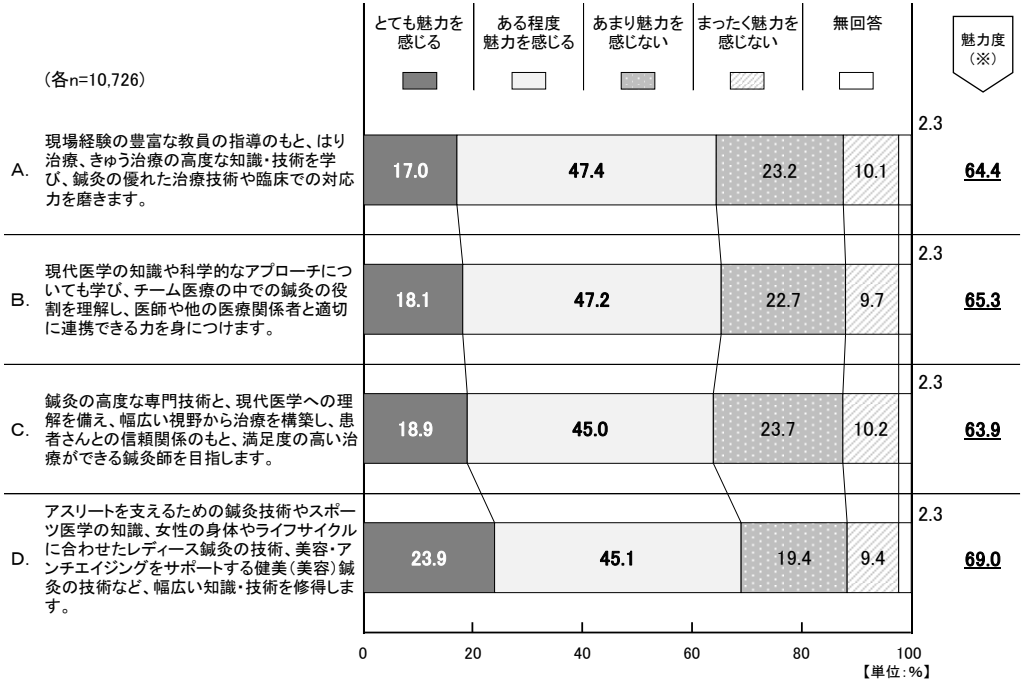
Q2. あなたは、どのような学問に興味がありますか。以下の項目から、興味のある学問系統の番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)(現時点で進学を希望されていない方も、進学する場合を想像してお答えください。)



# 新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」の特色に対する魅力度

## ■新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」の特色に対する魅力度

Q3. 新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部「鍼灸健康学科」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



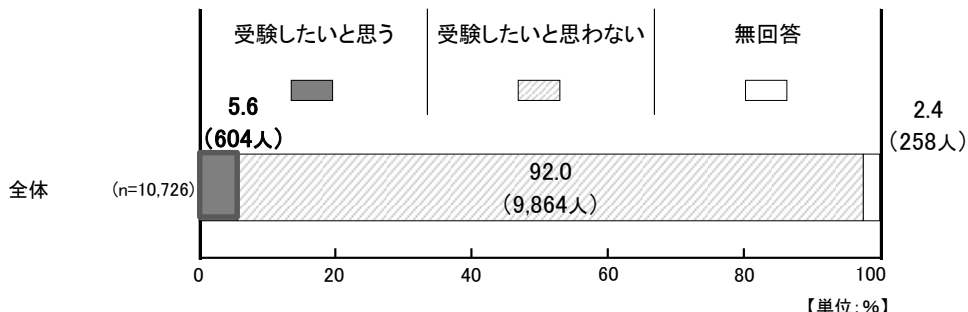
※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

※魅力度は、人数をもとに%を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

# 新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」への受験意向／入学意向／受験意向別入学意向

## ■新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」への受験意向

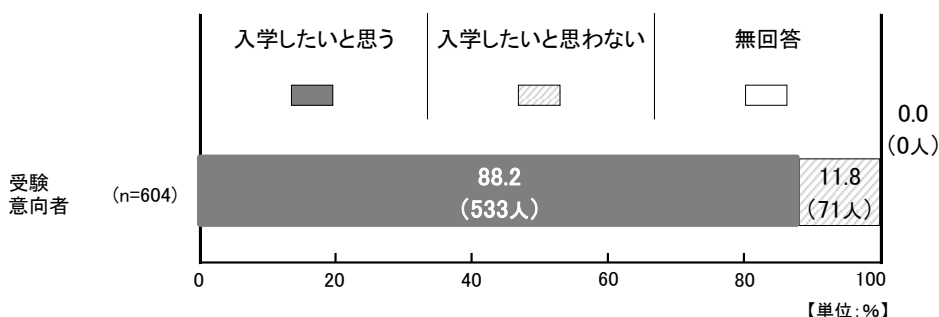
Q4. あなたは、新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部「鍼灸健康学科」(仮称、設置構想中)を受験してみたいと思いますか。あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)



「受験したいと思う」と答えた604人のみ抽出

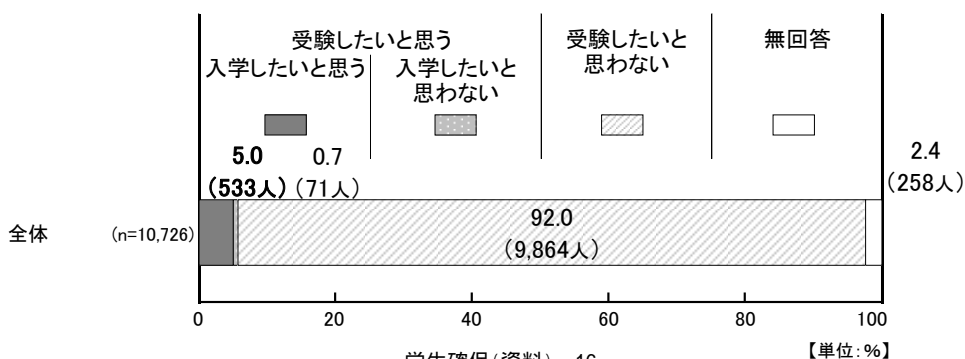
## ■新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」への入学意向

Q5. あなたは、新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部「鍼灸健康学科」(仮称、設置構想中)に合格したら、入学したいと思いますか。あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)



「受験意向(Q4)」と「入学意向(Q5)」を  
かけあわせて集計(母数は全回答者)

## ■新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」への 受験意向別入学意向

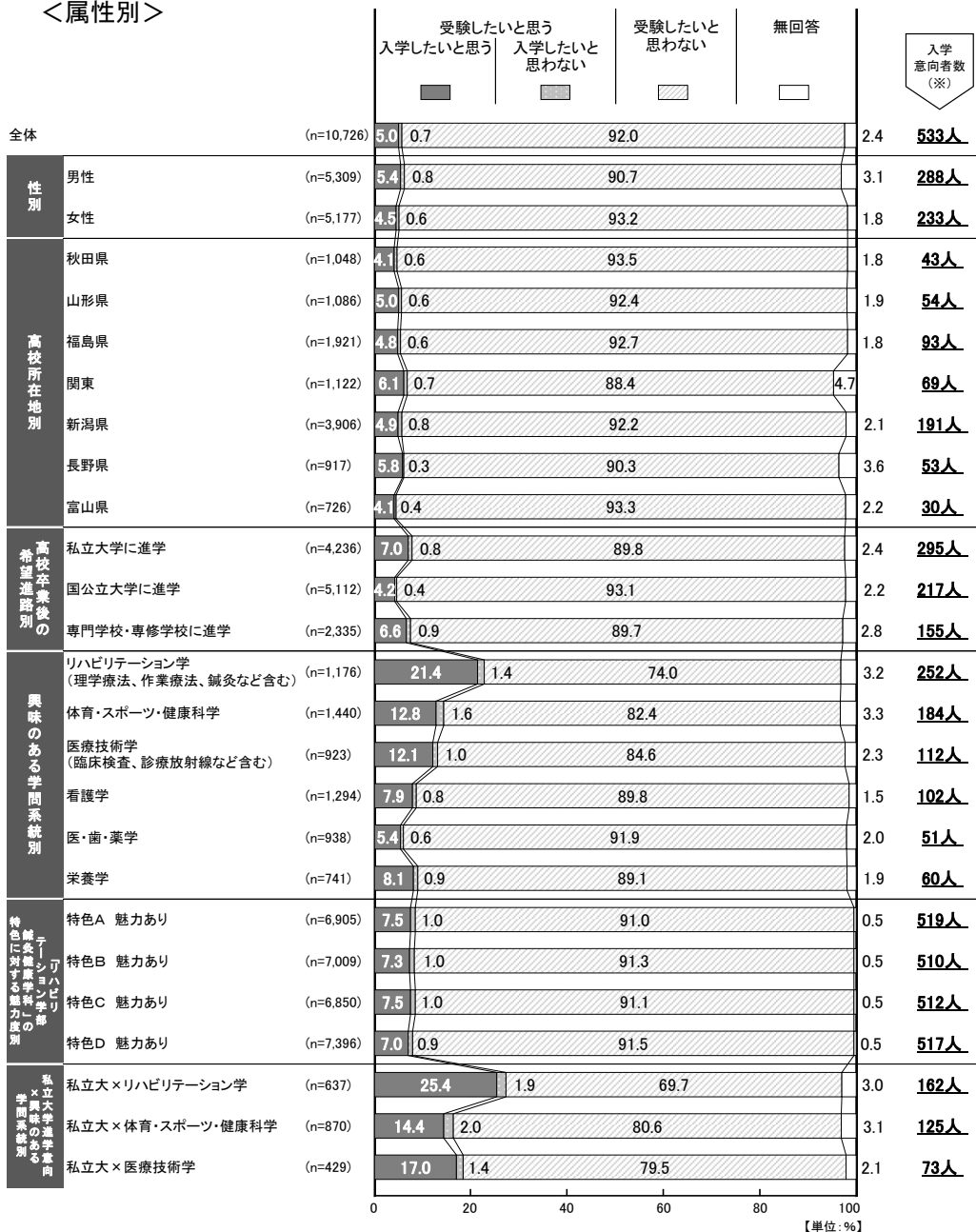


# 新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」への受験意向別入学意向<属性別>

## ■新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」への受験意向別入学意向<属性別>

※新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」に対して、Q4で「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「入学したいと思う」と回答した人を新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」の入学意向者と定義する。

### <属性別>



※入学意向者数=「受験したいと思う」かつ「入学したいと思う」と回答した人の人数

## 卷末資料 調查票



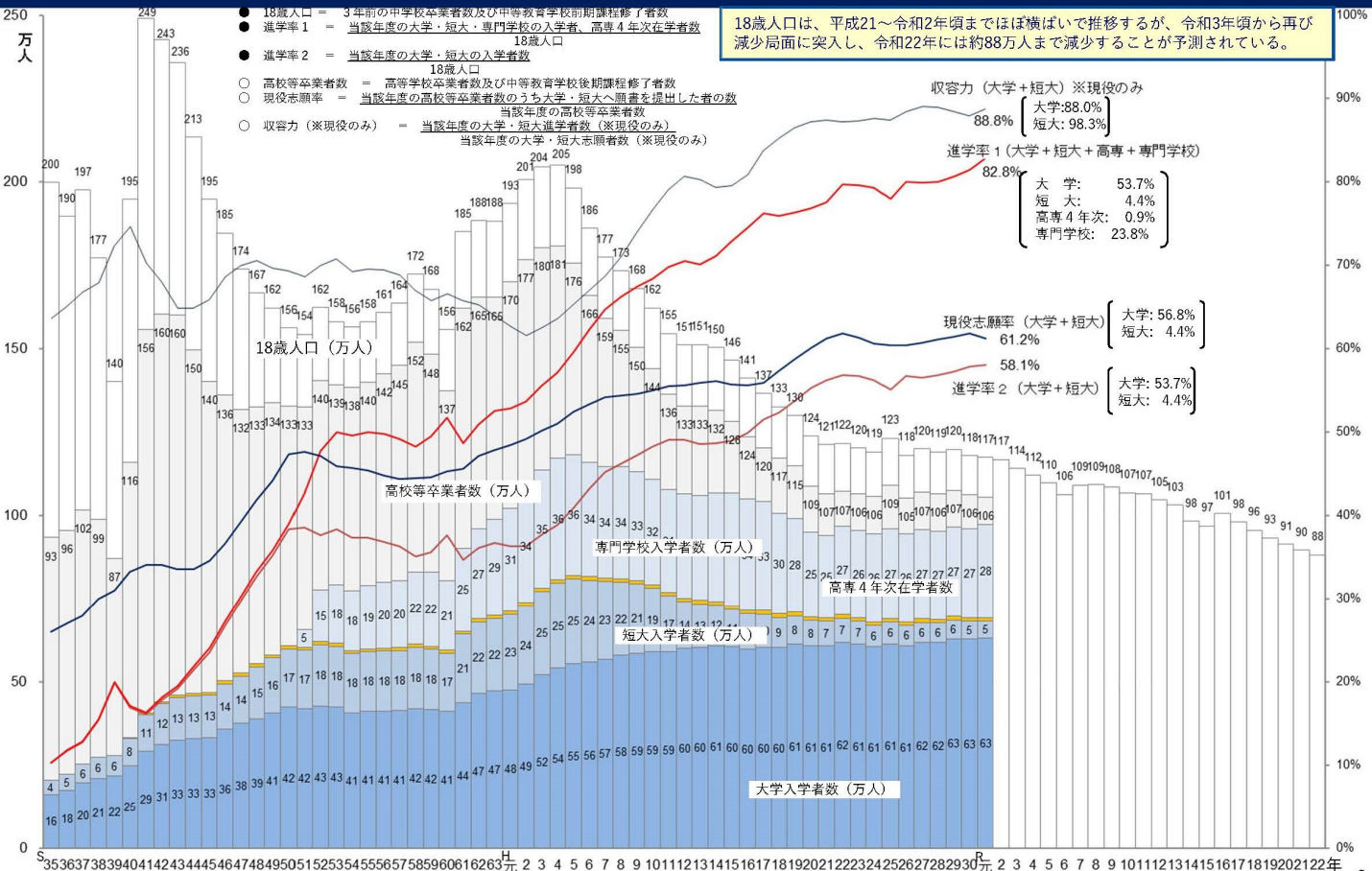






[資料3-1]

# 18歳人口と高等教育機関への進学率等の推移



【出典】文部科学省「学校基本統計」令和14年～22年度については国立社会保険・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)(出生中位・死亡中位)」を元に作成  
 ※進学率、現役志願率については、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

# [資料3-2] 高等学校卒業生数・大学（学部）志願者数・大学（学部）入学定員の推移

年度	高等学校等 卒業生数	大学（学部） 入学志願者数	大学（学部）入学者数				大学（学部）入学定員				大学（学部） 進学率
			計	国立	公立	私立	計	国立	公立	私立	
平成 10	1,441,061	790,423	590,743	107,311	21,205	462,227	515,735	102,526	19,813	393,396	36.4%
11	1,362,682	756,422	589,559	105,240	22,629	461,690	524,807	99,899	21,011	403,897	38.2%
12	1,328,940	745,200	599,655	103,054	23,578	473,023	535,445	97,297	21,792	416,356	39.7%
13	1,327,109	750,331	603,953	103,013	24,125	476,815	539,370	97,337	22,289	419,744	39.9%
14	1,315,079	756,333	609,337	103,301	24,276	481,760	543,319	97,072	22,399	423,848	40.5%
15	1,281,656	742,934	604,785	103,762	25,153	475,870	543,818	97,187	22,916	423,715	41.3%
16	1,235,482	722,227	598,331	103,552	25,074	469,705	545,261	96,525	23,084	425,652	42.4%
17	1,203,251	699,732	603,760	104,130	26,050	473,580	551,775	96,485	24,063	431,227	44.2%
18	1,172,087	690,435	603,054	104,027	26,935	472,092	561,959	96,393	25,033	440,533	45.5%
19	1,148,108	689,673	613,613	102,455	26,967	484,191	567,123	96,278	25,235	445,610	47.2%
20	1,089,188	670,371	607,159	102,345	27,461	477,353	570,250	95,956	25,462	448,832	49.1%
21	1,065,412	668,590	608,731	101,847	28,414	478,470	573,223	96,272	26,532	450,419	50.2%
22	1,071,422	680,644	619,119	101,310	29,107	488,702	575,325	96,447	27,397	451,481	50.9%
23	1,064,074	674,696	612,858	101,917	29,657	481,284	578,427	96,458	27,742	454,227	51.0%
24	1,056,387	664,334	605,390	101,181	30,017	474,192	581,428	96,497	27,987	456,944	50.8%
25	1,091,614	679,199	614,183	100,940	30,044	483,199	583,618	96,512	28,395	458,711	49.9%
26	1,051,343	661,555	608,247	100,874	30,669	476,704	586,024	96,465	28,823	460,736	51.5%
27	1,068,989	666,327	617,507	100,631	30,940	485,936	588,962	96,277	28,843	463,842	51.5%
28	1,064,352	665,237	618,423	100,146	31,307	486,970	593,347	95,981	29,317	468,049	52.0%
29	1,074,655	679,004	629,733	99,462	31,979	498,292	606,835	95,693	29,858	481,284	52.6%
30	1,061,565	679,040	628,821	99,371	33,073	496,377	616,697	95,650	32,717	488,330	53.3%
31	1,055,807	673,844	631,267	99,136	33,712	498,419	614,803	95,635	31,748	487,420	53.7%

※高等学校等卒業生数・・・高等学校及び中等教育学校後期課程の前年度の卒業生数（現役のみ）

※大学（学部）入学志願者数・・・高等学校及び中等教育学校後期課程の卒業生のうち、大学（学部）への入学志願者数（過年度卒業生を含む）

※大学（学部）入学志願者数については、同一人が2校（学部）以上を志願した場合も1名として計上される。

※大学（学部）入学者数・・・大学（学部）への入学者数（過年度卒業生を含む）

※大学（学部）進学率・・・大学（学部）入学者数/18歳人口（3年前の中学校卒業生及び中等教育学校前期課程修了者数）

【出典】高等学校等卒業生数、大学（学部）入学志願者数、大学（学部）入学者数・・・文部科学省『学校基本統計』

大学（学部）入学定員・・・全国大学一覧

〔資料4〕 大学への現役進学率(新潟県及び近隣県)

(単位:%)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
新潟	42.5	40.8	42.1	42.7	44.6
秋田	37.4	38.1	38.9	38.6	38.9
山形	37.9	38.5	38.9	38.0	40.0
福島	39.4	39.5	39.9	39.6	39.9
富山	43.9	44.4	44.4	44.3	47.4
長野	40.1	38.9	39.4	40.0	41.8

出所: 文部科学省『学校基本調査』より算出

[資料5] 鍼灸健康学科競合校の入試状況(平成31年度～令和3年度)

所在地	大学	学部・学科	入学定員 (A)	平成31年度(2019年度)									令和2年(2020年)									令和3年(2021年)									備考
				志願者数 (B)	受験者数 (C)	合格者数 (D)	入学者 数 (E)	定員充足 率 (E)/(A)	志願者 倍率 (B)/(A)	実質倍率 (C)/(D)	志願者数 (B)	受験者数 (C)	合格者数 (D)	入学者 数 (E)	定員充足 率 (E)/(A)	志願者 倍率 (B)/(A)	実質倍率 (C)/(D)	志願者数 (B)	受験者数 (C)	合格者数 (D)	入学者 数 (E)	定員充足 率 (E)/(A)	志願者 倍率 (B)/(A)	実質倍率 (C)/(D)							
東京都	東京有明医療大学	保健医療学部 鍼灸学科	60	66	66	62	58	1.0	1.1	1.1	67	66	62	60	1.0	1.1	1.1	52	51	46	42	0.7	0.9	1.1							
東京都	帝京平成大学	ヒューマンケア学部 鍼灸学科	88	231	222	122	93	1.1	2.6	1.8	207	206	106	82	0.9	2.4	1.9	189	183	88	69	0.8	2.1	2.1							
静岡県	常葉大学	健康プロデュース学部 健康鍼灸学科	30	118	118	111	28	0.9	3.9	1.1	176	174	157	38	1.3	5.9	1.1	116	111	107	14	0.5	3.9	1.0							
京都府	明治国際医療大学	鍼灸学部 鍼灸学科	50	70	66	65	37	0.7	1.4	1.0	64	63	136	45	0.9	1.3	0.5	43	41	38	21	0.4	0.9	1.1							
大阪府	森ノ宮医療大学	保健医療学部 鍼灸学科	60	135	134	81	68	1.1	2.3	1.7	189	185	60	69	1.2	3.2	3.1	171	168	88	59	1.0	2.9	1.9							
大阪府	関西医療大学	保健医療学部 はり灸・スポーツトレー ナー学科	50	80	78	61	51	1.0	1.6	1.3	84	83	75	51	1.0	1.7	1.1	91	87	52	54	1.1	1.8	1.7							
兵庫県	宝塚医療大学	保健医療学部 鍼灸学科	30	不明			35	1.2	不明	不明	不明			35	1.2	不明	不明	不明			25	0.8	不明	不明							
三重県	鈴鹿医療科学大学	保健衛生学部 鍼灸サイエンス学科	30	88	88	71	34	1.1	2.9	1.2	100	100	57	38	1.3	3.3	1.8	86	85	58	35	1.2	2.9	1.5							
宮崎県	九州保健福祉大学	社会福祉学部 スポーツ健康福祉学科	40	42	42	35	29	0.7	1.1	1.2	49	49	47	36	0.9	1.2	1.0	58	57	49	29	0.7	1.5	1.2							
熊本県	九州看護福祉大学	看護福祉学部 鍼灸スポーツ学科	40	42	42	36	25	0.6	1.1	1.2	77	77	74	39	1.0	1.9	1.0	53	53	49	29	0.7	1.3	1.1							
計			478	872	856	644	458	1.0	1.6	1.3	1013	1003	774	493	1.0	1.5	1.3	859	836	575	377	0.8	1.3	1.5							

出所：各大学HP内の公表情報をもとに、新潟医療福祉大学にて作成。

学 校 名	総 数		新 卒		既 卒	
	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数
筑波技術大学	11	7	6	6	5	1
明治国際医療大学	64	41	35	25	29	16
関西医療大学	72	54	43	41	29	13
帝京平成大学	114	76	65	56	49	20
鈴鹿医療科学大学	36	26	25	24	11	2
森ノ宮医療大学	84	61	50	44	34	17
東京有明医療大学	40	36	34	32	6	4
常葉大学	34	21	21	17	13	4
九州看護福祉大学	45	30	26	19	19	11
宝塚医療大学	24	16	16	15	8	1
倉敷芸術科学大学	17	8	8	5	9	3
九州保健福祉大学	11	8	10	7	1	1
筑波大学附属視覚特別支援学校	9	7	7	6	2	1
北海道札幌視覚支援学校	6	3	4	3	2	0
青森県立盲学校	1	0	1	0	0	0
岩手県立盛岡視覚支援学校	2	1	1	1	1	0
宮城県立視覚支援学校	2	1	2	1	0	0
秋田県立視覚支援学校	3	3	3	3	0	0
山形県立山形盲学校	1	1	0	0	1	1
福島県立視覚支援学校	2	2	2	2	0	0
栃木県立盲学校	1	1	1	1	0	0
群馬県立盲学校	2	1	1	1	1	0
埼玉県立特別支援学校埼玉一学園	3	3	2	2	1	1
千葉県立千葉盲学校	5	5	4	4	1	1
東京都立文京盲学校	7	6	5	5	2	1
東京都立八王子盲学校	2	1	1	1	1	0
神奈川県立平塚盲学校	3	3	3	3	0	0
横浜市立盲特別支援学校	9	7	6	6	3	1
横浜訓盲学院	6	2	2	2	4	0
富山県立富山視覚総合支援学校	1	1	1	1	0	0
石川県立盲学校	3	2	0	0	3	2
福井県立盲学校	1	1	1	1	0	0
長野県長野盲学校	3	2	2	2	1	0
長野県松本盲学校	2	0	1	0	1	0
岐阜県立岐阜盲学校	3	3	3	3	0	0
静岡県立浜松視覚特別支援学校	3	2	2	1	1	1
愛知県立名古屋盲学校	5	3	4	3	1	0
愛知県立岡崎盲学校	4	2	3	2	1	0

第27回はり師国家試験 学校別合格者状況

学 校 名	総 数		新 卒		既 卒	
	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数
三重県立盲学校	2	2	2	2	0	0
滋賀県立盲学校	1	1	1	1	0	0
京都府立盲学校	3	3	3	3	0	0
大阪府立大阪南視覚支援学校	9	5	7	4	2	1
大阪府立大阪北視覚支援学校	3	3	3	3	0	0
兵庫県立視覚特別支援学校	6	3	4	3	2	0
神戸市立盲学校	6	5	6	5	0	0
奈良県立盲学校	8	2	4	2	4	0
和歌山県立和歌山盲学校	3	1	1	1	2	0
鳥取県立鳥取盲学校	3	2	1	1	2	1
島根県立盲学校	3	1	1	1	2	0
岡山県立岡山盲学校	3	2	2	2	1	0
広島県立広島中央特別支援学校	7	7	7	7	0	0
山口県立下関南総合支援学校	3	2	1	1	2	1
徳島県立徳島視覚支援学校	2	1	0	0	2	1
香川県立盲学校	4	4	4	4	0	0
愛媛県立松山盲学校	8	6	7	6	1	0
高知県立盲学校	2	1	1	1	1	0
福岡県立北九州視覚特別支援学校	3	3	3	3	0	0
佐賀県立盲学校	2	0	1	0	1	0
長崎県立盲学校	3	2	2	1	1	1
熊本県立盲学校	4	3	2	2	2	1
大分県立盲学校	2	1	0	0	2	1
宮崎県立明星視覚支援学校	7	4	3	3	4	1
鹿児島県立鹿児島盲学校	1	1	1	1	0	0
沖縄県立沖縄盲学校	10	3	3	2	7	1
福岡県立福岡高等視覚特別支援学校	9	8	8	7	1	1
函館視力障害センター	4	1	1	1	3	0
北海道鍼灸専門学校	63	47	49	42	14	5
赤門鍼灸柔整専門学校	79	55	46	45	33	10
塩原視力障害センター	1	0	0	0	1	0
国立障害者リハビリテーションセンター	20	9	11	8	9	1
東京医療専門学校	112	108	100	100	12	8
東洋鍼灸専門学校	152	126	110	105	42	21
人間総合科学大学鍼灸医療専門学校	2	0	0	0	2	0
ヘレン・ケラー学院	6	3	4	3	2	0
東京医療福祉専門学校	71	59	53	49	18	10
東京衛生学園専門学校	67	64	54	54	13	10



第27回はり師国家試験 学校別合格者状況

学 校 名	総 数		新 卒		既 卒	
	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数
日本鍼灸理療専門学校	224	169	148	135	76	34
国際鍼灸専門学校	47	40	35	34	12	6
関東鍼灸専門学校	35	23	17	17	18	6
湘南医療福祉専門学校	40	27	24	24	16	3
神奈川衛生学園専門学校	60	46	41	40	19	6
東海医療学園専門学校	52	41	36	33	16	8
呉竹鍼灸柔整専門学校	96	88	81	80	15	8
専門学校名古屋鍼灸学校	29	27	27	27	2	0
中和医療専門学校	119	92	80	76	39	16
京都仏眼鍼灸理療専門学校	42	35	30	29	12	6
京都府立視力障害者福祉センター	6	5	4	4	2	1
大阪行岡医療専門学校長柄校	82	52	46	42	36	10
明治東洋医学院専門学校	117	87	65	63	52	24
関西医療学園専門学校	126	85	83	72	43	13
森ノ宮医療学園専門学校	126	78	63	59	63	19
神戸視力障害センター	5	3	3	1	2	2
みのり聖光園	2	0	0	0	2	0
四国医療専門学校	65	54	52	49	13	5
福岡視力障害センター	14	7	6	4	8	3
鹿児島鍼灸専門学校	29	20	18	17	11	3
東洋医療福祉専門学校	2	1	0	0	2	1
了徳寺学園医療専門学校	33	25	21	21	12	4
新潟看護医療専門学校	2	2	1	1	1	1
神戸東洋医療学院	44	34	28	28	16	6
福岡医療専門学校	39	38	37	37	2	1
札幌青葉鍼灸柔整専門学校	30	28	23	23	7	5
浦和専門学校	13	8	6	6	7	2
中央医療学園専門学校	33	25	21	21	12	4
専門学校浜松医療学院	49	41	33	32	16	9
兵庫鍼灸専門学校	25	20	17	17	8	3
I G L 医療福祉専門学校	22	19	17	16	5	3
北海道メディカル・スポーツ専門学校	40	32	24	24	16	8
福島医療専門学校	17	16	16	16	1	0
日本健康医療専門学校	59	57	49	49	10	8
日本工学院八王子専門学校	38	30	28	24	10	6
早稲田速記医療福祉専門学校	17	7	8	6	9	1
日本医学柔整鍼灸専門学校	116	87	78	70	38	17
東京メディカル・スポーツ専門学校	71	61	57	55	14	6

第27回はり師国家試験 学校別合格者状況

学 校 名	総 数		新 卒		既 卒	
	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数
国際東洋医療学院	53	23	19	17	34	6
東洋医療専門学校	67	56	49	49	18	7
履正社医療スポーツ専門学校	44	29	22	21	22	8
平成医療学園専門学校	55	48	40	40	15	8
朝日医療大学校	52	43	41	39	11	4
大川学園医療福祉専門学校	14	11	11	10	3	1
岐阜保健短期大学医療専門学校	13	4	3	2	10	2
大阪医療技術学園専門学校	58	31	23	21	35	10
神戸医療福祉専門学校中央校	19	17	9	9	10	8
福岡天神医療リハビリ専門学校	34	23	22	21	12	2
九州医療専門学校	25	25	25	25	0	0
仙台青葉服飾・医療福祉専門学校	1	0	0	0	1	0
新宿鍼灸柔整歯科衛生専門学校	34	27	28	26	6	1
国際メディカル専門学校	32	27	24	21	8	6
トライデントスポーツ医療看護専門学校	44	41	36	36	8	5
ユマニテク医療福祉大学校	10	6	6	5	4	1
福岡医健・スポーツ専門学校	36	29	21	21	15	8
鹿児島第一医療リハビリ専門学校	4	3	4	3	0	0
東日本医療専門学校	19	19	19	19	0	0
横浜医療専門学校	53	36	33	25	20	11
信州医療福祉専門学校	25	15	17	15	8	0
浜松医療福祉専門学校	15	10	9	6	6	4
専門学校白寿医療学院	6	5	5	5	1	0
京都医健専門学校	49	44	39	39	10	5
九州保健福祉大学総合医療専門学校	24	15	9	9	15	6
盛岡医療福祉専門学校	35	25	21	20	14	5
育英メディカル専門学校	28	28	27	27	1	1
大分医学技術専門学校	21	12	19	11	2	1
神奈川柔整鍼灸専門学校	14	14	13	13	1	1
専門学校中央医療健康大学校	14	12	11	11	3	1
大阪ハイテクノロジー専門学校	54	35	31	28	23	7
お茶の水はりきゅう専門学校	34	27	24	24	10	3
専門学校名古屋医専	30	21	15	14	15	7
朝日医療専門学校広島校	43	30	27	25	16	5
長崎医療こども専門学校	3	1	0	0	3	1
こころ医療福祉専門学校	25	19	15	15	10	4
呉竹医療専門学校	99	91	77	75	22	16
アルファ医療福祉専門学校	38	27	25	22	13	5

第27回はり師国家試験 学校別合格者状況

学 校 名	総 数		新 卒		既 卒	
	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数
専門学校首都医校	11	6	7	5	4	1
金沢医療技術専門学校	13	8	9	8	4	0
静岡医療学園専門学校	36	33	27	27	9	6
専門学校大阪医専	8	7	6	6	2	1
河原医療福祉専門学校	31	24	20	19	11	5
中野健康医療専門学校	29	27	26	25	3	2
九州医療スポーツ専門学校	54	43	36	34	18	9
近畿医療専門学校	44	37	36	34	8	3
専門学校沖縄統合医療学院	57	51	47	45	10	6
名古屋医健スポーツ専門学校	25	24	20	20	5	4
こころ医療福祉専門学校佐世保校	8	7	7	7	1	0
札幌スポーツアンドメディカル専門学校	20	11	16	10	4	1
総 合 計	4, 861	3, 712	3, 306	3, 079	1, 555	633

第27回きゅう師国家試験 学校別合格者状況

学 校 名	総 数		新 卒		既 卒	
	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数
筑波技術大学	10	7	6	6	4	1
明治国際医療大学	59	39	35	27	24	12
関西医療大学	71	53	43	42	28	11
帝京平成大学	113	80	65	57	48	23
鈴鹿医療科学大学	35	27	25	25	10	2
森ノ宮医療大学	78	58	50	46	28	12
東京有明医療大学	40	36	34	33	6	3
常葉大学	34	21	21	17	13	4
九州看護福祉大学	43	30	26	20	17	10
宝塚医療大学	24	17	16	16	8	1
倉敷芸術科学大学	17	8	8	5	9	3
九州保健福祉大学	11	8	10	7	1	1
筑波大学附属視覚特別支援学校	8	8	7	7	1	1
北海道札幌視覚支援学校	6	3	4	3	2	0
青森県立盲学校	1	1	1	1	0	0
岩手県立盛岡視覚支援学校	2	1	1	1	1	0
宮城県立視覚支援学校	2	1	2	1	0	0
秋田県立視覚支援学校	3	3	3	3	0	0
山形県立山形盲学校	1	1	0	0	1	1
福島県立視覚支援学校	2	2	2	2	0	0
栃木県立盲学校	1	1	1	1	0	0
群馬県立盲学校	2	1	1	1	1	0
埼玉県立特別支援学校埼玉一学園	3	3	2	2	1	1
千葉県立千葉盲学校	5	5	4	4	1	1
東京都立文京盲学校	6	5	5	5	1	0
東京都立八王子盲学校	2	1	1	1	1	0
神奈川県立平塚盲学校	3	3	3	3	0	0
横浜市立盲特別支援学校	8	6	6	6	2	0
横浜訓盲学院	6	2	2	2	4	0
富山県立富山視覚総合支援学校	1	1	1	1	0	0
石川県立盲学校	3	2	0	0	3	2
福井県立盲学校	1	1	1	1	0	0
長野県長野盲学校	2	2	2	2	0	0
長野県松本盲学校	2	0	1	0	1	0
岐阜県立岐阜盲学校	3	3	3	3	0	0
静岡県立浜松視覚特別支援学校	2	1	2	1	0	0
愛知県立名古屋盲学校	4	3	4	3	0	0
愛知県立岡崎盲学校	4	2	3	2	1	0

第27回きゅう師国家試験 学校別合格者状況

学 校 名	総 数		新 卒		既 卒	
	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数
三重県立盲学校	2	2	2	2	0	0
滋賀県立盲学校	1	1	1	1	0	0
京都府立盲学校	3	3	3	3	0	0
大阪府立大阪南視覚支援学校	9	5	7	4	2	1
大阪府立大阪北視覚支援学校	3	3	3	3	0	0
兵庫県立視覚特別支援学校	6	4	4	3	2	1
神戸市立盲学校	6	5	6	5	0	0
奈良県立盲学校	8	2	4	2	4	0
和歌山県立和歌山盲学校	3	1	1	1	2	0
鳥取県立鳥取盲学校	3	1	1	1	2	0
島根県立盲学校	3	1	1	1	2	0
岡山県立岡山盲学校	2	2	2	2	0	0
広島県立広島中央特別支援学校	7	6	7	6	0	0
山口県立下関南総合支援学校	2	1	1	1	1	0
徳島県立徳島視覚支援学校	1	0	0	0	1	0
香川県立盲学校	4	4	4	4	0	0
愛媛県立松山盲学校	7	6	7	6	0	0
高知県立盲学校	2	1	1	1	1	0
福岡県立北九州視覚特別支援学校	3	3	3	3	0	0
佐賀県立盲学校	2	0	1	0	1	0
長崎県立盲学校	3	2	2	1	1	1
熊本県立盲学校	3	2	2	2	1	0
大分県立盲学校	1	0	0	0	1	0
宮崎県立明星視覚支援学校	5	3	3	3	2	0
鹿児島県立鹿児島盲学校	1	1	1	1	0	0
沖縄県立沖縄盲学校	9	3	3	2	6	1
福岡県立福岡高等視覚特別支援学校	9	8	8	7	1	1
函館視力障害センター	4	1	1	1	3	0
北海道鍼灸専門学校	61	49	49	45	12	4
赤門鍼灸柔整専門学校	74	53	46	45	28	8
塩原視力障害センター	1	0	0	0	1	0
国立障害者リハビリテーションセンター	19	9	11	8	8	1
東京医療専門学校	108	105	100	100	8	5
東洋鍼灸専門学校	144	123	110	106	34	17
人間総合科学大学鍼灸医療専門学校	2	0	0	0	2	0
ヘレン・ケラー学院	6	3	4	3	2	0
東京医療福祉専門学校	70	62	53	50	17	12
東京衛生学園専門学校	60	58	54	54	6	4

第27回きゅう師国家試験 学校別合格者状況

学 校 名	総 数		新 卒		既 卒	
	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数
日本鍼灸理療専門学校	213	162	148	136	65	26
国際鍼灸専門学校	45	37	35	34	10	3
関東鍼灸専門学校	34	23	17	17	17	6
湘南医療福祉専門学校	38	27	24	24	14	3
神奈川衛生学園専門学校	60	46	41	40	19	6
東海医療学園専門学校	50	40	36	34	14	6
呉竹鍼灸柔整専門学校	96	88	81	80	15	8
専門学校名古屋鍼灸学校	29	27	27	27	2	0
中和医療専門学校	114	90	80	76	34	14
京都仏眼鍼灸理療専門学校	36	32	30	29	6	3
京都府立視力障害者福祉センター	5	4	4	4	1	0
大阪行岡医療専門学校長柄校	79	53	46	43	33	10
明治東洋医学院専門学校	115	87	65	63	50	24
関西医療学園専門学校	123	86	83	74	40	12
森ノ宮医療学園専門学校	119	76	63	59	56	17
神戸視力障害センター	5	3	3	1	2	2
みのり聖光園	2	0	0	0	2	0
四国医療専門学校	62	55	52	50	10	5
福岡視力障害センター	14	7	6	4	8	3
鹿児島鍼灸専門学校	26	18	18	17	8	1
東洋医療福祉専門学校	2	1	0	0	2	1
了徳寺学園医療専門学校	33	24	21	21	12	3
新潟看護医療専門学校	1	1	1	1	0	0
神戸東洋医療学院	40	32	28	28	12	4
福岡医療専門学校	39	38	37	37	2	1
札幌青葉鍼灸柔整専門学校	27	25	23	23	4	2
浦和専門学校	12	7	6	6	6	1
中央医療学園専門学校	30	22	21	21	9	1
専門学校浜松医療学院	47	40	33	32	14	8
兵庫鍼灸専門学校	24	20	17	17	7	3
I G L 医療福祉専門学校	21	19	17	17	4	2
北海道メディカル・スポーツ専門学校	38	31	24	24	14	7
福島医療専門学校	17	16	16	16	1	0
日本健康医療専門学校	57	56	49	49	8	7
日本工学院八王子専門学校	37	31	28	25	9	6
早稲田速記医療福祉専門学校	17	6	8	6	9	0
日本医学柔整鍼灸専門学校	118	92	78	71	40	21
東京メディカル・スポーツ専門学校	70	62	57	55	13	7

第27回きゅう師国家試験 学校別合格者状況

学 校 名	総 数		新 卒		既 卒	
	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数
国際東洋医療学院	52	24	19	18	33	6
東洋医療専門学校	66	58	49	49	17	9
履正社医療スポーツ専門学校	39	28	22	21	17	7
平成医療学園専門学校	54	47	40	40	14	7
朝日医療大学校	51	43	41	39	10	4
大川学園医療福祉専門学校	13	10	11	10	2	0
岐阜保健短期大学医療専門学校	11	4	3	3	8	1
大阪医療技術学園専門学校	52	31	23	21	29	10
神戸医療福祉専門学校中央校	19	17	9	9	10	8
福岡天神医療リハビリ専門学校	34	24	22	21	12	3
九州医療専門学校	25	25	25	25	0	0
仙台青葉服飾・医療福祉専門学校	1	0	0	0	1	0
新宿鍼灸柔整歯科衛生専門学校	32	27	28	26	4	1
国際メディカル専門学校	31	28	24	22	7	6
トライデントスポーツ医療看護専門学校	42	39	36	36	6	3
ユマニテク医療福祉大学校	10	7	6	5	4	2
福岡医健・スポーツ専門学校	36	30	21	21	15	9
鹿児島第一医療リハビリ専門学校	4	4	4	4	0	0
東日本医療専門学校	19	19	19	19	0	0
横浜医療専門学校	47	33	33	27	14	6
信州医療福祉専門学校	23	16	17	16	6	0
浜松医療福祉専門学校	13	8	9	6	4	2
専門学校白寿医療学院	6	6	5	5	1	1
京都医健専門学校	46	43	39	39	7	4
九州保健福祉大学総合医療専門学校	19	14	9	9	10	5
盛岡医療福祉専門学校	32	25	21	20	11	5
育英メディカル専門学校	28	28	27	27	1	1
大分医学技術専門学校	21	13	19	12	2	1
神奈川柔整鍼灸専門学校	13	13	13	13	0	0
専門学校中央医療健康大学校	14	12	11	11	3	1
大阪ハイテクノロジー専門学校	49	33	31	28	18	5
お茶の水はりきゅう専門学校	34	27	24	24	10	3
専門学校名古屋医専	29	21	15	14	14	7
朝日医療専門学校広島校	40	29	27	25	13	4
長崎医療こども専門学校	3	1	0	0	3	1
こころ医療福祉専門学校	23	17	15	14	8	3
呉竹医療専門学校	92	85	77	75	15	10
アルファ医療福祉専門学校	36	26	25	22	11	4

第27回きゅう師国家試験 学校別合格者状況

学 校 名	総 数		新 卒		既 卒	
	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数
専門学校首都医校	11	6	7	5	4	1
金沢医療技術専門学校	13	8	9	8	4	0
静岡医療学園専門学校	33	30	27	27	6	3
専門学校大阪医専	7	6	6	6	1	0
河原医療福祉専門学校	31	26	20	20	11	6
中野健康医療専門学校	28	26	26	25	2	1
九州医療スポーツ専門学校	52	45	36	35	16	10
近畿医療専門学校	43	39	36	35	7	4
専門学校沖縄統合医療学院	54	50	47	46	7	4
名古屋医健スポーツ専門学校	26	24	20	20	6	4
こころ医療福祉専門学校佐世保校	8	7	7	7	1	0
札幌スポーツアンドメディカル専門学校	20	11	16	10	4	1
総 合 計	4,655	3,656	3,306	3,115	1,349	541



第28回はり師国家試験 学校別合格者状況

学 校 名	総 数		新 卒		既 卒	
	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数
筑波技術大学	19	14	16	14	3	0
明治国際医療大学	63	43	42	38	21	5
関西医療大学	41	27	28	26	13	1
帝京平成大学	77	54	53	51	24	3
鈴鹿医療科学大学	25	20	17	17	8	3
森ノ宮医療大学	63	48	48	43	15	5
東京有明医療大学	24	20	20	19	4	1
常葉大学	27	8	16	8	11	0
九州看護福祉大学	48	21	38	19	10	2
宝塚医療大学	25	16	16	15	9	1
倉敷芸術科学大学	14	4	6	1	8	3
九州保健福祉大学	11	6	9	6	2	0
筑波大学附属視覚特別支援学校	9	5	7	4	2	1
北海道札幌視覚支援学校	6	2	4	2	2	0
青森県立盲学校	2	2	2	2	0	0
岩手県立盛岡視覚支援学校	1	1	1	1	0	0
宮城県立視覚支援学校	4	2	1	1	3	1
山形県立山形盲学校	1	0	0	0	1	0
福島県立視覚支援学校	1	1	1	1	0	0
茨城県立盲学校	2	2	2	2	0	0
栃木県立盲学校	2	2	2	2	0	0
群馬県立盲学校	4	3	3	3	1	0
埼玉県立特別支援学校埼玉保一学園	7	1	6	1	1	0
千葉県立千葉盲学校	2	2	2	2	0	0
東京都立文京盲学校	5	4	4	4	1	0
東京都立八王子盲学校	3	2	2	2	1	0
神奈川県立平塚盲学校	4	4	4	4	0	0
横浜市立盲特別支援学校	4	4	4	4	0	0
横浜訓盲学院	6	6	4	4	2	2
新潟県立新潟盲学校	5	1	4	1	1	0
富山県立富山視覚総合支援学校	1	1	1	1	0	0
石川県立盲学校	3	2	2	2	1	0
山梨県立盲学校	2	2	2	2	0	0
長野県長野盲学校	1	1	1	1	0	0
長野県松本盲学校	3	2	2	2	1	0
岐阜県立岐阜盲学校	2	2	2	2	0	0
静岡県立浜松視覚特別支援学校	3	2	2	2	1	0
愛知県立名古屋盲学校	3	2	2	2	1	0

第28回はり師国家試験 学校別合格者状況

学 校 名	総 数		新 卒		既 卒	
	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数
愛知県立岡崎盲学校	3	2	2	2	1	0
三重県立盲学校	3	0	2	0	1	0
滋賀県立盲学校	1	1	1	1	0	0
京都府立盲学校	3	2	3	2	0	0
大阪府立大阪南視覚支援学校	5	3	3	3	2	0
大阪府立大阪北視覚支援学校	3	1	3	1	0	0
兵庫県立視覚特別支援学校	5	3	3	3	2	0
神戸市立盲学校	5	3	5	3	0	0
奈良県立盲学校	5	1	2	1	3	0
和歌山県立和歌山盲学校	1	1	1	1	0	0
鳥取県立鳥取盲学校	1	0	0	0	1	0
島根県立盲学校	5	4	3	3	2	1
岡山県立岡山盲学校	5	5	4	4	1	1
広島県立広島中央特別支援学校	5	5	5	5	0	0
山口県立下関南総合支援学校	3	2	2	2	1	0
徳島県立徳島視覚支援学校	2	2	1	1	1	1
香川県立盲学校	1	0	1	0	0	0
愛媛県立松山盲学校	8	6	6	6	2	0
高知県立盲学校	2	1	1	1	1	0
福岡県立北九州視覚特別支援学校	3	2	3	2	0	0
佐賀県立盲学校	3	2	1	1	2	1
長崎県立盲学校	3	2	3	2	0	0
熊本県立盲学校	5	4	5	4	0	0
大分県立盲学校	3	2	2	2	1	0
宮崎県立明星視覚支援学校	4	1	1	1	3	0
鹿児島県立鹿児島盲学校	1	1	1	1	0	0
沖縄県立沖縄盲学校	12	4	5	3	7	1
福岡県立福岡高等視覚特別支援学校	2	1	2	1	0	0
函館視力障害センター	5	1	3	1	2	0
北海道鍼灸専門学校	57	44	45	41	12	3
赤門鍼灸柔整専門学校	71	45	46	40	25	5
国立障害者リハビリテーションセンター	19	5	9	5	10	0
東京医療専門学校	119	107	113	106	6	1
東洋鍼灸専門学校	133	108	113	106	20	2
人間総合科学大学鍼灸医療専門学校	1	0	0	0	1	0
ヘレン・ケラー学院	7	3	4	3	3	0
東京医療福祉専門学校	69	57	60	54	9	3
東京衛生学園専門学校	51	48	49	48	2	0

第28回はり師国家試験 学校別合格者状況

学 校 名	総 数		新 卒		既 卒	
	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数
日本鍼灸理療専門学校	197	149	155	144	42	5
国際鍼灸専門学校	47	32	40	32	7	0
関東鍼灸専門学校	35	20	23	20	12	0
湘南医療福祉専門学校	35	24	26	23	9	1
神奈川衛生学園専門学校	54	36	42	36	12	0
東海医療学園専門学校	30	22	23	20	7	2
呉竹鍼灸柔整専門学校	100	93	95	93	5	0
専門学校名古屋鍼灸学校	30	28	29	28	1	0
中和医療専門学校	109	79	85	74	24	5
京都仏眼鍼灸理療専門学校	20	14	15	14	5	0
京都府立視力障害者福祉センター	3	2	2	2	1	0
大阪行岡医療専門学校長柄校	71	46	44	41	27	5
明治東洋医学院専門学校	104	72	73	69	31	3
関西医療学園専門学校	103	68	72	60	31	8
森ノ宮医療学園専門学校	104	68	63	62	41	6
神戸視力障害センター	7	0	3	0	4	0
みのり聖光園	1	0	0	0	1	0
四国医療専門学校	64	53	53	49	11	4
福岡視力障害センター	10	6	7	6	3	0
鹿児島鍼灸専門学校	24	17	17	16	7	1
東洋医療福祉専門学校	1	0	0	0	1	0
了徳寺学園医療専門学校	41	37	37	37	4	0
新潟看護医療専門学校	4	4	4	4	0	0
神戸東洋医療学院	36	29	28	28	8	1
福岡医療専門学校	49	49	49	49	0	0
札幌青葉鍼灸柔整専門学校	29	23	25	22	4	1
浦和専門学校	8	4	5	4	3	0
中央医療学園専門学校	28	19	20	17	8	2
専門学校浜松医療学院	29	23	25	23	4	0
兵庫鍼灸専門学校	16	12	13	11	3	1
I G L 医療福祉専門学校	18	15	15	15	3	0
北海道メディカル・スポーツ専門学校	41	27	24	21	17	6
福島医療専門学校	25	24	24	24	1	0
日本健康医療専門学校	44	42	42	42	2	0
日本工学院八王子専門学校	28	23	23	20	5	3
早稲田速記医療福祉専門学校	11	6	6	6	5	0
日本医学柔整鍼灸専門学校	136	94	106	89	30	5
東京メディカル・スポーツ専門学校	44	40	40	38	4	2

第28回はり師国家試験 学校別合格者状況

学 校 名	総 数		新 卒		既 卒	
	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数
国際東洋医療学院	62	33	31	31	31	2
東洋医療専門学校	55	45	47	43	8	2
履正社医療スポーツ専門学校	50	33	39	31	11	2
平成医療学園専門学校	54	48	47	47	7	1
日本統合メディカル専門学校	1	0	0	0	1	0
朝日医療大学校	50	28	41	28	9	0
大川学園医療福祉専門学校	1	1	0	0	1	1
岐阜保健大学医療専門学校	16	9	9	8	7	1
大阪医療技術学園専門学校	46	22	23	19	23	3
神戸医療福祉専門学校中央校	21	17	16	15	5	2
福岡天神医療リハビリ専門学校	37	26	27	26	10	0
九州医療専門学校	18	17	18	17	0	0
仙台青葉服飾・医療福祉専門学校	1	0	0	0	1	0
新宿医療専門学校	39	31	34	31	5	0
国際メディカル専門学校	15	8	11	8	4	0
名古屋平成看護医療専門学校	39	31	36	31	3	0
ユマニテク医療福祉大学校	8	5	5	4	3	1
福岡医健・スポーツ専門学校	54	39	41	39	13	0
鹿児島第一医療リハビリ専門学校	11	11	10	10	1	1
東日本医療専門学校	14	12	12	12	2	0
横浜医療専門学校	43	27	27	25	16	2
信州スポーツ医療福祉専門学校	30	19	22	17	8	2
浜松医療福祉専門学校	14	7	11	7	3	0
専門学校白寿医療学院	9	9	8	8	1	1
京都医健専門学校	60	56	56	55	4	1
九州保健福祉大学総合医療専門学校	11	4	4	3	7	1
盛岡医療福祉専門学校	45	27	37	26	8	1
育英メディカル専門学校	20	20	20	20	0	0
大分医学技術専門学校	21	8	12	6	9	2
神奈川柔整鍼灸専門学校	16	14	16	14	0	0
専門学校中央医療健康大学校	9	9	8	8	1	1
大阪ハイテクノロジー専門学校	45	28	31	25	14	3
お茶の水はりきゅう専門学校	35	29	27	25	8	4
専門学校名古屋医専	35	25	30	25	5	0
朝日医療専門学校広島校	37	32	28	28	9	4
長崎医療こども専門学校	2	0	0	0	2	0
こころ医療福祉専門学校	34	26	30	26	4	0
呉竹医療専門学校	104	85	95	80	9	5

第28回はり師国家試験 学校別合格者状況

学 校 名	総 数		新 卒		既 卒	
	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数
アルファ医療福祉専門学校	19	10	13	10	6	0
専門学校首都医校	14	12	10	10	4	2
金沢医療技術専門学校	13	6	9	6	4	0
静岡医療学園専門学校	26	24	24	23	2	1
専門学校大阪医専	19	16	18	16	1	0
河原医療福祉専門学校	38	31	32	30	6	1
中野健康医療専門学校	33	29	30	28	3	1
九州医療スポーツ専門学校	63	52	49	47	14	5
近畿医療専門学校	59	50	50	47	9	3
専門学校沖縄統合医療学院	35	29	31	28	4	1
名古屋医健スポーツ専門学校	23	22	22	21	1	1
札幌スポーツアンドメディカル専門学校	34	23	27	21	7	2
総 合 計	4, 431	3, 263	3, 466	3, 095	965	168

第28回きゅう師国家試験 学校別合格者状況

学 校 名	総 数		新 卒		既 卒	
	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数
筑波技術大学	19	14	16	14	3	0
明治国際医療大学	59	41	42	38	17	3
関西医療大学	40	27	28	26	12	1
帝京平成大学	72	53	53	51	19	2
鈴鹿医療科学大学	24	19	17	17	7	2
森ノ宮医療大学	62	46	48	42	14	4
東京有明医療大学	24	20	20	19	4	1
常葉大学	27	7	16	7	11	0
九州看護福祉大学	47	21	38	19	9	2
宝塚医療大学	24	17	16	15	8	2
倉敷芸術科学大学	14	4	6	1	8	3
九州保健福祉大学	11	6	9	6	2	0
筑波大学附属視覚特別支援学校	8	3	7	3	1	0
北海道札幌視覚支援学校	6	2	4	2	2	0
青森県立盲学校	2	2	2	2	0	0
岩手県立盛岡視覚支援学校	1	1	1	1	0	0
宮城県立視覚支援学校	3	2	1	1	2	1
山形県立山形盲学校	1	0	0	0	1	0
福島県立視覚支援学校	1	1	1	1	0	0
茨城県立盲学校	2	2	2	2	0	0
栃木県立盲学校	2	2	2	2	0	0
群馬県立盲学校	4	3	3	3	1	0
埼玉県立特別支援学校埼玉保己一学園	7	1	6	1	1	0
千葉県立千葉盲学校	2	2	2	2	0	0
東京都立文京盲学校	5	4	4	4	1	0
東京都立八王子盲学校	3	3	2	2	1	1
神奈川県立平塚盲学校	4	4	4	4	0	0
横浜市立盲特別支援学校	4	4	4	4	0	0
横浜訓盲学院	6	6	4	4	2	2
新潟県立新潟盲学校	5	1	4	1	1	0
富山県立富山視覚総合支援学校	1	1	1	1	0	0
石川県立盲学校	3	2	2	2	1	0
山梨県立盲学校	2	2	2	2	0	0
長野県長野盲学校	1	1	1	1	0	0
長野県松本盲学校	3	2	2	2	1	0
岐阜県立岐阜盲学校	2	2	2	2	0	0
静岡県立浜松視覚特別支援学校	3	2	2	2	1	0
愛知県立名古屋盲学校	3	2	2	2	1	0

第28回きゅう師国家試験 学校別合格者状況

学 校 名	総 数		新 卒		既 卒	
	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数
愛知県立岡崎盲学校	3	1	2	1	1	0
三重県立盲学校	3	0	2	0	1	0
滋賀県立盲学校	1	1	1	1	0	0
京都府立盲学校	3	2	3	2	0	0
大阪府立大阪南視覚支援学校	5	3	3	3	2	0
大阪府立大阪北視覚支援学校	3	1	3	1	0	0
兵庫県立視覚特別支援学校	4	3	3	3	1	0
神戸市立盲学校	5	3	5	3	0	0
奈良県立盲学校	5	1	2	1	3	0
和歌山県立和歌山盲学校	1	1	1	1	0	0
鳥取県立鳥取盲学校	2	0	0	0	2	0
島根県立盲学校	5	4	3	3	2	1
岡山県立岡山盲学校	4	4	4	4	0	0
広島県立広島中央特別支援学校	5	5	5	5	0	0
山口県立下関南総合支援学校	3	2	2	2	1	0
徳島県立徳島視覚支援学校	2	2	1	1	1	1
香川県立盲学校	1	0	1	0	0	0
愛媛県立松山盲学校	7	6	6	6	1	0
高知県立盲学校	2	1	1	1	1	0
福岡県立北九州視覚特別支援学校	3	2	3	2	0	0
佐賀県立盲学校	3	2	1	1	2	1
長崎県立盲学校	3	2	3	2	0	0
熊本県立盲学校	5	4	5	4	0	0
大分県立盲学校	3	2	2	2	1	0
宮崎県立明星視覚支援学校	3	1	1	1	2	0
鹿児島県立鹿児島盲学校	1	1	1	1	0	0
沖縄県立沖縄盲学校	11	3	5	3	6	0
福岡県立福岡高等視覚特別支援学校	2	1	2	1	0	0
函館視力障害センター	5	1	3	1	2	0
北海道鍼灸専門学校	54	44	45	41	9	3
赤門鍼灸柔整専門学校	69	43	46	39	23	4
国立障害者リハビリテーションセンター	17	5	9	5	8	0
東京医療専門学校	117	107	113	106	4	1
東洋鍼灸専門学校	131	107	113	106	18	1
人間総合科学大学鍼灸医療専門学校	1	0	0	0	1	0
ヘレン・ケラー学院	7	3	4	3	3	0
東京医療福祉専門学校	69	56	60	54	9	2
東京衛生学園専門学校	50	48	49	48	1	0

第28回きゅう師国家試験 学校別合格者状況

学 校 名	総 数		新 卒		既 卒	
	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数
日本鍼灸理療専門学校	194	145	155	141	39	4
国際鍼灸専門学校	46	32	40	32	6	0
関東鍼灸専門学校	34	19	23	19	11	0
湘南医療福祉専門学校	34	24	26	23	8	1
神奈川衛生学園専門学校	53	36	42	36	11	0
東海医療学園専門学校	29	20	23	19	6	1
呉竹鍼灸柔整専門学校	100	91	95	91	5	0
専門学校名古屋鍼灸学校	30	28	29	28	1	0
中和医療専門学校	108	77	85	74	23	3
京都仏眼鍼灸理療専門学校	18	14	15	14	3	0
京都府立視力障害者福祉センター	3	2	2	2	1	0
大阪行岡医療専門学校長柄校	67	43	44	41	23	2
明治東洋医学院専門学校	101	71	73	68	28	3
関西医療学園専門学校	100	67	72	61	28	6
森ノ宮医療学園専門学校	100	67	63	62	37	5
神戸視力障害センター	6	0	3	0	3	0
みのり聖光園	1	0	0	0	1	0
四国医療専門学校	61	49	53	48	8	1
福岡視力障害センター	10	6	7	6	3	0
鹿児島鍼灸専門学校	23	16	17	16	6	0
東洋医療福祉専門学校	1	0	0	0	1	0
了徳寺学園医療専門学校	42	37	37	37	5	0
新潟看護医療専門学校	4	4	4	4	0	0
神戸東洋医療学院	34	28	28	28	6	0
福岡医療専門学校	49	49	49	49	0	0
札幌青葉鍼灸柔整専門学校	29	24	25	23	4	1
浦和専門学校	8	4	5	4	3	0
中央医療学園専門学校	28	18	20	17	8	1
専門学校浜松医療学院	29	23	25	22	4	1
兵庫鍼灸専門学校	15	12	13	12	2	0
I G L 医療福祉専門学校	17	15	15	15	2	0
北海道メディカル・スポーツ専門学校	40	24	24	20	16	4
福島医療専門学校	25	24	24	24	1	0
日本健康医療専門学校	43	41	42	41	1	0
日本工学院八王子専門学校	27	24	23	21	4	3
早稲田速記医療福祉専門学校	12	6	6	6	6	0
日本医学柔整鍼灸専門学校	132	92	106	88	26	4
東京メディカル・スポーツ専門学校	43	39	40	38	3	1



第28回きゅう師国家試験 学校別合格者状況

学 校 名	総 数		新 卒		既 卒	
	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数
国際東洋医療学院	60	32	31	31	29	1
東洋医療専門学校	52	45	47	44	5	1
履正社医療スポーツ専門学校	46	33	39	31	7	2
平成医療学園専門学校	53	48	47	47	6	1
日本統合メディカル専門学校	1	0	0	0	1	0
朝日医療大学校	49	31	41	31	8	0
大川学園医療福祉専門学校	1	1	0	0	1	1
岐阜保健大学医療専門学校	14	8	9	8	5	0
大阪医療技術学園専門学校	40	20	23	20	17	0
神戸医療福祉専門学校中央校	21	17	16	15	5	2
福岡天神医療リハビリ専門学校	37	26	27	26	10	0
九州医療専門学校	18	17	18	17	0	0
仙台青葉服飾・医療福祉専門学校	1	0	0	0	1	0
新宿医療専門学校	37	31	34	31	3	0
国際メディカル専門学校	14	8	11	8	3	0
名古屋平成看護医療専門学校	39	29	36	29	3	0
ユマニテク医療福祉大学校	7	4	5	4	2	0
福岡医健・スポーツ専門学校	53	40	41	40	12	0
鹿児島第一医療リハビリ専門学校	10	10	10	10	0	0
東日本医療専門学校	14	12	12	12	2	0
横浜医療専門学校	40	25	27	25	13	0
信州スポーツ医療福祉専門学校	27	18	22	17	5	1
浜松医療福祉専門学校	14	8	11	8	3	0
専門学校白寿医療学院	8	8	8	8	0	0
京都医健専門学校	59	54	56	53	3	1
九州保健福祉大学総合医療専門学校	8	4	4	3	4	1
盛岡医療福祉専門学校	44	27	37	26	7	1
育英メディカル専門学校	20	20	20	20	0	0
大分医学技術専門学校	20	9	12	7	8	2
神奈川柔整鍼灸専門学校	16	14	16	14	0	0
専門学校中央医療健康大学校	9	9	8	8	1	1
大阪ハイテクノロジー専門学校	43	26	31	25	12	1
お茶の水はりきゅう専門学校	35	29	27	25	8	4
専門学校名古屋医専	34	25	30	25	4	0
朝日医療専門学校広島校	35	31	28	28	7	3
長崎医療こども専門学校	2	0	0	0	2	0
こころ医療福祉専門学校	36	28	30	27	6	1
貝竹医療専門学校	103	85	95	81	8	4

第28回きゅう師国家試験 学校別合格者状況

学 校 名	総 数		新 卒		既 卒	
	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数
アルファ医療福祉専門学校	18	10	13	10	5	0
専門学校首都医校	14	11	10	9	4	2
金沢医療技術専門学校	13	6	9	6	4	0
静岡医療学園専門学校	26	23	24	22	2	1
専門学校大阪医専	18	15	18	15	0	0
河原医療福祉専門学校	37	29	32	28	5	1
中野健康医療専門学校	33	29	30	28	3	1
九州医療スポーツ専門学校	60	51	49	47	11	4
近畿医療専門学校	57	47	50	46	7	1
専門学校沖縄統合医療学院	34	29	31	28	3	1
名古屋医健スポーツ専門学校	23	22	22	21	1	1
札幌スポーツアンドメディカル専門学校	34	22	27	20	7	2
総 合 計	4,308	3,201	3,466	3,080	842	121

報道関係者 各位

令和3年3月 26 日

【照会先】

公益財団法人 東洋療法研修試験財団

業務部長 木本

(代表電話) 03(5811)1666

医政局医事課試験免許室

国家試験係長 安達(内線 2573)

(代表電話) 03(5253)1111

### 第 29 回あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師国家試験の学校別合格者状況

本日、発表を行ったあん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師国家試験の合格発表に関する資料として「学校別合格者状況」を配布いたします。

なお、当該資料に基づいて記事にされる場合、ベスト5・ワースト5等といった記載は差し控えていただいておりますのでよろしくお願いたします。

#### 記

区 分	受 験 者 数	合 格 者 数	合 格 率
あん摩マッサージ指圧師	1, 295 名	1, 089 名	84. 1 %
は り 師	3, 853 名	2, 698 名	70. 0 %
き ゅ う 師	3, 797 名	2, 740 名	72. 2 %

以 上

第29回はり師国家試験 学校別合格者状況

学 校 名	総 数		新 卒		既 卒	
	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数
筑波技術大学	9	5	4	4	5	1
明治国際医療大学	39	24	27	22	12	2
関西医療大学	62	44	39	39	23	5
帝京平成大学	87	58	68	56	19	2
鈴鹿医療科学大学	19	13	14	12	5	1
森ノ宮医療大学	63	47	49	46	14	1
東京有明医療大学	30	23	29	23	1	0
常葉大学	31	12	17	12	14	0
九州看護福祉大学	38	22	20	13	18	9
宝塚医療大学	19	13	13	12	6	1
倉敷芸術科学大学	20	12	11	10	9	2
九州保健福祉大学	15	8	10	8	5	0
筑波大学附属視覚特別支援学校	12	7	11	7	1	0
北海道札幌視覚支援学校	5	3	3	3	2	0
青森県立盲学校	1	1	1	1	0	0
岩手県立盛岡視覚支援学校	2	1	2	1	0	0
宮城県立視覚支援学校	3	3	3	3	0	0
秋田県立視覚支援学校	1	1	1	1	0	0
山形県立山形盲学校	3	0	2	0	1	0
福島県立視覚支援学校	1	1	1	1	0	0
茨城県立盲学校	3	3	3	3	0	0
栃木県立盲学校	1	1	1	1	0	0
群馬県立盲学校	2	1	1	1	1	0
埼玉県立特別支援学校埼玉一学園	8	6	5	5	3	1
千葉県立千葉盲学校	2	2	2	2	0	0
東京都立文京盲学校	4	4	4	4	0	0
東京都立八王子盲学校	1	0	0	0	1	0
神奈川県立平塚盲学校	2	0	2	0	0	0
横浜市立盲特別支援学校	7	7	7	7	0	0
新潟県立新潟盲学校	4	4	3	3	1	1
石川県立盲学校	4	4	4	4	0	0
福井県立盲学校	2	2	2	2	0	0
長野県長野盲学校	2	1	2	1	0	0
長野県松本盲学校	2	1	1	1	1	0
岐阜県立岐阜盲学校	4	4	4	4	0	0
静岡県立浜松視覚特別支援学校	2	1	1	1	1	0
愛知県立名古屋盲学校	2	1	2	1	0	0
愛知県立岡崎盲学校	3	2	2	2	1	0

第29回はり師国家試験 学校別合格者状況

学 校 名	総 数		新 卒		既 卒	
	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数
三重県立盲学校	6	2	3	2	3	0
滋賀県立盲学校	1	1	1	1	0	0
京都府立盲学校	2	1	1	1	1	0
大阪府立大阪南視覚支援学校	5	4	3	3	2	1
大阪府立大阪北視覚支援学校	5	2	3	2	2	0
兵庫県立視覚特別支援学校	6	5	4	4	2	1
神戸市立盲学校	3	1	1	1	2	0
奈良県立盲学校	5	1	2	1	3	0
和歌山県立和歌山盲学校	1	1	1	1	0	0
鳥取県立鳥取盲学校	2	1	1	1	1	0
島根県立盲学校	3	3	3	3	0	0
広島県立広島中央特別支援学校	6	6	6	6	0	0
山口県立下関南総合支援学校	2	2	2	2	0	0
徳島県立徳島視覚支援学校	1	1	1	1	0	0
愛媛県立松山盲学校	5	4	4	4	1	0
福岡県立北九州視覚特別支援学校	6	2	6	2	0	0
佐賀県立盲学校	1	1	1	1	0	0
長崎県立盲学校	2	1	1	1	1	0
熊本県立盲学校	3	2	3	2	0	0
大分県立盲学校	1	1	1	1	0	0
宮崎県立明星視覚支援学校	3	1	1	1	2	0
鹿児島県立鹿児島盲学校	4	2	4	2	0	0
沖縄県立沖縄盲学校	11	5	4	4	7	1
福岡県立福岡高等視覚特別支援学校	5	5	4	4	1	1
函館視力障害センター	7	3	3	3	4	0
北海道鍼灸専門学校	44	34	35	32	9	2
赤門鍼灸柔整専門学校	62	43	43	41	19	2
国立障害者リハビリテーションセンター	18	5	6	5	12	0
東京医療専門学校	80	69	73	67	7	2
東洋鍼灸専門学校	120	92	97	87	23	5
人間総合科学大学鍼灸医療専門学校	1	0	0	0	1	0
ヘレン・ケラー学院	9	6	6	4	3	2
東京医療福祉専門学校	56	42	46	41	10	1
東京衛生学園専門学校	43	38	39	38	4	0
日本鍼灸理療専門学校	184	122	143	116	41	6
国際鍼灸専門学校	45	35	33	31	12	4
関東鍼灸専門学校	35	23	24	22	11	1
湘南医療福祉専門学校	25	14	16	14	9	0

第29回はり師国家試験 学校別合格者状況

学 校 名	総 数		新 卒		既 卒	
	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数
神奈川衛生学園専門学校	54	36	41	36	13	0
東海医療学園専門学校	22	14	16	14	6	0
呉竹鍼灸柔整専門学校	74	62	69	61	5	1
専門学校名古屋鍼灸学校	27	26	24	24	3	2
中和医療専門学校	108	73	83	71	25	2
京都仏眼鍼灸理療専門学校	26	14	21	14	5	0
京都府立視力障害者福祉センター	3	2	2	2	1	0
大阪行岡医療専門学校長柄校	68	42	48	41	20	1
明治東洋医学院専門学校	73	43	44	40	29	3
関西医療学園専門学校	87	53	55	49	32	4
森ノ宮医療学園専門学校	96	57	62	55	34	2
神戸視力障害センター	7	3	3	3	4	0
みのり聖光園	1	0	0	0	1	0
四国医療専門学校	59	44	51	43	8	1
福岡視力障害センター	12	4	7	4	5	0
鹿児島鍼灸専門学校	19	12	12	12	7	0
東洋医療福祉専門学校	2	0	0	0	2	0
了徳寺学園医療専門学校	24	16	16	15	8	1
新潟看護医療専門学校	3	3	3	3	0	0
神戸東洋医療学院	32	26	27	26	5	0
福岡医療専門学校	53	53	53	53	0	0
札幌青葉鍼灸柔整専門学校	35	29	29	29	6	0
浦和専門学校	9	6	8	6	1	0
中央医療学園専門学校	24	10	11	9	13	1
専門学校浜松医療学院	38	26	26	24	12	2
兵庫鍼灸専門学校	14	11	10	9	4	2
I G L 医療福祉専門学校	19	17	16	16	3	1
北海道メディカル・スポーツ専門学校	30	16	17	16	13	0
福島医療専門学校	9	8	9	8	0	0
日本健康医療専門学校	44	41	42	41	2	0
日本工学院八王子専門学校	23	19	18	17	5	2
早稲田速記医療福祉専門学校	8	4	5	3	3	1
日本医学柔整鍼灸専門学校	121	68	91	64	30	4
東京メディカル・スポーツ専門学校	43	37	41	37	2	0
国際東洋医療学院	42	18	15	15	27	3
東洋医療専門学校	55	52	51	49	4	3
履正社医療スポーツ専門学校	61	43	50	37	11	6
平成医療学園専門学校	48	43	44	43	4	0

第29回はり師国家試験 学校別合格者状況

学 校 名	総 数		新 卒		既 卒	
	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数
日本統合メディカル専門学校	1	0	0	0	1	0
朝日医療大学校	48	25	26	21	22	4
岐阜保健大学医療専門学校	9	4	4	4	5	0
大阪医療技術学園専門学校	31	16	14	13	17	3
神戸医療福祉専門学校中央校	15	12	12	11	3	1
福岡天神医療リハビリ専門学校	36	23	25	22	11	1
九州医療専門学校	23	23	22	22	1	1
新宿医療専門学校	32	25	28	24	4	1
国際メディカル専門学校	19	15	15	14	4	1
名古屋平成看護医療専門学校	10	3	0	0	10	3
ユマニテク医療福祉大学校	5	1	0	0	5	1
福岡医健・スポーツ専門学校	38	25	26	24	12	1
鹿児島第一医療リハビリ専門学校	8	7	8	7	0	0
東日本医療専門学校	10	10	10	10	0	0
横浜医療専門学校	54	34	41	32	13	2
信州スポーツ医療福祉専門学校	25	20	17	16	8	4
浜松医療福祉専門学校	11	8	9	8	2	0
専門学校白寿医療学院	4	4	4	4	0	0
京都医健専門学校	40	33	39	33	1	0
九州保健福祉大学総合医療専門学校	1	0	0	0	1	0
盛岡医療福祉スポーツ専門学校	27	19	19	16	8	3
育英メディカル専門学校	19	19	19	19	0	0
大分医学技術専門学校	21	11	16	11	5	0
神奈川柔整鍼灸専門学校	18	16	16	15	2	1
専門学校中央医療健康大学校	11	8	8	8	3	0
大阪ハイテクノロジー専門学校	34	19	22	19	12	0
お茶の水はりきゅう専門学校	32	23	27	22	5	1
専門学校名古屋医専	37	26	30	25	7	1
朝日医療専門学校広島校	28	22	23	22	5	0
長崎医療こども専門学校	1	0	0	0	1	0
こころ医療福祉専門学校	17	9	9	9	8	0
呉竹医療専門学校	88	70	79	68	9	2
アルファ医療福祉専門学校	22	14	15	12	7	2
専門学校首都医校	11	8	9	8	2	0
金沢医療技術専門学校	14	12	12	12	2	0
静岡医療学園専門学校	26	24	23	23	3	1
専門学校大阪医専	17	10	14	10	3	0
河原医療福祉専門学校	21	16	15	13	6	3

第29回はり師国家試験 学校別合格者状況

学 校 名	総 数		新 卒		既 卒	
	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数
中野健康医療専門学校	3	1	0	0	3	1
九州医療スポーツ専門学校	54	33	45	33	9	0
近畿医療専門学校	29	16	14	14	15	2
専門学校沖縄統合医療学院	46	43	42	41	4	2
名古屋医健スポーツ専門学校	19	15	15	14	4	1
札幌スポーツアンドメディカル専門学校	32	22	26	22	6	0
総 合 計	3,853	2,698	2,914	2,558	939	140



報道関係者 各位

令和3年3月 26 日

【照会先】

公益財団法人 東洋療法研修試験財団

業務部長 木本

(代表電話) 03(5811)1666

医政局医事課試験免許室

国家試験係長 安達(内線 2573)

(代表電話) 03(5253)1111

## 第 29 回あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師国家試験の学校別合格者状況

本日、発表を行ったあん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師国家試験の合格発表に関する資料として「学校別合格者状況」を配布いたします。

なお、当該資料に基づいて記事にされる場合、ベスト5・ワースト5等といった記載は差し控えていただいておりますのでよろしくお願いたします。

### 記

区 分	受 験 者 数	合 格 者 数	合 格 率
あん摩マッサージ指圧師	1, 295 名	1, 089 名	84. 1 %
は り 師	3, 853 名	2, 698 名	70. 0 %
き ゅ う 師	3, 797 名	2, 740 名	72. 2 %

以 上

第29回きゅう師国家試験 学校別合格者状況

学 校 名	総 数		新 卒		既 卒	
	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数
筑波技術大学	9	5	4	4	5	1
明治国際医療大学	37	24	27	22	10	2
関西医療大学	63	43	39	39	24	4
帝京平成大学	84	62	68	60	16	2
鈴鹿医療科学大学	19	15	14	14	5	1
森ノ宮医療大学	62	47	49	46	13	1
東京有明医療大学	30	23	29	23	1	0
常葉大学	32	12	17	12	15	0
九州看護福祉大学	37	21	20	14	17	7
宝塚医療大学	19	14	13	12	6	2
倉敷芸術科学大学	20	13	11	11	9	2
九州保健福祉大学	15	9	10	9	5	0
筑波大学附属視覚特別支援学校	13	7	11	7	2	0
北海道札幌視覚支援学校	5	3	3	3	2	0
青森県立盲学校	1	1	1	1	0	0
岩手県立盛岡視覚支援学校	2	1	2	1	0	0
宮城県立視覚支援学校	3	3	3	3	0	0
秋田県立視覚支援学校	1	1	1	1	0	0
山形県立山形盲学校	3	1	2	1	1	0
福島県立視覚支援学校	1	0	1	0	0	0
茨城県立盲学校	3	3	3	3	0	0
栃木県立盲学校	1	1	1	1	0	0
群馬県立盲学校	2	1	1	1	1	0
埼玉県立特別支援学校埼玉一学園	8	6	5	5	3	1
千葉県立千葉盲学校	2	2	2	2	0	0
東京都立文京盲学校	4	4	4	4	0	0
神奈川県立平塚盲学校	2	0	2	0	0	0
横浜市立盲特別支援学校	7	7	7	7	0	0
新潟県立新潟盲学校	4	4	3	3	1	1
石川県立盲学校	4	4	4	4	0	0
福井県立盲学校	2	2	2	2	0	0
長野県長野盲学校	2	1	2	1	0	0
長野県松本盲学校	2	1	1	1	1	0
岐阜県立岐阜盲学校	4	4	4	4	0	0
静岡県立浜松視覚特別支援学校	2	1	1	1	1	0
愛知県立名古屋盲学校	2	1	2	1	0	0
愛知県立岡崎盲学校	3	2	2	2	1	0
三重県立盲学校	6	2	3	2	3	0

第29回きゅう師国家試験 学校別合格者状況

学 校 名	総 数		新 卒		既 卒	
	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数
滋賀県立盲学校	1	1	1	1	0	0
京都府立盲学校	2	1	1	1	1	0
大阪府立大阪南視覚支援学校	5	4	3	3	2	1
大阪府立大阪北視覚支援学校	5	2	3	2	2	0
兵庫県立視覚特別支援学校	5	5	4	4	1	1
神戸市立盲学校	3	2	1	1	2	1
奈良県立盲学校	5	2	2	2	3	0
和歌山県立和歌山盲学校	1	1	1	1	0	0
鳥取県立鳥取盲学校	3	2	1	1	2	1
島根県立盲学校	3	3	3	3	0	0
広島県立広島中央特別支援学校	6	6	6	6	0	0
山口県立下関南総合支援学校	2	2	2	2	0	0
徳島県立徳島視覚支援学校	1	1	1	1	0	0
愛媛県立松山盲学校	4	4	4	4	0	0
福岡県立北九州視覚特別支援学校	6	2	6	2	0	0
佐賀県立盲学校	1	1	1	1	0	0
長崎県立盲学校	2	1	1	1	1	0
熊本県立盲学校	3	2	3	2	0	0
大分県立盲学校	1	1	1	1	0	0
宮崎県立明星視覚支援学校	2	1	1	1	1	0
鹿児島県立鹿児島盲学校	4	2	4	2	0	0
沖縄県立沖縄盲学校	11	5	4	4	7	1
福岡県立福岡高等視覚特別支援学校	5	5	4	4	1	1
函館視力障害センター	7	1	3	1	4	0
北海道鍼灸専門学校	42	35	35	33	7	2
赤門鍼灸柔整専門学校	63	42	43	40	20	2
国立障害者リハビリテーションセンター	17	5	6	5	11	0
東京医療専門学校	79	70	73	68	6	2
東洋鍼灸専門学校	119	94	97	89	22	5
人間総合科学大学鍼灸医療専門学校	1	0	0	0	1	0
ヘレン・ケラー学院	9	6	6	4	3	2
東京医療福祉専門学校	56	43	46	42	10	1
東京衛生学園専門学校	42	38	39	38	3	0
日本鍼灸理療専門学校	182	123	143	117	39	6
国際鍼灸専門学校	42	35	33	31	9	4
関東鍼灸専門学校	34	22	24	22	10	0
湘南医療福祉専門学校	24	14	16	14	8	0
神奈川衛生学園専門学校	52	39	41	38	11	1

学 校 名	総 数		新 卒		既 卒	
	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数
東海医療学園専門学校	23	16	16	15	7	1
呉竹鍼灸柔整専門学校	76	64	69	63	7	1
専門学校名古屋鍼灸学校	27	26	24	24	3	2
中和医療専門学校	109	74	83	71	26	3
京都仏眼鍼灸理療専門学校	26	14	21	14	5	0
京都府立視力障害者福祉センター	3	2	2	2	1	0
大阪行岡医療専門学校長柄校	68	42	48	41	20	1
明治東洋医学院専門学校	73	42	44	40	29	2
関西医療学園専門学校	85	54	55	50	30	4
森ノ宮医療学園専門学校	93	58	62	56	31	2
神戸視力障害センター	6	3	3	3	3	0
みのり聖光園	1	0	0	0	1	0
四国医療専門学校	60	46	51	45	9	1
福岡視力障害センター	12	4	7	4	5	0
鹿児島鍼灸専門学校	19	12	12	12	7	0
東洋医療福祉専門学校	2	0	0	0	2	0
了徳寺学園医療専門学校	25	16	16	15	9	1
新潟看護医療専門学校	3	3	3	3	0	0
神戸東洋医療学院	31	26	27	26	4	0
福岡医療専門学校	53	53	53	53	0	0
札幌青葉鍼灸柔整専門学校	34	29	29	29	5	0
浦和専門学校	9	6	8	6	1	0
中央医療学園専門学校	24	10	11	9	13	1
専門学校浜松医療学院	38	28	26	24	12	4
兵庫鍼灸専門学校	13	11	10	10	3	1
I G L 医療福祉専門学校	19	16	16	16	3	0
北海道メディカル・スポーツ専門学校	30	17	17	17	13	0
福島医療専門学校	9	8	9	8	0	0
日本健康医療専門学校	43	41	42	41	1	0
日本工学院八王子専門学校	20	18	18	17	2	1
早稲田速記医療福祉専門学校	8	5	5	4	3	1
日本医学柔整鍼灸専門学校	119	71	91	66	28	5
東京メディカル・スポーツ専門学校	43	37	41	37	2	0
国際東洋医療学院	41	16	15	14	26	2
東洋医療専門学校	54	52	51	50	3	2
履正社医療スポーツ専門学校	58	43	50	38	8	5
平成医療学園専門学校	48	44	44	44	4	0
日本統合メディカル専門学校	1	0	0	0	1	0

第29回きゅう師国家試験 学校別合格者状況

学 校 名	総 数		新 卒		既 卒	
	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数
朝日医療大学校	44	25	26	22	18	3
岐阜保健大学医療専門学校	9	4	4	4	5	0
大阪医療技術学園専門学校	27	17	14	14	13	3
神戸医療福祉専門学校中央校	15	12	12	11	3	1
福岡天神医療リハビリ専門学校	36	24	25	22	11	2
九州医療専門学校	23	23	22	22	1	1
新宿医療専門学校	31	24	28	23	3	1
国際メディカル専門学校	18	15	15	14	3	1
名古屋平成看護医療専門学校	12	5	0	0	12	5
ユマニテク医療福祉大学校	5	1	0	0	5	1
福岡医健・スポーツ専門学校	37	25	26	24	11	1
鹿児島第一医療リハビリ専門学校	8	7	8	7	0	0
東日本医療専門学校	10	10	10	10	0	0
横浜医療専門学校	53	37	41	35	12	2
信州スポーツ医療福祉専門学校	24	18	17	16	7	2
浜松医療福祉専門学校	11	9	9	8	2	1
専門学校白寿医療学院	4	4	4	4	0	0
京都医健専門学校	41	32	39	32	2	0
盛岡医療福祉スポーツ専門学校	27	19	19	16	8	3
育英メディカル専門学校	19	19	19	19	0	0
大分医学技術専門学校	19	11	16	11	3	0
神奈川柔整鍼灸専門学校	18	16	16	15	2	1
専門学校中央医療健康大学校	11	8	8	8	3	0
大阪ハイテクノロジー専門学校	35	19	22	19	13	0
お茶の水はりきゅう専門学校	32	25	27	24	5	1
専門学校名古屋医専	36	26	30	24	6	2
朝日医療専門学校広島校	28	23	23	23	5	0
長崎医療こども専門学校	1	0	0	0	1	0
こころ医療福祉専門学校	17	10	9	9	8	1
呉竹医療専門学校	87	73	79	71	8	2
アルファ医療福祉専門学校	21	13	15	12	6	1
専門学校首都医校	12	9	9	8	3	1
金沢医療技術専門学校	14	12	12	12	2	0
静岡医療学園専門学校	26	24	23	23	3	1
専門学校大阪医専	16	11	14	11	2	0
河原医療福祉専門学校	20	16	15	13	5	3
中野健康医療専門学校	3	1	0	0	3	1
九州医療スポーツ専門学校	51	35	45	34	6	1

第29回きゅう師国家試験 学校別合格者状況

学 校 名	総 数		新 卒		既 卒	
	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数
近畿医療専門学校	28	16	14	14	14	2
専門学校沖縄統合医療学院	45	43	42	41	3	2
名古屋医健スポーツ専門学校	19	16	15	14	4	2
札幌スポーツアンドメディカル専門学校	32	22	26	22	6	0
総 合 計	3,797	2,740	2,914	2,597	883	143

〔資料7〕 鍼灸健康学科競合校（私立大学）の学生納付金一覧

所在地	大学	学部	学科	入学金	授業料	施設費	実習費	初年度 納入金額	2～4年次 納入金額
新潟県	新潟医療福祉大学	リハビリテーション学部	鍼灸健康学科	350,000	1,000,000	350,000	150,000	1,850,000	1,500,000
東京都	東京有明医療大学	保健医療学部	鍼灸学科	300,000	1,200,000	350,000	400,000	2,250,000	1,950,000
東京都	明治国際医療大学	鍼灸学部	鍼灸学科	300,000	1,350,000	300,000	0	1,950,000	1,650,000
東京都	帝京平成大学	ヒューマンケア学部	鍼灸学科	300,000	1,000,000	680,000	0	1,980,000	1,680,000
静岡県	常葉大学	健康プロデュース学部	健康鍼灸学科	240,000	990,000	450,000	150,000	1,830,000	1,590,000
大阪府	森ノ宮医療大学	医療技術学部	鍼灸学科	250,000	1,000,000	550,000	0	1,800,000	1,550,000
大阪府	関西医療大学	保健医療学部	はり灸・スポーツトレーナ学科	200,000	1,200,000	600,000	0	2,000,000	1,800,000
兵庫県	宝塚医療科学大学	保健医療学部	鍼灸学科	300,000	950,000	800,000	300,000	2,350,000	2,050,000
三重県	鈴鹿医療科学大学	保健衛生学部	鍼灸サイエンス学科	200,000	1,200,000	0	0	1,400,000	1,200,000
宮崎県	九州保健福祉大学	社会福祉学部	スポーツ健康福祉学科	300,000	853,000	350,000	0	1,503,000	1,203,000
熊本県	九州看護福祉大学	看護福祉学部	鍼灸スポーツ学科	200,000	950,000	160,000	145,000	1,455,000	1,255,000
							競合校平均	2,022,857	1,752,857

出所：大学受験パスナビ、各大学ホームページ

〔資料 8〕 鍼灸健康学科(仮称)新設 年間学生募集広報計画

	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月	
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬			
新設申請手続関連	★収容定員贈認可申請 → ◆学科設置届出 → ●指定申請 → 認可 → 指定書交付																																								
主な選抜試験日程	出願: 総合型(9月), 学校推薦型(10月), 一般・共テ利(11月) 試験: 総合型一次(9月), 総合型二次(10月), 学校推薦型(10月), 共通テスト(11月), 一般(前)(12月)																																								
オープンキャンパス	春OC(3月), 第1回OC(5月), 第2回OC(6月), 第1回夏OC(7月), 第2回夏OC(8月), 第3回夏OC(9月), 第3回OC(10月), 第4回OC(11月), 第5回OC(12月)																																								
広報制作物(大学全体)	▲春のOC案内(3月), ▲パンフ・HP/6月OC案内/夏のOC案内等(6月), ▲10月OC案内(10月), ▲11月OC案内(11月), ▲12月OC案内(12月)																																								
入試制作物(大学全体)	▲入試ガイド/総合型選抜リーフ/学校推薦型選抜リーフ(5月), ▲募集要項(7月), ▲一般選抜リーフ(11月)																																								
高校進路指導	校内ガイダンス(分野説明)(2月), 校内ガイダンス(大学説明)(4月), 進路希望調査(5月), 進路面談(5月), 指定校推薦・公募推薦 検討(8月), 進路面談(10月), 進路面談(11月)																																								
受験生行動	▲資料請求(2月), ▲分野研究(2月), ▲学校研究(4月), ▲OC情報収集(5月), ▲募集要項請求(7月), ▲募集要項請求(10月), ▲募集要項請求(11月) 進学情報誌1月号 情報収集(2月), 進路情報雑誌3・4月号 情報収集(3月), 進路情報雑誌OC特集号 情報収集(5月), 進路情報雑誌 入試特集号 情報収集(10月), 共通テスト受験(11月)																																								
模擬試験日程	総合マーク模試(6月), 総合記述模試(7月), 第1回マーク模試(9月), 第2回マーク模試(10月), 第3回記述模試(11月)																																								
【広報計画】	露出強化(学科新設の告知) 春のオープンキャンパス動員強化																																								
	詳細情報提供(教育の特色、各種実績) オープンキャンパス動員強化																																								
	志望校認知(入試情報提供) 入試対策講座 動員強化																																								
	総合型選抜 出願促進 学校推薦型選抜 出願促進 一般選抜 出願促進																																								
新設学科案内制作物(DM発送)	▲第1弾(2月), ▲第1弾(2回目)(3月), ▲第2弾(大学パンフ・入試ガイドと同封)(5月), ▲第3弾(募集要項と同封)(7月)																																								
新設学科案内リーフレット	▲第1弾(2月), ▲第1弾(2回目)(3月), ▲第2弾(大学パンフ・入試ガイドと同封)(5月), ▲第3弾(募集要項と同封)(7月)																																								
広報誌QOLサポーター	学科新設特集(3月)																																								
大学サイト	▲特集ページ第1弾(2月), ▲特集ページ第2弾(5月), ▲特集ページ第3弾(7月), ▲特集ページ第4弾(10月)																																								
情報提供強化	▲大学公式SNS(Line@, Twitter, Facebook, YouTube, Voicyでの情報発信)																																								
露出強化・発見導線強化	▲SEO対策「鍼灸(医療・スポーツ・美容)」関連キーワード																																								
進路情報誌・サイト	○各種業者受験情報誌・サイトでの情報掲載																																								
露出強化 発見導線強化 情報提供強化	▲ベスト進学ネット「請求確定時表示広告(柔整・鍼灸希望者)」																																								
	▲マナビジョン「新設予定学部・学科企画」																																								
	▲マイナビ進学WEB「新しい学部・学科」																																								
	▲マイナビ進学WEB「スポーツ特集」																																								
業者リストDM	▲さんぽう「学びのすすめ(リハビリテーション学)」																																								
	▲リクルートWEB 等「はり師・きゅう師パナー関連企画」																																								
	▲マナビジョンWEB「トップページパナー」																																								
	▲マナビジョンWEB「トップページパナー」																																								
高校進路への情報提供	▲テレメール「新設学部パナー」																																								
	△(準備) ----- ▲テレメール(医療系希望者6,000通)																																								
	△(準備) ----- ▲リクルートWEBDM(医療系希望者5,000通)																																								
	△(準備) ----- ▲テレメール(医療系希望者6,000通)																																								
高校訪問(事務局)	▲県内(全校) (3月), ▲県内・県外(重点校) (4月), ▲県内・県外(全校) (5月), ▲県内・県外(総合型・学校推薦型見込校) (10月), ▲県内・県外(一般見込校) (11月)																																								
高校訪問(教員)	▲県内・県外出願実績校 (3月), ▲指定校 (5月), ▲県内・県外(総合型・学校推薦型見込校) (10月), ▲県内・県外(一般見込校) (11月)																																								
高校教員対象説明会	△(案内発送) ----- ▲第1回 (5月), ▲第2回 (7月)																																								
ガイダンス	▲県内・隣接5県への出張講義対応 (2月), ▲出張講義一覧(納品) (5月), ▲マナビsummer(オンラインガイダンス) (7月), ▲マナビautumn(オンラインガイダンス) (10月)																																								
進路相談会(会場ガイダンス)	▲マナビsummer(オンラインガイダンス) (7月), ▲マナビautumn(オンラインガイダンス) (10月)																																								



[資料9]

---

---

**新潟医療福祉大学  
「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」(仮称)  
設置に関するニーズ調査  
結果報告書  
【施設対象調査】**

---

---

**令和4年1月  
株式会社 進研アド**

# 施設対象 調査概要

## 1. 調査目的

2023年4月開設予定の新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」新設構想に関して、施設からのニーズを把握する。

## 2. 調査概要

		施設対象調査
調査対象		施設の採用担当者
調査エリア (発送エリア)		北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、富山県、石川県、山梨県、長野県、静岡県、三重県、大阪府、兵庫県、福岡県
調査方法		郵送調査
調査対象数	依頼数	770施設
	回収数(回収率)	176施設(22.9%)
調査時期		2021年9月1日(水)～2021年10月4日(月)
調査実施機関		株式会社 進研アド

## 3. 調査項目

施設対象調査
<ul style="list-style-type: none"><li>・人事採用への関与度</li><li>・本部所在地</li><li>・業種</li><li>・従業員数</li><li>・鍼灸師の人数</li><li>・鍼灸師の充足状況</li><li>・鍼灸師の人材需要</li><li>・新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」の特色に対する魅力度</li><li>・新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」の社会的必要性</li><li>・新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」卒業生に対する採用意向</li><li>・新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」卒業生の毎年の採用想定人数</li></ul>

## 施設対象 調査結果まとめ



# 施設対象 調査結果まとめ

## 回答施設(回答者)の属性

※本調査は、新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」に対する人材需要を確認するための調査として設計。新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」の卒業生就職先として想定される施設の人事関連業務に携わっている人を対象に調査を実施し、176施設から回答を得た。

- 回答者の人事採用への関与度を聞いたところ、「採用の決裁権があり、選考にかかわっている」人は61.4%、「採用の決裁権はないが、選考にかかわっている」人が21.6%。選考にかかわっている人が回答者の8割以上を占めており、採用や選考にかかわる人事担当者からの意見を聴取できていると考えられる。
- 回答施設の本部所在地は、新潟医療福祉大学の所在地である「新潟県」が22.2%で最も多い。次いで「長野県」が14.8%、「福島県」が13.1%である。
- 回答施設の業種としては「鍼灸院・整骨院(施術所)」が68.2%で最も多い。次いで「社会福祉・介護事業」が20.5%である。
- 回答施設の従業員数(正規社員)は、「1名～5名未満」が54.5%で最も多い。一方で、「100名以上」という比較的規模の大きい施設からの回答も23.3%みられる。

## 鍼灸師の人数／鍼灸師の充足状況／鍼灸師の人材需要

- 回答施設で現在鍼灸師として勤務している人数は、「1名～5名未満」が62.5%。「鍼灸師は勤務していない」も19.9%みられる。
- 回答施設の鍼灸師の充足状況は、「充足している」が61.9%。「やや不足している」が15.3%、「不足している」が6.8%、「非常に不足している」が4.5%で、合計で26.6%の施設が鍼灸師の不足を感じている様子。
- 今後の鍼灸師に対する需要は、「需要は高まる」が32.4%、「今とあまり変わらない」が42.6%。反対に「縮小する」と回答した施設は13.6%にとどまり、回答施設の多くは、今後の鍼灸師に対する地域からの需要は、拡大もしくは維持されると予想している。

# 施設対象 調査結果まとめ

## 新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」の特色に対する魅力度

- 新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」の特色に対する魅力度(※)は、すべての項目で8割を超える。
- 最も魅力度が高いのは、「B. 現代医学の知識や科学的なアプローチについても学び、チーム医療の中での鍼灸の役割を理解し、医師や他の医療関係者と適切に連携できる力を身につけます。」(89.8%)であり、「とても魅力を感じる」と回答した人の割合も43.2%で最も高い。

次に魅力度が高いのは、「A. 現場経験の豊富な教員の指導のもと、はり治療、きゅう治療の高度な知識・技術を学び、鍼灸の優れた治療技術や臨床での対応力を磨きます。」「C. 鍼灸の高度な専門技術と、現代医学への理解を備え、幅広い視野から治療を構築し、患者さんとの信頼関係のもと、満足度の高い治療ができる鍼灸師を目指します。」(ともに87.5%)、次いで「D. アスリートを支えるための鍼灸技術やスポーツ医学の知識、女性の身体やライフサイクルに合わせたレディース鍼灸の技術、美容・アンチエイジングをサポートする健美(美容)鍼灸の技術など、幅広い知識・技術を修得します。」(80.7%)と続く。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した施設の合計値

## 新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」の社会的必要性

- 新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」の社会的必要性については、81.8%(176施設中、**144施設**)が「必要だと思う」と回答しており、多くの施設から、これからの社会にとって必要な学科であると評価されていることがうかがえる。

# 施設対象 調査結果まとめ

## 新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」 卒業生に対する採用意向・毎年の採用想定人数

- 新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した施設は、37.5% (176施設中、**66施設**)である。
- 新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」の卒業生を「採用したいと思う」と回答した66施設へ新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は**137名**で、予定している入学定員数40名を3倍以上上回っている。このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

< 属性別 >

### ◇本社所在地別

- 「関東」エリアに本部がある施設からの採用意向は、57.5% (40施設中、**23施設**)。採用想定人数の合計は**82人**で、予定している入学定員数を2倍以上上回っている。そのうち、「東京都」に本部がある施設からの採用意向は、72.2% (18施設中、**13施設**)。採用想定人数の合計は**53人**で、東京都だけでも予定している入学定員数を上回っている。

### ◇業種別

- 「鍼灸院・整骨院(施術所)」からの採用意向は、43.3% (120施設中、**52施設**)。採用想定人数の合計は**121人**で、予定している入学定員数を3倍以上上回っている。

# 施設対象 調査結果まとめ

---

## ◇従業員数別

- 従業員数が「1名～50名未満」の比較的小規模な施設からの採用意向は35.2%（122施設中、**43施設**）で、採用想定人数の合計は**63人**。一方、従業員数が「50名以上」の比較的大規模の大きい施設からの採用意向は43.4%（53施設中、**23施設**）で、採用想定人数の合計は**74人**。どちらも、予定している入学定員数を上回っている。

## ◇鍼灸師の人数別

- 鍼灸師として勤務している人数が「10名以上」と、比較的大規模の施設からの採用意向は、94.7%（19施設中、**18施設**）と高く、採用想定人数の合計も**73人**で、予定している入学定員数を上回っている。  
一方、鍼灸師が「1名～10名未満」の施設からの採用意向は、35.0%（120施設中、**42施設**）だが、採用想定人数の合計は**57人**で、予定している入学定員数を上回っている。

## ◇鍼灸師の充足状況別

- 鍼灸師が「やや～非常に不足している」と回答した施設からの採用意向は、83.0%（47施設中、**39施設**）と高く、採用想定人数の合計も**113人**で、予定している入学定員数を2倍以上上回っている。

## ◇鍼灸師の人材需要別

- 今後、鍼灸師の「需要は高まる」と回答した施設からの採用意向は、71.9%（57施設中、**41施設**）。採用想定人数の合計は**111人**で、予定している入学定員数を2倍以上上回っている。

# 施設対象 調査結果まとめ

---

◇新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」の特色に対する  
魅力度別

- 新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」の特色に魅力を感じている施設の採用意向は、いずれの特色でも3割を超えている。採用想定人数の合計もいずれも120人以上と、予定している入学定員数を3倍以上上回っている。

◇社会的必要性別

- 「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」が社会的に「必要だと思う」と回答した施設からの採用意向は、45.1% (144施設中、**65施設**)。採用想定人数の合計は**136人**で、予定している入学定員数を3倍以上上回っている。



## 施設対象 調査結果

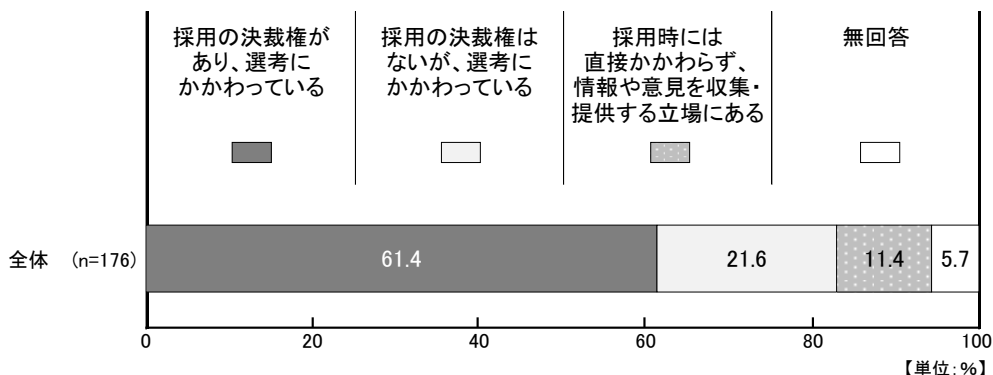


# 回答施設(回答者)の属性

## (人事採用への関与度/本部所在地)

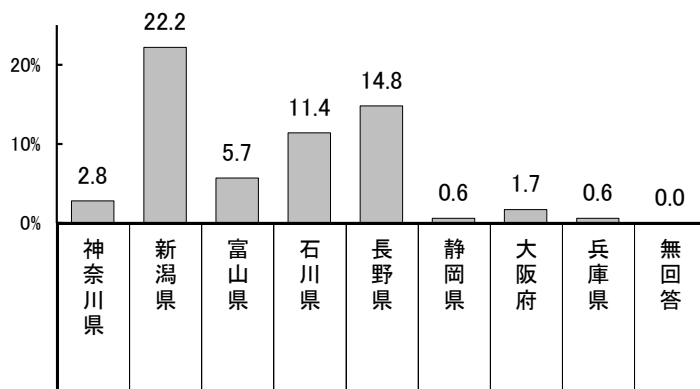
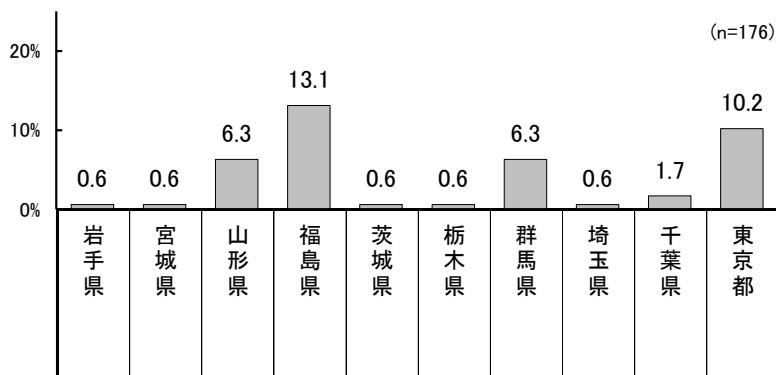
### ■人事採用への関与度

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。(あてはまる番号1つに○)



### ■本部所在地

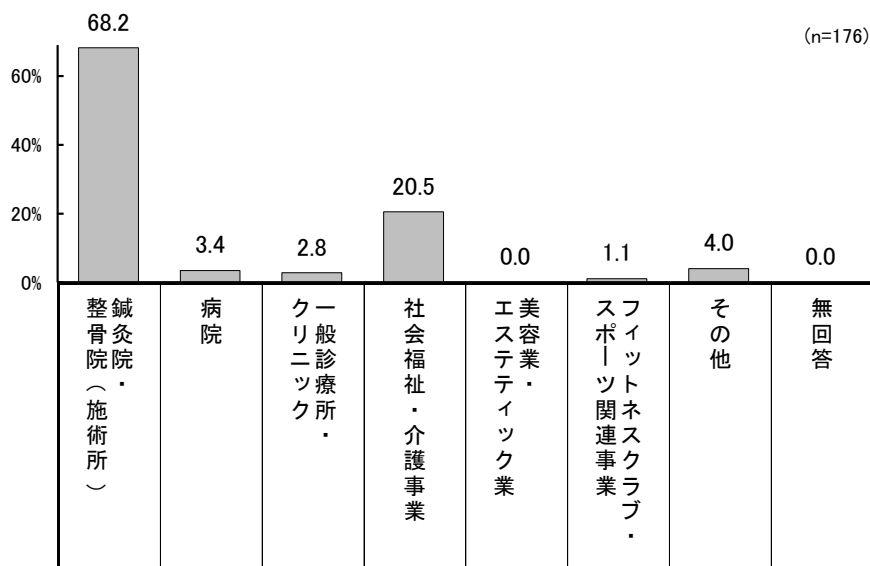
Q2. 貴社・貴施設の本部所在地について、都道府県名をお教えてください。



# 回答施設(回答者)の属性(業種/従業員数)

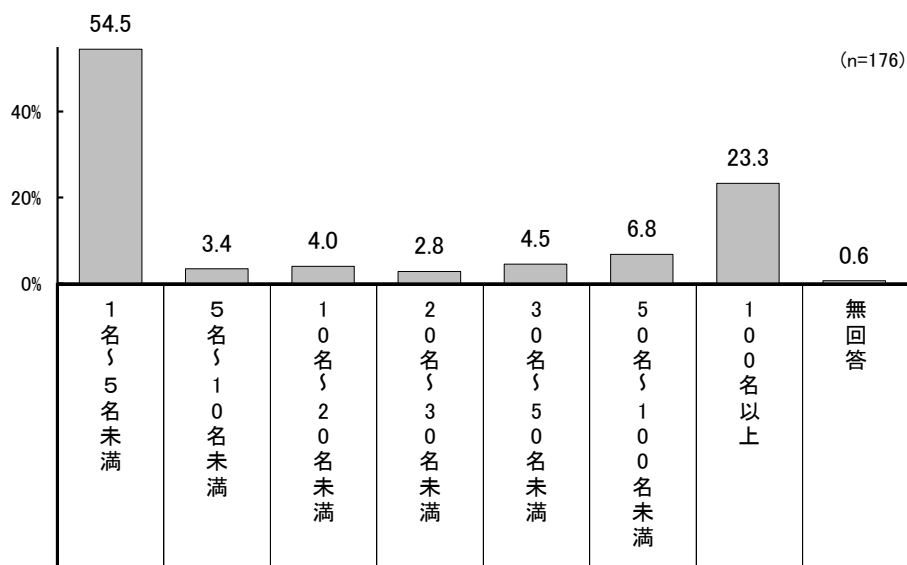
## ■業種

Q3. 貴社・貴施設の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)



## ■従業員数

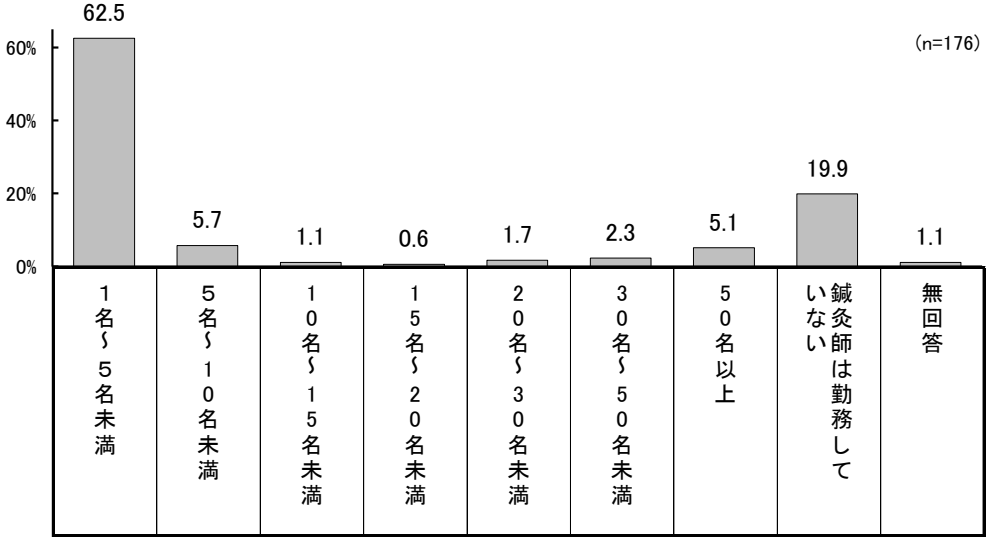
Q4. 貴社・貴施設の従業員数(正規社員・職員)について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)



# 鍼灸師の人数／鍼灸師の充足状況／鍼灸師の人材需要

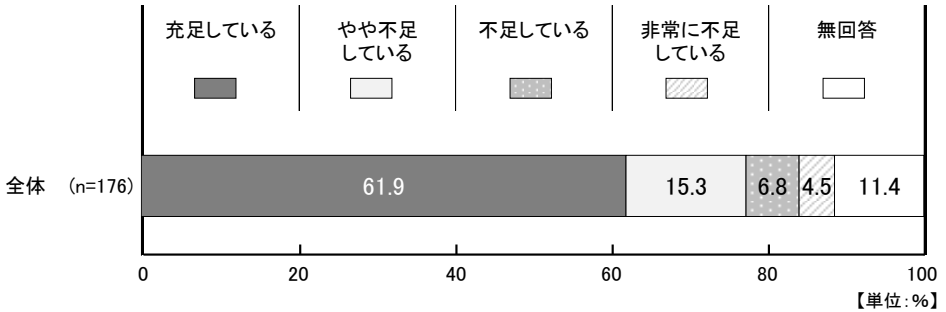
## ■ 鍼灸師の人数

Q5. 貴社・貴施設で、現在「鍼灸師」として勤務されている方の人数をお教えてください。



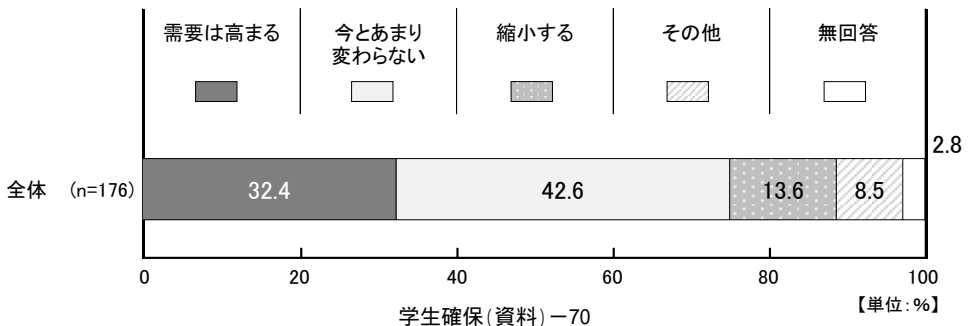
## ■ 鍼灸師の充足状況

Q6. 貴社・貴施設における、「鍼灸師」の充足状況をお教えてください。(あてはまる番号1つに○)



## ■ 鍼灸師の人材需要

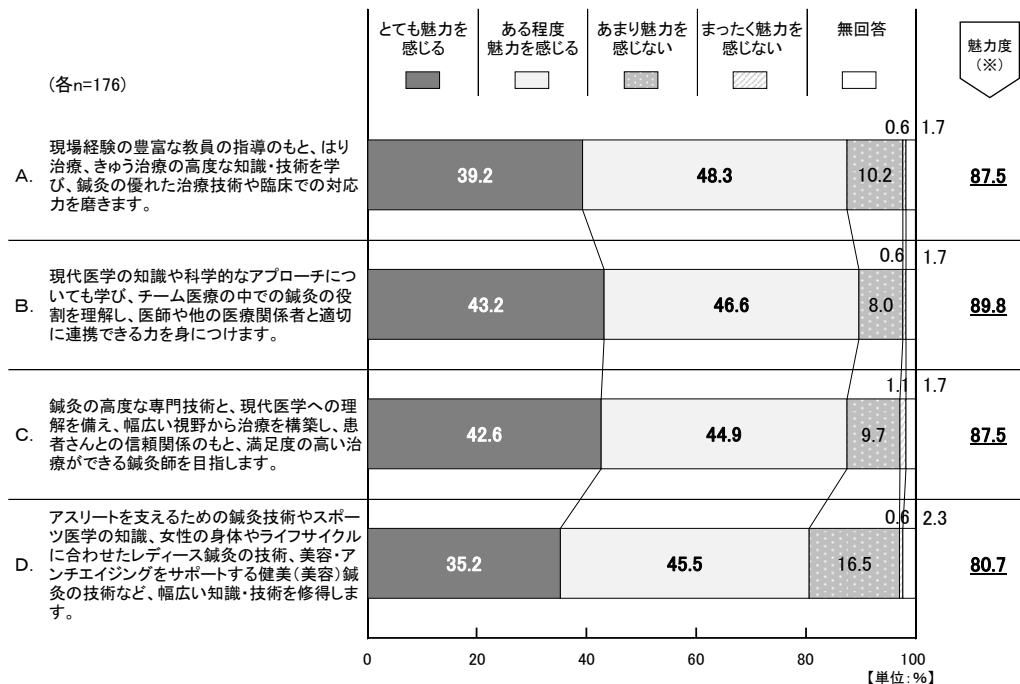
Q7. 貴社・貴施設のある地域において、今後、「鍼灸師」に対する人材需要はどのようにになるとお考えですか。(あてはまる番号1つに○)



# 新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」の特色に対する魅力度

## ■新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」の特色に対する魅力度

Q8. 新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部「鍼灸健康学科」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。貴社・貴施設(ご回答者)にとって、これらの特色はそれぞれの程度魅力に感じますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



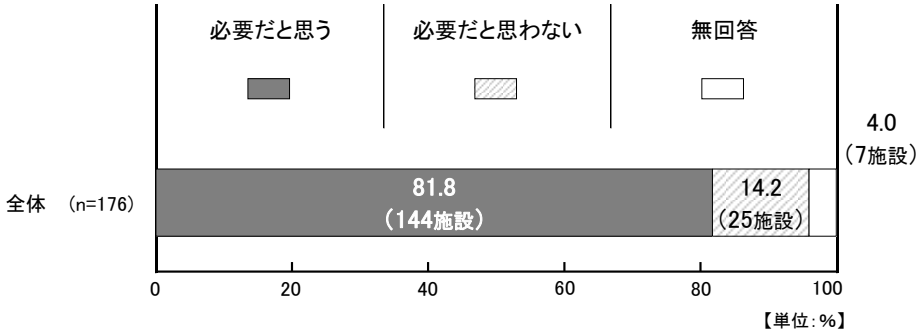
※魅力度=「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

※魅力度は、人数をもとに%を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

# 新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」の社会的必要性／卒業生に対する採用意向／卒業生の毎年の採用想定人数

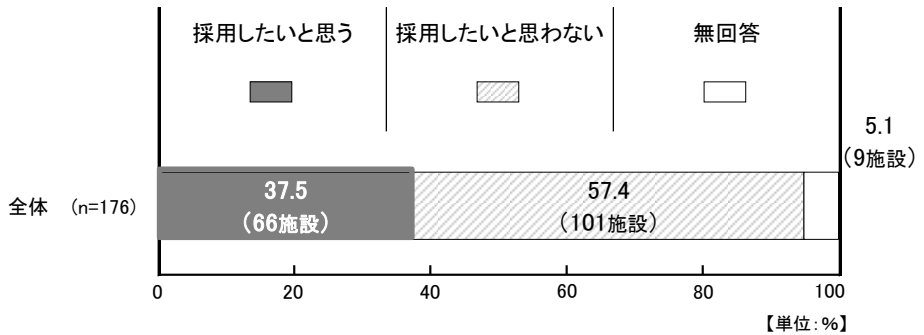
## ■新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」の社会的必要性

Q9. 貴社・貴施設(ご回答者)は、新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部「鍼灸健康学科」(仮称、設置構想中)は、これからの社会にとって必要だと思いますか。(あてはまる番号1つに○)



## ■新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」卒業生に対する採用意向

Q10. 貴社・貴施設(ご回答者)では、新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部「鍼灸健康学科」(仮称、設置構想中)を卒業した学生について、採用したいと思えますか。(あてはまる番号1つに○)



「採用したいと思う」と答えた66施設のみ抽出

## ■新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」卒業生の毎年の採用想定人数

Q11. Q10で「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。  
採用を考える場合、新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部「鍼灸健康学科」(仮称、設置構想中)を卒業した学生について、毎年何名程度の採用を想定されますか。(あてはまる番号1つに○)

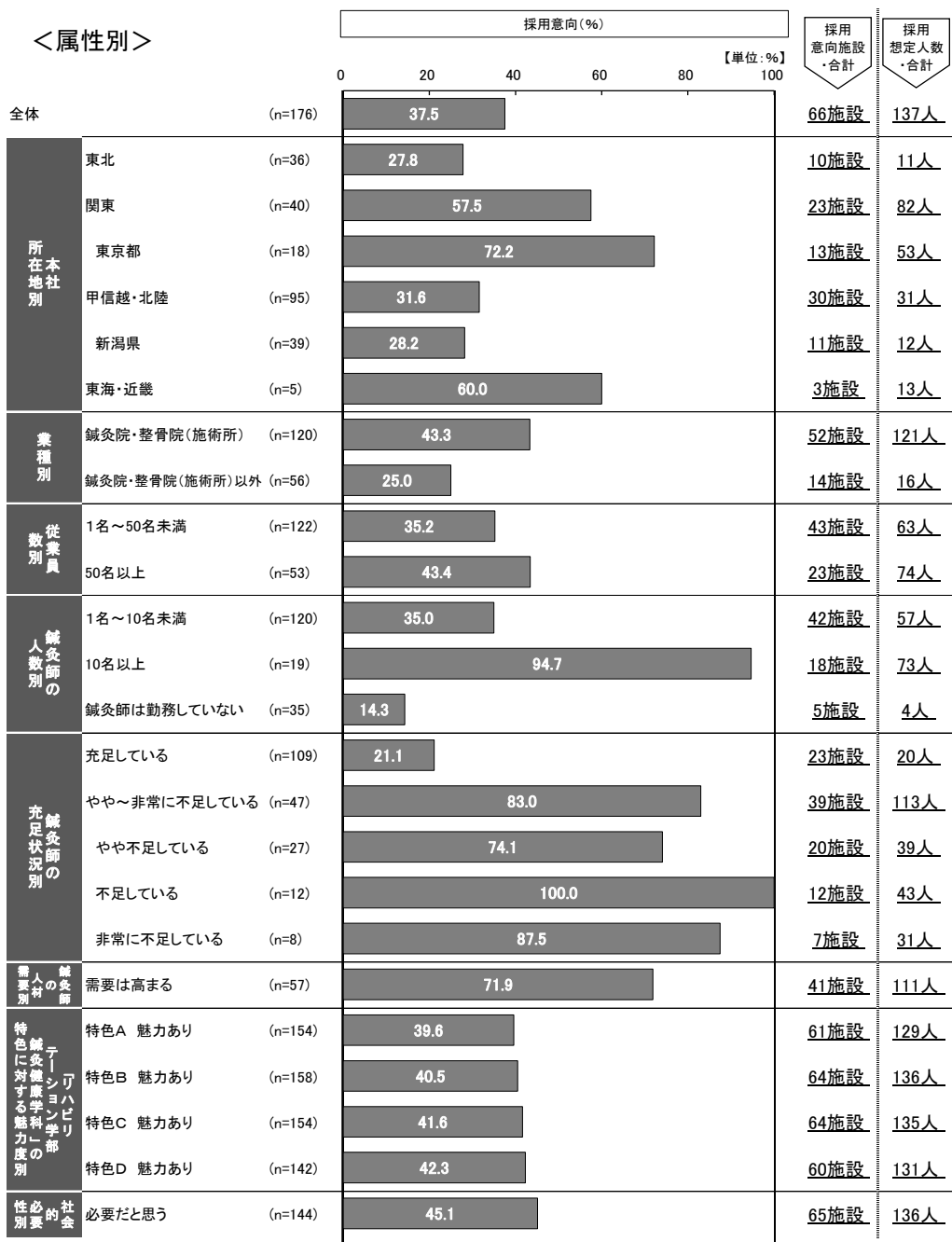
標本数	単位	1名	2名	3名	4名	5名 ～ 9名	10名 以上	計
		%	54.5%	15.2%	6.1%	1.5%	7.6%	
施設数	36	10	4	1	5	4		
名	36	20	12	4	25	40		

※ 毎年の採用想定人数・計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

# 新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」卒業生に対する採用意向／採用想定人数〈属性別〉

## ■新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」卒業生に対する採用意向／採用想定人数〈属性別〉

※新潟医療福祉大学「リハビリテーション学部 鍼灸健康学科」に対して、Q10で「採用したいと思う」と回答した施設を【採用意向施設】と定義し、さらに【採用意向施設】のうち、Q11で回答した施設が示す具体的な人数を【採用想定人数】と定義する。



※ 採用想定人数・合計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

## 卷末資料 調查票





## 新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部 「鍼灸健康学科」(仮称)に関するアンケート

新潟医療福祉大学では2023年(令和5年)4月より、リハビリテーション学部「鍼灸健康学科」(仮称)を新設することを構想しています。

このアンケートは採用ご担当者の皆様からご意見をお伺いし、より充実した大学や学部・学科にするための参考資料とさせていただきます。

このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。

つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※このアンケートや同封した資料に記載されているリハビリテーション学部「鍼灸健康学科」(仮称、設置構想中)に関する事項はすべて予定であり内容が変更になる可能性があります。

はじめに、貴社・貴施設についてお伺いいたします。

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。

(あてはまる番号1つに○)

1. 採用の決裁権があり、選考にかかわっている
2. 採用の決裁権はないが、選考にかかわっている
3. 採用時には直接かかわらず、情報や意見を収集・提供する立場にある

Q2. 貴社・貴施設の本部所在地について、都道府県名をお教えてください。

本部所在地

都・道・府・県 ←1つに○

Q3. 貴社・貴施設の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

- |                 |                       |
|-----------------|-----------------------|
| 1. 鍼灸院・整骨院(施術所) | 5. 美容業・エステティック業       |
| 2. 病院           | 6. フィットネスクラブ・スポーツ関連事業 |
| 3. 一般診療所・クリニック  | 7. その他                |
| 4. 社会福祉・介護事業    | ( )                   |

Q4. 貴社・貴施設の従業員数(正規社員・職員)について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

- |              |               |           |
|--------------|---------------|-----------|
| 1. 1名～5名未満   | 4. 20名～30名未満  | 7. 100名以上 |
| 2. 5名～10名未満  | 5. 30名～50名未満  |           |
| 3. 10名～20名未満 | 6. 50名～100名未満 |           |

Q5. 貴社・貴施設で、現在「鍼灸師」として勤務されている方の人数をお教えてください。

- |              |              |                |
|--------------|--------------|----------------|
| 1. 1名～5名未満   | 4. 15名～20名未満 | 7. 50名以上       |
| 2. 5名～10名未満  | 5. 20名～30名未満 |                |
| 3. 10名～15名未満 | 6. 30名～50名未満 | 8. 鍼灸師は勤務していない |

Q6. 貴社・貴施設における、「鍼灸師」の充足状況をお教えてください。(あてはまる番号1つに○)

- |             |              |
|-------------|--------------|
| 1. 充足している   | 3. 不足している    |
| 2. やや不足している | 4. 非常に不足している |

裏面へ続く→

# 調査票

Q7. 貴社・貴施設のある地域において、今後、「鍼灸師」に対する人材需要はどのようになるとお考えですか。

(あてはまる番号1つに○)

- |               |        |
|---------------|--------|
| 1. 需要は高まる     | 4. その他 |
| 2. 今とあまり変わらない | ( )    |
| 3. 縮小する       |        |

新潟医療福祉大学では、2023年(令和5年)4月に、新しく、リハビリテーション学部「鍼灸健康学科」(仮称)を設置することを構想しています。  
※ここからは、アンケートに同封している資料をご覧いただいた上でお答えください※

Q8. 新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部「鍼灸健康学科」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。貴社・貴施設(ご回答者)にとって、これらの特色はそれぞれの程度魅力に感じますか。

(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない
例. ○○である。	→	1	②	3	4
A. 現場経験の豊富な教員の指導のもと、はり治療、きゅう治療の高度な知識・技術を学び、鍼灸の優れた治療技術や臨床での対応力を磨きます。	→	1	2	3	4
B. 現代医学の知識や科学的なアプローチについても学び、チーム医療の中での鍼灸の役割を理解し、医師や他の医療関係者と適切に連携できる力を身につけます。	→	1	2	3	4
C. 鍼灸の高度な専門技術と、現代医学への理解を備え、幅広い視野から治療を構築し、患者さんとの信頼関係のもと、満足度の高い治療ができる鍼灸師を目指します。	→	1	2	3	4
D. アスリートを支えるための鍼灸技術やスポーツ医学の知識、女性の身体やライフサイクルに合わせたレディース鍼灸の技術、美容・アンチエイジングをサポートする健美(美容)鍼灸の技術など、幅広い知識・技術を修得します。	→	1	2	3	4

Q9. 貴社・貴施設(ご回答者)は、新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部「鍼灸健康学科」(仮称、設置構想中)は、これからの社会にとって必要だと思われますか。(あてはまる番号1つに○)

- |           |             |
|-----------|-------------|
| 1. 必要だと思う | 2. 必要だと思わない |
|-----------|-------------|

Q10. 貴社・貴施設(ご回答者)では、新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部「鍼灸健康学科」(仮称、設置構想中)を卒業した学生について、採用したいと思われませんか。(あてはまる番号1つに○)

- |             |               |
|-------------|---------------|
| 1. 採用したいと思う | 2. 採用したいと思わない |
|-------------|---------------|

Q11. Q10で「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。

採用を考える場合、新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部「鍼灸健康学科」(仮称、設置構想中)を卒業した学生について、毎年何名程度の採用を想定されますか。(あてはまる番号1つに○)

- |       |       |          |
|-------|-------|----------|
| 1. 1名 | 3. 3名 | 5. 5名～9名 |
| 2. 2名 | 4. 4名 | 6. 10名以上 |

～質問は以上です。ご協力ありがとうございました。～

## 教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
-	学長	ニシザワ マサトヨ 西澤 正豊 <令和2年4月>		博士 (医学)		新潟医療福祉大学 学長 (令和2年4月～令和6年3月)

(注) 高等専門学校にあっては校長について記入すること。

## 教 員 の 氏 名 等

リハビリテーション学部鍼灸健康学科)

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職務に 従事する 週当たり平均 日数
1	専	教授 (学科長)	カサヤ ダイチ 粕谷 大智 <令和5年4月>		博士 (心身健康科学)		鍼灸健康学ゼミ 鍼灸健康学概論 臨床医学各論IV感覚器 リハビリテーション学総論 リハビリテーション学各論 リハビリテーション鍼灸学 臨床鍼灸学実習III(感覚器) リハビリテーション鍼灸学実習 臨床実習I 臨床実習II 臨床実習III 鍼灸健康学特講演習I(基礎) 鍼灸健康学特講演習II(臨床) 手技療法演習 医療連携と鍼灸 卒業研究 基礎ゼミ 東洋医学的養生 連携基礎ゼミ	2前 1後 2前 2後 3前 3後 3前 4前 2前 3前 4前 4後 4後 3後 4前 4後 1前 1前 2後	1 1 1 1 1 1 2 2 2 2 2 1 1 2 1 4 1 1 1	1 1 1 1 1 1 2 2 2 2 1 1 2 1 1 1 1 1 1	新潟医療福祉大学 鍼灸健康学科 設置準備室長 教授 (令和4年4月)	5
2	専	教授	エガワ マサト 江川 雅人 <令和5年4月>		博士 (鍼灸学)		鍼灸健康学ゼミ 経絡経穴学 中医診断学基礎 中医診断学演習 社会鍼灸学 鍼灸技術学実習 臨床実習I 臨床実習II 臨床実習III 鍼灸健康学特講演習I(基礎) 鍼灸健康学特講演習II(臨床) 鍼灸の歴史と偉人 卒業研究 基礎ゼミ 日本語表現法II 連携基礎ゼミ	2前 1後 2前 3後 2前 1後 2前 3前 4前 4後 4後 3前 4後 4後 1前 1後 2後	1 2 1 2 1 4 2 4 2 1 1 1 4 4 1 1 1	1 1 1 2 1 2 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1	新潟医療福祉大学 鍼灸健康学科 設置準備室 教授 (令和4年4月)	5
3	専	教授	ツタ トクヒロ 津田 篤太郎 <令和5年4月>		博士 (医学)		免疫学 臨床医学各論I内科・神経内科 メンタルヘルス学 漢方薬概論 生薬学 東洋医学概論 伝統鍼灸診断学演習 医療面接演習 基礎ゼミ 日本語表現法I 連携基礎ゼミ	2後 2前 2後 2後 2後 1前 3前 2後 1前 1後 2後	1 1 1 1 1 2 2 2 1 1 1	1 1 1 1 1 1 2 2 1 1 1	NTT東日本関東病院 リウマチ 膠原病科 部長 (令和元年9月)	5
4	専	教授	クボ アサコ 久保 亜紗子 <令和5年4月>		博士 (医学)		病理学 病理学実習 鍼灸健康学ゼミ 疼痛学 メンタルヘルス鍼灸学実習 鍼灸治効理論 疼痛管理鍼灸学 鍼灸治効理論実習 臨床実習I 臨床実習II 臨床実習III 鍼灸健康学特講演習I(基礎) 鍼灸健康学特講演習II(臨床) 卒業研究 基礎ゼミ 連携基礎ゼミ	1前 1後 2前 2後 3後 2前 3前 3前 2前 3前 4前 4後 4後 4後 1前 2後	1 2 1 1 4 1 4 4 2 4 2 1 1 4 1 4 1 1	1 1 1 2 2 1 2 2 2 1 1 1 1 1 1	自然科学研究機構生理学 研究所生体機能調整研究領域 特 別協力研究員 (令和2年4月)	5
5	専	准教授	カネ ヲイロウ 金子 総一郎 <令和5年4月>		博士 (医学)		鍼灸健康学ゼミ 臨床医学各論II運動器 養生学 メンタルヘルスマネジメント 方剤学 臨床研究デザイン学 伝統鍼灸学概論 メンタルヘルス鍼灸学 臨床鍼灸学実習I(内科・神経内科) 臨床実習I 臨床実習II 臨床実習III 臨床倫理学 鍼灸健康学特講演習I(基礎) 鍼灸健康学特講演習II(臨床) 鍼灸と統合医療 卒業研究 基礎ゼミ 連携基礎ゼミ	2前 2前 2後 3前 3前 3後 2前 3前 3前 3後 2前 3前 4前 4後 4後 4後 3前 4後 4後 2前 4後 1前 2後	1 1 1 1 1 1 1 1 4 2 4 2 2 1 1 4 1 4 1 1 1	1 1 1 1 1 1 2 2 2 1 1 2 2 1 1 1 1 1 1	東北大学大学院医学系研究科 地域総合診療医育成寄附講座 助教 (平成29年10月)	5

## 教員の氏名等

リハビリテーション学部鍼灸健康学科)

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職務に 従事する 週当たり平均 日数
6	専	准教授	キムラ ケイサク 木村 啓作 <令和5年4月>		博士 (鍼灸学)		鍼灸健康学ゼミ 運動生理学 トレーニング論 スポーツ外傷 臨床鍼灸学Ⅱ(運動器) スポーツ鍼灸学 スポーツ鍼灸学実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ 臨床実習Ⅲ 運動機能解剖学 鍼灸健康学特講演Ⅰ(基礎) 鍼灸健康学特講演Ⅱ(臨床) シニアスポーツ鍼灸学 鍼灸臨床で応用するストレッチ術演習 起業の精神と実践 卒業研究 基礎ゼミ 連携基礎ゼミ	2前 2後 3前 3後 3後 3後 2前 3前 4前 2後 4後 4後 3前 3後 3前 4後 1前 2後	1 1 1 1 2 1 2 2 4 2 1 1 1 1 2 1 4 1 1	1 1 1 1 1 2 2 2 2 1 1 1 1 2 1 1 1 1	明治国際医療大学 鍼灸学部 鍼灸学科 はり・きゅう学講座 講師 (平成28年4月)	5
7	専	講師	タカノ ミチヨ 高野 道代 <令和5年4月>		修士 (鍼灸学)		鍼灸健康学ゼミ 臨床医学総論 ジェンダー論 臨床鍼灸学Ⅰ(内科・神経内科) 臨床鍼灸学Ⅲ(感覚器) レディース鍼灸学 レディース鍼灸学実習 健康美容鍼灸学実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ 臨床実習Ⅲ 鍼灸経営学 鍼灸健康学特講演Ⅰ(基礎) 鍼灸健康学特講演Ⅱ(臨床) 健康美容鍼灸学 経済と経営 卒業研究 基礎ゼミ 連携基礎ゼミ	2前 2前 3後 3後 3前 3後 3後 4前 2前 3前 4前 3後 4後 4後 3前 3前 4後 1前 2後	1 1 1 2 2 1 2 2 2 4 2 1 1 1 1 1 1 4 1 1	1 1 1 1 1 2 2 2 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1	新潟医療福祉大学 鍼灸健康学科 設置準備室 講師 (令和4年4月)	5
8	専	講師	フクダ シンペイ 福田 晋平 <令和5年4月>		博士 (鍼灸学)		鍼灸健康学ゼミ 高齢社会学 基礎医学研究セミナー 高齢者ケア実習 プレゼンテーション方法論 鍼灸リスクマネジメント学 高齢者鍼灸学 関係法規 灸技術学実習 高齢者鍼灸学実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ 臨床実習Ⅲ 鍼灸健康学特講演Ⅰ(基礎) 鍼灸健康学特講演Ⅱ(臨床) 災害と鍼灸 卒業研究 基礎ゼミ 連携基礎ゼミ	2前 3前 3前 4前 3前 2前 4前 4前 2前 4前 4前 4後 4後 3前 4後 1前 2後	1 1 1 2 1 1 1 1 4 2 2 2 2 1 1 1 4 1 1	1 1 1 2 1 1 1 1 2 2 2 1 1 1 1 1 1 1	明治国際医療大学 鍼灸学部 鍼灸学科 助教 (平成27年4月)	5
9	専	助教	ムラコシ ユウスケ 村越 祐介 <令和5年4月>		修士 (鍼灸学)		鍼灸健康学ゼミ 臨床医学各論Ⅲ外科 スポーツ心理学 予防とコンディショニング演習 心の発達と維持 経路経穴学実習 臨床鍼灸学実習Ⅱ(運動器) 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ 臨床実習Ⅲ 鍼灸健康学特講演Ⅰ(基礎) 鍼灸健康学特講演Ⅱ(臨床) 新領域の鍼灸 卒業研究 基礎ゼミ 連携基礎ゼミ	2前 2前 3前 2前 3後 2前 3後 2前 3前 4前 4後 4後 3後 4後 1前 2後	1 1 1 2 1 4 4 2 4 2 1 1 1 1 1 4 1 1	1 1 1 2 1 2 2 2 2 1 1 1 1 1 1 1	東京有明医療大学 博士後期課程 在学中 (令和3年4月)	5
10	兼任	教授	イシ マサコ 石井 雅子 <令和5年4月>		博士 (医学)		眼の神秘	1前	1	1	新潟医療福祉大学 医療技術学部 (平成24年11月)	
11	兼任	教授	コノ セイ 河野 聖夫 <令和5年4月>		修士 (社会福祉学)		国民の生活と健康を支える仕組み 地域連携学 チームアプローチ入門	1前 3前 1後	1 1 1	1 1 1	新潟医療福祉大学 社会福祉学部 (平成21年4月)	
12	兼任	教授	サトウ トシロウ 佐藤 敏郎 <令和5年4月>		博士 (学術)		スポーツ・健康 スポーツ・実践	1前 2・3・4前・後	1 2	1 2	新潟医療福祉大学 健康科学部 (平成21年4月)	
13	兼任	教授	シバヤマ ジュンイチ 柴山 純一 <令和5年4月>		修士 (工学)		統計入門	1後	1	1	新潟医療福祉大学 医療経営管理学部 (平成26年4月)	
14	兼任	教授	マエダ ヒロシ 前田 史篤 <令和5年4月>		博士 (感覚矯正学)		留学の魅力	1前	1	1	新潟医療福祉大学 医療技術学部 (平成26年4月)	
15	兼任	教授	ヤサカ トシハル 八坂 敏一 <令和5年4月>		博士 (医学)		生理学 生理学実習	1前 2前	2 4	1 2	新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部 (令和2年4月)	
16	兼任	教授	イカミ カズオ 石上 和男 <令和5年4月>		歯学博士		公衆衛生学 公衆衛生学演習	1前 2後	1 2	1 2	新潟医療福祉大学 医療経営管理学部 (平成26年4月)	

## 教 員 の 氏 名 等

リハビリテーション学部鍼灸健康学科)

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週あたり平均日数
17	兼担	教授	ナラ カシ 奈良 貴史 <令和5年4月>		DOCTORAT ANTHROPOLOGIE (仏国)		解剖学Ⅰ 解剖学実習	1前 2後	2 4	1 2	新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部 (平成25年4月)	
18	兼担	教授	ノ シンイチ 能登 真一 <令和5年9月>		博士 (保健学)		QOLの世界	1後	1	1	新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部 (平成13年4月)	
19	兼担	教授	イマラ トル 今村 徹 <令和5年9月>		博士 (医学)		臨床医の世界	1後	1	1	新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部 (平成13年4月)	
20	兼担	教授	サトリ ナリシ 佐藤 成登志 <令和5年9月>		博士 (工学)		加齢と身体	1後	1	1	新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部 (平成18年4月)	
21	兼担	教授	コシ イム 古西 勇 <令和5年9月>		博士 (医学)		国際保健の世界	1後	1	1	新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部 (平成15年4月)	
22	兼担	教授	イマニシ リカ 今西 里佳 <令和5年9月>		博士 (障害科学)		チームアプローチ入門	1後	1	1	新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部 (平成21年4月)	
23	兼担	教授	イマイ ノブユキ 今井 信行 <令和5年9月>		博士 (歯学)		チームアプローチ入門	1後	1	1	新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部 (平成17年4月)	
24	兼担	教授	ウダ ユウコ 宇田 優子 <令和5年9月>		博士 (保健学)		チームアプローチ入門	1後	1	1	新潟医療福祉大学 看護学部 (平成22年4月)	
25	兼担	教授	カイ トル 永井 徹 <令和5年9月>		博士 (保健学)		チームアプローチ入門	1後	1	1	新潟医療福祉大学 健康科学部 (平成25年4月)	
26	兼担	教授	アベ カル 阿部 薫 <令和5年9月>		博士 (総合社会文化)		研究プロジェクト演習Ⅰ 研究プロジェクト演習Ⅱ 研究プロジェクト演習Ⅲ 研究プロジェクト演習Ⅳ 研究プロジェクト演習Ⅴ 研究プロジェクト演習Ⅵ	1後 2前 2後 3前 3後 4前	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部 (平成18年8月)	
27	兼担	教授	アガリエ ユキオ 東江 由紀夫 <令和5年9月>		修士 (保健医療学)		チームアプローチ入門 社会連携実践演習Ⅰ 社会連携実践演習Ⅱ	1後 1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1 1	1 1 1	新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部 (平成19年4月)	
28	兼担	教授	タケイ ユカ 竹井 豊 <令和6年4月>		博士 (医学)		救急学	2前	1	1	新潟医療福祉大学 医療技術学部 (平成29年4月)	
29	兼担	教授	マツイ ユミコ 松井 由美子 <令和6年4月>		博士 (保健学)		保健医療福祉連携学 連携総合ゼミ	2・3前 3後・4前	1 2	1 1	新潟医療福祉大学 看護学部 (平成19年4月)	
30	兼担	教授	コタマ ナキ 児玉 直樹 <令和6年9月>		博士 (工学)		臨床薬理学	2後	1	1	新潟医療福祉大学 医療技術学部 (平成29年4月)	
31	兼担	教授	イハ ヒロミ 稲葉 洋美 <令和6年9月>		博士 (学術)		栄養学	2後	1	1	新潟医療福祉大学 健康科学部 (平成27年4月)	

## 教 員 の 氏 名 等

リハビリテーション学部鍼灸健康学科)

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
32	兼任	准教授	イガラシ リコ 五十嵐 紀子 (令和5年4月)		修士 (文学)		英語 I 英語 II アカデミック英語 II アカデミック英語 III コミュニケーション学入門 対人コミュニケーション論	1前 1後 2・3・4後 2・3・4後 1前 1後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1	新潟医療福祉大学 社会福祉学部 (平成13年4月)	
33	兼任	准教授	アキ シゲル 青木 茂 (令和5年4月)		修士 (社会福祉学)		ボランティアの世界 新潟水俣病の理解	1前 1前	1 1	1 1	新潟医療福祉大学 社会福祉学部 (平成23年4月)	
34	兼任	准教授	テラジマ カズヒロ 寺島 和浩 (令和5年4月)		博士 (工学)		情報処理 I 情報処理 II 情報処理 III	1前 1後 2前	1 1 1	1 1 1	新潟医療福祉大学 医療経営管理学部 (平成13年4月)	
35	兼任	准教授	ヨシタ ヒデアキ 吉田 秀義 (令和5年4月)		博士 (工学)		放射線の基礎と人体への影響 こどもの世界	1前 1後	1 1	1 1	新潟医療福祉大学 医療技術学部 (平成30年4月)	
36	兼任	准教授	サカタ ジュンメイ 澤田 純明 (令和5年9月)		博士 (障害科学)		解剖学 II	1後	2	1	新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部 (平成27年4月)	
37	兼任	講師	オオマツ ケンタロウ 大松 健太郎 (令和5年4月)		修士 (健康科学)		一次救命処置法	1前	1	1	新潟医療福祉大学 医療技術学部 (平成29年4月)	
38	兼任	講師	イシモト コウ 石本 豪 (令和5年4月)		修士 (心理学)		臨床の哲学 心理学概論	1前 1後	1 1	1 1	新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部 (平成25年4月)	
39	兼任	講師	オヤマ トミゾウ 大山 富三 (令和5年4月)		博士 (医学)		臨床技術の世界	1前	1	1	新潟医療福祉大学 医療技術学部 (平成23年4月)	
40	兼任	講師	スガ ヒロノリ 須田 裕紀 (令和5年9月)		修士 (工学)		義肢装具の世界	1後	1	1	新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部 (平成21年4月)	
41	兼任	講師	サトウ ヒロキ 佐藤 裕紀 (令和5年9月)		修士 (教育学)		シティズンシップ教育入門	1後	1	1	新潟医療福祉大学 健康科学部 (平成26年4月)	
42	兼任	講師	イノウエ タロウ 井上 達朗 (令和5年9月)		博士 (保健学)		チームアプローチ入門	1後	1	1	新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部 (令和2年4月)	
43	兼任	助教	ヤマモト エツシ 山本 悦史 (令和5年4月)		修士 (社会学)		スポーツ・健康	1前	1	1	新潟医療福祉大学 健康科学部 (平成27年4月)	
44	兼任	助教	イマイ リエ 今井 理恵 (令和5年4月)		修士 (教育学)		英語 I 英語 II アカデミック英語 I	1前 1後 2・3・4前	1 1 1	1 1 1	新潟医療福祉大学 社会福祉学部 (平成28年4月)	
45	兼任	助教	ワタナベ ユナ 渡辺 優奈 (令和5年4月)		博士 (栄養学)		食を楽しむ	1前	1	1	新潟医療福祉大学 健康科学部 (平成27年4月)	
46	兼任	講師	イトウ リョウジ 伊藤 亮司 (令和5年4月)		博士 (農学)		現代社会と経済	1前	1	1	新潟大学 農学部 (平成12年12月)	
47	兼任	講師	クボクラ サトミ 久保倉 里美 (令和5年4月)		学士 (教養)		アスリートの世界	1前	1	1	新潟アルビレックス ランニングクラブ (平成17年4月)	
48	兼任	講師	サイトウ タダオ 斎藤 忠雄 (令和5年4月)		博士 (医学)		人間を知る	1前	1	1	斎藤内科クリニック (平成6年11月)	
49	兼任	講師	ミヤカ ミチオ 宮坂 道夫 (令和5年9月)		博士 (医学)		命の倫理	1後	1	1	新潟大学大学院 保健学研究科 (平成24年10月)	
50	兼任	講師	ハク スヒ 朴 修禮 (令和5年9月)		文学博士 (韓国)		韓国語 I 韓国語 II	1・2後 2・3前	1 1	1 1	新潟医療福祉大学 非常勤講師 (平成16年4月)	
51	兼任	講師	シヒ コリン 斯日 古楞 (令和5年9月)		修士※ (社会学)		中国語 I 中国語 II	1・2後 2・3前	1 1	1 1	新潟医療福祉大学 非常勤講師 (平成23年4月)	
52	兼任	講師	パトリシア カルデロン Patoricia Calderon (令和5年9月)		歯学士 (メキシコ)		スペイン I スペイン II	1・2後 2・3前	1 1	1 1	旭カーボン(株) 職員 (平成19年9月)	
53	兼任	講師	ローランド エバート Roland Ebert (令和5年9月)		Bachelor of Arts (ドイツ)		ドイツ語 I ドイツ語 II	1・2後 2・3前	1 1	1 1	敬和学園大学 非常勤講師 (平成24年4月)	
54	兼任	講師	ワタナベ カズヤ 渡部 和哉 (令和5年9月)		実務博士 (専門職)		法学 I 法学 II	1後 1後	1 1	1 1	TM共同法律事務所 (平成30年1月)	
55	兼任	講師	イカダ テツオ 池田 哲夫 (令和5年9月)		博士 (文学)		新潟学	1後	1	1	新潟大学 人文学部 教授 (平成17年4月)	

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	人	2人	2人	人	人	4人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准 教 授	博 士	人	人	1人	1人	人	人	人	2人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	人	1人	人	人	人	人	1人	
	修 士	人	人	人	1人	人	人	人	1人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	1人	人	人	人	人	人	1人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	人	2人	3人	2人	人	人	7人	
	修 士	人	1人	人	1人	人	人	人	2人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

(注)

- 1 この書類は、申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
- 2 この書類は、専任教員についてのみ、作成すること。
- 3 この書類は、申請又は届出に係る学部等の開設後、当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度（以下「完成年度」という。）における状況を記載すること。
- 4 専門職大学院の課程を修了した者に対し授与された学位については、「その他」の欄にその数を記載し、「備考」の欄に、具体的な学位名称を付記すること。